

東海再処理施設周辺の環境放射線モニタリング結果

— 2024年度 —

Annual Report on the Environmental Radiation Monitoring
around the Tokai Reprocessing Plant
FY2024

國分 祐司 細見 健二 井上 和美 小池 優子 内山 怜
佐々木 一樹 前原 勇志 松尾 一樹 上杉 美咲
山下 大智 平尾 萌 佐佐木 光 圓尾 好宏
根本 正史 飛田 慶司 永井 信嗣 野口 瑞貴
小沼 利光 矢口 勝己 澤幡 佳和 菅井 将光
笹谷 真司 田所 聡 神長 正行 佐藤 由己
前嶋 恭子 寺門 亮 田山 智博 小向 流誠

Yuji KOKUBUN, Kenji HOSOMI, Kazumi INOUE, Yuko KOIKE, Rei UCHIYAMA
Kazuki SASAKI, Yushi MAEHARA, Kazuki MATSUO, Misaki UESUGI
Daichi YAMASHITA, Moe HIRAO, Hikaru SASAKI, Yoshihiro MARUO
Masashi NEMOTO, Keiji TOBITA, Shinji NAGAI, Mizuki NOGUCHI
Toshimitsu ONUMA, Katsumi YAGUCHI, Yoshikazu SAWAHATA, Masamitsu SUGAI
Shinji SASAYA, Satoshi TADOKORO, Masayuki KAMINAGA, Yoshimi SATO
Kyoko MAEJIMA, Ryo TERAOKA, Tomohiro TAYAMA and Ryusei KOMUKAI

核燃料サイクル工学研究所
放射線管理部

Radiation Protection Department
Nuclear Fuel Cycle Engineering Laboratories

March 2026

Japan Atomic Energy Agency

日本原子力研究開発機構

JAEA-Review

本レポートは国立研究開発法人日本原子力研究開発機構が不定期に発行する成果報告書です。本レポートはクリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。本レポートの成果（データを含む）に著作権が発生しない場合でも、同ライセンスと同様の条件で利用してください。（<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>）
なお、本レポートの全文は日本原子力研究開発機構ウェブサイト（<https://www.jaea.go.jp>）より発信されています。本レポートに関しては下記までお問合せください。

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 研究開発推進部 科学技術情報課
〒 319-1112 茨城県那珂郡東海村大字村松 4 番地 49
E-mail: ird-support@jaea.go.jp

This report is issued irregularly by Japan Atomic Energy Agency.

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License (<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.en>).

Even if the results of this report (including data) are not copyrighted, they must be used under the same terms and conditions as CC-BY.

For inquiries regarding this report, please contact Library, Institutional Repository and INIS Section, Research and Development Promotion Department, Japan Atomic Energy Agency.

4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki-ken 319-1112, Japan

E-mail: ird-support@jaea.go.jp

東海再処理施設周辺の環境放射線モニタリング結果

— 2024 年度 —

日本原子力研究開発機構
核燃料サイクル工学研究所 放射線管理部

國分 祐司、細見 健二、井上 和美⁺¹、小池 優子、内山 怜、佐々木 一樹、
前原 勇志⁺²、松尾 一樹、上杉 美咲、山下 大智、平尾 萌、佐佐木 光、
圓尾 好宏⁺³、根本 正史⁺³、飛田 慶司、永井 信嗣、野口 瑞貴^{*1}、小沼 利光^{*2}、
矢口 勝己^{*3}、澤幡 佳和^{*3}、菅井 将光^{*3}、笹谷 真司^{*3}、田所 聡^{*3}、神長 正行^{*3}、
佐藤 由己^{*3}、前嶋 恭子^{*3}、寺門 亮^{*3}、田山 智博^{*3}、小向 流誠^{*3}

(2025 年 12 月 1 日受理)

核燃料サイクル工学研究所では、「日本原子力研究開発機構核燃料サイクル工学研究所再処理施設保安規定 第 IV 編 環境監視」に基づき、再処理施設周辺の環境放射線モニタリングを実施している。

本報告書は、2024 年 4 月から 2025 年 3 月までの間に実施した環境放射線モニタリングの結果、及び大気、海洋への放射性物質の放出に起因する周辺公衆の線量算出結果について、取りまとめたものである。なお、上記の環境放射線モニタリングの結果において、2011 年 3 月に発生した東京電力株式会社（2016 年 4 月 1 日付けで東京電力ホールディングス株式会社に変更）福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響が一部の項目で見られた。

また、環境監視計画の概要、測定方法の概要、測定結果及びその経時変化、気象統計結果、放射性廃棄物の放出状況、平常の変動幅の範囲を外れた値の評価について付録として収録した。

核燃料サイクル工学研究所：〒319-1194 茨城県那珂郡東海村大字村松 4 番地 33

+1 2025年5月末にて退職

+2 人形峠環境技術センター

+3 2025年3月末にて退職

*1 東京電力ホールディングス株式会社

*2 株式会社NESI

*3 株式会社アSEND

Annual Report on the Environmental Radiation Monitoring
around the Tokai Reprocessing Plant
FY 2024

Yuji KOKUBUN, Kenji HOSOMI, Kazumi INOUE⁺¹, Yuko KOIKE, Rei UCHIYAMA, Kazuki SASAKI,
Yushi MAEHARA⁺², Kazuki MATSUO, Misaki UESUGI, Daichi YAMASHITA, Moe HIRAO,
Hikaru SASAKI, Yoshihiro MARUO⁺³, Masashi NEMOTO⁺³, Keiji TOBITA, Sinji NAGAI,
Mizuki NOGUCHI^{*1}, Toshimitsu ONUMA^{*2}, Katsumi YAGUCHI^{*3}, Yoshikazu SAWAHATA^{*3},
Masamitsu SUGAI^{*3}, Shinji SASAYA^{*3}, Satoshi TADOKORO^{*3}, Masayuki KAMINAGA^{*3},
Yoshimi SATO^{*3}, Kyoko MAEJIMA^{*3}, Ryo TERAKADO^{*3},
Tomohiro TAYAMA^{*3} and Ryusei KOMUKAI^{*3}

Radiation Protection Department, Nuclear Fuel Cycle Engineering Laboratories,
Japan Atomic Energy Agency
Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki-ken

(Received December 1, 2025)

The Nuclear Fuel Cycle Engineering Laboratories conducts environmental radiation monitoring around the reprocessing plant in accordance with the "Safety Regulations for Reprocessing Plant of JAEA, Part IV: Environmental Monitoring".

This report summarizes the results of environmental radiation monitoring conducted during the period from April 2024 to March 2025 and the results of dose calculations for the surrounding public due to the release of radioactive materials from the plant into the atmosphere and ocean. In the results of the above environmental radiation monitoring, several items were affected by radioactive materials emitted from the accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station of Tokyo Electric Power Company, Incorporated (changed to Tokyo Electric Power Holdings, Inc. on April 1, 2016), which occurred in March 2011.

Also included as appendices are an overview of the environmental monitoring plan, an overview of measurement methods, measurement results and their changes over time, meteorological statistics results, radioactive waste release status, and an evaluation of the data which deviated of the normal range.

Keywords: Environmental Radiation Monitoring, Tokai Reprocessing Plant,
Dose Estimation, Radioactive Wastes, Meteorological Data,
Fukushima Daiichi Nuclear Power Station

+1 Resignation on May 31, 2025

+2 Ningyo-toge Environmental Engineering Center

+3 Resignation on March 31, 2025

*1 Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc.

*2 NESI Inc.

*3 Ascend Co., Ltd.

目 次

1. 緒言	1
2. 監視結果	2
3. 測定結果の概要	3
3.1 空間放射線	4
3.1.1 線量率	4
3.1.2 積算線量	4
3.2 空气中放射性物質濃度	4
3.2.1 浮遊じん中全 α 放射能、全 β 放射能、 ^{90}Sr 、 ^{137}Cs 及び $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度	4
3.2.2 ^{131}I 濃度	4
3.2.3 気体状 β 放射能濃度	5
3.2.4 水分中 ^3H 濃度	5
3.3 雨水中放射性物質濃度	5
3.4 降下じん中放射性物質濃度	5
3.5 飲料水中放射性物質濃度	5
3.6 葉菜中放射性物質濃度	6
3.7 精米中放射性物質濃度	6
3.8 牛乳中放射性物質濃度	6
3.9 表土中放射性物質濃度	6
3.10 河川水中放射性物質濃度	6
3.11 河底土中放射性物質濃度	7
3.12 海水中放射性物質濃度	7
3.13 海底土中放射性物質濃度	7
3.14 海岸水中放射性物質濃度	7
3.15 海岸砂表面線量	7
3.16 海産生物中放射性物質濃度	8
3.17 漁網表面線量	8
3.18 船体表面線量	8
4. 気象観測の概要	9
4.1 気象観測の方法	9
4.2 気象観測結果	9

5.	線量算出結果の概要	11
5.1	実効線量	12
5.1.1	気体廃棄物の放出に起因する実効線量	12
5.1.2	液体廃棄物の放出に起因する実効線量	12
5.1.3	算出結果のまとめ	12
5.2	皮膚の等価線量	12
5.2.1	気体廃棄物の放出に起因する皮膚の等価線量	12
5.2.2	液体廃棄物の放出に起因する皮膚の等価線量	12
5.2.3	算出結果のまとめ	12
6.	結論	14

付録

A.	環境監視計画	15
B.	監視測定方法の概要	21
C.	測定地点図	35
D.	測定結果	45
E.	気象観測結果	135
F.	放射性廃棄物の放出状況	153
G.	平常の変動幅の範囲を外れた値の評価について	159

Contents

1. Introduction	1
2. Monitoring results	2
3. Outline of monitoring results	3
3.1 Ambient radiation	4
3.1.1 Dose rate	4
3.1.2 Cumulative dose	4
3.2 Radioactivity concentration in air	4
3.2.1 Gross α , gross β , ^{90}Sr , ^{137}Cs and $^{239,240}\text{Pu}$ in airborne dust	4
3.2.2 ^{131}I	4
3.2.3 Gaseous β	5
3.2.4 ^3H in humidity.....	5
3.3 Radioactivity concentration in rain water	5
3.4 Radioactivity concentration in fallout	5
3.5 Radioactivity concentration in drinking water	5
3.6 Radioactivity concentration in leafy vegetable	6
3.7 Radioactivity concentration in polished rice grain	6
3.8 Radioactivity concentration in milk	6
3.9 Radioactivity concentration in surface soil	6
3.10 Radioactivity concentration in river water	6
3.11 Radioactivity concentration in riverbed sediment	7
3.12 Radioactivity concentration in seawater	7
3.13 Radioactivity concentration in seabed sediment	7
3.14 Radioactivity concentration in beach water	7
3.15 Dose rate from beach sand	7
3.16 Radioactivity concentration in marine products	8
3.17 Dose rate from fishing net	8
3.18 Dose rate from fishing boat deck	8
4. Outline of meteorological observation	9
4.1 Methods of meteorological observation	9
4.2 Results of meteorological observation	9

5. Outline of dose calculation	11
5.1 Effective dose	12
5.1.1 Effective dose due to discharge of radioactive airborne effluent	12
5.1.2 Effective dose due to discharge of radioactive liquid effluent	12
5.1.3 Summary of calculation results.....	12
5.2 Equivalent dose to skin.....	12
5.2.1 Equivalent dose to skin due to discharge of radioactive airborne effluent....	12
5.2.2 Equivalent dose to skin due to discharge of radioactive liquid effluent.....	12
5.2.3 Summary of calculation results.....	12
6. Conclusions	14

Appendices

A. Environmental monitoring programs	15
B. Outline of monitoring methods	21
C. Monitoring point maps	35
D. Monitoring results	45
E. Meteorological observation results	135
F. Release of radioactive waste	153
G. Evaluation of the data over the normal range of the past monitoring results	159

1. 緒言

本報告書は、再処理施設保安規定に基づき 2024 年度に日本原子力研究開発機構核燃料サイクル工学研究所が実施した、環境放射線等の監視結果をとりまとめたものである。

再処理施設は、2018 年 6 月 13 日に廃止措置計画が認可され、廃止措置に移行している。

本報告書の内容は、以下のとおりである。

- (1) 2024 年 4 月から 2025 年 3 月までの陸上環境及び海洋環境における定常監視の結果を収録した。
- (2) 気象観測結果について収録した。
- (3) 再処理施設周辺公衆の線量計算結果について収録した。
- (4) 監視結果についての理解を容易にするため、環境監視計画、監視測定方法の概要及び測定地点図について付録 A から C に収録した。
- (5) 放射線及び放射能の変動傾向を把握するために、付録 D の測定結果に過去及び当該年度の変動状況をグラフで示した。ここで、放射線関連の項目（空間放射線及び積算線量）については過去 2 年間、放射能関連の項目については過去 10 年間を収録した。
- (6) 放出源情報に基づく線量の算出に必要な気象観測結果、放射性廃棄物の放出状況のデータを付録 E 及び F に収録した。
- (7) 平常の変動幅の範囲を外れた値の評価について付録 G に収録した。

2. 監視結果

日本原子力研究開発機構核燃料サイクル工学研究所では、再処理施設保安規定に定める陸上環境放射能監視計画及び海洋環境放射能監視計画に従い、再処理施設周辺の環境放射線及び放射能の監視を行っている。

2024年4月から2025年3月までに行った監視結果を要約すると下記のとおりである。

記

本期間中の環境放射線、陸上環境放射能及び海洋環境放射能の監視結果において、再処理施設に起因する異常な観測値は認められなかった。しかし、環境変動により一部の項目で平常の変動幅^{注1)}の範囲を外れた観測値が見られた。

注1) 平常の変動幅は、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を考慮して、2023年度までの測定値により設定した。

3. 測定結果の概要

2024年4月から2025年3月までの測定結果において、前年度と同様に、東京電力福島第一原子力発電所事故^{注2)}（以下「東電福島第一原発事故」という。）によって放出された放射性物質の影響が見られた。その影響は、全体的には減少傾向にあり、影響の見られなくなった測定結果もあった。一方、空間放射線（線量率）、空气中放射性物質濃度（浮遊じん中¹³⁷Cs濃度）、水分中³H濃度、葉菜中⁹⁰Sr濃度及び海産生物（カレイ又はヒラメ）中^{239,240}Pu濃度は平常の変動幅の上限値を超過したが、これらは全て再処理施設に起因するものではなかった。また、精米中¹⁴C濃度は平常の変動幅の下限値を下回ったが、環境変動によるものであった。2024年度の詳細な測定結果は付録D、平常の変動幅の範囲を外れた値の評価は付録Gに示した。

なお、平常の変動幅の設定方法及び2024年度の平常の変動幅については、付録B監視測定方法の概要に示した。

注2) 2011年3月11日14時46分の東北地方太平洋沖地震に伴う大津波等により発生した原子力事故であり、環境中への放射性物質の放出があった。なお、東京電力株式会社は2016年4月1日付けで東京電力ホールディングス株式会社へ社名を変更した。

3.1 空間放射線

3.1.1 線量率

周辺監視区域外 3 か所（監視対象区域 2 か所、比較対照区域 1 か所）、周辺監視区域内 1 か所に設置したモニタリングステーション及び周辺監視区域境界 6 か所、周辺監視区域内の 2 か所に設置したモニタリングポストにおいて、空間放射線線量率計（エネルギー補償型 NaI(Tl) シンチレーション検出器）を用いて線量率を連続的に測定した。

その結果、モニタリングステーション、モニタリングポストそれぞれの月平均値として全地点で 38～42 nGy/h、54～65 nGy/h であり、第 4 四半期の周辺監視区域外の監視対象区域 1 か所、比較対照区域 1 か所のモニタリングステーションにおいて平常の変動幅の上限値を超過した。これは天然放射性核種及び東電福島第一原発事故由来核種の環境変動によるものと判断した。また、モニタリングステーション、モニタリングポストの各地点の最大 1 時間値は 42～90 nGy/h であり、全てが降雨による影響であった。

3.1.2 積算線量

周辺監視区域外 25 か所（監視対象区域 16 か所、比較対照区域 9 か所）、周辺監視区域境界 12 か所及び周辺監視区域内 3 か所のモニタリングポイントに積算線量計（熱ルミネセンス線量計）を設置し、3 か月ごとに交換し、積算線量を測定した。

その結果、積算線量は 80～180 μ Gy/91 日であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.2 空气中放射性物質濃度

3.2.1 浮遊じん中全 α 放射能、全 β 放射能、 ^{90}Sr 、 ^{137}Cs 及び $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度

周辺監視区域外 4 か所（監視対象区域 2 か所、比較対照区域 2 か所）及び周辺監視区域内 3 か所に設置したダストサンプラにより、空气中的浮遊じんをセルロース・ガラス繊維のろ紙上に流量率約 90 L/min で連続的に採取した。ろ紙は 1 週間ごとに交換し、ラドン、トロン子孫核種等、天然に存在する短半減期核種を減衰させた後、全 α 放射能及び全 β 放射能濃度を測定した。また、3 か月分のろ紙を合成試料として ^{90}Sr 、 ^{137}Cs 及び $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度を測定した。

その結果、全 α 放射能濃度は定量下限値未満～0.053 mBq/m³、全 β 放射能濃度は定量下限値未満、 ^{90}Sr 濃度は定量下限値未満、 $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度は定量下限値未満であり、それぞれ平常の変動幅の範囲内であった。 ^{137}Cs は定量下限値未満～0.024 mBq/m³ であり、第 1 四半期の周辺監視区域内 1 か所において平常の変動幅の上限を超過した。これは東電福島第一原発事故由来 ^{137}Cs の環境変動によるものと判断した。

3.2.2 ^{131}I 濃度

周辺監視区域外 3 か所（監視対象区域 2 か所、比較対照区域 1 か所）及び周辺監視区域内 1 か所のモニタリングステーションにヨウ素サンプラを設置し、空気を流量率約 60 L/min で連

続的に吸引して空気中のヨウ素を捕集した。捕集材として TEDA (tri-ethylene-diamine) 添着活性炭カートリッジを用い、1 週間ごとにカートリッジを回収して ^{131}I 濃度を測定した。

その結果、全て定量下限値未満であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.2.3 気体状 β 放射能濃度

周辺監視区域外 3 か所（監視対象区域 2 か所、比較対照区域 1 か所）及び周辺監視区域内 1 か所のモニタリングステーションに気体状 β 放射能測定器（薄窓型 GM 検出器、主な測定核種： ^{85}Kr ）を設置し、連続的に測定した。

その結果、全て定量下限値未満であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.2.4 水分中 ^3H 濃度

周辺監視区域外 2 か所（監視対象区域 1 か所、比較対照区域 1 か所）のモニタリングステーションにトリチウムサンプラを設置し、空気を流量率約 0.3~2 L/min で連続的に吸引して空気中の水分を捕集した。捕集材としてはモレキュラシーブを用い、1 週間ごとに捕集した水分中の ^3H 濃度を測定した。

その結果、水分中 ^3H 濃度は定量下限値未満~5.2 Bq/L であり、監視対象区域 1 か所(2024 年 11 月期)については平常の変動幅の上限値を超過した。これは J-PARC 物質・生命科学実験施設における ^3H の管理放出の影響によるものと判断した。

3.3 雨水中放射性物質濃度

周辺監視区域内（安全管理棟屋上）において 1 か月間採取した雨水について、月ごとに ^3H 濃度を測定した。なお、2024 年 12 月期については、気象条件により採取不能となった。

その結果、全て定量下限値未満であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.4 降下じん中放射性物質濃度

周辺監視区域内（安全管理棟屋上）に大型水盤（面積 0.5 m^2 ）を設置し、1 か月間採取した降下じんについて、月ごとに全 β 放射能濃度を測定した。

その結果、定量下限値未満~15 Bq/ m^2 であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.5 飲料水中放射性物質濃度

周辺監視区域外 3 か所（監視対象区域 2 か所、比較対照区域 1 か所）及び周辺監視区域内 1 か所において 3 か月に 1 回飲料水を採取し、全 β 放射能及び ^3H 濃度を測定した。

その結果、全 β 放射能濃度は定量下限値未満~0.083 Bq/L、 ^3H 濃度は全て定量下限値未満であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.6 葉菜中放射性物質濃度

監視対象区域 2 か所及び比較対照区域 1 か所において採取した葉菜について、 ^{131}I 、 ^{90}Sr 、 ^{137}Cs 及び $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度を測定した。測定頻度は、 ^{131}I については 3 か月に 1 回、その他は年 1 回である。葉菜は、収穫時期の都合に合わせて、ハウレン草、キャベツ、白菜の露地野菜を採取した。なお、時期によっては採取不能となることがあった。

その結果、 ^{131}I 、 ^{137}Cs 及び $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度は全て定量下限値未満であり、平常の変動幅の範囲内であった。一方、 ^{90}Sr 濃度は定量下限値未満 ~ 0.098 Bq/kg \cdot 乾であり、平常の変動幅の上限値を超過した。これは、大気圏内核実験由来の ^{90}Sr の環境変動によるものと判断した。

3.7 精米中放射性物質濃度

監視対象区域 2 か所及び比較対照区域 1 か所において年 1 回収穫した精米について、 ^{14}C 及び ^{90}Sr 濃度を測定した。なお、 ^{14}C 濃度は比放射能 (Bq/g \cdot 炭素) として算出した。

その結果、 ^{90}Sr 濃度は全て定量下限値未満であり、平常の変動幅の範囲内であった。一方、 ^{14}C 濃度は 0.21 Bq/g \cdot 炭素であり、平常の変動幅の下限値を下回った。これは、大気圏内核実験由来の ^{14}C の環境変動によるものと判断した。

3.8 牛乳中放射性物質濃度

監視対象区域 1 か所及び比較対照区域 1 か所において牛乳を採取し、 ^{131}I 濃度は 3 か月に 1 回、 ^{90}Sr 濃度は年 1 回測定した。

その結果、 ^{131}I 及び ^{90}Sr 濃度は全て定量下限値未満であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.9 表土中放射性物質濃度

周辺監視区域外 3 か所 (監視対象区域 2 か所、比較対照区域 1 か所) 及び周辺監視区域内 2 か所において年 1 回採取した試料について、 ^{90}Sr 、 ^{137}Cs 及び $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度を測定した。

その結果、 ^{90}Sr 濃度は 0.12 \sim 1.7 Bq/kg \cdot 乾、 ^{137}Cs 濃度は 150 \sim 940 Bq/kg \cdot 乾、 $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度は 0.13 \sim 0.63 Bq/kg \cdot 乾であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.10 河川水中放射性物質濃度

監視対象区域 3 か所、比較対照区域 1 か所において年 2 回採取した試料について、全 β 放射能及び ^3H 濃度を測定した。

その結果、全 β 放射能濃度は定量下限値未満 ~ 0.049 Bq/L、 ^3H 濃度は全て定量下限値未満であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.11 河底土中放射性物質濃度

監視対象区域 3 か所、比較対照区域 1 か所において年 2 回採取した試料について、全 β 放射能濃度を測定した。

その結果、520～730 Bq/kg・乾であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.12 海水中放射性物質濃度

監視対象海域 3 か所及び比較対照海域 1 か所において試料を採取し、全 β 放射能及び ^3H 濃度を測定した。試料の採取頻度は、監視対象海域のうち放出口付近 5 点混合では 3 か月に 1 回、久慈沖及び磯崎沖では 6 か月に 1 回、比較対照海域では年に 1 回である。また、監視対象海域の放出口付近 5 点混合及び比較対照海域においては、年 1 回採取した試料について、 ^{90}Sr 、 ^{106}Ru 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{144}Ce 及び $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度を測定した。

その結果、 ^3H 、 ^{90}Sr 、 ^{106}Ru 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{144}Ce 及び $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度は全て定量下限値未満、全 β 放射能濃度は定量下限値未満～0.049 Bq/L であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.13 海底土中放射性物質濃度

監視対象海域 3 か所及び比較対照海域 1 か所において年 2 回採取した試料について、 ^{90}Sr 、 ^{106}Ru 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{144}Ce 及び $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度を測定した。

その結果、 ^{90}Sr 、 ^{106}Ru 、 ^{134}Cs 及び ^{144}Ce 濃度は全て定量下限値未満、 ^{137}Cs 濃度は定量下限値未満～5.9 Bq/kg・乾、 $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度は 0.22～0.51 Bq/kg・乾であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.14 海岸水中放射性物質濃度

監視対象区域 2 か所及び比較対照区域 2 か所において年 2 回海岸水を採取した。4 月に採取した海岸水については、全 β 放射能及び ^3H 濃度を測定した。10 月に採取した海岸水については、全 β 放射能、 ^3H 、 ^{90}Sr 、 ^{106}Ru 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{144}Ce 及び $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度を測定した。

その結果、 ^3H 、 ^{90}Sr 、 ^{106}Ru 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{144}Ce 及び $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度は全て定量下限値未満、全 β 放射能濃度は定量下限値未満～0.077 Bq/L であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.15 海岸砂表面線量

監視対象区域 2 か所及び比較対照区域 2 か所の海岸において 3 か月に 1 回、海岸砂の β 線表面計数率及び γ 線表面線量率を測定した。

その結果、 β 線表面計数率は 60～85 cpm、 γ 線表面線量率は 26～45 nGy/h であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.16 海産生物中放射性物質濃度

監視対象海域及び比較対照海域において3か月に1回採取した海産生物について、 ^{90}Sr 、 ^{106}Ru 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{144}Ce 及び $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度を測定した。海産生物の種類は、魚類（シラス、カレイ又はヒラメ）、貝類及び褐藻類（ワカメ又はヒジキ等）である。なお、時期によっては不漁のため採取不能となることがあった。

その結果、 ^{90}Sr 、 ^{106}Ru 、 ^{134}Cs 及び ^{144}Ce の濃度は、全て定量下限値未満であり、平常の変動幅の範囲内であった。また、 ^{137}Cs 濃度はシラスが 0.053~0.085 Bq/kg・生、カレイ又はヒラメが 0.16~0.24 Bq/kg・生、貝類が定量下限値未満、褐藻類が定量下限値未満~0.098 Bq/kg・生であり、平常の変動幅の範囲内であった。 $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度はシラスが全て定量下限値未満、貝類が定量下限値未満~0.0025 Bq/kg・生、褐藻類が定量下限値未満~0.0032 Bq/kg・生であり、平常の変動幅の範囲内であった。一方、カレイ又はヒラメが定量下限値未満~0.0021 Bq/kg・生であり、平常の変動幅の上限値を超過した。これは大気圏内核実験由来の $^{239,240}\text{Pu}$ の環境変動によるものと判断した。

3.17 漁網表面線量

モニタリング船で3か月当たり約17時間曳航した漁網について、 β 線吸収線量率及び γ 線表面線量率を測定した。

その結果、 β 線吸収線量率及び γ 線表面線量率は全て定量下限値未満であり、平常の変動幅の範囲内であった。

3.18 船体表面線量

モニタリング船の甲板に約3か月間設置した船体片（模擬片）について、 β 線吸収線量率及び γ 線表面線量率を測定した。

その結果、 β 線吸収線量率及び γ 線表面線量率は全て定量下限値未満であり、平常の変動幅の範囲内であった。

4. 気象観測の概要

4.1 気象観測の方法

環境監視計画及びその結果の解釈と評価に際して、気象に関する情報は重要な要素の一つである。核燃料サイクル工学研究所においては、「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」（2001年3月、原子力安全委員会）に準ずるとともに、再処理施設保安規定に基づき、表4-1に示す気象観測を連続して実施している。

表 4-1 気象観測

観測項目	観測機器	機器設置場所
風向（海拔100 m）	ドップラーソーダ	核燃料サイクル工学研究所内
風向（海拔 20 m）	自記風向計*	安全管理棟塔屋上
風速（海拔100 m）	ドップラーソーダ	核燃料サイクル工学研究所内
風速（海拔 20 m）	風車型自記風速計* （平均装置付）	安全管理棟塔屋上
降雨量	転倒マス型雨量計*	安全管理棟屋上
大気温度	電気式温度計*	核燃料サイクル工学研究所内
日射量	熱電堆式全天日射計*	同上
放射収支量	風防型放射収支計	同上

注）*：気象検定対象機器

気象観測に用いる気象観測機器で、気象庁検定対象となっている機器については検定に合格したものを使用する。

気象資料の統計整理項目については、付録 A 環境監視計画の表 A-3 及び A-4 に示すとおりである。

4.2 気象観測結果

2024年4月から2025年3月までに行った気象観測結果及び統計整理結果を、付録 E 気象観測結果に示す。欠測回数（風向・風速・安定度のうち1項目以上が欠測した回数）は年間0.5%、月間で最大1.3%（1月）であり、気象指針に示される年間10%以下、連続する30日間で30%以下を満足していた。

風向については、海拔20 mでは西の出現頻度が最大となった。また、海拔100 mでは北北東の出現頻度が最大となった。

風速については、海拔100 mの年間平均で4.8 m/s、海拔20 mの年間平均で2.5 m/sと、ほぼ

昨年度と同等であった。

降雨量については、年間で 1009.5 mm であった。大気温度については年間平均で 15.5℃と、ほぼ昨年度と同等であった。

大気安定度についても、全体的な分布としては、ほぼ昨年度と同様であった。

気象指針に示される式及び 2024 年度の気象観測結果を用いて算出される主排気筒からの気体廃棄物放出における最大濃度地点は南西約 800 m となった。

5. 線量算出結果の概要

一般公衆が受ける線量は、モニタリングの実測値を基に算出することを原則とし、実測値から放出に起因する部分を弁別して線量を算出することが困難な場合には放出記録を基に算出することとしている。

本年度は、環境モニタリングにおいて東電福島第一原発事故の影響が認められたが、再処理施設からの気体廃棄物及び液体廃棄物の放出による影響はなく、環境監視の実測値による評価が困難であったことから、放出記録を基に年間（年度）の線量を算出した。

以下にその概要を示す。

線量の算出は、気体廃棄物及び液体廃棄物の放出に起因する実効線量及び皮膚の等価線量を対象とした。

気体廃棄物に起因する実効線量の算出は、2024 年度 1 年間の気体廃棄物放出量（付録 F 参照）と同期間の核燃料サイクル工学研究所における風向、風速、大気安定度等の気象観測値を基に算出された年度平均空気中濃度に基づき、放射性雲からの外部被ばく、吸入摂取及び農・畜産物摂取による内部被ばくについて行った。なお、排気中濃度が定量下限値未満の場合は定量下限値の濃度で放出があったと見なし、実測放出量に加算した。

放射性雲からの外部被ばくによる実効線量としては ^{85}Kr の β 線及び γ 線に起因する実効線量を、吸入摂取に伴う内部被ばくによる実効線量としては ^3H 、 ^{14}C 、 ^{129}I 及び ^{131}I に起因する実効線量を算出した。

被ばく経路の合算に当たっては、放射性雲からの外部被ばく及び吸入摂取による内部被ばくを同一地点において同時に受けるものとし、周辺監視区域外の 16 方位地点ごとにそれぞれの実効線量を加算し、その値が最大となる地点での実効線量を算出した。

農・畜産物摂取による内部被ばくについては、周辺監視区域外の 16 方位地点ごとの年度平均空気中濃度の最大地点（最大濃度地点）で産する農・畜産物を摂取するものとして算出した。

また、液体廃棄物に起因する実効線量の算出は、2024 年度 1 年間の液体廃棄物の放出量（付録 F 参照）を基に、海産物摂取による内部被ばく及び漁業活動、海浜利用による外部被ばくについて行った。

皮膚の等価線量は、気体廃棄物の放出実績や気象条件に基づき求めた最大濃度地点における大気経路と、液体廃棄物の放出実績に基づき求めた海洋経路の両方を算出し、これらを加算した。

5.1 実効線量

5.1.1 気体廃棄物の放出に起因する実効線量

放射性雲からの外部被ばくによる実効線量と吸入摂取に伴う内部被ばくによる実効線量を加算し、その値が最大となる地点での実効線量を算出した。その結果、最大線量地点は、主排気筒から南西方向約 700 m に出現し、放射性雲からの外部被ばくによる実効線量は 5.6×10^{-7} mSv/y、また、同地点での吸入摂取に伴う内部被ばくによる実効線量は 5.6×10^{-7} mSv/y であった。

農・畜産物摂取に伴う内部被ばくによる実効線量については、最大濃度地点である主排気筒から南西方向約 800 m 地点で産する農・畜産物を摂取するものとして算出した。その結果、 1.1×10^{-4} mSv/y であった。従って、気体廃棄物の放出に起因する実効線量は、経路ごとの評価値を合算した 1.1×10^{-4} mSv/y であった。

5.1.2 液体廃棄物の放出に起因する実効線量

海産物摂取に伴う内部被ばくによる実効線量を算出した結果、 9.5×10^{-7} mSv/y であった。また、漁業・海浜利用に起因する外部被ばくによる実効線量は、 5.8×10^{-7} mSv/y であった。したがって、液体廃棄物の放出に起因する実効線量は 1.5×10^{-6} mSv/y であった。

5.1.3 算出結果のまとめ

気体廃棄物に起因する実効線量 (1.1×10^{-4} mSv/y) 及び液体廃棄物に起因する実効線量 (1.5×10^{-6} mSv/y) の両者の合算値は、 1.1×10^{-4} mSv/y であり、我が国の法令^{注3)}に定める周辺監視区域外の実効線量限度 (1 mSv/y) の約 0.01% であった。経路ごとの算出結果を表 5-1 に示す。

5.2 皮膚の等価線量

5.2.1 気体廃棄物の放出に起因する皮膚の等価線量

放射性雲からの外部被ばくによる等価線量は、⁸⁵Kr を含む半無限雲中での皮膚の等価線量を算出した。その結果、最大濃度地点における皮膚の等価線量は 1.3×10^{-5} mSv/y であった。

5.2.2 液体廃棄物の放出に起因する皮膚の等価線量

漁業・海浜利用に起因する外部被ばくによる等価線量は、皮膚の等価線量を算出した。その結果、皮膚の等価線量は 2.0×10^{-5} mSv/y であった。

5.2.3 算出結果のまとめ

気体廃棄物及び液体廃棄物に起因する皮膚の等価線量の両者の合算値は 3.2×10^{-5} mSv/y であり、我が国の法令に定める周辺監視区域外の皮膚の等価線量限度 (50 mSv/y) の約 0.00006% であった。経路ごとの算出結果を表 5-2 に示す。

注 3) 核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示 (原子力規制委員会告示第 8 号) に基づく値
第 8 条第 2~4 項 (再処理施設に適用)

表 5-1 実効線量の算出結果

経路	実効線量 (mSv/y)	周辺監視区域外の 線量限度(1 mSv/y) に対する割合(%)	備考
放射性雲からの 外部被ばく	5.6×10^{-7}	6×10^{-5}	最大線量地点： 主排気筒南西方向 約 700 m
吸入摂取による 内部被ばく	5.6×10^{-7}	6×10^{-5}	
農・畜産物摂取 による内部被ばく	1.1×10^{-4}	1×10^{-2}	最大濃度地点：主排気筒 南西方向 約 800 m
海産物摂取 による内部被ばく	9.5×10^{-7}	1×10^{-4}	
漁業・海浜利用 による外部被ばく	5.8×10^{-7}	6×10^{-5}	
合計	1.1×10^{-4}	1×10^{-2}	

注) 合計の欄は、経路に示す各々の外部被ばく、内部被ばくについて合計したものである。このため、表中の実効線量を加算しても、四捨五入の関係で合計値とは一致しないことがある。

表 5-2 皮膚の等価線量の算出結果

経路	皮膚の等価線量 (mSv/y)	周辺監視区域外の 線量限度(50 mSv/y) に対する割合(%)	備考
放射性雲からの 外部被ばく	1.3×10^{-5}	3×10^{-5}	最大濃度地点：主排気筒 南西方向 約 800 m
漁業・海浜利用 による外部被ばく	2.0×10^{-5}	4×10^{-5}	
合計	3.2×10^{-5}	6×10^{-5}	

6. 結論

再処理施設保安規定に基づく 2024 年度の環境放射線モニタリング結果は、環境放射線、陸上環境放射能及び海洋環境放射能の監視結果において、再処理施設に起因する異常な観測値は認められなかった。

2024 年度の一般公衆が受ける線量評価では、再処理施設からの大気放出及び海洋放出に起因するそれぞれの実効線量の合計が 1.1×10^{-4} mSv/y、皮膚の等価線量の合計が 3.2×10^{-5} mSv/y であり、我が国の法令で定める公衆の実効線量限度（1 mSv/y）及び皮膚の等価線量限度（50 mSv/y）を十分に下回っていた。

付 録

A. 環境監視計画

This is a blank page.

表 目 次

表 A-1	陸上環境放射能監視計画.....	18
表 A-2	海洋環境放射能監視計画.....	19
表 A-3	気象資料の統計整理項目.....	20
表 A-4	気象資料の補足的統計整理項目.....	20

表 A-1 陸上環境放射能監視計画

測定対象		採取		測定		備考
		採取点	頻度	項目	頻度	
空間放射線	線量率	周辺監視区域内 9 点* 周辺監視区域外 3 点*	連続	γ 線	連続	モニタリングポスト 8 基 モニタリングステーション 4 基
	積算線量	周辺監視区域内 15 点* 周辺監視区域外 25 点*	連続	γ 線	1 回/3 か月	モニタリングポイント (TLD 使用)
空気	浮遊じん	周辺監視区域内 3 点 周辺監視区域外 4 点	連続	全 α 放射能 全 β 放射能	1 回/週	測定試料は採取点別混合
				⁹⁰ Sr, ¹³⁷ Cs, ²³⁹ Pu	1 回/3 か月	
	ヨウ素	周辺監視区域内 1 点 周辺監視区域外 3 点	連続	¹³¹ I	1 回/週	モニタリングステーション
	気体状 β 放射能濃度	周辺監視区域内 1 点* 周辺監視区域外 3 点*	連続	⁸⁵ Kr	連続	モニタリングステーション
	水分	周辺監視区域外 2 点	連続	³ H	1 回/月	モニタリングステーション (ひたちなか市長砂, 高野) 採取不能の場合はこの限りではない。
	雨水	周辺監視区域内 1 点	連続	³ H	1 回/月	安全管理棟屋上 採取不能の場合はこの限りではない。
	降下じん	周辺監視区域内 1 点	連続	全 β 放射能	1 回/月	安全管理棟屋上
	飲料水	周辺監視区域内 1 点 周辺監視区域外 3 点	1 回/3 か月	全 β 放射能 ³ H	1 回/3 か月	周辺監視区域外 3 点： 東海村照沼, ひたちなか市長砂, 西約 10 km 点
	葉菜	周辺監視区域外 3 点	1 回/3 か月	¹³¹ I	1 回/3 か月	周辺監視区域外 3 点： 東海村照沼, ひたちなか市長砂, 西約 10 km 点 採取不能の場合はこの限りではない。
⁹⁰ Sr, ¹³⁷ Cs, ²³⁹ Pu				1 回/年		
	精米	周辺監視区域外 3 点	1 回/年	¹⁴ C, ⁹⁰ Sr	1 回/年	周辺監視区域外 3 点： 東海村照沼, ひたちなか市長砂, 西約 10 km 点 採取不能の場合はこの限りではない。
	牛乳	周辺監視区域外 2 点	1 回/3 か月	¹³¹ I	1 回/3 か月	周辺監視区域外 2 点： ひたちなか市部田野, 西約 10 km 点 採取不能の場合はこの限りではない。
⁹⁰ Sr				1 回/年		
	表土	周辺監視区域内 2 点 周辺監視区域外 3 点	1 回/年	⁹⁰ Sr, ¹³⁷ Cs, ²³⁹ Pu	1 回/年	
	河川水	新川 3 点 久慈川上流 1 点	1 回/6 か月	全 β 放射能 ³ H	1 回/6 か月	
	河底土	新川 3 点 久慈川上流 1 点	1 回/6 か月	全 β 放射能	1 回/6 か月	

注) * : 各測定対象の測定地点数を示す。

連続 : 点検、保守などに伴う一時的な停止を除く。

²³⁹Pu : ²³⁹, ²⁴⁰Pu を示す。

表 A-2 海洋環境放射能監視計画

測定対象	採取		測定		備考	
	採取点	頻度	項目	頻度		
海水	放出口付近 5点	1回/3か月	全β放射能, ³ H	1回/3か月	5点混合試料について測定	
			核種分析	1回/年		
	久慈沖及び磯崎沖 2点	1回/6か月	全β放射能, ³ H	1回/6か月		
	北約20 km 点 1点	1回/年	全β放射能, ³ H 核種分析	1回/年		
海底土	放出口付近 5点	1回/6か月	核種分析	1回/6か月	5点混合試料について測定	
	久慈沖及び磯崎沖 2点	1回/6か月	核種分析	1回/6か月		
	北約20 km 点 1点	1回/6か月	核種分析	1回/6か月		
海岸水	久慈浜海岸 1点	1回/6か月	全β放射能, ³ H	1回/6か月		
	阿字ヶ浦海岸 1点		核種分析	1回/年		
	南北約20 km 点各 1点					
海岸砂	久慈浜海岸 1点*	1回/3か月	表面線量	1回/3か月		
	阿字ヶ浦海岸 1点*					
	南北約20 km 点各 1点*					
海産生物	シラス	東海村地先 1点	1回/3か月	核種分析	1回/3か月	採取不能の場合はこの限りではない。
		約10 km 以遠 1点				
	カレイ又はヒラメ	東海村地先 1点	1回/3か月	核種分析	1回/3か月	採取不能の場合はこの限りではない。
		約10 km 以遠 1点				
貝類	久慈浜地先 1点	1回/3か月	核種分析	1回/3か月	採取不能の場合はこの限りではない。	
	約10 km 以遠 1点					
褐藻類 (ワカメ 又はヒジ キ等)	久慈浜地先 1点	1回/3か月	核種分析	1回/3か月	採取不能の場合はこの限りではない。	
	磯崎地先 1点					
	約10 km 以遠 1点					
漁網	東海村地先において曳航の漁網	1回/3か月	表面線量	1回/3か月	モニタリングに係る船が曳航する漁網について測定	
船体	甲板	1回/3か月	表面線量	1回/3か月	モニタリングに係る船の甲板に取り付けた模擬片について測定	

注) *: 各測定対象の測定地点数を示す。

核種分析の対象核種は、⁹⁰Sr、¹⁰⁶Ru、¹³⁴Cs、¹³⁷Cs、¹⁴⁴Ce 及び ^{239,240}Pu とする。

表 A-3 に「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（2001 年 3 月一部改訂、原子力安全委員会）」に示される気象資料の統計整理項目を、表 A-4 にその他の補足的統計整理項目を記した。

表 A-3 気象資料の統計整理項目

項目	記号	単位	最小位数
(1) 風向別大気安定度別風速逆数の総和	Sd, s	s/m	0.01
(2) 風向別大気安定度別風速逆数の平均	\overline{Sd} , s	s/m	0.01
(3) 風向別風速逆数の平均	\overline{Sd}	s/m	0.01
(4) 風向出現頻度		%	0.1
(5) 大気安定度出現頻度		%	0.1
(6) 風向別大気安定度出現回数 ^{注)}	Nd, s	回数	0.1
(7) 静穏時大気安定度出現回数	cNs	回数	1
(8) 風速 0.5~2.0 m/s の風向出現回数	N' d	回数	1
(9) 月別欠測回数		回数	1

注) 風速 0.5 m/s 未満の場合の補正を含む。

表 A-4 気象資料の補足的統計整理項目

測定項目	整理項目	単位	最小位数
風向・風速 (海拔 100 m ^{注1)})	風向出現頻度	%	0.1
	月別平均・最大風速	m/s	0.1
	風向別平均風速	m/s	0.1
	風速階級出現頻度	%	0.1
風向・風速 (海拔 20 m ^{注2)})	風向出現頻度	%	0.1
	月別平均・最大風速	m/s	0.1
	風向別平均風速	m/s	0.1
	風速階級出現頻度	%	0.1
気温	月別平均気温	℃	0.1
	月別時間最高気温	℃	0.1
	月別時間最低気温	℃	0.1
	月別日最高気温	℃	0.1
	月別日最低気温	℃	0.1
	気温出現頻度	%	0.1
降雨量	月間降雨量	mm	0.5
	月間最大日降雨量	mm/d	0.5
	月間降雨時間	h	1
	降雨率出現頻度	%	0.1

注 1) ドップラーソーダによる測定のため、荒天時には欠測となる場合がある。

注 2) 周辺建物及び樹木等の影響を考慮した敷地を代表する地上 10 m 相当を意味する。
付録 E においても同様とする。

B. 監視測定方法の概要

This is a blank page.

1. 空間放射線

(1) 線量率

周辺監視区域内 1 か所、周辺監視区域外 3 か所（監視対象区域 2 か所、比較対照区域 1 か所）に設置したモニタリングステーション及び周辺監視区域内の 8 か所に設置したモニタリングポストにおいて、空間放射線線量率計（NaI(Tl)シンチレーション検出器）を用いて線量率を連続的に測定した。

(2) 積算線量

周辺監視区域内 15 か所、周辺監視区域外 25 か所に積算線量計（熱ルミネセンス線量計；Panasonic 製 UD-200S）を各 3 本（6 素子）配置し、3 か月ごとに回収して積算線量を測定した。なお、測定期間が 91 日からずれた場合は、91 日に換算規格化した。

2. 気体状 β 放射能濃度

周辺監視区域内 1 か所、周辺監視区域外 3 か所に設置したモニタリングステーションにおいて、気体状 β 放射能測定器（薄窓型 GM 管検出器）を用い、空気中の気体状 β 放射能濃度 (^{85}Kr) を連続的に測定した。

3. 表面線量

海岸砂の β 線表面計数率は、海岸砂の表面 1~2 cm の距離における計数率を GM 管式サーベイメータにより測定した。同試料の γ 線表面線量率は、NaI(Tl)シンチレーションサーベイメータを用い、地上 1 m の位置で測定した。

漁網、船体片の β 線吸収線量率は β 線エネルギー依存性の少ない 2 mm 厚さのプラスチックシンチレーション検出器を試料の上 5 cm に設置し、スケアラモードで測定した。 γ 線表面線量率は、NaI(Tl)シンチレーション線量率計を漁網及び船体片横 1 m に設置し、スケアラモードで測定した。

4. 各種環境試料中の放射性物質濃度

各種環境試料中の放射性物質濃度の分析法及び測定器を表 B-1 に示す。これらの測定方法のうち、文部科学省及び原子力規制庁が制定している「放射能測定法シリーズ」に記載のあるものについてはそれに準拠した方法を用い、他のものについては核燃料サイクル工学研究所の標準分析作業法等に定めた方法を用いた。

測定項目別の定量下限値を表 B-2 に示す。

5. 平常の変動幅

東電福島第一原発事故後 2017 年度までは測定値の変動が大きかったため、事故後の測定値を平常の変動幅に考慮せず 2001 年度～2010 年度（空間放射線は 2008 年度～2010 年度、漁網、船体は 2004 年度～2010 年度）の測定結果から算出していた。2018 年度からは平常の変動幅は、測定値が東電福島第一原発事故の影響を含んでいることを考慮し、以下の 4 種の方針により設定することとした。設定方法の詳細については、日本保健物理学会誌^{注 4)}に掲載されている。

方針 1：東電福島第一原発事故の影響を考慮する必要のない項目は、従来と同様に過去 10 年間の変動幅に基づき設定する。

方針 2：事故発生後一定の期間を除けば事故の影響を考慮する必要がないと判断できる項目は、その期間を除く過去 10 年間の変動幅に基づき設定する。

方針 3：上記 2 つの方針が適用できない場合には過去 1～2 年間の上限で設定する。

方針 4：空間放射線（線量率）については将来予測に基づいて変動幅を設定する。

2024 年度モニタリング結果に適用する平常の変動幅一覧を表 B-3～6 に示す。当該年度における平常の変動幅の設定方針は、8 項目に変更があった。なお、2022 年度から方針 4 を適用する項目はなくなっている。

注 4) 中野政尚, 細見健二, 外間智規, 東海再処理施設周辺の環境放射線モニタリングにおける東電原発事故後の平常の変動幅の設定, 保健物理, vol. 52, no. 4, 2017, pp. 275-284.

表 目 次

表 B-1	分析法、測定器一覧.....	26
表 B-2	定量下限値一覧.....	27
表 B-3	2024 年度モニタリング結果に適用する平常の変動幅一覧	29
表 B-4	空間放射線（線量率）における平常の変動幅一覧.....	31
表 B-5	空間放射線（積算線量）における平常の変動幅一覧.....	32
表 B-6	表土における平常の変動幅一覧.....	33

表 B-1 分析法、測定器一覧

核種	試料	分析法	測定器
全 α 放射能	浮遊じん	直接法	ZnS (Ag) シンチレーションカウンタ
全 β 放射能	浮遊じん 降下じん 河底土 飲料水 河川水 海水 海岸水	直接法 蒸発乾固法 直接法 (乾燥) 蒸発乾固法 蒸発乾固法、鉄バリウム共沈法 鉄バリウム共沈法 〃	プラスチックシンチレーション検出器 GM 計数管 〃 } 低バックグラウンド β 線測定装置 (ガスフロー型比例計数管)
^3H	空気水分中 雨水 飲料水 河川水 海水 海岸水	蒸留法	低バックグラウンド 液体シンチレーションカウンタ
^{14}C	精米	ベンゼン合成法	低バックグラウンド 液体シンチレーションカウンタ
^{90}Sr	浮遊じん 葉菜 精米 牛乳 表土 海水 海底土 海岸水 海産生物	シュウ酸塩法 (^{90}Y ミルキング法) 〃 〃 〃 〃 イオン交換法 (^{90}Y ミルキング法) シュウ酸塩法 (^{90}Y ミルキング法) 〃	低バックグラウンド β 線測定装置 (ガスフロー型比例計数管)
^{106}Ru	海水 海岸水 海底土 海産生物	フェロシアン化 Ni-水酸化鉄共沈法 〃 直接法 (乾燥) 直接法 (灰化)	Ge 半導体検出器を用いた γ 線スペクトロメトリ
^{131}I	空气中 葉菜 牛乳	直接法 直接法 (ジュース化) 直接法	Ge 半導体検出器を用いた γ 線スペクトロメトリ
$^{134}\text{Cs}, ^{137}\text{Cs}$	海水 海岸水 海底土 海産生物	フェロシアン化 Ni-水酸化鉄共沈法 〃 直接法 (乾燥) 直接法 (灰化)	Ge 半導体検出器を用いた γ 線スペクトロメトリ
^{137}Cs	浮遊じん 葉菜 表土	直接法 直接法 (灰化) 直接法 (乾燥)	
^{144}Ce	海水 海岸水 海底土 海産生物	フェロシアン化 Ni-水酸化鉄共沈法 〃 直接法 (乾燥) 直接法 (灰化)	Ge 半導体検出器を用いた γ 線スペクトロメトリ
$^{239, 240}\text{Pu}$	浮遊じん 葉菜 表土 海水 海底土 海岸水 海産生物	イオン交換法	表面障壁型 Si 半導体検出器を用いた α 線スペクトロメトリ

表 B-2 定量下限値一覧 (1/2)

測定項目		単位	定量下限値	供試量	測定器 ^{注)}	備考	
空気中放射性物質濃度	浮遊じん	全 α 放射能		0.02	400~1200 m ³	ZnS	1週間試料
		全 β 放射能		0.7	400~1200 m ³	プラシン	〃
		⁹⁰ Sr	mBq/m ³	0.01	8000~11000 m ³	LBC	3か月間試料
		¹³⁷ Cs		0.007	8000~11000 m ³	Ge	〃
		^{239,240} Pu		0.0001	8000~11000 m ³	Si	〃
	ヨウ素	¹³¹ I	mBq/m ³	0.2	100~800 m ³	Ge	1週間試料
	気体状 β 放射能濃度	⁸⁵ Kr	kBq/m ³	7	0.3 L	GM	直接測定(連続)
水分	³ H	Bq/L	4	0.04 L	LSC	1週間/月	
雨水	³ H	Bq/L	4	0.04 L	LSC		
降下じん	全 β 放射能	Bq/m ²	4	0.5 m ² 水盤	GM		
飲料水	全 β 放射能	³ H	Bq/L	0.04	1 L	LBC	
				4	0.04 L	LSC	
葉菜	¹³¹ I	⁹⁰ Sr	Bq/kg・生	1	1~2 kg・生	Ge	灰 20~40 g 灰 100~200 g 灰 20~40 g
				0.04	2~3 kg・生	LBC	
				0.08	7~9 kg・生	Ge	
				0.0002	1~3 kg・生	Si	
精米	¹⁴ C	⁹⁰ Sr	Bq/g・炭素 Bq/kg・生	0.005	6 g・生	LSC	炭素 2.5 g
				0.04	4~5 kg・生	LBC	灰 20 g
牛乳	¹³¹ I	⁹⁰ Sr	Bq/L・生	0.2	2 L・生	Ge	灰 20 g
				0.02	2.5~3 L・生	LBC	
表土	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	Bq/kg・乾	0.08	0.1~0.3 kg・乾	LBC	
				0.8	0.2~0.6 kg・乾	Ge	
				0.04	50 g・乾	Si	
河川水	全 β 放射能	³ H	Bq/L	0.04	1~2 L	LBC	
				4	0.04 L	LSC	
河底土	全 β 放射能	Bq/kg・乾	80	5 g・乾	GM		

注)

- ZnS : ZnS (Ag) シンチレーションカウンタ
- プラシン : プラスチックシンチレーション検出器
- GM : GM 計数管
- LSC : 低バックグラウンド液体シンチレーションカウンタ
- LBC : 低バックグラウンド β 線測定装置
- Ge : Ge 半導体検出器
- Si : 表面障壁型 Si 半導体検出器

【測定時間】

- ZnS : 400 分
- GM : 200 分
- LBC : 150~500 分
- Si : 1300 分
- プラシン : 400 分
- LSC : 450~500 分
- Ge : 900~1300 分

表 B-2 定量下限値一覧 (2/2)

測定項目		単位	定量下限値	供試量	測定器 <small>注2)</small>	備考
海水 海岸水	全β放射能	Bq/L	0.04	2 L	LBC	
	³ H		4	0.04 L	LSC	
	⁹⁰ Sr		0.002	20 L	LBC	
	¹⁰⁶ Ru		0.02	40 L	Ge	
	¹³⁴ Cs		0.008	40 L	Ge	
	¹³⁷ Cs		0.004	40 L	Ge	
	¹⁴⁴ Ce		0.02	40 L	Ge	
	^{239, 240} Pu		0.00002	100 L	Si	
海底土	⁹⁰ Sr	Bq/kg・乾	0.08	0.1 kg・乾	LBC	
	¹⁰⁶ Ru		6	0.2~0.6 kg・乾	Ge	
	¹³⁴ Cs		1	0.2~0.6 kg・乾	Ge	
	¹³⁷ Cs		0.8	0.2~0.6 kg・乾	Ge	
	¹⁴⁴ Ce		6	0.2~0.6 kg・乾	Ge	
	^{239, 240} Pu		0.04	0.05 kg・乾	Si	
<small>注1)</small> 海産生物	⁹⁰ Sr	Bq/kg・生	0.02	1~2.5 kg・生	LBC	灰 20~80 g
	¹⁰⁶ Ru		0.8	3~9 kg・生	Ge	灰 50~150 g
	¹³⁴ Cs		0.2	3~9 kg・生	Ge	灰 50~150 g
	¹³⁷ Cs		0.04	3~9 kg・生	Ge	灰 50~150 g
	¹⁴⁴ Ce		0.8	3~9 kg・生	Ge	灰 50~150 g
	^{239, 240} Pu		0.002	0.7~2 kg・生	Si	灰 20~30 g
漁網 船体	β線吸収線量率	nGy/h	30	————	ブラシン	
	γ線表面線量率		10	————	NaI(Tl)	

注1) シラス、カレイ又はヒラメ、貝類及び褐藻類（ワカメ又はヒジキ等）

注2)

- LBC : 低バックグラウンドβ線測定装置
- LSC : 低バックグラウンド液体シンチレーションカウンタ
- Ge : Ge半導体検出器
- Si : 表面障壁型Si半導体検出器
- ブラシン : プラスチックシンチレーション検出器
- NaI(Tl) : NaI(Tl)シンチレーション検出器

【測定時間】

- LBC : 150~500 分
- LSC : 450~500 分
- Ge : 900~1300 分
- Si : 1300 分
- ブラシン : 60 分
- NaI(Tl) : 60 分

表 B-3 2024 年度モニタリング結果に適用する平常の変動幅一覧 (1/2)

測定対象		変動幅の 設定方法 ^{注1)}	評価期間 (年度)	除外期間 (年度)	2024年度に適用する 平常の変動幅 ^{注2、3)}	単位	
空間放射線 (線量率)	γ線	3 (地点毎)	2022 ~ 2023	—	表B-4参照	nGy/h	
空間放射線 (積算線量)	γ線	3 (地点毎)	2022 ~ 2023	—	表B-5参照	μ Gy/91日	
空気	浮遊じん	全α放射能	1	2014 ~ 2023	—	ND ~ 0.080	mBq/m ³
		全β放射能	2	2008 ~ 2023	2010 ~ 2015	ND ~ 0.92	
		⁹⁰ Sr	1	2014 ~ 2023	—	ND	
		¹³⁷ Cs	2	2002 ~ 2023	2010 ~ 2021	ND	
		^{239, 240} Pu	1	2014 ~ 2023	—	ND	
	ヨウ素	¹³¹ I	1	2014 ~ 2023	—	ND	mBq/m ³
	気体状β放射能濃度	⁸⁵ Kr	1	2014 ~ 2023	—	ND	kBq/m ³
水分	³ H	1	2014 ~ 2023	—	ND	Bq/L	
雨水	³ H	1	2014 ~ 2023	—	ND	Bq/L	
降下じん	全β放射能	1	2014 ~ 2023	—	ND ~ 20	Bq/m ²	
飲料水	全β放射能	1	2014 ~ 2023	—	ND ~ 0.090	Bq/L	
	³ H	1	2014 ~ 2023	—	ND		
葉菜	¹³¹ I	1	2014 ~ 2023	—	ND	Bq/kg・生	
	⁹⁰ Sr	1	2014 ~ 2023	—	ND ~ 0.071		
	¹³⁷ Cs	3	2022 ~ 2023	—	~ 0.19		
	^{239, 240} Pu	1	2014 ~ 2023	—	ND		
精米	¹⁴ C	1	2014 ~ 2023	—	0.22 ~ 0.24	Bq/g・炭素	
	⁹⁰ Sr	1	2014 ~ 2023	—	ND	Bq/kg・生	
牛乳	¹³¹ I	1	2014 ~ 2023	—	ND	Bq/L・生	
	⁹⁰ Sr	1	2014 ~ 2023	—	ND ~ 0.029		
表土	⁹⁰ Sr	1	2014 ~ 2023	—	0.093 ~ 3.6	Bq/kg・乾	
	¹³⁷ Cs	3 (地点毎)	2022 ~ 2023	—	表B-6参照		
	^{239, 240} Pu	1	2014 ~ 2023	—	0.069 ~ 0.92		
河川水	全β放射能	1	2014 ~ 2023	—	ND ~ 0.089	Bq/L	
	³ H	1	2014 ~ 2023	—	ND		
河底土	全β放射能	1	2014 ~ 2023	—	470 ~ 830	Bq/kg・乾	

注1) 変動幅の設定方法

1 : 過去10年間 (方針1) 2 : 事故影響期間を除く過去10年間 (方針2) 3 : 過去1~2年間 (方針3)

注2) ND : 定量下限値未滿を示す。表B-2に定量下限値一覧を示す。

注3) 平常の変動幅は、東電福島第一原発事故の影響を考慮して、2023年度までの測定値により設定した。

(事故影響を考慮した平常の変動幅の設定は、2018年度から運用開始)

表 B-3 2024 年度モニタリング結果に適用する平常の変動幅一覧 (2/2)

測定対象		変動幅の 設定方法 ^{注1)}	評価期間 (年度)	除外期間 (年度)	2024年度に適用する 平常の変動幅 ^{注2, 3)}	単位	
海水	全β放射能	1	2014 ~ 2023	—	ND ~ 0.054	Bq/L	
	³ H	1	2014 ~ 2023	—	ND		
	⁹⁰ Sr	1	2014 ~ 2023	—	ND		
	¹⁰⁶ Ru	1	2014 ~ 2023	—	ND		
	¹³⁴ Cs	1	2014 ~ 2023	—	ND		
	¹³⁷ Cs	2	2003 ~ 2023	2011 ~ 2021	ND		
	¹⁴⁴ Ce	1	2014 ~ 2023	—	ND		
^{239, 240} Pu	1	2014 ~ 2023	—	ND			
海底土	⁹⁰ Sr	2	2010 ~ 2023	2011 ~ 2014	ND ~ 0.092	Bq/kg・乾	
	¹⁰⁶ Ru	1	2014 ~ 2023	—	ND		
	¹³⁴ Cs	2	2004 ~ 2023	2011 ~ 2020	ND		
	¹³⁷ Cs	3	2022 ~ 2023	—	~ 23		
	¹⁴⁴ Ce	1	2014 ~ 2023	—	ND		
^{239, 240} Pu	1	2014 ~ 2023	—	0.14 ~ 1.2			
海産生物	シラス	⁹⁰ Sr	1	2014 ~ 2023	—	ND	Bq/kg・生
		¹⁰⁶ Ru	1	2014 ~ 2023	—	ND	
		¹³⁴ Cs	2	2009 ~ 2023	2011 ~ 2015	ND	
		¹³⁷ Cs	3	2022 ~ 2023	—	~ 0.18	
		¹⁴⁴ Ce	1	2014 ~ 2023	—	ND	
	^{239, 240} Pu	1	2014 ~ 2023	—	ND		
	カレイ又はヒラメ	⁹⁰ Sr	1	2014 ~ 2023	—	ND	Bq/kg・生
		¹⁰⁶ Ru	1	2014 ~ 2023	—	ND	
		¹³⁴ Cs	2	2009 ~ 2023	2011 ~ 2015	ND	
		¹³⁷ Cs	3	2022 ~ 2023	—	~ 0.34	
		¹⁴⁴ Ce	1	2014 ~ 2023	—	ND	
	^{239, 240} Pu	1	2014 ~ 2023	—	ND		
	貝類	⁹⁰ Sr	1	2014 ~ 2023	—	ND	Bq/kg・生
		¹⁰⁶ Ru	1	2014 ~ 2023	—	ND	
		¹³⁴ Cs	1	2014 ~ 2023	—	ND	
		¹³⁷ Cs	3	2022 ~ 2023	—	~ 0.043	
		¹⁴⁴ Ce	1	2014 ~ 2023	—	ND	
	^{239, 240} Pu	1	2014 ~ 2023	—	ND ~ 0.0038		
	褐藻類 (ワカメ又はヒジキ等)	⁹⁰ Sr	1	2014 ~ 2023	—	ND ~ 0.048	Bq/kg・生
		¹⁰⁶ Ru	1	2014 ~ 2023	—	ND	
¹³⁴ Cs		2	2009 ~ 2023	2011 ~ 2015	ND		
¹³⁷ Cs		3	2022 ~ 2023	—	~ 0.13		
¹⁴⁴ Ce		1	2014 ~ 2023	—	ND		
^{239, 240} Pu	1	2014 ~ 2023	—	ND ~ 0.0057			
漁網	β線吸収線量率	1	2014 ~ 2023	—	ND	nGy/h	
	γ線表面線量率	1	2014 ~ 2023	—	ND		
船体	β線吸収線量率	1	2014 ~ 2023	—	ND	nGy/h	
	γ線表面線量率	1	2014 ~ 2023	—	ND		
海岸水	全β放射能	1	2014 ~ 2023	—	ND ~ 0.083	Bq/L	
	³ H	1	2014 ~ 2023	—	ND		
	⁹⁰ Sr	1	2014 ~ 2023	—	ND		
	¹⁰⁶ Ru	1	2014 ~ 2023	—	ND		
	¹³⁴ Cs	2	2010 ~ 2023	2011 ~ 2014	ND		
	¹³⁷ Cs	3	2022 ~ 2023	—	~ 0.0050		
	¹⁴⁴ Ce	1	2014 ~ 2023	—	ND		
^{239, 240} Pu	1	2014 ~ 2023	—	ND ~ 0.000031			
海岸砂	β線表面計数率	1	2014 ~ 2023	—	54 ~ 98	cpm	
	γ線表面線量率	1	2014 ~ 2023	—	23 ~ 51	nGy/h	

注1) 変動幅の設定方法

1: 過去10年間 (方針1) 2: 事故影響期間を除く過去10年間 (方針2) 3: 過去1~2年間 (方針3)

注2) ND: 定量下限値未満を示す。表B-2に定量下限値一覧を示す。

注3) 平常の変動幅は、東電福島第一原発事故の影響を考慮して、2023年度までの測定値により設定した。

(事故影響を考慮した平常の変動幅の設定は、2018年度から運用開始)

表 B-4 空間放射線（線量率）における平常の変動幅一覧
 （変動幅の設定方法：過去 1 ～ 2 年間（方針 3））

単位：nGy/h

対象	番号 ^{注1)}	平常の変動幅 ^{注2)}
γ線 (モニタリングステーション)	ST1	～ 42
	ST2	～ 41
	ST3	～ 45
	ST4*	～ 39
γ線 (モニタリングポスト)	P1	～ 63
	P2	～ 67
	P3	～ 67
	P4	～ 58
	P5	～ 57
	P6	～ 58
	P7	～ 65
	P8	～ 66

注1) ■：周辺監視区域内を示す。*：比較対照区域を示す。

注2) 平常の変動幅は、東電福島第一原発事故の影響を考慮して、2023年度までの測定値により設定した。
 （事故影響を考慮した平常の変動幅の設定は、2018年度から運用開始）

表 B-5 空間放射線（積算線量）における平常の変動幅一覧
（変動幅の設定方法：過去 1 ～ 2 年間（方針 3））

単位：μ Gy/91日		単位：μ Gy/91日		単位：μ Gy/91日	
番号 ^{注1)}	平常の変動幅 ^{注2)}	番号 ^{注1)}	平常の変動幅 ^{注2)}	番号 ^{注1)}	平常の変動幅 ^{注2)}
S1	～ 160	F18*	～ 90	F37	～ 110
S2	～ 130	F22*	～ 110	F38*	～ 110
S3	～ 120	F24	～ 120	F39	～ 110
S4	～ 160	F25	～ 120	F40	～ 100
S5	～ 110	F26	～ 110	F41	～ 110
S6	～ 180	F27	～ 90	F42*	～ 100
S7	～ 120	F28	～ 130	F43	～ 190
S8	～ 150	F29	～ 130	F44*	～ 100
S9	～ 180	F30	～ 130	F45*	～ 120
S10	～ 110	F31	～ 110	F50	～ 100
S11	～ 140	F32*	～ 100		
S12	～ 200	F33*	～ 120		
S13	～ 200	F34	～ 100		
S14	～ 120	F35*	～ 90		
S15	～ 120	F36	～ 110		

注1) ■：周辺監視区域内を示す。*：比較対照区域を示す。

注2) 平常の変動幅は、東電福島第一原発事故の影響を考慮して、2023年度までの測定値により設定した。
（事故影響を考慮した平常の変動幅の設定は、2018年度から運用開始）

表 B-6 表土における平常の変動幅一覧
(変動幅の設定方法：過去 1 ～ 2 年間（方針 3）)

測定対象		場所名 ^{注1)}	評価期間 (年度)	除外期間 (年度)	2024年度に適用する 平常の変動幅 ^{注2)}	単位
表土	¹³⁷ Cs	東海村照沼	2022 ～ 2023	—	～ 370	Bq/kg・乾
		ひたちなか市長砂	2022 ～ 2023	—	～ 640	
		ひたちなか市東石川*	2022 ～ 2023	—	～ 890	
		安全管理棟前	2022 ～ 2023	—	～ 1300	
		旧G棟東	2022 ～ 2023	—	～ 360	

注1) ：周辺監視区域内を示す。*：比較対照区域を示す。

注2) 平常の変動幅は、東電福島第一原発事故の影響を考慮して、2023年度までの測定値により設定した。
(事故影響を考慮した平常の変動幅の設定は、2018年度から運用開始)

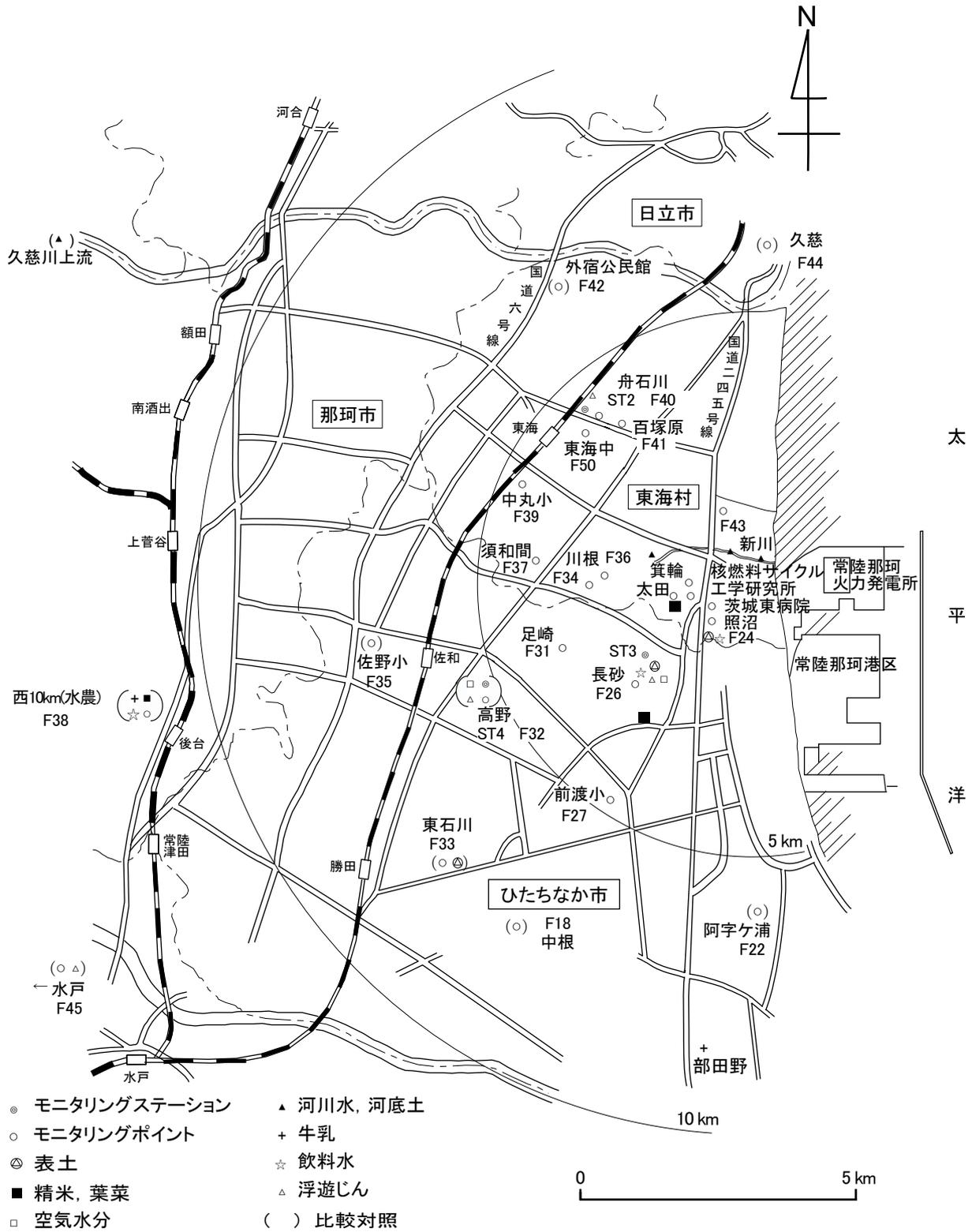
This is a blank page.

C. 測定地点図

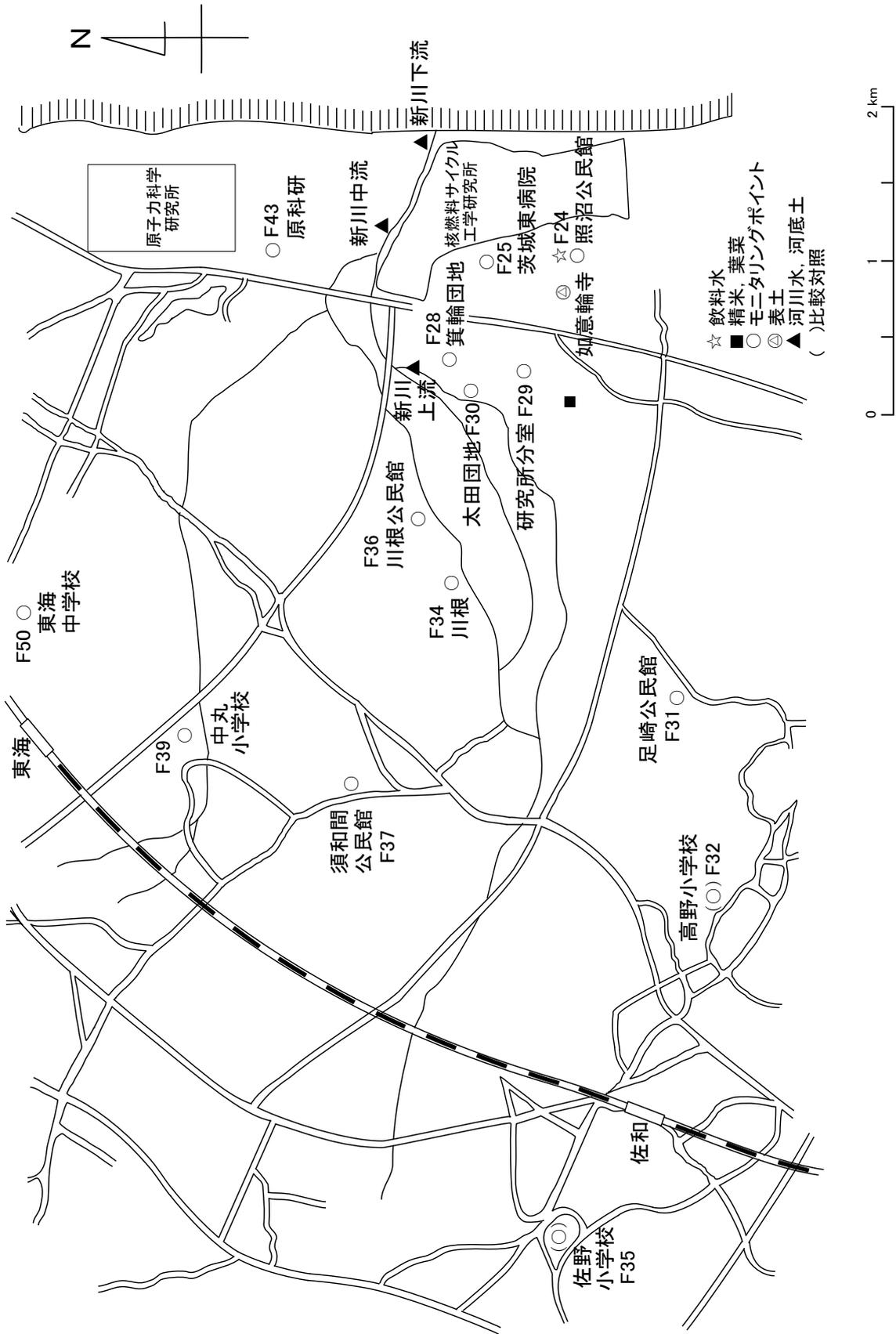
This is a blank page.

目 次

図 C-1	環境試料等の採取又は測定場所（周辺監視区域外）	38
図 C-2	環境試料等の採取又は測定場所（周辺監視区域周辺）	39
図 C-3	環境試料等の採取又は測定場所（周辺監視区域内）	40
図 C-4	海底土・海水採取場所	41
図 C-5	海産生物採取場所	42
図 C-6	海岸水採取場所及び海岸砂表面線量測定場所	43



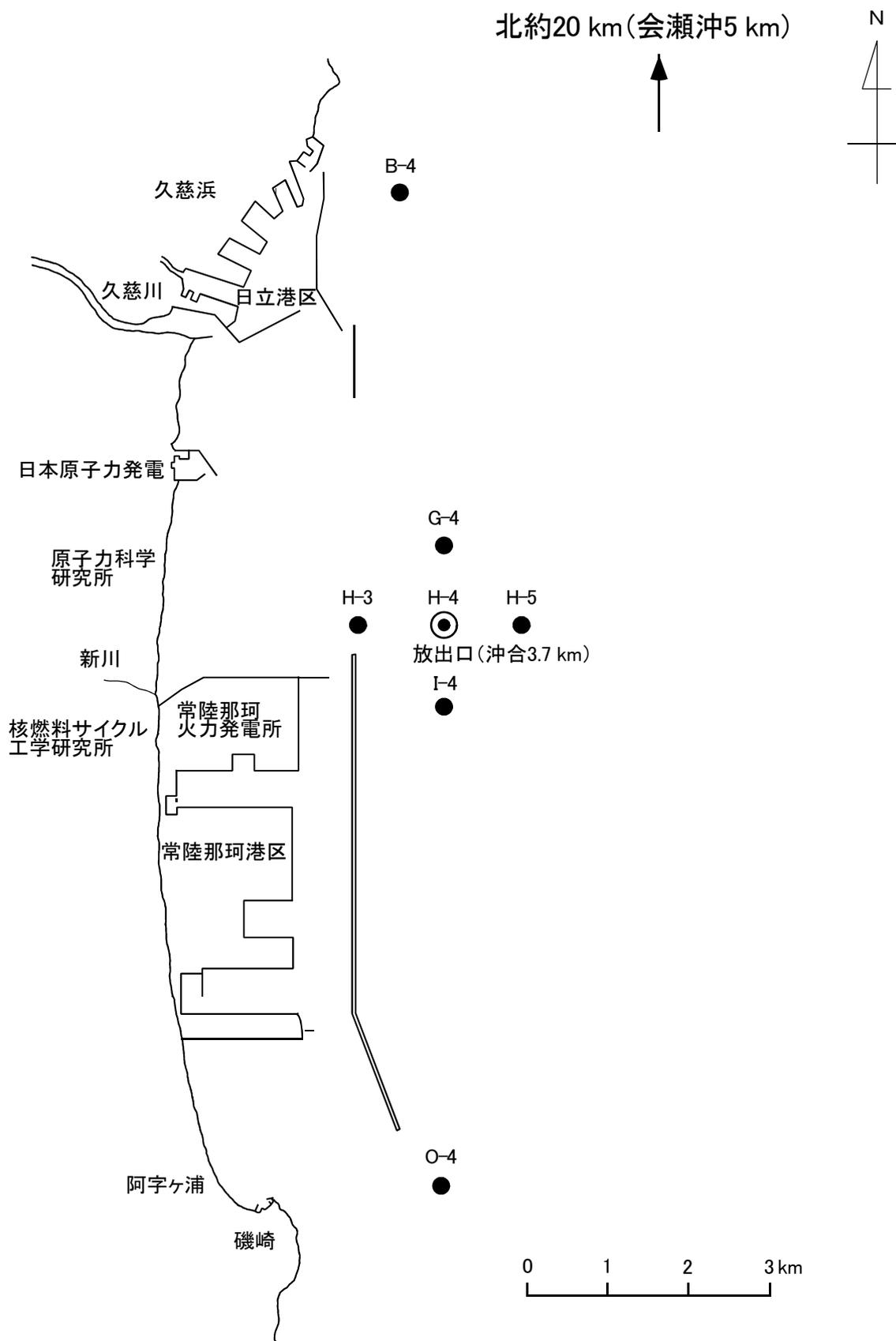
図C-1 環境試料等の採取又は測定場所(周辺監視区域外)



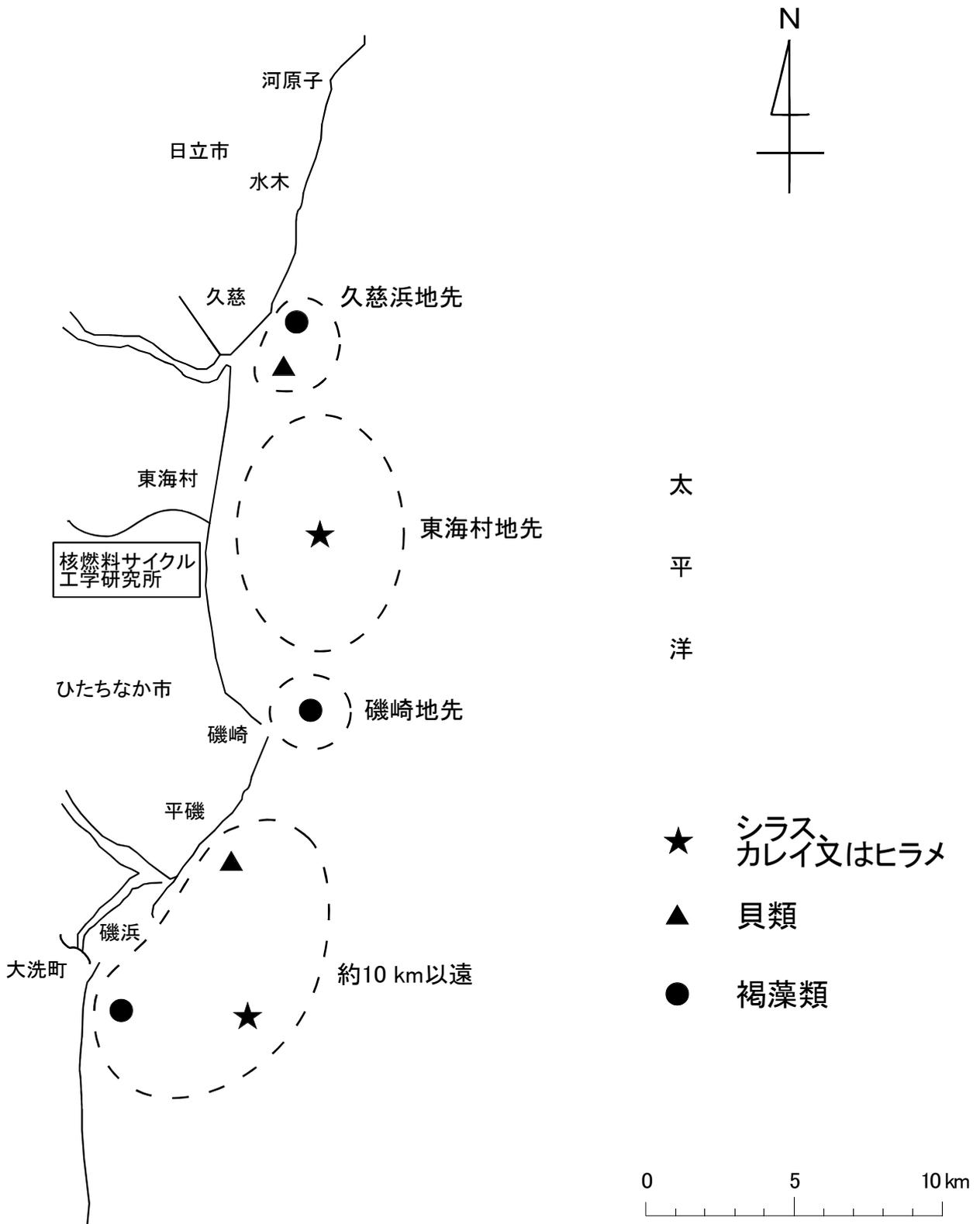
図C-2 環境試料等の採取又は測定場所(周辺監視区域周辺)



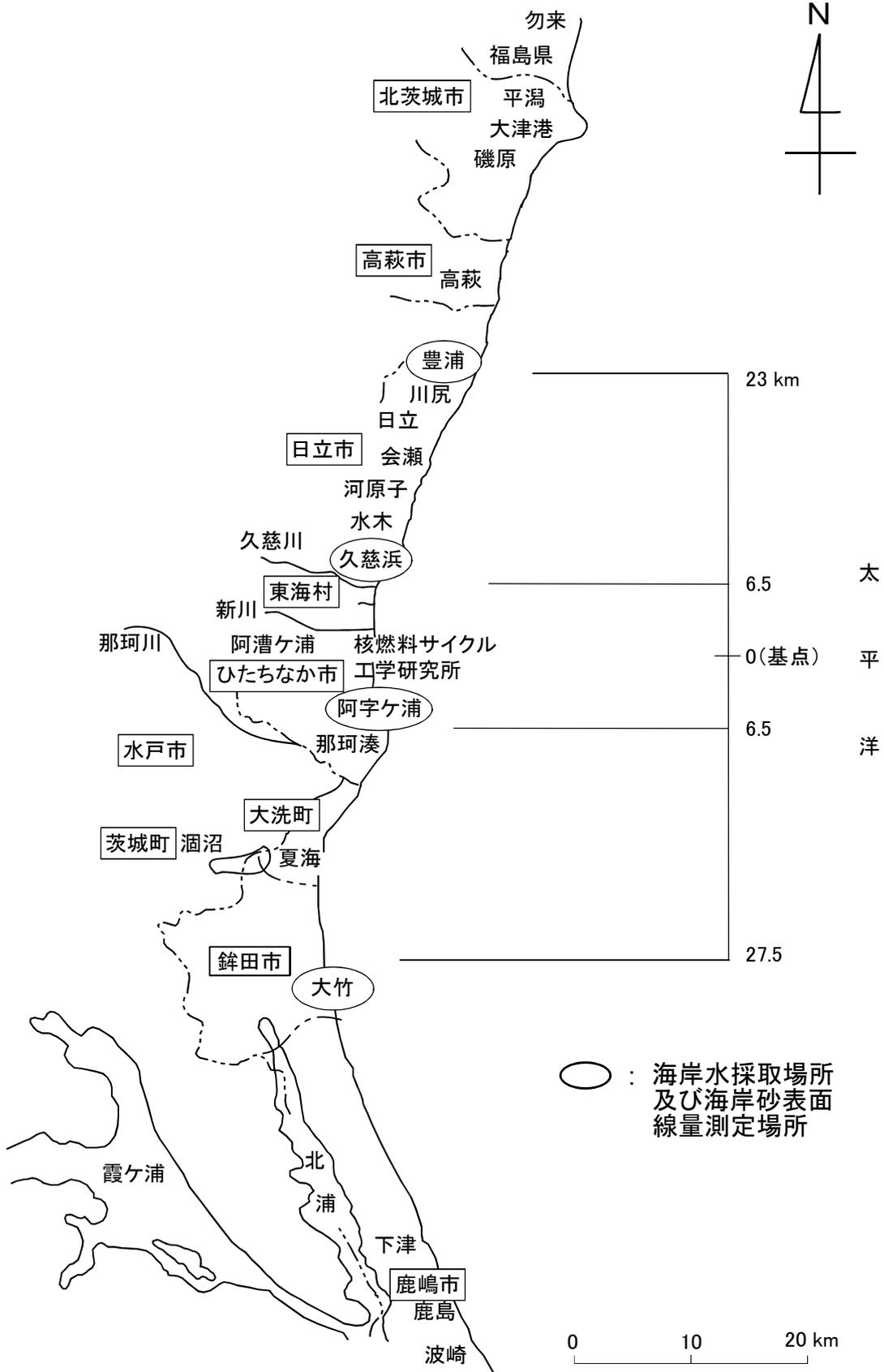
図 C-3 環境試料等の採取又は測定場所(周辺監視区域内)



図C-4 海底土・海水採取場所



図C-5 海産生物採取場所



図C-6 海岸水採取場所及び海岸砂表面線量測定場所

This is a blank page.

D. 測定結果

This is a blank page.

測定値一覧表記載方法の説明

1. 測定値は、測定項目ごとに2024年4月から2025年3月分をまとめて表にした。
2. 測定値の有効数字は、最大2桁とした。
3. 測定値が定量下限値未満であった場合は、該当欄に記号「*」を記した。また、定量下限値は備考に示した。
4. 測定値が、試料の採取不能のために得られず、欠測となった場合には、該当欄に「採取不能」と記した。
5. 1か月ごとに測定値の得られたものについては2024年4月～6月、7月～9月、10月～12月及び2025年1月～3月の3か月間の平均値を「3か月平均」の欄に記載し、2024年4月～2025年3月の平均値を「2024年度平均」の欄に記載した。

3か月ごと及び6か月ごとに1回の頻度で測定値の得られたものについては1年間の平均値を「平均」の欄に記載した。なお、1年に1回の頻度で測定値の得られたものについては1年間の平均値は記載しなかった。
6. 平均値としては、測定値の算術平均値を示した。3か月平均値は、1か月ごとの測定値の3か月分の算術平均値であり、また、1年間の平均値は、1か月ごとに測定値の得られたものについてはその1年分の算術平均値、3か月ごとに測定値の得られたものについてはその1年分の算術平均値である。測定値に定量下限値未満のものがあった場合には、平均値の算出は、当該測定値が定量下限値であったとして行った。この場合は、平均値の欄には、算出された平均値の左側に記号「<」を付して区別した。

This is a blank page.

目 次

1. 2024 年度の測定結果.....	51
2. 測定値経時変化図	77

This is a blank page.

1. 2024 年度の測定結果

This is a blank page.

2024 年度の測定値一覧表

目 次

表 D-1	空間放射線（線量率）	54
表 D-2	空間放射線（積算線量）	55
表 D-3	空气中放射性物質濃度	57
表 D-4	雨水中放射性物質濃度	60
表 D-5	降下じん中放射性物質濃度	60
表 D-6	飲料水中放射性物質濃度	61
表 D-7	葉菜中放射性物質濃度	62
表 D-8	精米中放射性物質濃度	63
表 D-9	牛乳中放射性物質濃度	63
表 D-10	表土中放射性物質濃度	64
表 D-11	河川水中放射性物質濃度	64
表 D-12	河底土中放射性物質濃度	64
表 D-13	海水中放射性物質濃度	65
表 D-14	海底土中放射性物質濃度	66
表 D-15	海岸水中放射性物質濃度	68
表 D-16	海岸砂表面線量	69
表 D-17	海産生物中放射性物質濃度	70
表 D-18	漁網表面線量	76
表 D-19	船体表面線量	76

表D-1 空間放射線 (線量率)

測定場所			測定値 (nGy/h)																		
			2024年		2024年			2025年			3か月平均			2025年							
区分	場所名	番号	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月-6月	7月-9月	10月-12月	1月-3月	2024年度 平均		
周辺監視 区域外	監視対 象区域	東海村舟石川	ST2	最大 50	53	55	62	58	54	53	50	46	51	44	62						
		ひたちなか市 長砂	ST3	最大 53	40	40	40	39	39	40	40	40	40	40	40	42 ⁶⁾	40	39	40	41	40
	比較対 照区域	ひたちなか市 高野	ST4	最大 41	41	41	42	41	41	41	41	41	41	41	41	42	41	41	41	41	41
		正門 警備所前	P1	最大 48	53	54	57	61	54	50	49	49	38	38	38	40 ⁶⁾	38	38	39	39	38
周辺監視区域境界	再処理施設 北柵付近	再処理施設	P3	最大 38	38	38	39	38	38	39	39	38	38	38	38	38	38	39	39	39	38
		構内グランド 西柵付近	P5	最大 73	77	76	87	80	82	73	69	72	71	65	84	84	59	59	59	60	59
	L棟 南柵付近	L棟	P6	最大 59	60	59	59	59	59	60	59	59	60	60	60	60	60	60	60	60	59
		南柵付近	P7	最大 74	77	78	83	83	80	75	73	74	74	74	67	80	63	63	63	63	63
	再処理施設 東柵付近	再処理施設	P8	最大 63	64	63	63	63	63	63	63	64	64	64	64	63	63	63	63	64	63
		東柵付近	P5	最大 69	72	72	82	79	74	69	66	67	67	59	79	79	63	63	63	64	63
	周辺監視区域内	美規機関発試験室 南柵付近	美規機関発試験室	P8	最大 54	54	54	55	54	54	54	54	54	54	54	55	54	55	54	54	54
			南柵付近	P6	最大 69	73	71	78	77	70	69	66	65	66	66	60	78	60	60	60	60
安全管理棟		安全管理棟	ST1	最大 55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
		工務技術 管理棟前	P2	最大 73	72	74	83	82	78	74	71	76	74	69	83	83	60	60	61	63	61
ブル燃 警備所前	ブル燃	P4	最大 75	77	77	87	83	79	78	72	77	76	70	85	85	60	60	61	63	61	
	警備所前	P5	最大 62	62	61	62	63	61	62	62	63	64	65	63	63	62	62	62	64	63	
周辺監視区域内	安全管理棟	安全管理棟	ST1	最大 51	55	53	61	57	54	51	49	51	50	45	59	62	62	62	64	63	
		平均 41	41	41	41	40	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	40	41	41	41	
	工務技術 管理棟前	工務技術 管理棟前	P2	最大 80	81	80	90	85	84	78	74	77	76	71	87	87	64	64	64	64	64
		平均 64	64	63	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64
ブル燃 警備所前	ブル燃	P4	最大 67	70	72	78	77	73	70	66	68	68	61	76	76	61	61	61	61	61	
	警備所前	P5	最大 56	56	56	57	56	56	56	56	57	57	57	57	57	56	56	56	57	56	

備考
 1) 各月の平均値は、1時間値の月平均値。
 2) 各月の最大値は、月間最大1時間値。
 3) P1～P8は、モニタリングポスト。
 4) ST1～ST4は、モニタリングステーション。
 5) 目安レベル：周辺監視区域外の月平均値150 nGy/h
 6) 3月の東海村舟石川(ST2)、ひたちなか市高野(ST4)、については、天然放射性核種及び東電福島第一原発事故由来核種の環境変動により平常の変動幅の上限値を超過した。

表D-2 空間放射線 (積算線量) (1/2)

測定場所		測定値(μ Gy)						
区分	場所名	番号	第1四半期 (3.26-6.25)	第2四半期 (6.25-9.25)	第3四半期 (9.25-12.25)	第4四半期 (12.25-3.25)	2024年度 平均	2024年度 積算
コントロール	安全管理棟(鉛室内)		60	60	60	60	60	240
	東海村照沼公民館	F24	110	110	120	110	110	450
	東海村茨城東病院	F25	100	100	110	110	110	420
	ひたちなか市長砂公民館	F26	90	100	100	100	98	390
	ひたちなか市前渡小学校	F27	80	80	80	90	83	330
	東海村箕輪団地	F28	110	120	120	120	120	470
	東海村イッル工学研究所分室	F29	110	110	110	120	110	450
	東海村太田団地	F30	120	120	130	130	130	500
	ひたちなか市足崎公民館	F31	110	100	100	110	110	420
	東海村川根	F34	90	80	90	90	88	350
周辺監視 区域外	東海村川根公民館	F36	100	100	110	110	110	420
	東海村須和間公民館	F37	100	100	100	100	100	400
	東海村中丸小学校	F39	100	100	110	110	110	420
	東海村舟石川	F40	100	100	100	100	100	400
	東海村百塚原団地	F41	100	100	100	110	100	410
	東海村原子力科学研究所	F43	170	170	170	180	170	690
	東海村東海中学校	F50	90	90	90	90	90	360
	ひたちなか市中根	F18	80	80	90	80	83	330
	ひたちなか市阿字ヶ浦	F22	100	90	100	100	98	390
	ひたちなか市高野小学校	F32	90	80	90	80	85	340
比較対 照区域	ひたちなか市市役所	F33	110	100	100	100	100	410
	ひたちなか市佐野小学校	F35	90	80	80	90	85	340
	那珂市県立水戸農業高校	F38	100	90	100	100	98	390
	東海村外宿公民館	F42	90	90	100	100	95	380
	日立市久慈	F44	90	90	100	100	95	380
	水戸市石川	F45	100	100	100	110	100	410

備考 1) 各四半期下段の()内は設置期間を示す。なお測定値は91日間の積算線量である。
 2) 測定値は、宇宙線成分及び自己汚染成分(コントロール)を除いた値。
 3) 目安レベル:周辺監視区域外200 μ Gy/3か月

表D-2 空間放射線 (積算線量) (2/2)

測定場所		測定値(μ Gy)							
		第1四半期 (3.26-6.25)	第2四半期 (6.25-9.25)	第3四半期 (9.25-12.25)	第4四半期 (12.25-3.25)	2024年度 平均	2024年度 積算		
区分	場所名	番号							
周辺監視区域境界	正門警備所前	S1	140	140	140	150	140	570	
	放射線保健室西柵	S2	110	110	120	130	120	470	
	第1検査技術開発室北柵	S3	110	100	120	120	110	450	
	再処理ウラン貯蔵所北柵	S4	130	140	140	150	140	560	
	再処理第一付属排気筒前	S5	100	110	110	110	110	430	
	プル燃第三開発室東柵	S6	150	150	150	160	150	610	
	L棟東柵	S7	100	100	110	110	110	420	
	L棟南柵	S8	130	130	130	140	130	530	
	L棟西柵	S9	130	150	150	160	150	590	
	プル燃第二開発室西柵	S10	90	90	100	90	93	370	
	構内グラウンド西柵	S11	120	120	120	130	120	490	
	安全管理棟南柵	S12	160	170	170	180	170	680	
	安全管理棟北口玄関前	S13	170	180	180	180	180	710	
	構内グラウンド東側	S14	100	100	110	110	110	420	
	プル燃警備所前	S15	100	110	110	110	110	430	
周辺監視区域内									

備考 1) 各四半期下段の()内は設置期間を示す。なお測定値は91日間の積算線量である。
 2) 測定値は、宇宙線成分及び自己汚染成分(コントロール)を除いた値。

表D-3 空气中放射性物質濃度 (1/4)

1. 浮遊じん
(1) 全α放射能

採取場所			測定値 (mBq/m ³)																
			2024年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	3か月平均			2025年 1月-3月 平均	2024年度 10月-12月 平均
周辺 監視 区域 外	監視対 象区域	番号	0.037	0.032	0.026	0.030	*	*	*	0.021	0.027	0.026	0.026	0.047	0.032	<0.023	0.025	<0.029	<0.029
		場所名	東海村舟石川	0.039	0.034	0.024	0.027	0.020	*	0.025	0.024	0.024	0.028	0.048	0.032	<0.022	0.024	<0.031	<0.031
	比較対 照区域	ST2	0.045	0.038	0.030	0.034	0.023	0.023	0.021	*	0.025	0.023	0.031	0.045	0.038	0.027	0.026	0.042	0.033
		ST3	0.037	0.034	0.025	0.028	0.021	*	0.025	0.023	0.023	0.025	0.024	0.036	0.032	<0.024	0.024	0.038	<0.029
周辺監視区域内	再処理警備所前	ST4	0.027	0.026	*	0.034	0.024	0.021	0.023	0.023	0.023	0.024	0.029	0.032	<0.024	0.026	0.024	0.030	<0.026
		ST1	0.026	0.023	0.020	0.034	0.025	*	*	0.022	*	0.022	0.033	0.025	<0.026	<0.021	0.029	<0.025	
	ブル燃警備所前	ST1	0.035	0.031	0.025	0.030	0.021	*	0.021	0.024	*	0.023	0.047	0.030	<0.022	<0.022	0.034	<0.027	
		安全管理棟																	

備考 1) 各月の測定値は、1週間値の月平均値。
2) *は、定量下限値(0.02 mBq/m³)未満を示す。
3) 目安レベル:200 mBq/m³

(2) 全β放射能

採取場所			測定値 (mBq/m ³)																
			2024年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	3か月平均			2025年 1月-3月 平均	2024年度 10月-12月 平均
周辺 監視 区域 外	監視対 象区域	番号	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7
		場所名	東海村舟石川	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7
	比較対 照区域	ST2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7
		ST3	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7
周辺監視区域内	再処理警備所前	ST4	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7
		ST1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7
	ブル燃警備所前	ST1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7	<0.7
		安全管理棟																	

備考 1) 各月の測定値は、1週間値の月平均値。
2) *は、定量下限値(0.7 mBq/m³)未満を示す。
3) 目安レベル:400 mBq/m³

表D-3 空气中放射性物質濃度 (2/4)

(3) ⁹⁰Sr

採取場所		測定値 (mBq/m ³)						
区分	場所名	番号	第1四半期 (3.22-6.24)	第2四半期 (6.24-9.24)	第3四半期 (9.24-12.24)	第4四半期 (12.24-3.24)	2024年度平均	
周辺監視区域 外	監視対象区域	東海村舟石川	ST2	*	*	*	*	<0.01
	比較対照区域	ひたちなか市長砂	ST3	*	*	*	*	<0.01
		ひたちなか市高野	ST4	*	*	*	*	<0.01
		水戸市石川	/	*	*	*	*	<0.01
周辺監視区域内	再処理警備所前	/	*	*	*	*	<0.01	
	プル燃警備所前	/	*	*	*	*	<0.01	
	安全管理棟	ST1	*	*	*	*	<0.01	

備考 1) 各四半期下段の () 内は採取期間を示す。
2) *は、定量下限値(0.01 mBq/m³)未滿を示す。

(4) ¹³⁷Cs

採取場所		測定値 (mBq/m ³)						
区分	場所名	番号	第1四半期 (3.22-6.24)	第2四半期 (6.24-9.24)	第3四半期 (9.24-12.24)	第4四半期 (12.24-3.24)	2024年度平均	
周辺監視区域 外	監視対象区域	東海村舟石川	ST2	*	*	*	*	<0.007
	比較対照区域	ひたちなか市長砂	ST3	*	*	*	*	<0.007
		ひたちなか市高野	ST4	*	*	*	*	<0.007
		水戸市石川	/	*	*	*	*	<0.007
周辺監視区域内	再処理警備所前	/	*	*	*	*	<0.007	
	プル燃警備所前	/	*	*	*	*	<0.007	
	安全管理棟	ST1	0.024 ³⁾	*	*	*	<0.011	

備考 1) 各四半期下段の () 内は採取期間を示す。
2) *は、定量下限値(0.007 mBq/m³)未滿を示す。
3) 第1四半期の安全管理棟については、東京電力福島第一原子力発電所事故由来の¹³⁷Csの環境変動により、平常の変動幅の上限を超過した。

(5) ^{239,240}Pu

採取場所		測定値 (mBq/m ³)						
区分	場所名	番号	第1四半期 (3.22-6.24)	第2四半期 (6.24-9.24)	第3四半期 (9.24-12.24)	第4四半期 (12.24-3.24)	2024年度平均	
周辺監視区域 外	監視対象区域	東海村舟石川	ST2	*	*	*	*	<0.0001
	比較対照区域	ひたちなか市長砂	ST3	*	*	*	*	<0.0001
		ひたちなか市高野	ST4	*	*	*	*	<0.0001
		水戸市石川	/	*	*	*	*	<0.0001
周辺監視区域内	再処理警備所前	/	*	*	*	*	<0.0001	
	プル燃警備所前	/	*	*	*	*	<0.0001	
	安全管理棟	ST1	*	*	*	*	<0.0001	

備考 1) 各四半期下段の () 内は採取期間を示す。
2) *は、定量下限値(0.0001 mBq/m³)未滿を示す。

表D-3 空气中放射性物質濃度 (3/4)

口. 131 I

採取場所			測定値 (mBq/m ³)																		
区分	場所名	番号	2024年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年	1月	2月	3月	3か月平均			2024年度		
			4月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2024年	4月-6月	7月-9月	10月-12月	2025年	
周辺監視区域外	監視対象区域	東海村舟石川	ST2	最大	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	
		ひたちなか市	ST3	平均	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
	比較対照区域	長砂	ST4	最大	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		ひたちなか市	ST4	平均	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
周辺監視区域内	安全管理棟	ST1	最大	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	
			平均	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2

備考 1) 各月の平均値は、1週間値の月平均値。
 2) 各月の最大値は、月間最大1週間値。
 3) *は、定量下限値(0.2 mBq/m³)未滿を示す。
 4) 目安レベル:20 mBq/m³

ハ. 気体状β放射能濃度

測定場所			測定値 (kBq/m ³)																	
区分	場所名	番号	2024年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年	1月	2月	3月	3か月平均			2024年度	
			4月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2024年	4月-6月	7月-9月	10月-12月	2025年
周辺監視区域外	監視対象区域	東海村舟石川	ST2	最大	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<7	<7	<7	<7
		ひたちなか市	ST3	平均	*	*	10.1 ⁵⁾	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<7	<7	<7	<7
	比較対照区域	ひたちなか市	ST4	最大	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<7	<7	<7	<7
		高野	ST4	平均	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<7	<7	<7	<7
周辺監視区域内	安全管理棟	ST1	最大	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<7	<7	<7	<7
			平均	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<7	<7	<7

備考 1) 各月の平均値は、1週間値の月平均値。
 2) 各月の最大値は、月間最大1時間値。
 3) *は、定量下限値(7 kBq/m³)未滿を示す。
 4) 目安レベル:1か月平均値10 kBq/m³
 5) 7月のひたちなか市長砂(ST3)については、局舎のエアコン故障のため外気温の影響で指示値が上昇した。

表D-3 空气中放射性物質濃度 (4/4)

採取場所		測定値 (Bq/L)														
区分	場所名	2024年	2025年	3か月平均			2024年度									
		4月	12月	1月	2月	3月	2024年 4月-6月	2025年 1月-3月	7月-9月	10月-12月	1月-3月	2024年度 平均				
周辺監視区域外	監視対象区域 ひたちなか市 長砂	*	*	*	*	5.2 ²⁾	*	*	*	*	*	*	*	<4	<4	<4.1
	比較対照区域 ひたちなか市 高野	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<4	<4	<4

備考 1) *は、定量下限値(4 Bq/L)未滿を示す。
 2) ひたちなか市長砂の11月期の水分中³H濃度については、J-PARC物質・生命科学実験施設における³Hの管理放出の影響により、平常の変動幅の上限値を超過した。

表D-4 雨水中放射性物質濃度

採取場所		³ H測定値 (Bq/L)														
区分	場所名	2024年	2025年	3か月平均			2024年度									
		4月	12月	1月	2月	3月	2024年 4月-6月	2025年 1月-3月	7月-9月	10月-12月	1月-3月	2024年度 平均				
周辺監視区域内	安全管理棟	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	<4	<4	<4

備考 1) *は、定量下限値(4 Bq/L)未滿を示す。
 2) 安全管理棟の12月期の雨水中³Hについては、気象条件により採取不能となった。

表D-5 降下じん中放射性物質濃度

採取場所		全β放射能測定値 (Bq/m ²)																
区分	場所名	2024年	2025年	3か月平均			2024年度											
		4月	12月	1月	2月	3月	2024年 4月-6月	2025年 1月-3月	7月-9月	10月-12月	1月-3月	2024年度 平均						
周辺監視区域内	安全管理棟	8.7	14	6.4	8.4	*	12	9.7	7.1	*	4.9	6.3	15	9.7	<8.1	<6.9	8.7	<8.4

備考 1) *は、定量下限値(4 Bq/m²)未滿を示す。
 2) 目安レベル：600 Bq/m²

表D-6 飲料水中放射性物質濃度

採取場所		測定値 (Bq/L)				
区分	場所名	2024年 4月	7月	10月	2025年 2月	2024年度 平均
周辺監視区域外	監視対象区域	*	0.051	0.041	0.059	<0.048
	比較対照区域	0.046	0.052	0.064	0.063	0.056
周辺監視区域内		0.056	0.073	0.077	0.068	0.069
安全管理棟		*	0.064	0.083	0.054	<0.060

備考 1) *は、定量下限値(0.04 Bq/L)未滿を示す。

採取場所		測定値 (Bq/L)				
区分	場所名	2024年 4月	7月	10月	2025年 2月	2024年度 平均
周辺監視区域外	監視対象区域	*	*	*	*	<4
	比較対照区域	*	*	*	*	<4
周辺監視区域内		*	*	*	*	<4
安全管理棟		*	*	*	*	<4

備考 1) *は、定量下限値(4 Bq/L)未滿を示す。

2) 目安レベル：1000 Bq/L

表D-7 葉菜中放射性物質濃度

イ. ¹³¹I

採取場所		測定値 (Bq/kg・生)				
区分	場所名	2024年 4月-6月	8月-9月	11月-12月	2025年 1月-3月	2024年度 平均
監視対象区域	東海村照沼	* (キャベツ)	* (キャベツ)	* (白菜)	採取不能	<1
	ひたちなか市長砂	* (キャベツ)	* (キャベツ)	* (白菜)	* (白菜)	<1
比較対照区域	西約10 km点	* (ホウレン草)	* (キャベツ)	* (キャベツ)	* (ホウレン草)	<1

備考 1) *は、定量下限値(1 Bq/kg・生)未滿を示す。

ロ. ⁹⁰Sr, ¹³⁷Cs及び^{239, 240}Pu

採取場所		採取月	種類	測定値 (Bq/kg・生)	
区分	場所名			⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
監視対象区域	東海村照沼	12月	白菜	0.098 ²⁾	*
	ひたちなか市長砂	11月	白菜	0.069	*
比較対照区域	西約10 km点	11月	キャベツ	*	*

備考 1) *は、次の定量下限値未滿を示す。

⁹⁰Sr : 0.04 Bq/kg・生

¹³⁷Cs : 0.08 Bq/kg・生

^{239, 240}Pu : 0.0002 Bq/kg・生

2) 東海村照沼の白菜の⁹⁰Sr濃度については、⁹⁰Srの環境変動により、平常の変動幅の上限値を超過した。

表D-8 精米中放射性物質濃度

区分	採取場所		採取月	測定値 (Bq/g・炭素)	
	場所名			¹⁴ C	測定値 (Bq/kg・生)
監視対象区域	東海村照沼		10月	0.21 ²⁾	*
	ひたちなか市長砂		10月	0.21 ²⁾	*
比較対照区域	西約10 km点		10月	0.21 ²⁾	*

備考 1) *は、⁹⁰Srの定量下限値(0.04 Bq/kg・生)未満を示す。

2) 東海村照沼、ひたちなか市長砂、西約10km点の精米中の¹⁴C濃度については、¹⁴Cの環境変動により、平常の変動幅の下限値を下回った。

表D-9 牛乳中放射性物質濃度

イ. ¹³¹I

区分	採取場所		測定値 (Bq/L・生)		
	場所名		2024年 4月	2025年 1月-2月	2024年度 平均
監視対象区域	ひたちなか市部田野		7月-8月	*	<0.2
比較対照区域	西約10 km点		*	*	<0.2

備考 1) *は、定量下限値(0.2 Bq/L・生)未満を示す。

ロ. ⁹⁰Sr

区分	採取場所		採取月	測定値 (Bq/L・生)
	場所名			
監視対象区域	ひたちなか市部田野		10月	*
比較対照区域	西約10 km点		10月	*

備考 1) *は、定量下限値(0.02 Bq/L・生)未満を示す。

表D-10 表土中放射性物質濃度

採取場所		採取月	測定値 (Bq/kg・乾)			
区分	場所名		⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	^{239,240} Pu	
周辺監視 区域外	監視対象区域	東海村照沼	11月	1.7	280	0.63
	比較対照区域	ひたちなか市長砂	11月	1.3	390	0.24
周辺監視区域内	比較対照区域	ひたちなか市東石川	11月	0.64	860	0.63
	監視対象区域	安全管理棟前	11月	0.61	940	0.27
		旧G棟東	11月	0.12	150	0.13

表D-11 河川水中放射性物質濃度

採取場所	区分	場所名	全β放射能測定値 (Bq/L)			³ H測定値 (Bq/L)		
			2024年 4月-6月	10月-11月	2024年 平均	2024年 4月-6月	10月-11月	2024年 平均
監視対象区域		新川上流	*	*	<0.04	*	*	<4
		新川中流	*	*	<0.04	*	*	<4
		新川下流	*	*	<0.04	*	*	<4
比較対照区域		久慈川上流	0.049	0.049	0.049	*	*	<4

備考 1) *は、次の定量下限値未満を示す。

全β放射能 : 0.04 Bq/L

³H : 4 Bq/L

2) 目安レベル: 全β放射能について 0.7 Bq/L

表D-12 河底土中放射性物質濃度

採取場所	区分	場所名	全β放射能測定値 (Bq/kg・乾)		
			2024年 4月-6月	10月-11月	2024年 平均
監視対象区域		新川上流	620	610	620
		新川中流	540	550	550
		新川下流	630	520	580
比較対照区域		久慈川上流	730	630	680

備考 1) 目安レベル: 1000 Bq/kg・乾

表D-13 海水中放射性物質濃度

イ. 全β放射能

採取場所		測定値 (Bq/L)					
区分	場所名	番号	2024年 4月	7-9月	12月	2025年 2-3月	2024年度 平均
監視対象海域	放出口付近5点混合	G-4, H-3, H-4, H-5, I-4	*	0.040	0.046	0.045	<0.043
	久慈沖	B-4		*		*	<0.04
	磯崎沖	O-4		*		0.049	<0.045
比較対照海域	北約20 km点	N		*			<0.04

備考 1) *は、定量下限値(0.04 Bq/L)未滿を示す。

2) 目安レベル：0.1 Bq/L

ロ. ³H

採取場所		測定値 (Bq/L)					
区分	場所名	番号	2024年 4月	7-9月	12月	2025年 2-3月	2024年度 平均
監視対象海域	放出口付近5点混合	G-4, H-3, H-4, H-5, I-4	*	*	*	*	<4
	久慈沖	B-4		*		*	<4
	磯崎沖	O-4		*		*	<4
比較対照海域	北約20 km点	N		*			<4

備考 1) *は、定量下限値(4 Bq/L)未滿を示す。

ハ. ⁹⁰Sr, ¹⁰⁶Ru, ¹³⁴Cs, ¹³⁷Cs, ¹⁴⁴Ce及^{239,240}Pu

採取場所		測定値 (Bq/L)							
区分	場所名	番号	採取月	⁹⁰ Sr	¹⁰⁶ Ru	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	^{239,240} Pu
監視対象海域	放出口付近5点混合	G-4, H-3, H-4, H-5, I-4	7月	*	*	*	*	*	*
	比較対照海域	北約20 km点	9月	*	*	*	*	*	*

備考 1) *は、次の定量下限値未滿を示す。

⁹⁰Sr : 0.002 Bq/L
¹⁰⁶Ru : 0.02 Bq/L
¹³⁴Cs : 0.008 Bq/L
¹³⁷Cs : 0.004 Bq/L
¹⁴⁴Ce : 0.02 Bq/L
^{239,240}Pu : 0.00002 Bq/L

表D-14 海底土中放射性物質濃度 (1/2)

イ. ⁹⁰Sr

区分	採取場所		測定値 (Bq/kg・乾)	
	場所名	番号	2024年 4-6月	2024年 12月 平均
監視対象海域	放出口付近5点混合	G-4, H-3, H-4, H-5, I-4	*	<0.08
	久慈沖	B-4	*	<0.08
	磯崎沖	O-4	*	<0.08
比較対照海域	北約20 km点	N	*	<0.08

備考 1) *は、定量下限値(0.08 Bq/kg・乾)未満を示す。

ロ. ¹⁰⁶Ru

区分	採取場所		測定値 (Bq/kg・乾)	
	場所名	番号	2024年 4-6月	2024年 12月 平均
監視対象海域	放出口付近5点混合	G-4, H-3, H-4, H-5, I-4	*	<6
	久慈沖	B-4	*	<6
	磯崎沖	O-4	*	<6
比較対照海域	北約20 km点	N	*	<6

備考 1) *は、定量下限値(6 Bq/kg・乾)未満を示す。

ハ. ¹³⁴Cs

区分	採取場所		測定値 (Bq/kg・乾)	
	場所名	番号	2024年 4-6月	2024年 12月 平均
監視対象海域	放出口付近5点混合	G-4, H-3, H-4, H-5, I-4	*	<1
	久慈沖	B-4	*	<1
	磯崎沖	O-4	*	<1
比較対照海域	北約20 km点	N	*	<1

備考 1) *は、定量下限値(1 Bq/kg・乾)未満を示す。

表D-14 海底土中放射性物質濃度 (2/2)

二. ¹³⁷Cs

採取場所		測定値 (Bq/kg・乾)	
区分	場所名 番号	2024年 4-6月	2024年 12月 平均
監視対象海域	放出口付近5点混合	5.1	4.4
	久慈沖	2.8	0.99
	磯崎沖	5.9	1.1
比較対照海域	北約20 km点	1.7	<1.3

備考 1) *は、定量下限値(0.8 Bq/kg・乾)未滿を示す。

ホ. ¹⁴⁴Ce

採取場所		測定値 (Bq/kg・乾)	
区分	場所名 番号	2024年 4-6月	2024年 12月 平均
監視対象海域	放出口付近5点混合	*	*
	久慈沖	*	*
	磯崎沖	*	*
比較対照海域	北約20 km点	*	<6

備考 1) *は、定量下限値(6 Bq/kg・乾)未滿を示す。

ハ. ^{239,240}Pu

採取場所		測定値 (Bq/kg・乾)	
区分	場所名 番号	2024年 4-6月	2024年 12月 平均
監視対象海域	放出口付近5点混合	0.41	0.32
	久慈沖	0.51	0.22
	磯崎沖	0.38	0.23
比較対照海域	北約20 km点	0.38	0.37

表D-15 海岸水中放射性物質濃度

採取場所		全β放射能測定値 (Bq/L)			³ H測定値 (Bq/L)		
区分	場所名	2024年 4月	10月	2024年 平均	2024年 4月	10月	2024年 平均
監視対象区域	久慈浜海岸	0.065	0.063	0.064	*	*	<4
	阿字ヶ浦海岸	0.064	*	<0.052	*	*	<4
比較対照区域	南約20 km点	0.053	0.063	0.058	*	*	<4
	北約20 km点	0.069	0.077	0.073	*	*	<4

備考 1) *は、次の定量下限値未満を示す。

全β放射能 : 0.04 Bq/L

³H : 4 Bq/L

2) 目安レベル : 全β放射能について 0.1 Bq/L

ロ. ⁹⁰Sr, ¹⁰⁶Ru, ¹³⁴Cs, ¹³⁷Cs, ¹⁴⁴Ce及^{239, 240}Pu

採取場所		採取月	測定値 (Bq/L)					
区分	場所名		⁹⁰ Sr	¹⁰⁶ Ru	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	^{239, 240} Pu
監視対象区域	久慈浜海岸	10月	*	*	*	*	*	*
	阿字ヶ浦海岸	10月	*	*	*	*	*	*
比較対照区域	南約20 km点	10月	*	*	*	*	*	*
	北約20 km点	10月	*	*	*	*	*	*

備考 1) *は、次の定量下限値未満を示す。

⁹⁰Sr : 0.002 Bq/L

¹⁰⁶Ru : 0.02 Bq/L

¹³⁴Cs : 0.008 Bq/L

¹³⁷Cs : 0.004 Bq/L

¹⁴⁴Ce : 0.02 Bq/L

^{239, 240}Pu : 0.00002 Bq/L

表D-16 海岸砂表面線量

測定場所		β線表面計数率 (cpm)					γ線表面線量率 (nGy/h)				
		2024年 4月	7月	10月	2025年 1月	2024年度 平均	2024年 4月	7月	10月	2025年 1月	2024年度 平均
監視対象区域	場所名										
	久慈浜海岸	67	66	60	63	64	26	29	27	28	28
	阿字ヶ浦海岸	78	77	85	80	80	41	42	35	40	40
比較対照区域	南約20 km点	76	69	62	75	71	28	37	31	39	34
	北約20 km点	83	66	80	72	75	41	36	45	39	40

備考 1) β線表面計数率は、GM管式サーベイメータによる測定値。
 2) γ線表面線量率は、NaI (TI)サーベイメータによる測定値。

表D-17 海産生物中放射性物質濃度 (1/6)

イ. ^{90}Sr

種類	採取場所		測定値 (Bq/kg・生)				
	区分	場所名	2024年 4月-6月	7月-9月	10月-12月	2025年 1月-3月	2024年度 平均
シラス	監視対象海域	東海村地先	*	*	*	採取不能	<0.02
	比較対照海域	約10 km以遠	*	*	*	採取不能	<0.02
カレイ又は ヒラメ	監視対象海域	東海村地先	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (カレイ)	* (ヒラメ)	<0.02
	比較対照海域	約10 km以遠	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	<0.02
貝類	監視対象海域	久慈浜地先	* (アワビ)	* (アワビ)	採取不能	* (ハマグリ)	<0.02
	比較対照海域	約10 km以遠	* (ハマグリ)	* (ハマグリ)	採取不能	採取不能	<0.02
褐藻類 (ワカメ又は ヒジキ等)	監視対象海域	久慈浜地先	* (ワカメ)	* (ワカメ)	* (アラム)	採取不能	<0.02
		磯崎地先	* (ワカメ)	採取不能	採取不能	* (アラム)	<0.02
	比較対照海域	約10 km以遠	* (アラム)	* (アラム)	* (アラム)	* (アラム)	<0.02

備考 1) *は、定量下限値(0.02 Bq/kg・生)未滿を示す。

表D-17 海産生物中放射性物質濃度 (2/6)

種類	採取場所		測定値 (Bq/kg・生)				
	区分	場所名	2024年 4月-6月	7月-9月	10月-12月	2025年 1月-3月	2024年度 平均
シラス	監視対象海域	東海村地先	*	*	*	採取不能	<0.8
	比較対照海域	約10 km以遠	*	*	*	採取不能	<0.8
カレイ又は ヒラメ	監視対象海域	東海村地先	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (カレイ)	* (ヒラメ)	<0.8
	比較対照海域	約10 km以遠	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	<0.8
貝類	監視対象海域	久慈浜地先	* (アワビ)	* (アワビ)	採取不能	* (ハマグリ)	<0.8
	比較対照海域	約10 km以遠	* (ハマグリ)	* (ハマグリ)	採取不能	採取不能	<0.8
褐藻類 (ワカメ又は ヒジキ等)	監視対象海域	久慈浜地先	* (ワカメ)	* (ワカメ)	* (アラメ)	採取不能	<0.8
	比較対照海域	磯崎地先	* (ワカメ)	採取不能	採取不能	* (アラメ)	<0.8
	比較対照海域	約10 km以遠	* (アラメ)	* (アラメ)	* (アラメ)	* (アラメ)	<0.8

備考 1) *は、定量下限値(0.8 Bq/kg・生)未滿を示す。

表D-17 海産生物中放射性物質濃度 (3/6)

ハ. ¹³⁴Cs

種類	採取場所		測定値 (Bq/kg・生)				
	区分	場所名	2024年 4月-6月	7月-9月	10月-12月	2025年 1月-3月	2024年度 平均
シラス	監視対象海域	東海村地先	*	*	*	採取不能	<0.2
	比較対照海域	約10 km以遠	*	*	*	採取不能	<0.2
カレイ又は ヒラメ	監視対象海域	東海村地先	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (カレイ)	* (ヒラメ)	<0.2
	比較対照海域	約10 km以遠	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	<0.2
貝類	監視対象海域	久慈浜地先	* (アワビ)	* (アワビ)	採取不能	* (ハマグリ)	<0.2
	比較対照海域	約10 km以遠	* (ハマグリ)	* (ハマグリ)	採取不能	採取不能	<0.2
褐藻類 (ワカメ又は ヒジキ等)	監視対象海域	久慈浜地先	* (ワカメ)	* (ワカメ)	* (アラメ)	採取不能	<0.2
		磯崎地先	* (ワカメ)	採取不能	採取不能	* (アラメ)	<0.2
	比較対照海域	約10 km以遠	* (アラメ)	* (アラメ)	* (アラメ)	* (アラメ)	<0.2

備考 1) *は、定量下限値(0.2 Bq/kg・生)未滿を示す。

表D-17 海産生物中放射性物質濃度 (4/6)

二. ¹³⁷Cs

種類	採取場所		測定値 (Bq/kg・生)				
	区分	場所名	2024年 4月-6月	7月-9月	10月-12月	2025年 1月-3月	2024年度 平均
シラス	監視対象海域	東海村地先	0.057	0.053	0.085	採取不能	0.065
	比較対照海域	約10 km以遠	0.053	0.066	0.064	採取不能	0.061
カレイ又は ヒラメ	監視対象海域	東海村地先	0.23 (ヒラメ)	0.24 (ヒラメ)	0.16 (カレイ)	0.21 (ヒラメ)	0.21
	比較対照海域	約10 km以遠	0.21 (ヒラメ)	0.16 (ヒラメ)	0.22 (ヒラメ)	0.22 (ヒラメ)	0.20
貝類	監視対象海域	久慈浜地先	* (アワビ)	* (アワビ)	採取不能	* (ハマグリ)	<0.04
	比較対照海域	約10 km以遠	* (ハマグリ)	* (ハマグリ)	採取不能	採取不能	<0.04
褐藻類 (ワカメ又は ヒジキ等)	監視対象海域	久慈浜地先	0.042 (ワカメ)	* (ワカメ)	0.081 (アラメ)	採取不能	<0.054
		磯崎地先	* (ワカメ)	採取不能	採取不能	* (アラメ)	<0.04
	比較対照海域	約10 km以遠	0.060 (アラメ)	0.098 (アラメ)	0.080 (アラメ)	0.067 (アラメ)	0.076

備考 1) *は、定量下限値(0.04 Bq/kg・生)未滿を示す。

表D-17 海産生物中放射性物質濃度 (5/6)

ホ. ¹⁴⁴Ce

種類	採取場所		測定値 (Bq/kg・生)				
	区分	場所名	2024年 4月-6月	7月-9月	10月-12月	2025年 1月-3月	2024年度 平均
シラス	監視対象海域	東海村地先	*	*	*	採取不能	<0.8
	比較対照海域	約10 km以遠	*	*	*	採取不能	<0.8
カレイ又は ヒラメ	監視対象海域	東海村地先	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (カレイ)	* (ヒラメ)	<0.8
	比較対照海域	約10 km以遠	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	<0.8
貝類	監視対象海域	久慈浜地先	* (アワビ)	* (アワビ)	採取不能	* (ハマグリ)	<0.8
	比較対照海域	約10 km以遠	* (ハマグリ)	* (ハマグリ)	採取不能	採取不能	<0.8
褐藻類 (ワカメ又は ヒジキ等)	監視対象海域	久慈浜地先	* (ワカメ)	* (ワカメ)	* (アラメ)	採取不能	<0.8
	比較対照海域	磯崎地先 約10 km以遠	* (ワカメ)	採取不能	採取不能	* (アラメ)	<0.8
			* (アラメ)	* (アラメ)	* (アラメ)	* (アラメ)	<0.8

備考 1) *は、定量下限値(0.8 Bq/kg・生)未滿を示す。

表D-17 海産生物中放射性物質濃度 (6/6)

へ、^{239, 240}Pu

種類	採取場所		測定値 (Bq/kg・生)				
	区分	場所名	2024年 4月-6月	7月-9月	10月-12月	2025年 1月-3月	2024年度 平均
シラス	監視対象海域	東海村地先	*	*	*	採取不能	<0.002
	比較対照海域	約10 km以遠	*	*	*	採取不能	<0.002
カレイ又は ヒラメ	監視対象海域	東海村地先	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (カレイ)	* (ヒラメ)	<0.002
	比較対照海域	約10 km以遠	0.0021 ²⁾ (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	* (ヒラメ)	<0.0020
貝類	監視対象海域	久慈浜地先	* (アワビ)	0.0025 (アワビ)	採取不能	* (ハマグリ)	<0.0022
	比較対照海域	約10 km以遠	* (ハマグリ)	* (ハマグリ)	採取不能	採取不能	<0.002
褐藻類 (ワカメ又は ヒジキ等)	監視対象海域	久慈浜地先	* (ワカメ)	0.0031 (ワカメ)	0.0032 (アラム)	採取不能	<0.0028
		磯崎地先	* (ワカメ)	採取不能	採取不能	* (アラム)	<0.002
	比較対照海域	約10 km以遠	* (アラム)	* (アラム)	* (アラム)	* (アラム)	<0.002

備考 1) *は、定量下限値(0.002 Bq/kg・生)未満を示す。

2) 約10 km以遠のヒラメの^{239, 240}Pu濃度については、^{239, 240}Puの環境変動により、平常の変動幅の上限値を超過した。

表D-18 漁網表面線量

漁網の種類	測定項目	測定値			
		第1 四半期 (23 h)	第2 四半期 (22 h)	第3 四半期 (12 h)	第4 四半期 (11 h)
モニタリング船 曳航の漁網	β線吸収線量率 (nGy/h)	*	*	*	*
	γ線表面線量率 (nGy/h)	*	*	*	*

備考 1) 各四半期及び2024年度平均の下の()内は曳航時間を示す。
 2) β線吸収線量率は、プラスチックシンチレーション検出器による測定値。
 3) γ線表面線量率は、NaI (Tl)シンチレーション検出器による測定値。
 4) *は、定量下限値 (β線吸収線量率：30 nGy/h、γ線表面線量率：10 nGy/h) 未満を示す。

表D-19 船体表面線量

船体の種類	測定項目	測定値			
		第1 四半期 (3. 29-6. 28)	第2 四半期 (6. 28-9. 30)	第3 四半期 (10. 1-12. 27)	第4 四半期 (12. 27-3. 31)
モニタリング船 甲板	β線吸収線量率 (nGy/h)	*	*	*	*
	γ線表面線量率 (nGy/h)	*	*	*	*

備考 1) 各四半期下の()内は設置期間を示す。
 2) β線吸収線量率は、プラスチックシンチレーション検出器による測定値。
 3) γ線表面線量率は、NaI (Tl)シンチレーション検出器による測定値。
 4) *は、定量下限値 (β線吸収線量率：30 nGy/h、γ線表面線量率：10 nGy/h) 未満を示す。

2. 測定値経時変化図

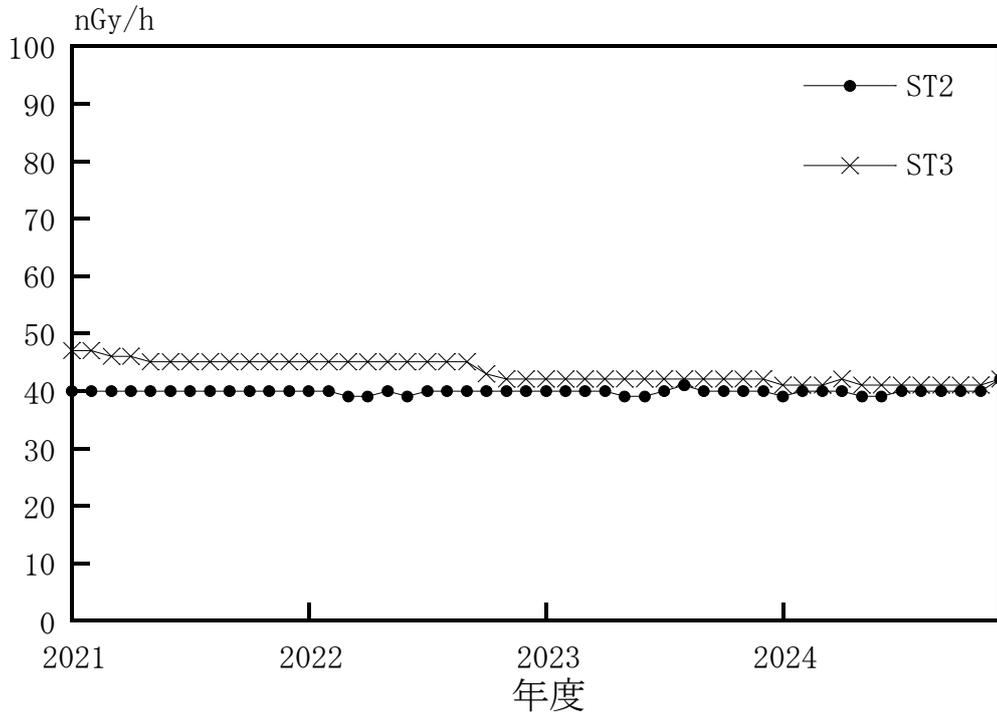
This is a blank page.

測定値経時変化図

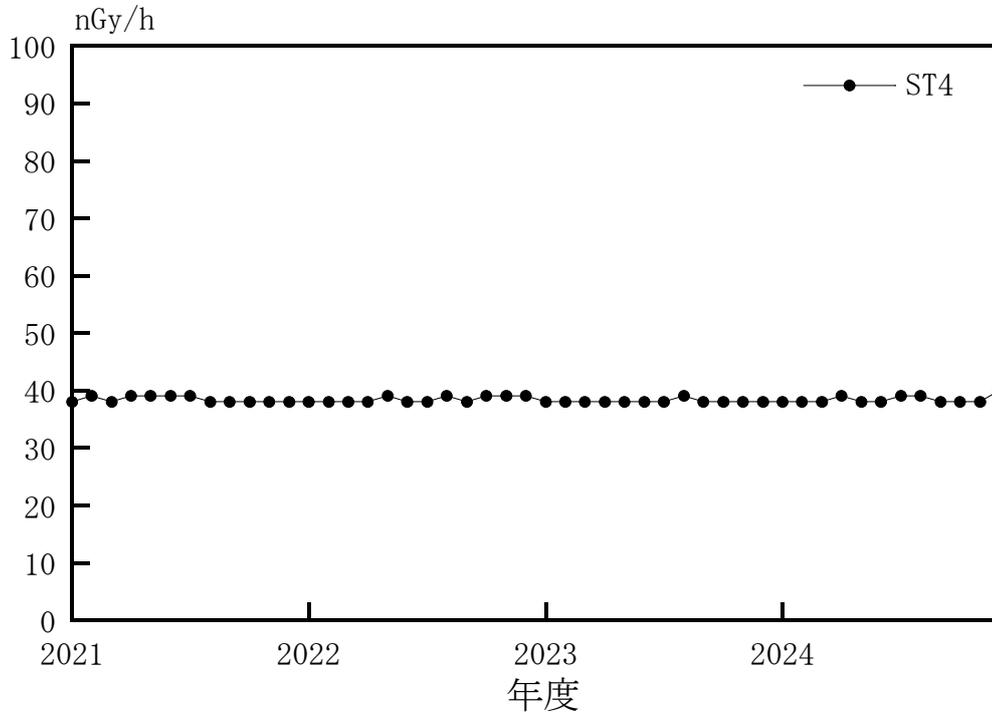
目 次

図 D-1	空間放射線（線量率）	80
図 D-2	空間放射線（積算線量）	82
図 D-3	空气中放射性物質濃度	85
図 D-4	雨水中放射性物質濃度	93
図 D-5	降下じん中放射性物質濃度	93
図 D-6	飲料水中放射性物質濃度	94
図 D-7	葉菜中放射性物質濃度	96
図 D-8	精米中放射性物質濃度	98
図 D-9	牛乳中放射性物質濃度	99
図 D-10	表土中放射性物質濃度	100
図 D-11	河川水中放射性物質濃度	103
図 D-12	河底土中放射性物質濃度	104
図 D-13	海水中放射性物質濃度	105
図 D-14	海底土中放射性物質濃度	110
図 D-15	海岸水中放射性物質濃度	116
図 D-16	海岸砂表面線量	120
図 D-17	海産生物中放射性物質濃度	121
図 D-18	漁網表面線量	133
図 D-19	船体表面線量	134

イ. 周辺監視区域外
 (1) 監視対象区域

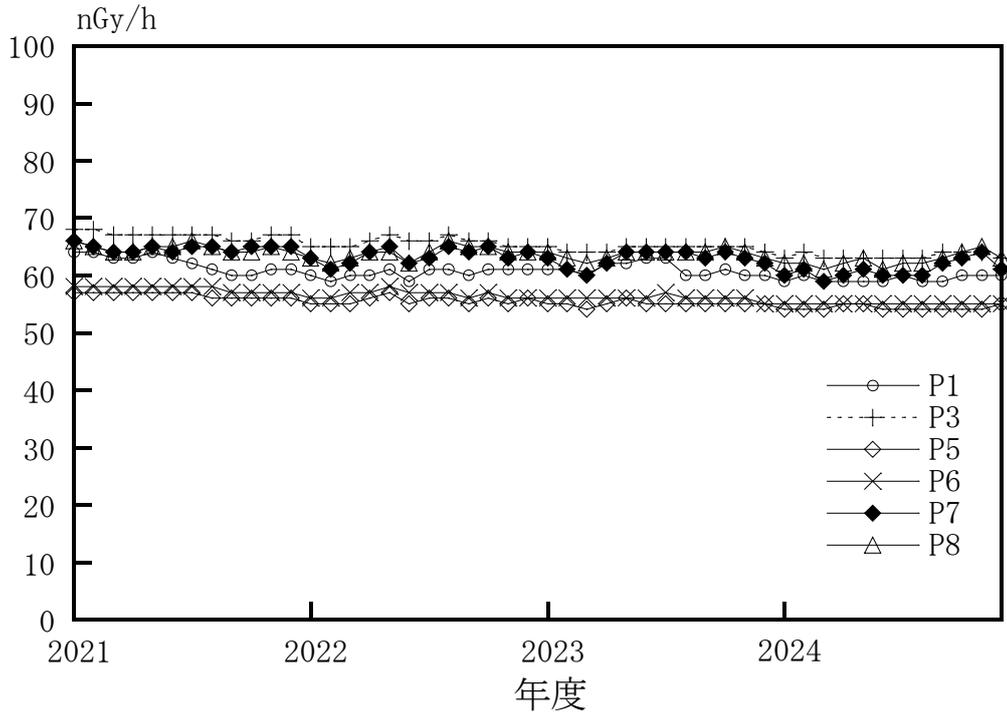


(2) 比較対照区域

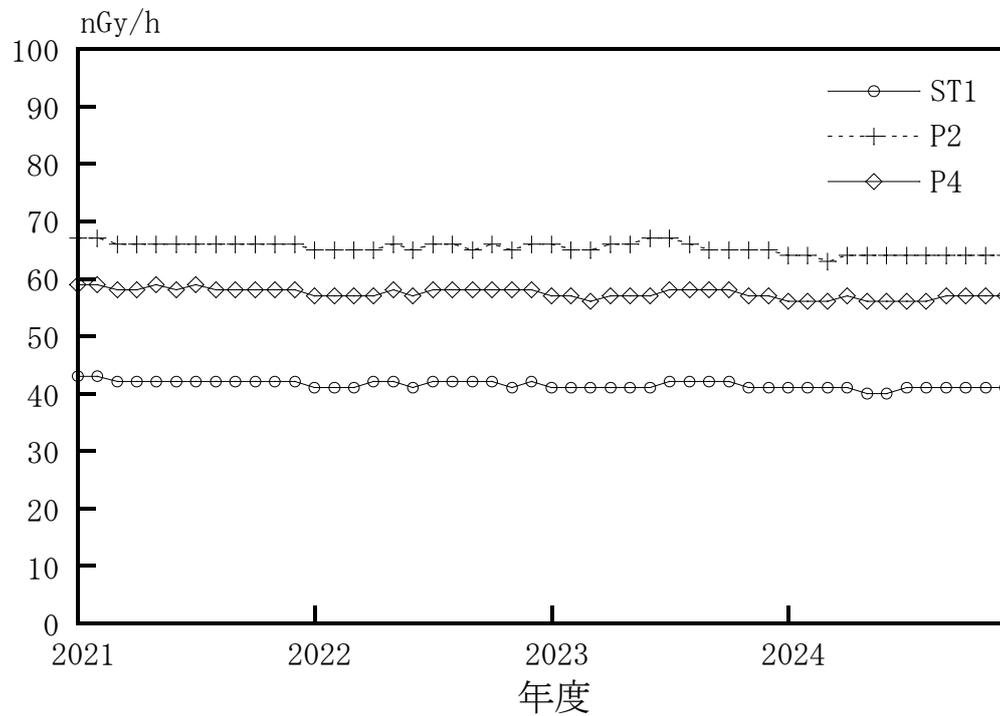


図D-1 空間放射線（線量率） (1/2)

ロ. 周辺監視区域境界



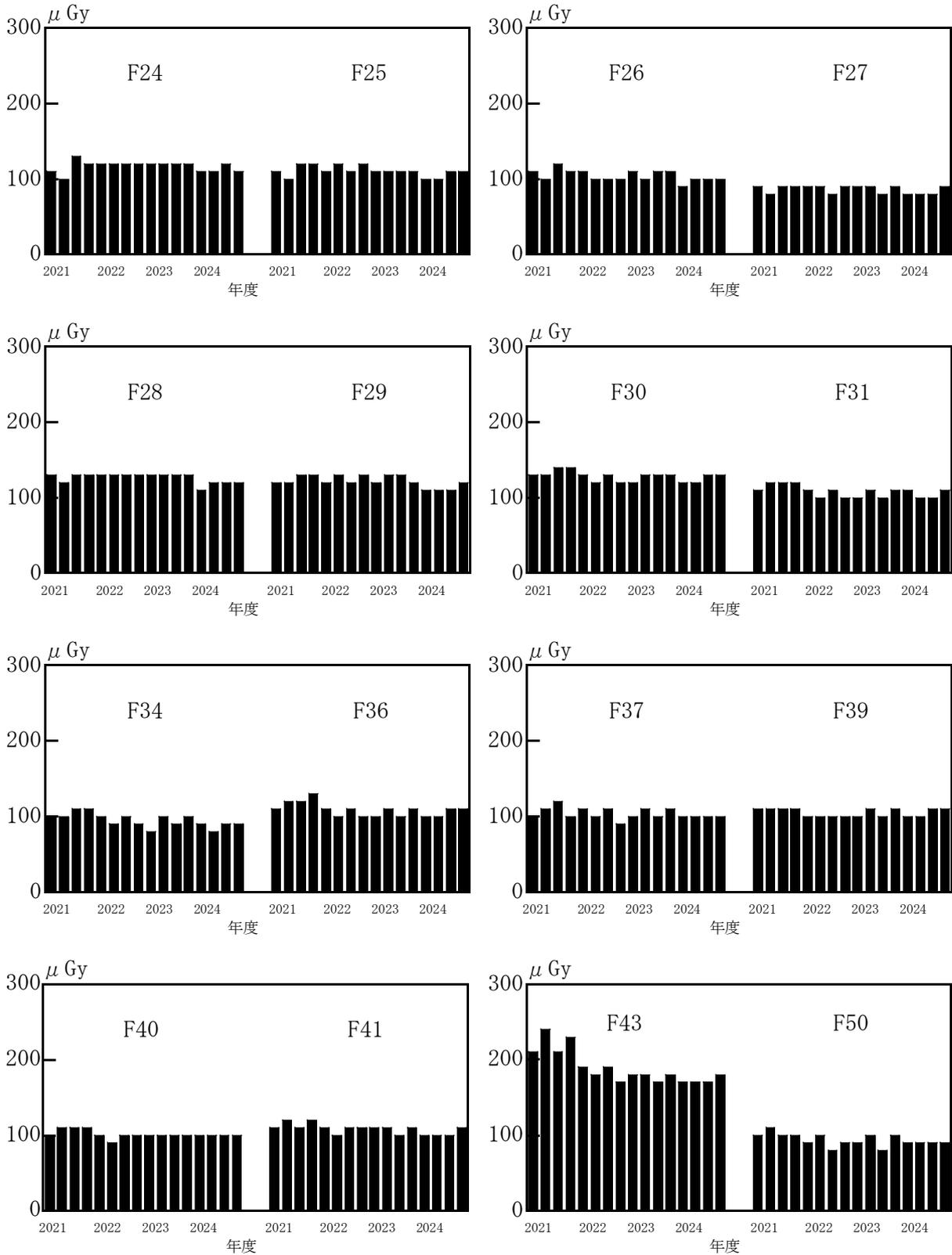
ハ. 周辺監視区域内



図D-1 空間放射線（線量率）（2/2）

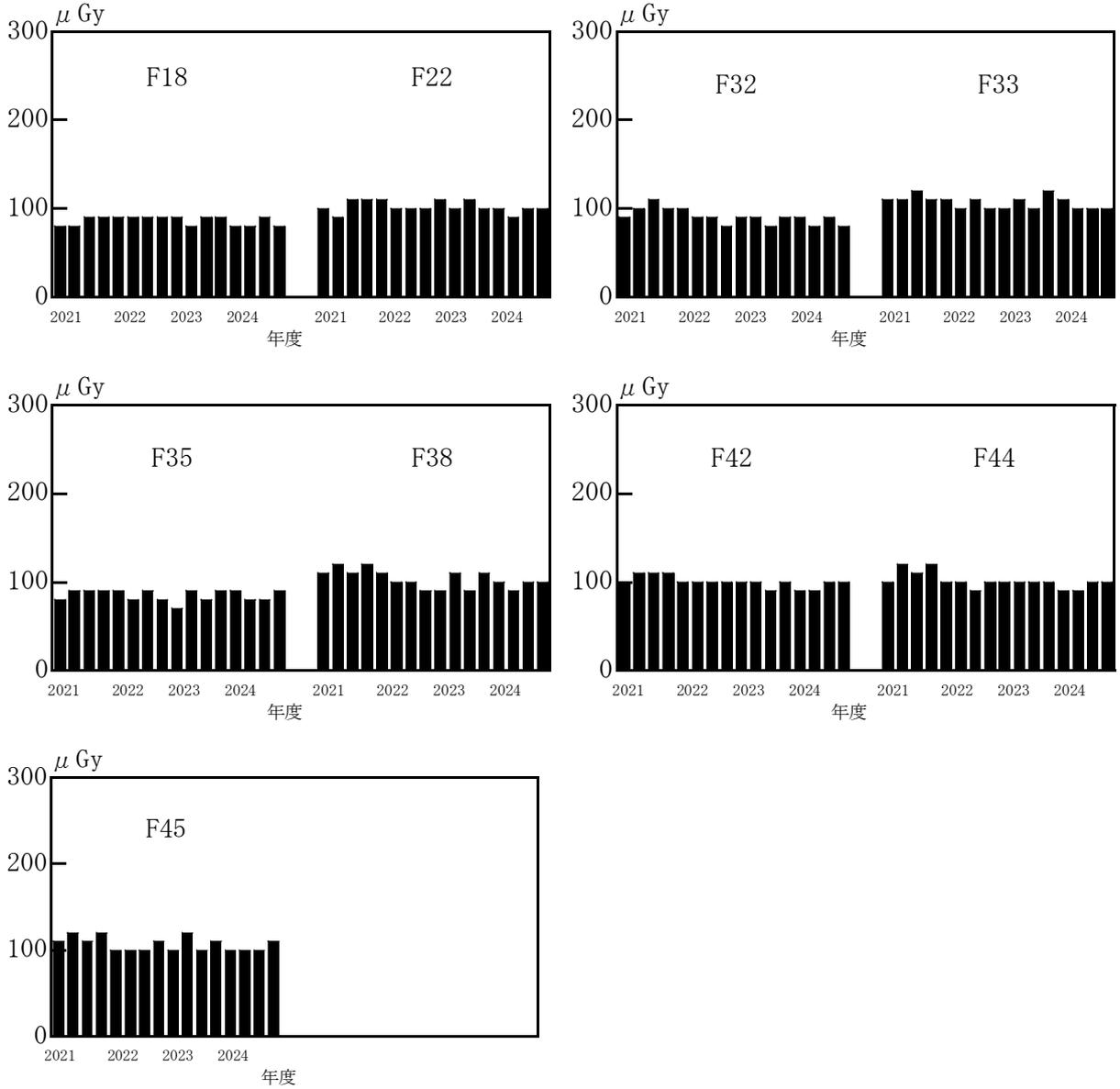
イ. 周辺監視区域外

(1) 監視対象区域



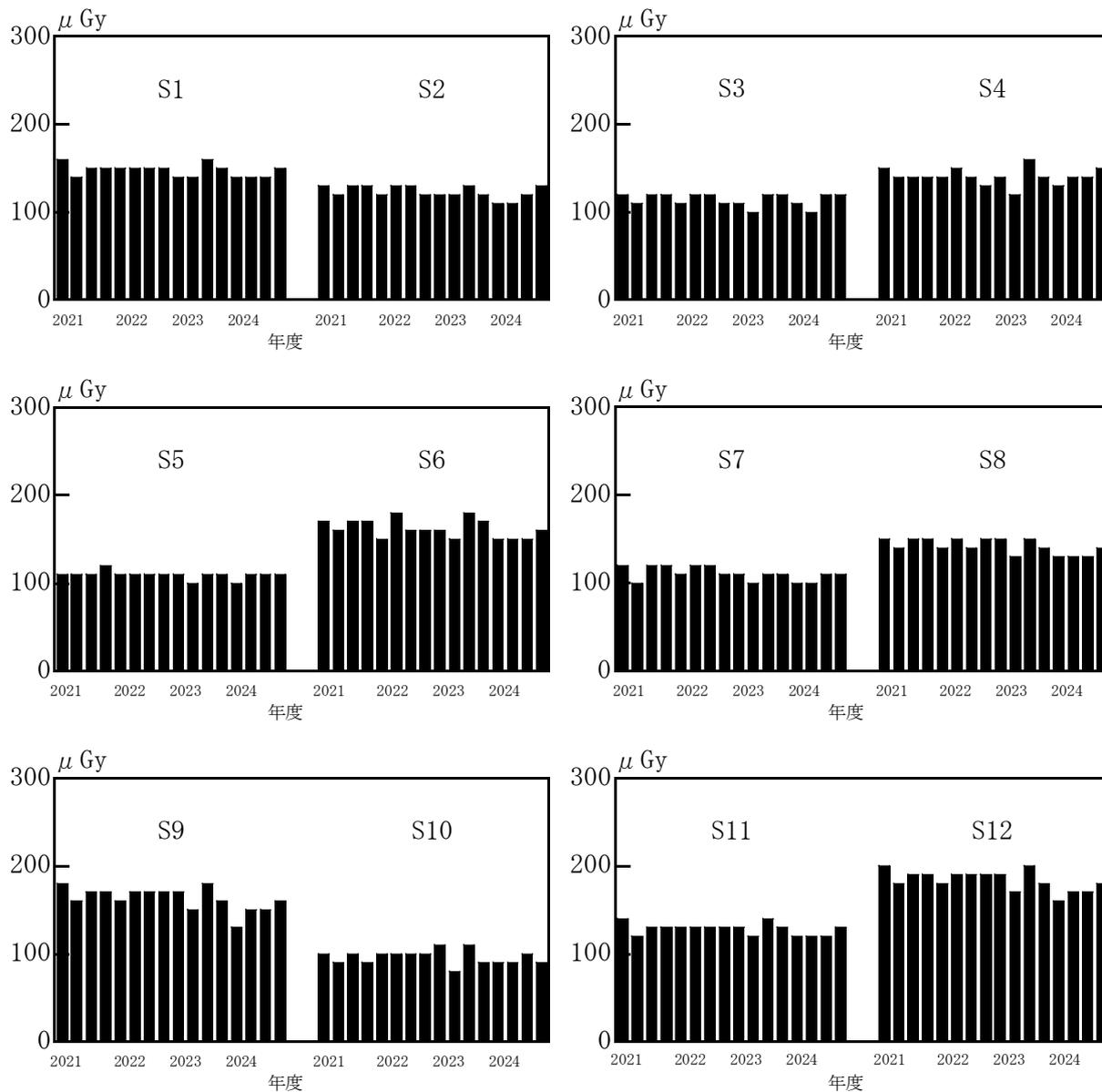
図D-2 空間放射線（積算線量）（1/3）

(2) 比較対照区域

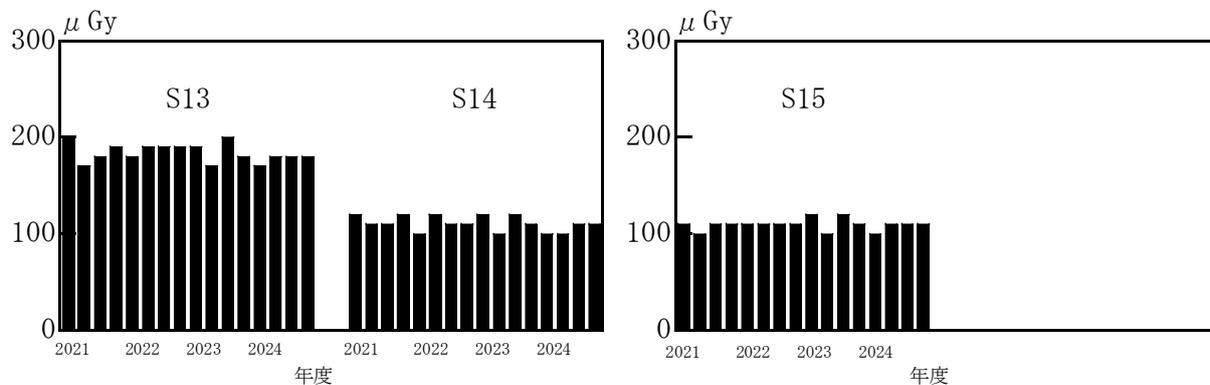


図D-2 空間放射線（積算線量）（2/3）

ロ. 周辺監視区域境界



ハ. 周辺監視区域内



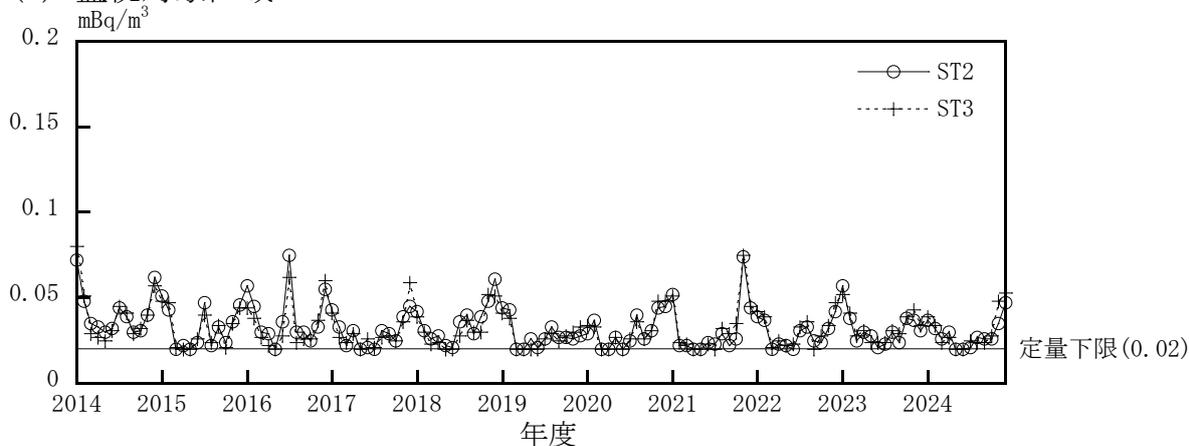
図D-2 空間放射線 (積算線量) (3/3)

イ. 浮遊じん

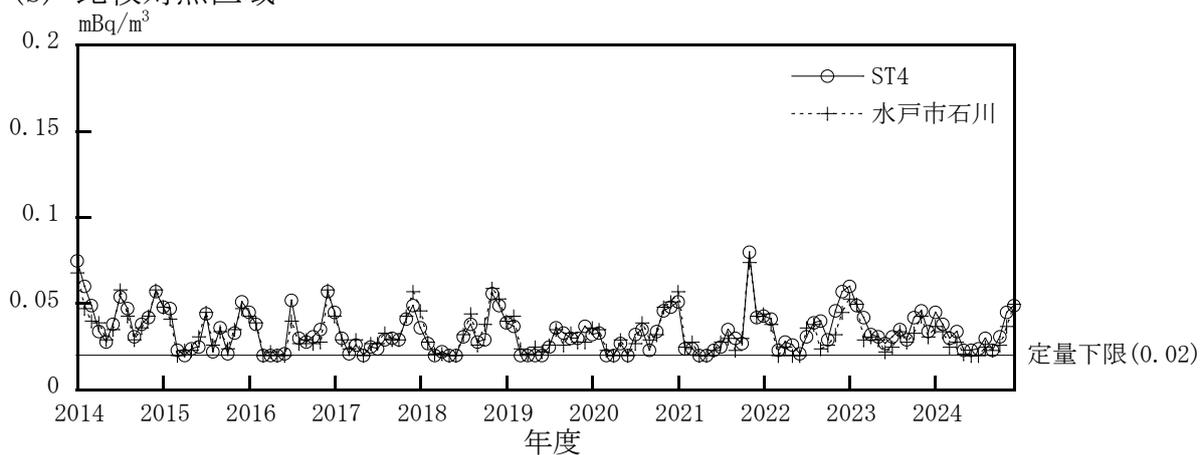
(1) 全α放射能

(i) 周辺監視区域外

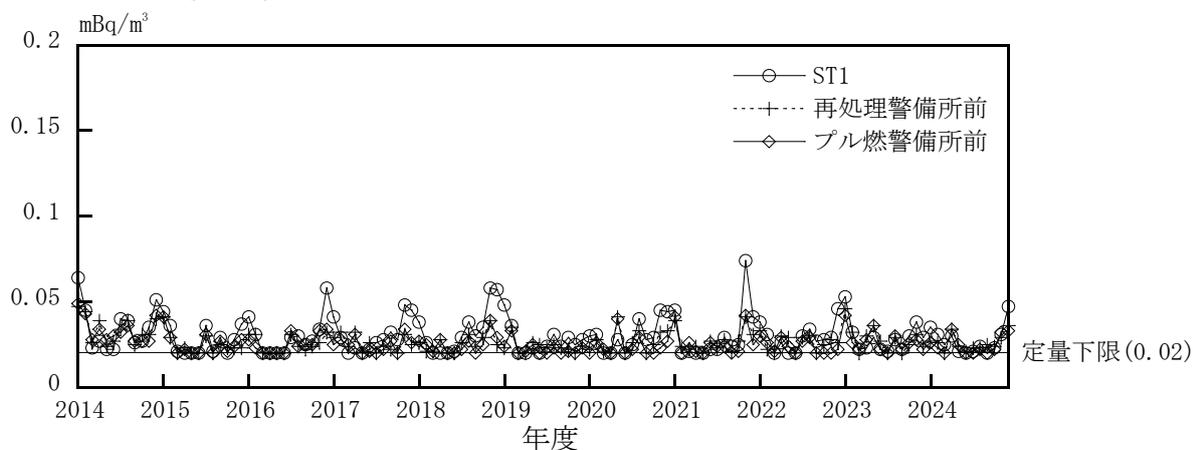
(a) 監視対象区域



(b) 比較対照区域



(ii) 周辺監視区域内



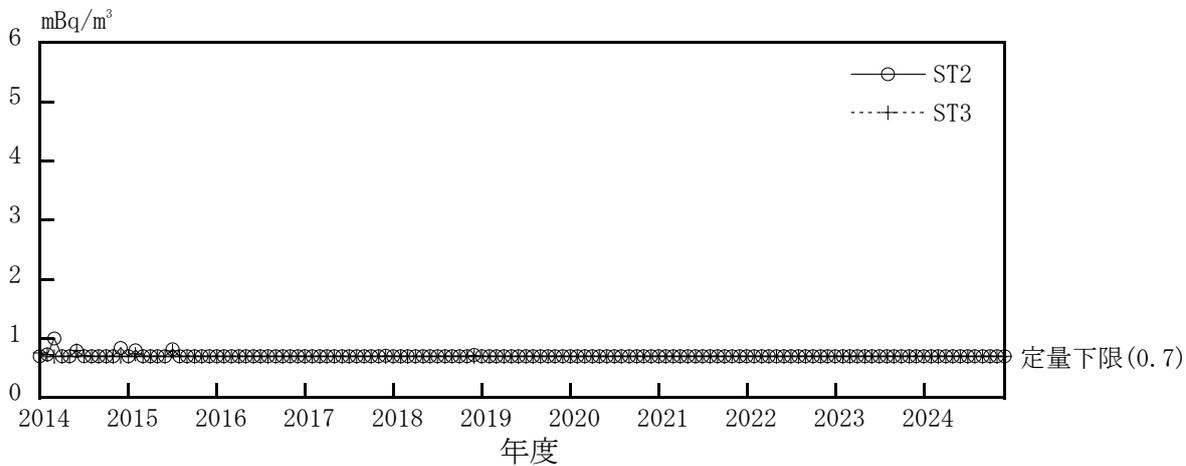
図D-3 空气中放射性物質濃度 (1/8)

イ. 浮遊じん

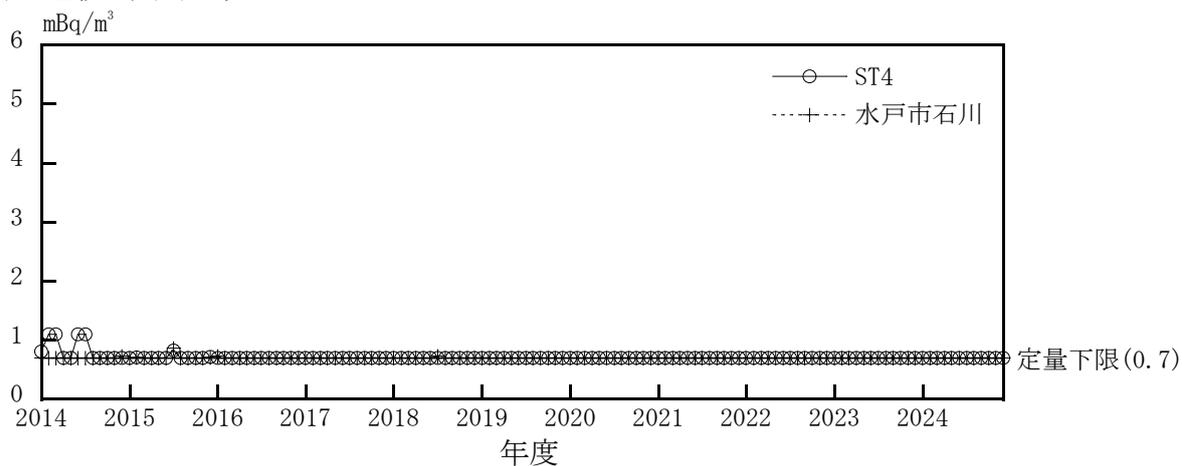
(2) 全β放射能

(i) 周辺監視区域外

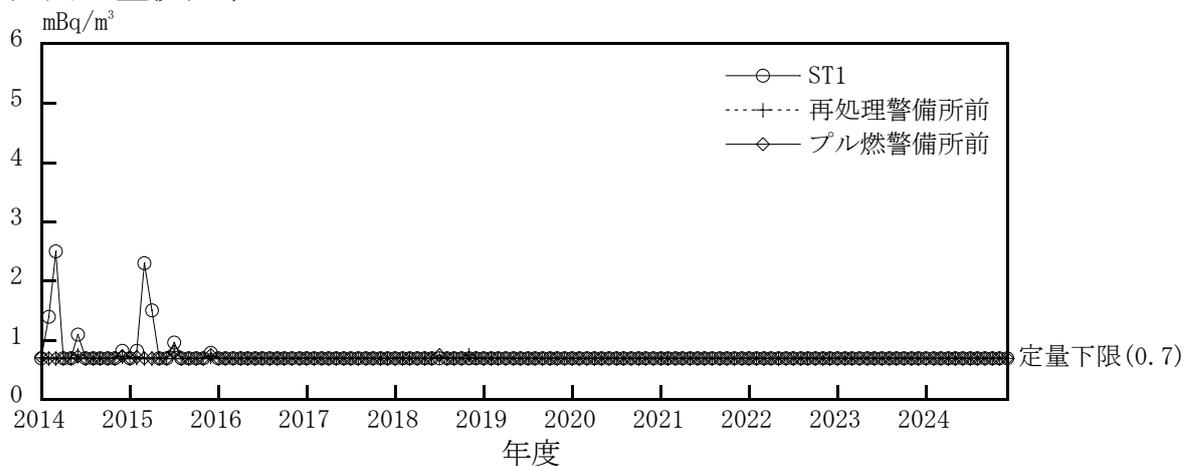
(a) 監視対象区域



(b) 比較対照区域



(ii) 周辺監視区域内



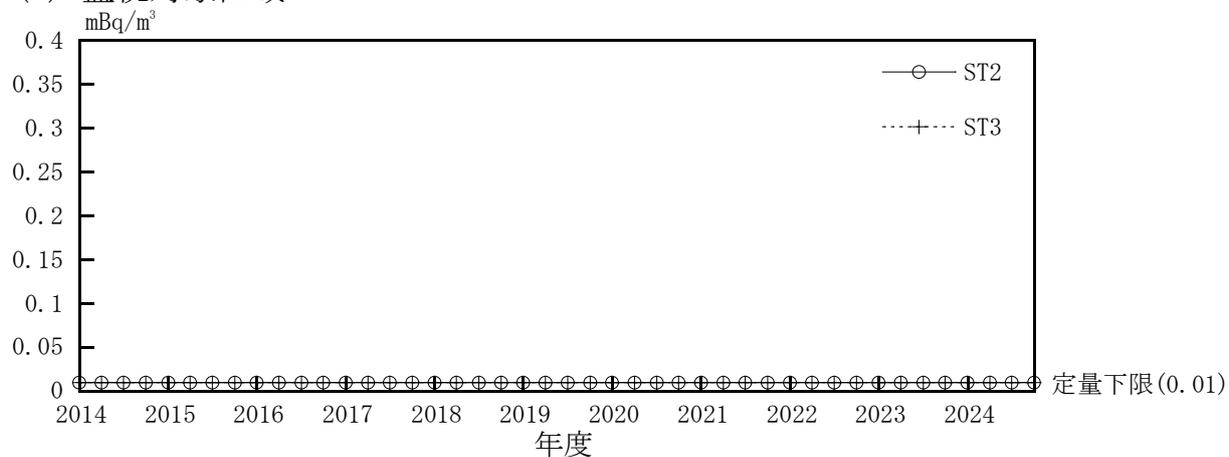
図D-3 空気放射性物質濃度 (2/8)

イ. 浮遊じん

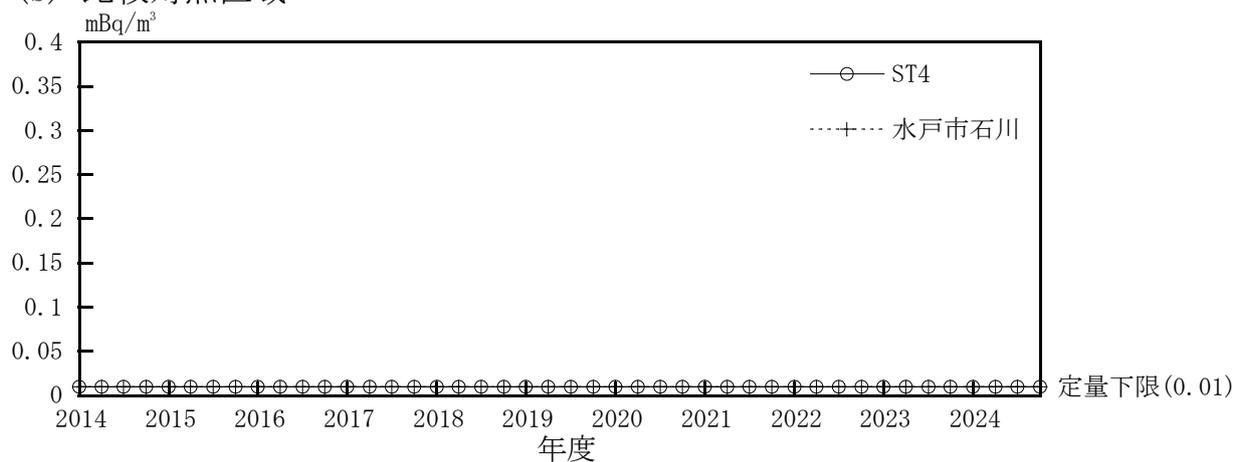
(3) ^{90}Sr

(i) 周辺監視区域外

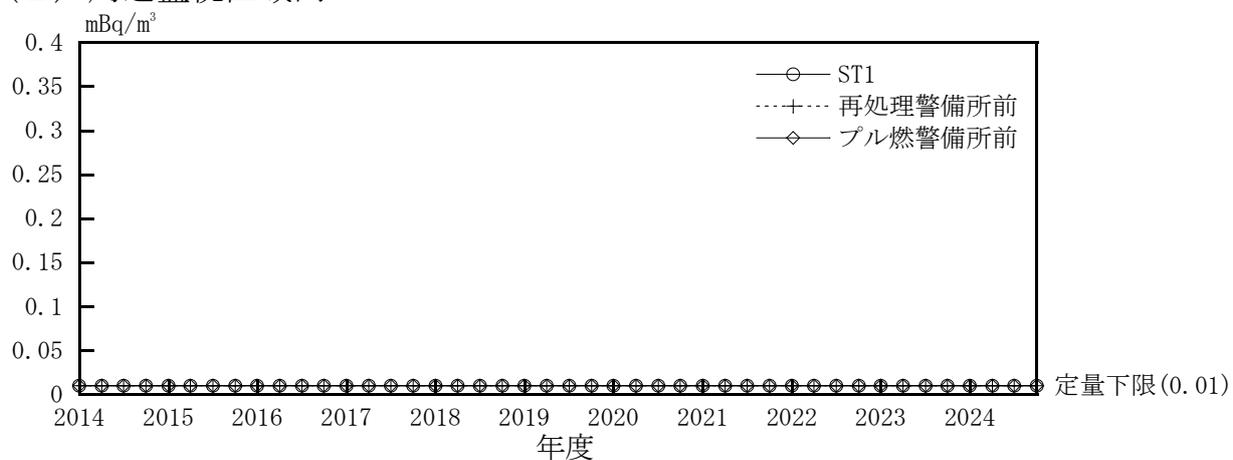
(a) 監視対象区域



(b) 比較対照区域



(ii) 周辺監視区域内



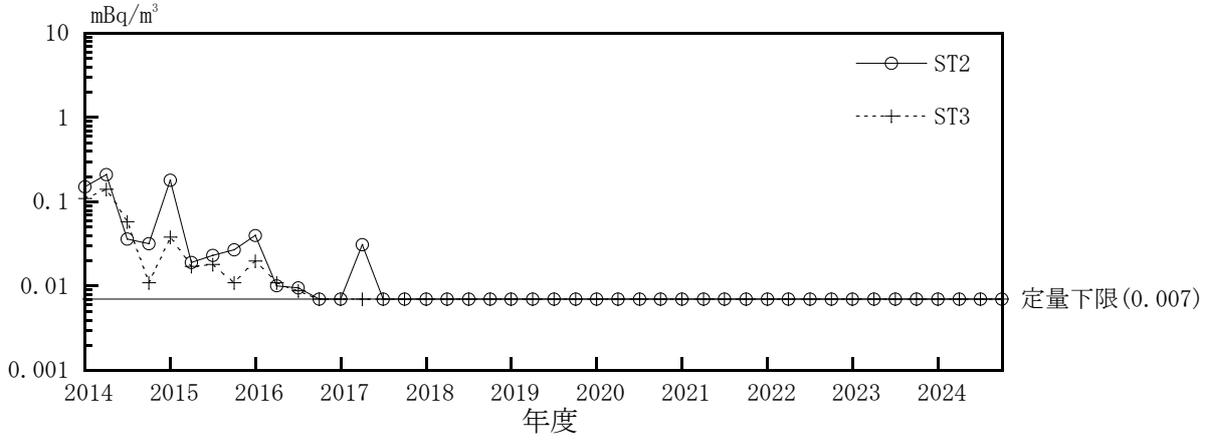
図D-3 空气中放射性物質濃度 (3/8)

イ. 浮遊じん

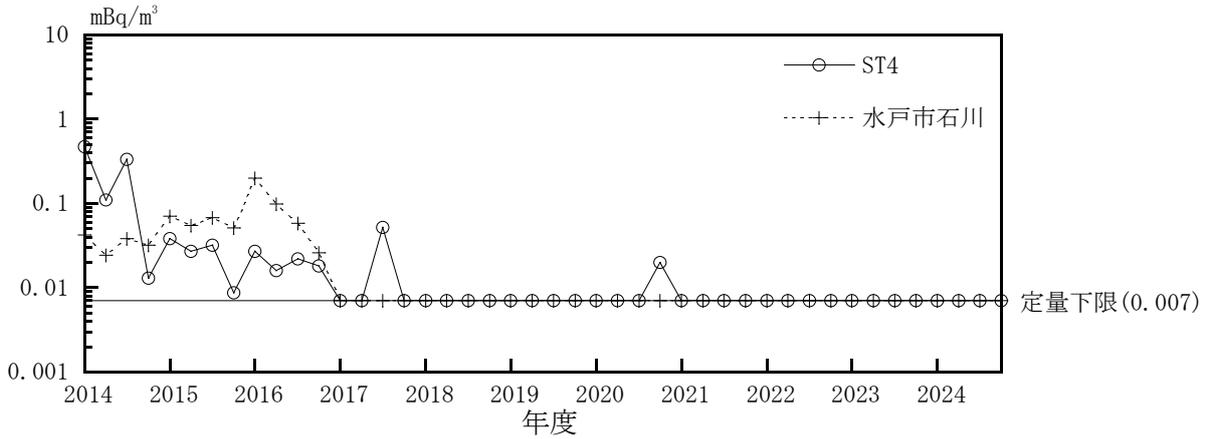
(4) ^{137}Cs

(i) 周辺監視区域外

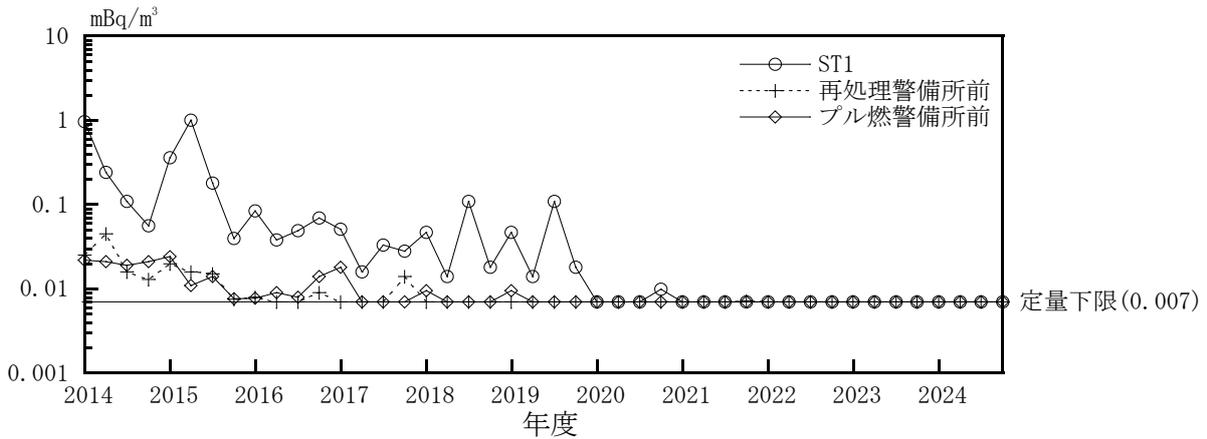
(a) 監視対象区域



(b) 比較対照区域



(ii) 周辺監視区域内



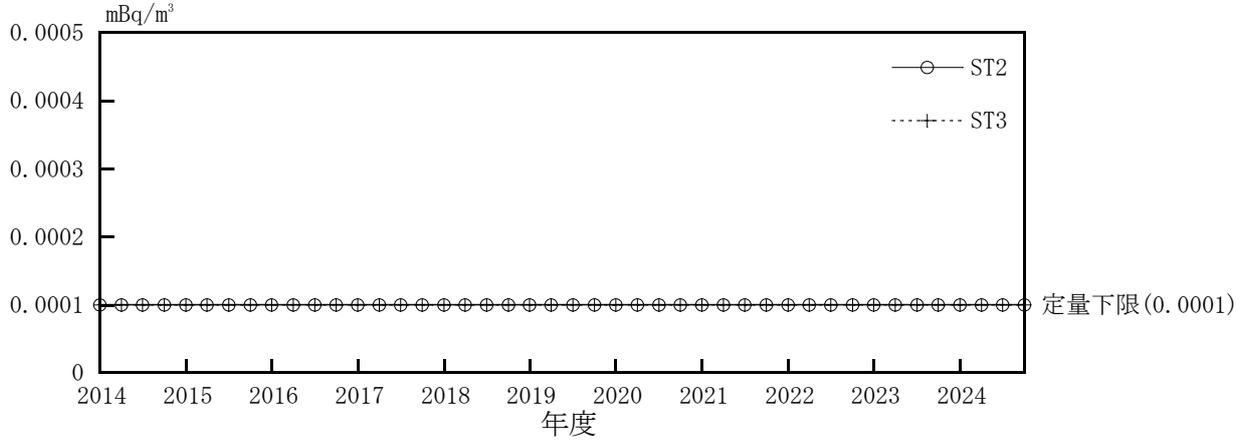
図D-3 空气中放射性物質濃度 (4/8)

イ. 浮遊じん

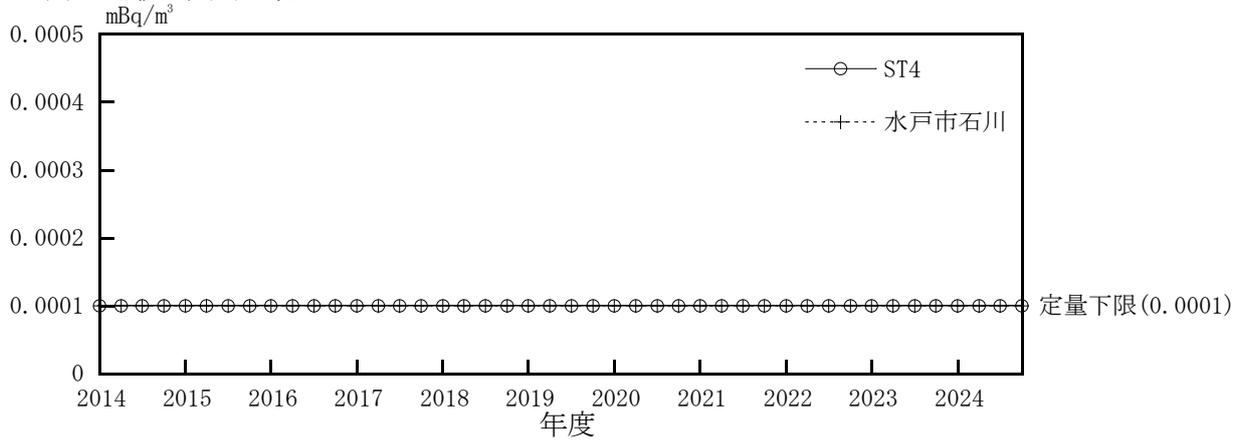
(5) $^{239,240}\text{Pu}$

(i) 周辺監視区域外

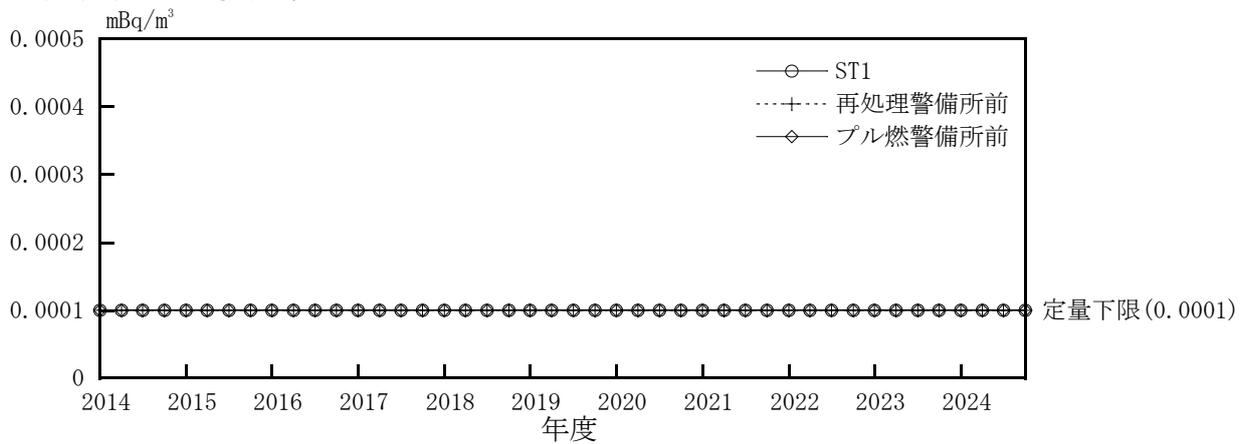
(a) 監視対象区域



(b) 比較対照区域



(ii) 周辺監視区域内

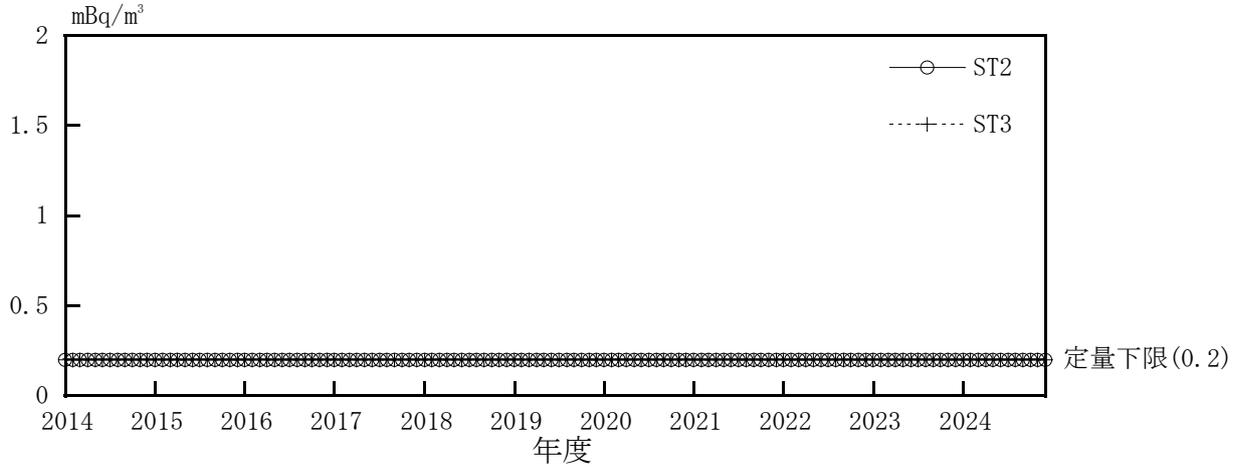


図D-3 空气中放射性物質濃度 (5/8)

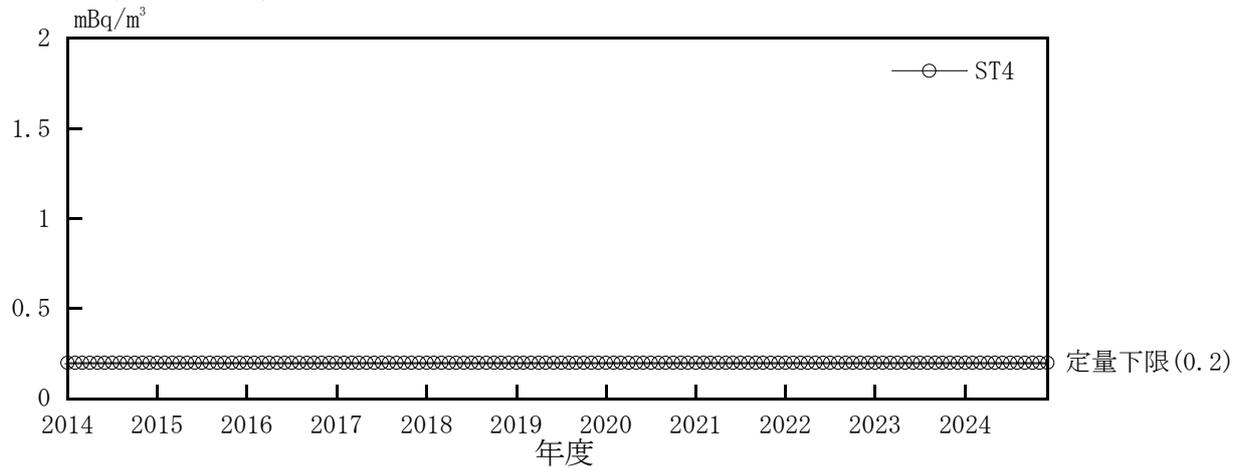
ロ. ^{131}I

(1) 周辺監視区域外

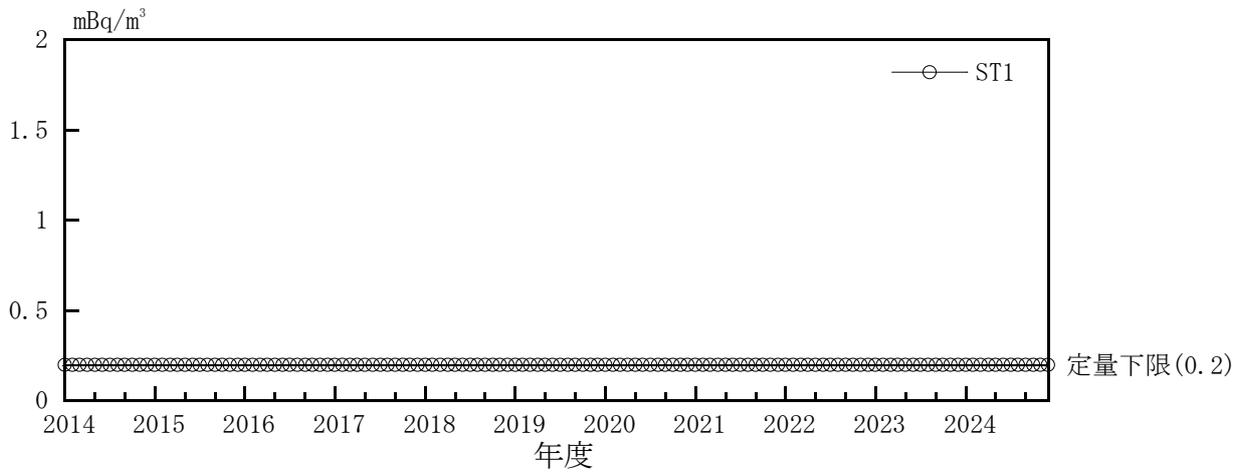
(i) 監視対象区域



(ii) 比較対照区域



(2) 周辺監視区域内

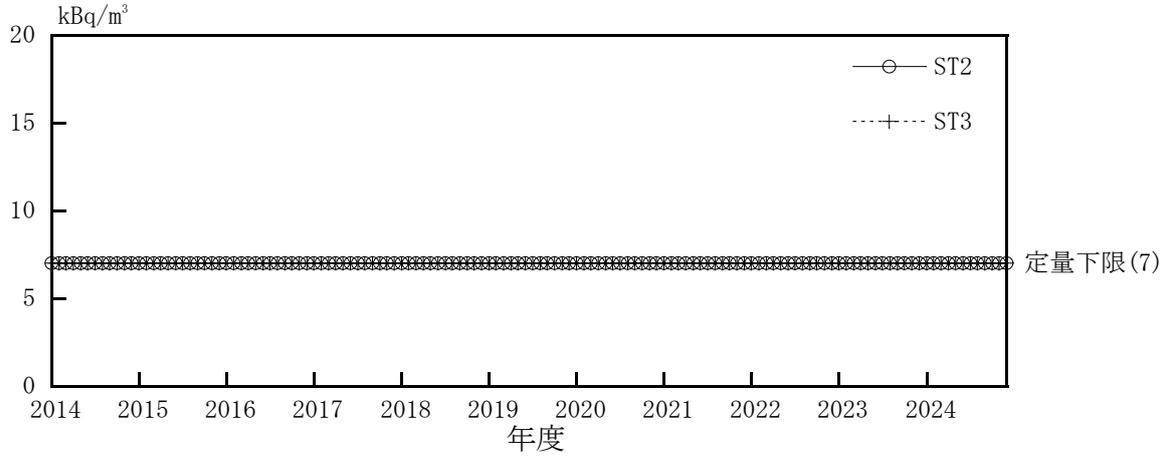


図D-3 空气中放射性物質濃度 (6/8)

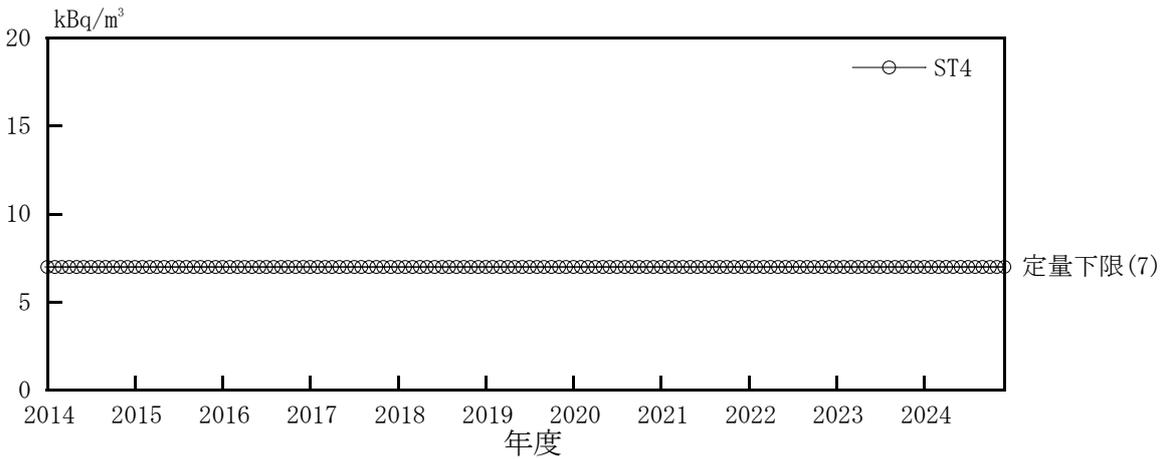
ハ. 気体状β放射能濃度

(1) 周辺監視区域外

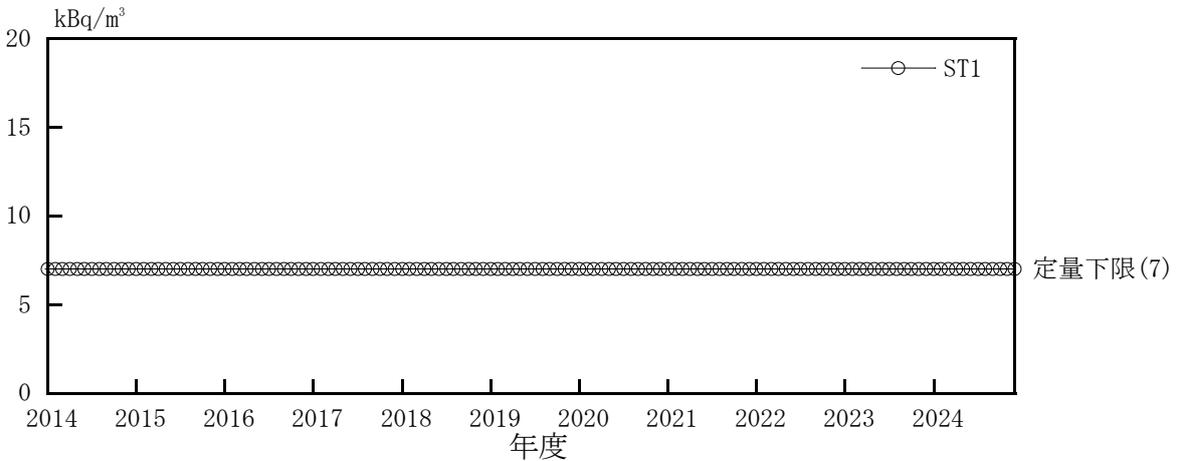
(i) 監視対象区域



(ii) 比較対照区域



(2) 周辺監視区域内

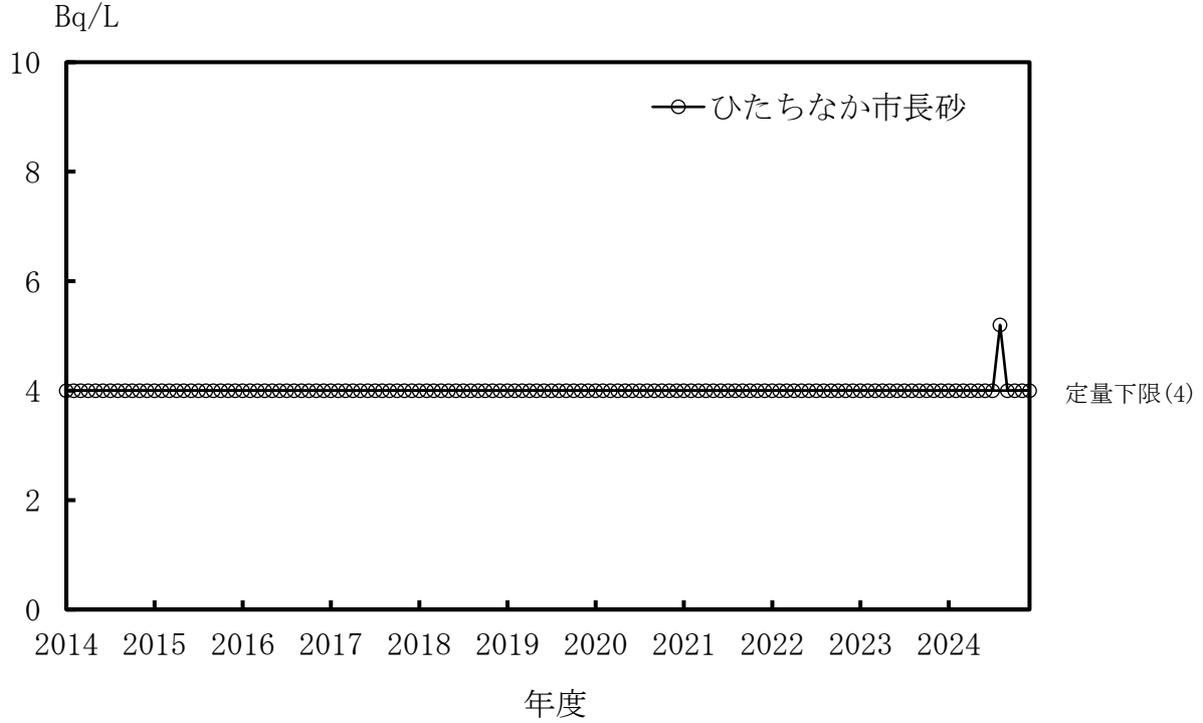


図D-3 空气中放射性物質濃度 (7/8)

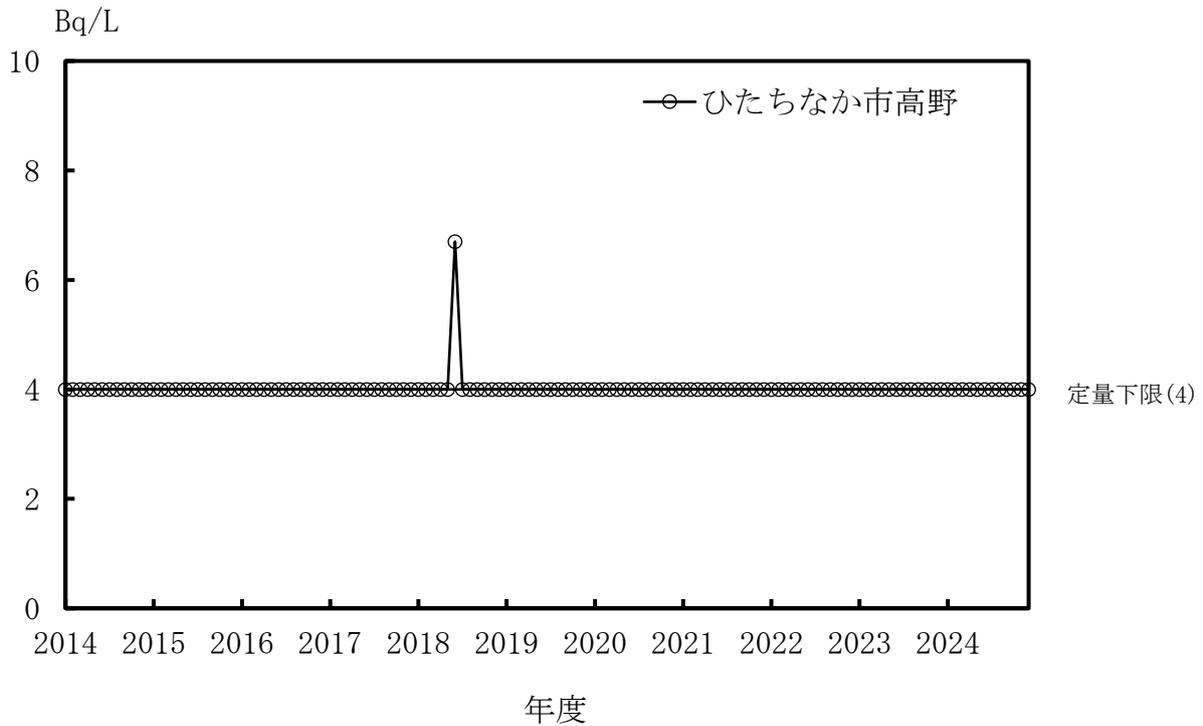
二. 水分中³H

(1) 周辺監視区域外

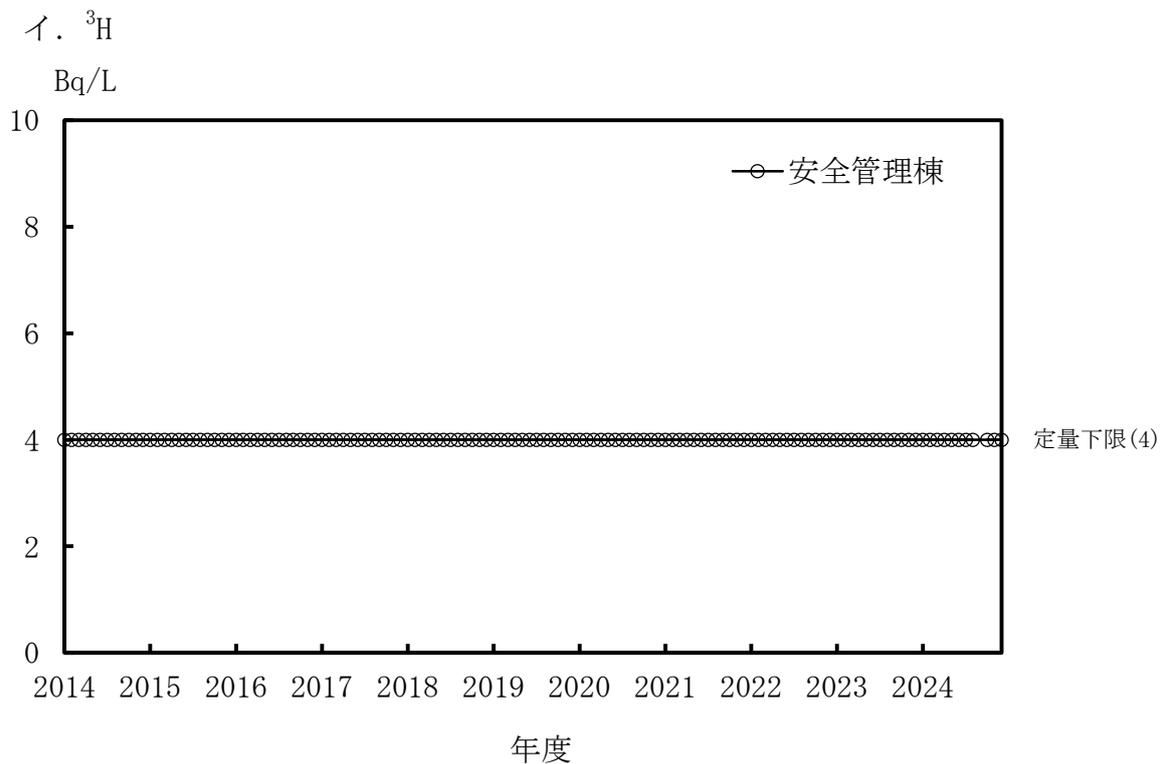
(i) 監視対象区域



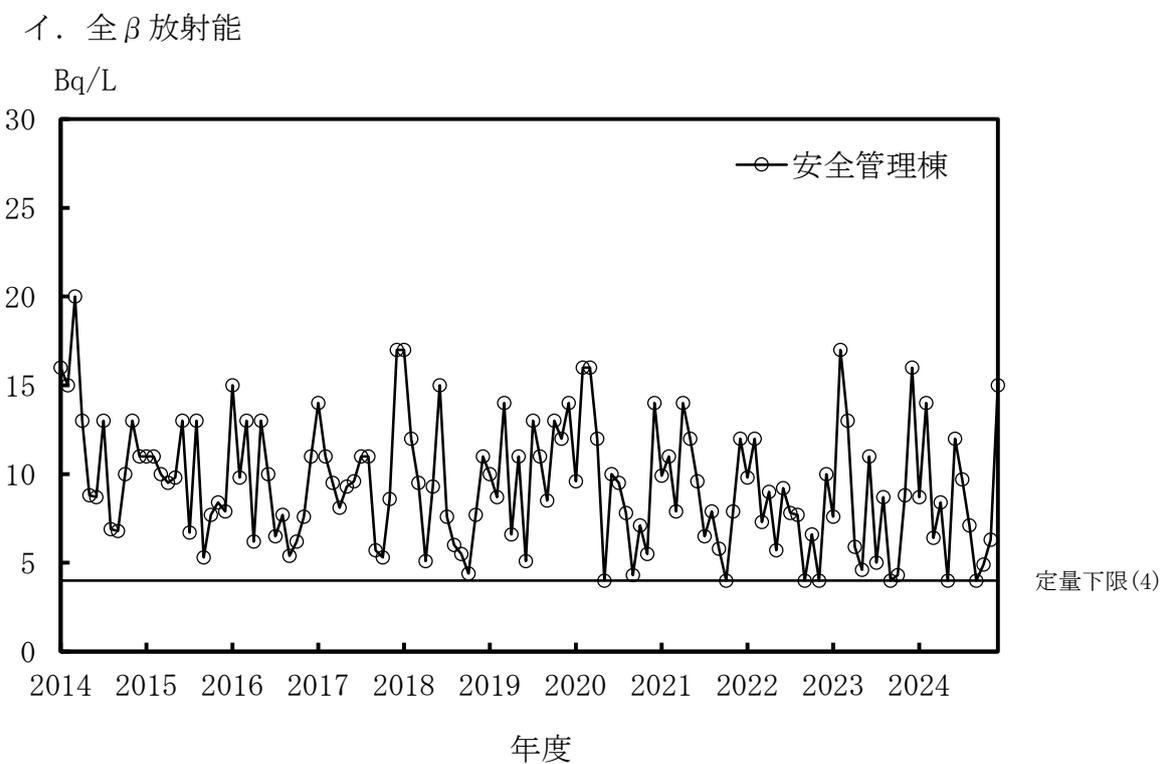
(ii) 比較対照区域



図D-3 空气中放射性物質濃度 (8/8)



図D-4 雨水中放射性物質濃度

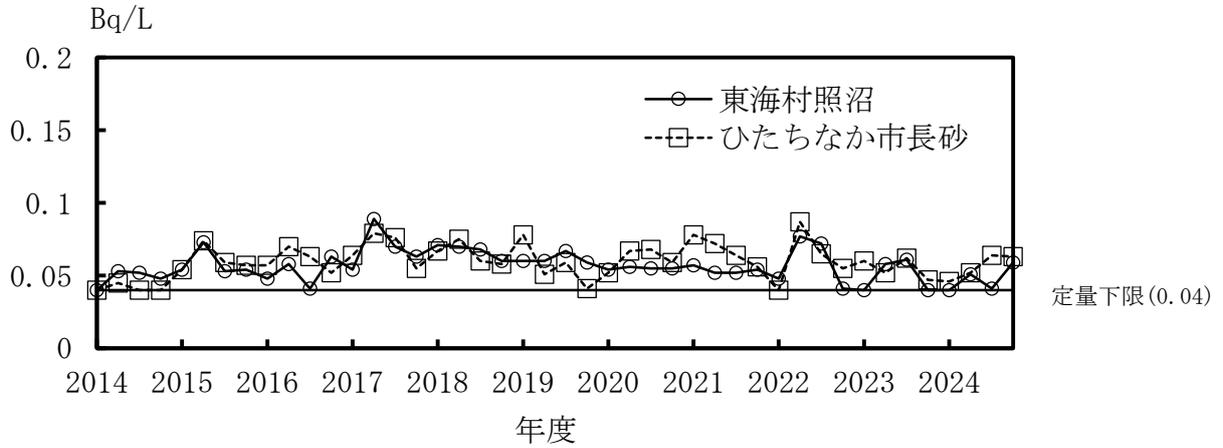


図D-5 降下じん中放射性物質濃度

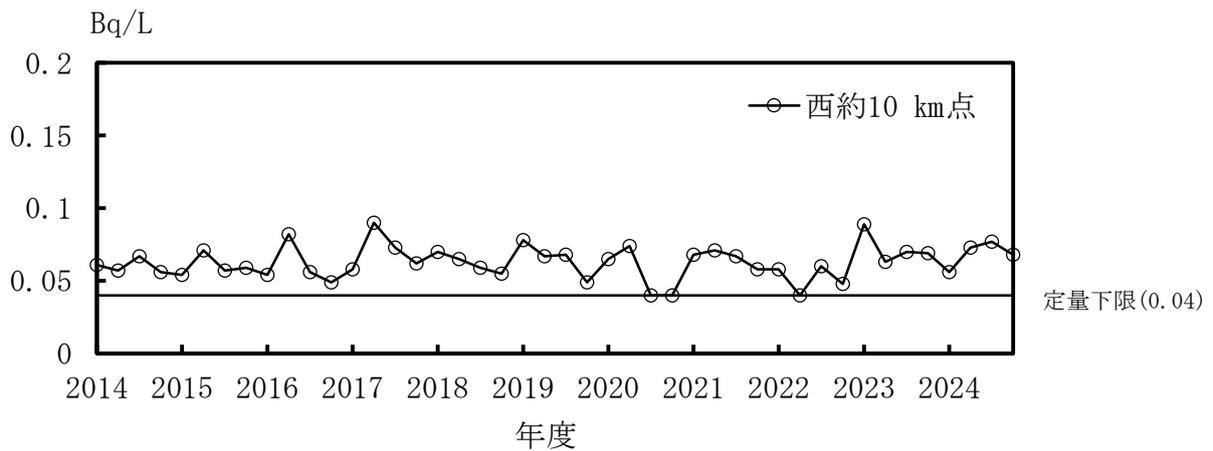
イ. 全β放射能

(1) 周辺監視区域外

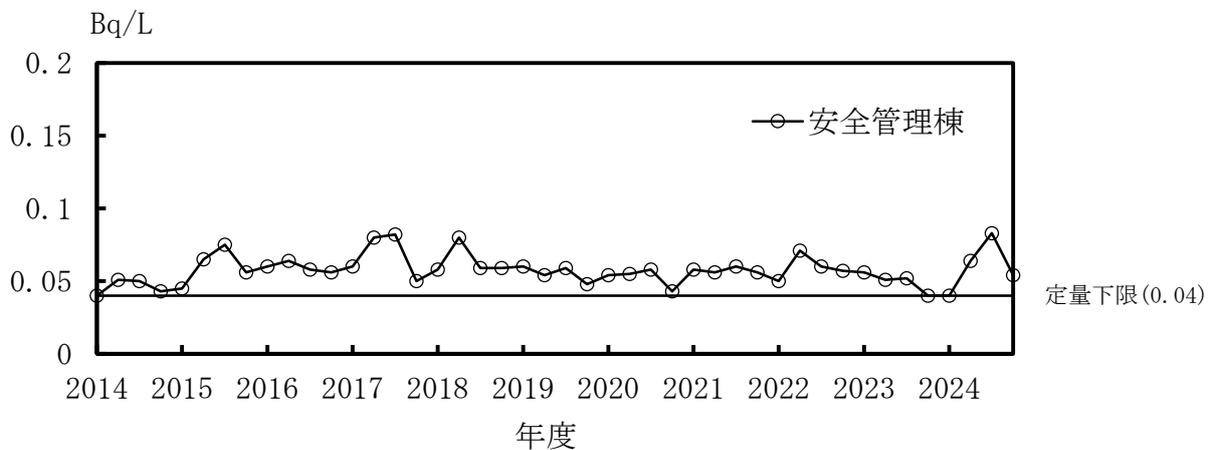
(i) 監視対象区域



(ii) 比較対照区域



(2) 周辺監視区域内

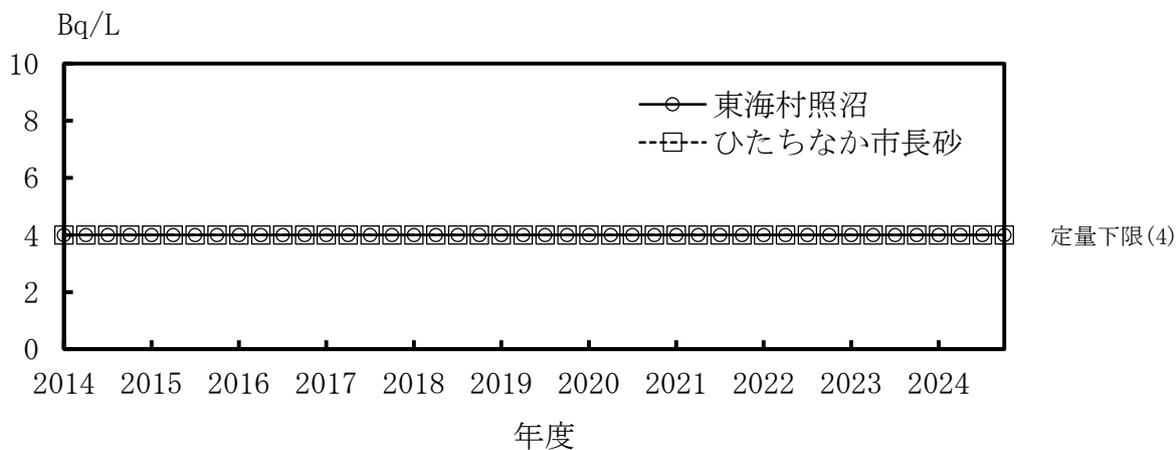


図D-6 飲料水中放射性物質濃度 (1/2)

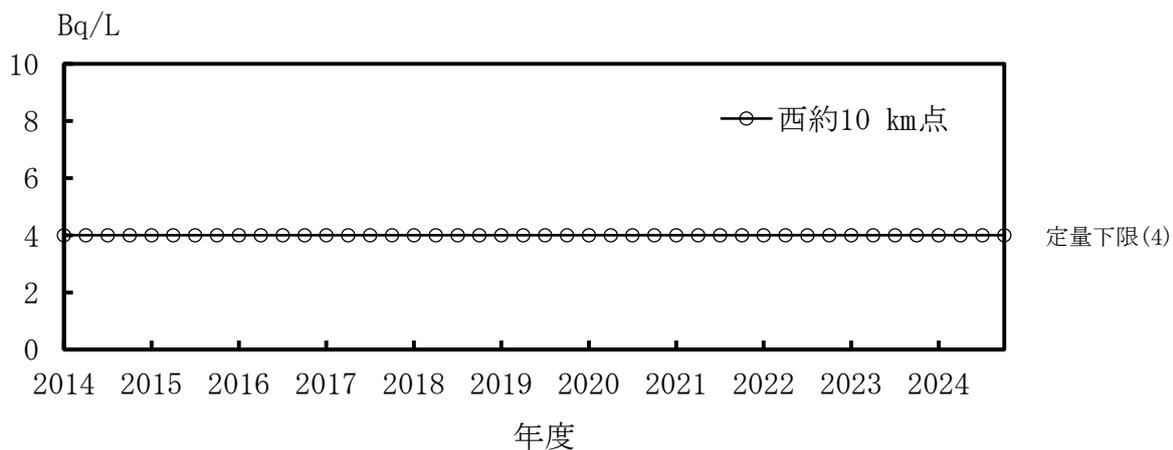
ロ. ^3H

(1) 周辺監視区域外

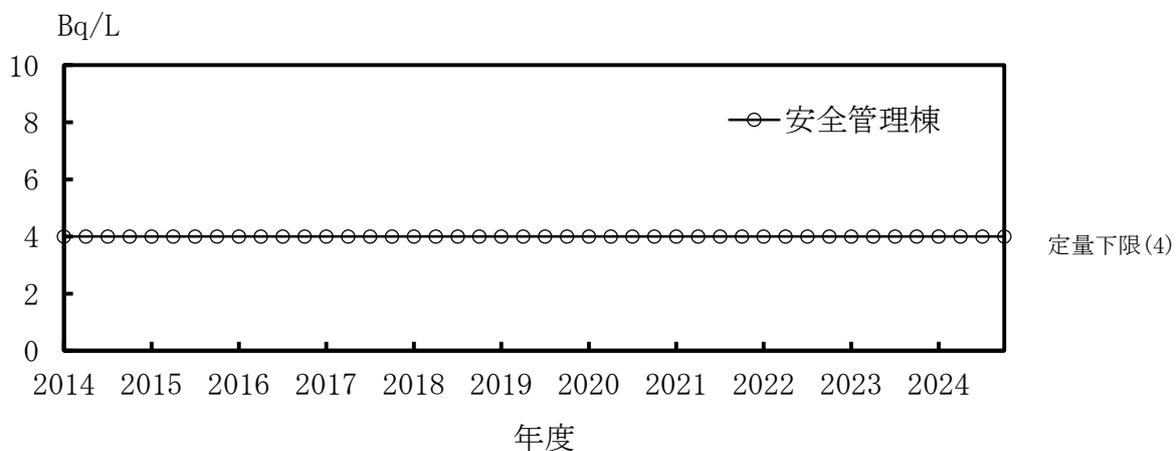
(i) 監視対象区域



(ii) 比較対照区域



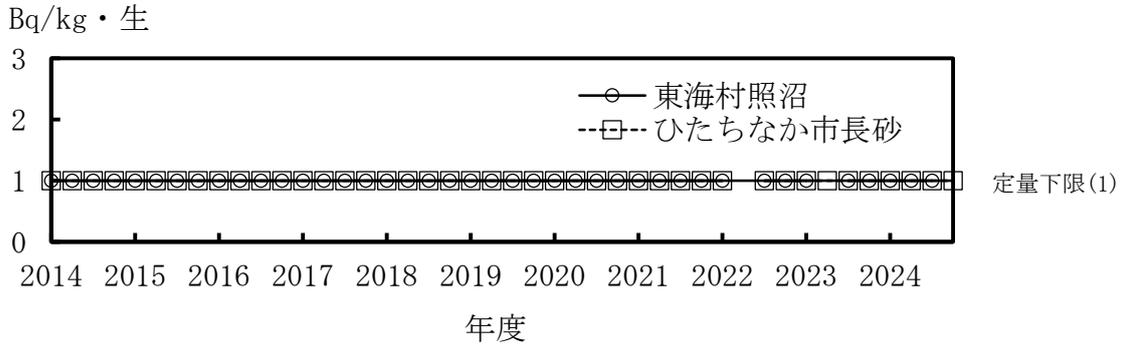
(2) 周辺監視区域内



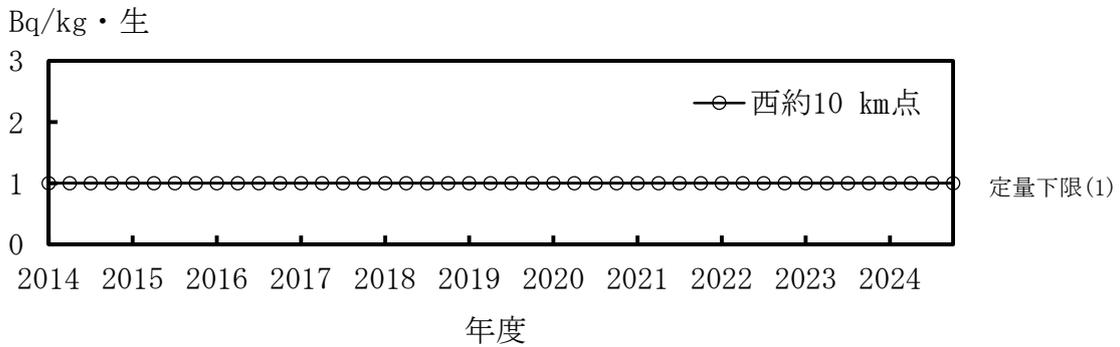
図D-6 飲料水中放射性物質濃度 (2/2)

イ. ^{131}I

(1) 監視対象区域

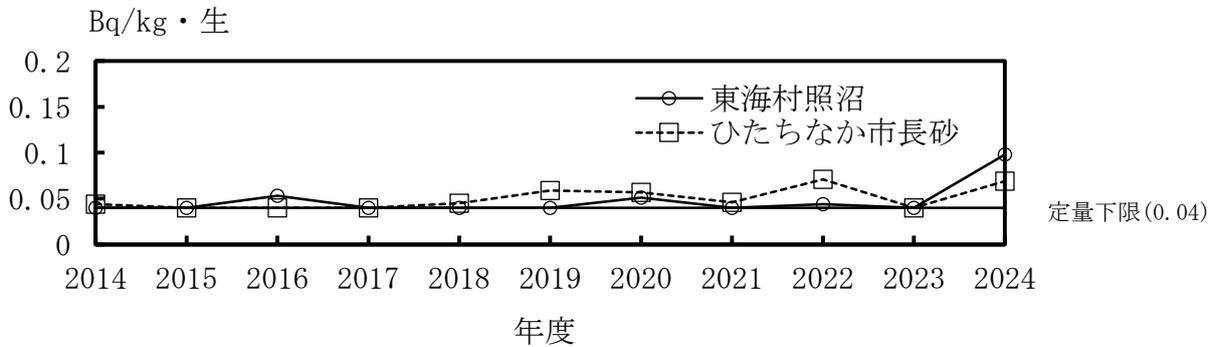


(2) 比較対照区域

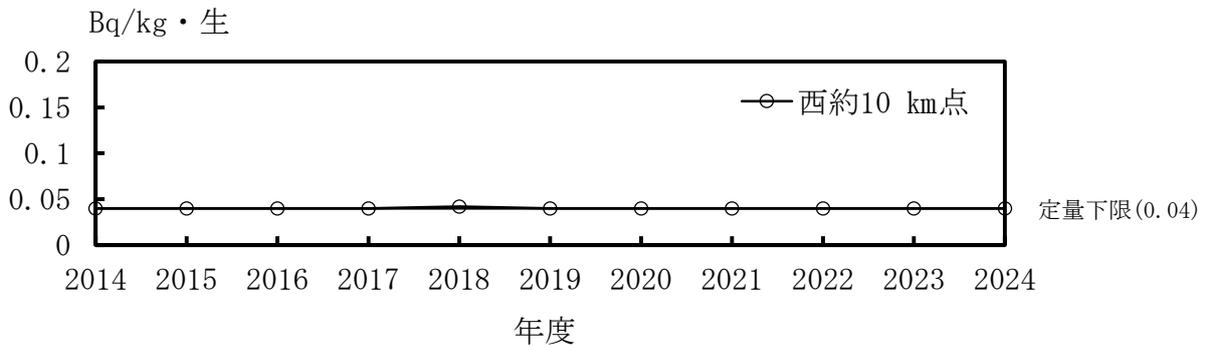


ロ. ^{90}Sr

(1) 監視対象区域



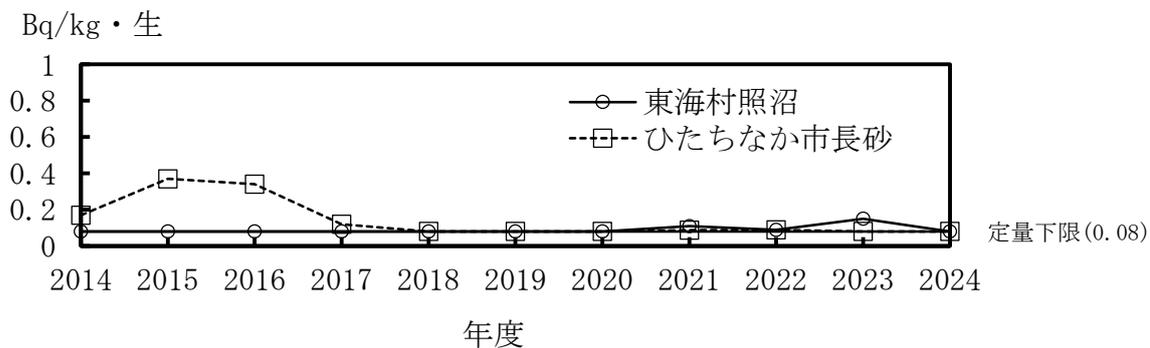
(2) 比較対照区域



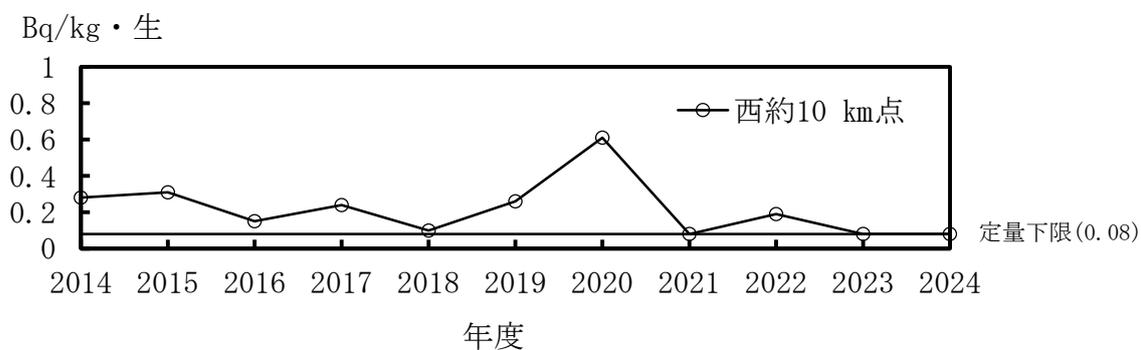
図D-7 葉菜中放射性物質濃度 (1/2)

ハ. ^{137}Cs

(1) 監視対象区域

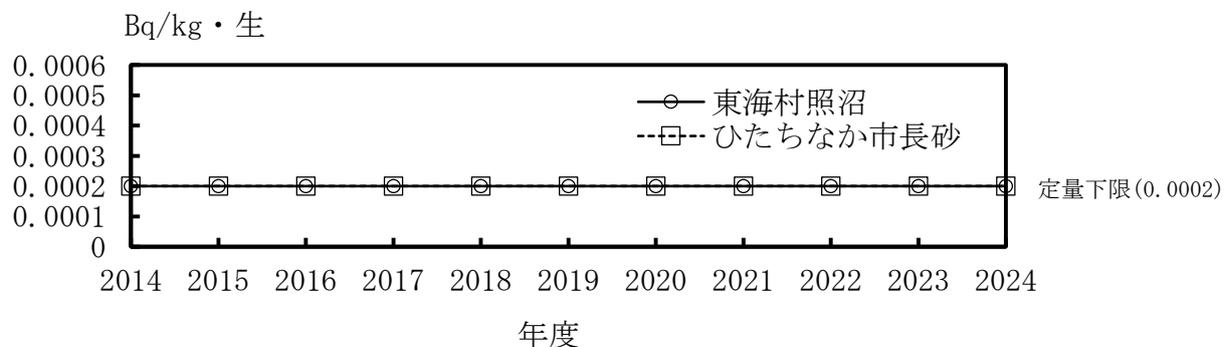


(2) 比較対照区域

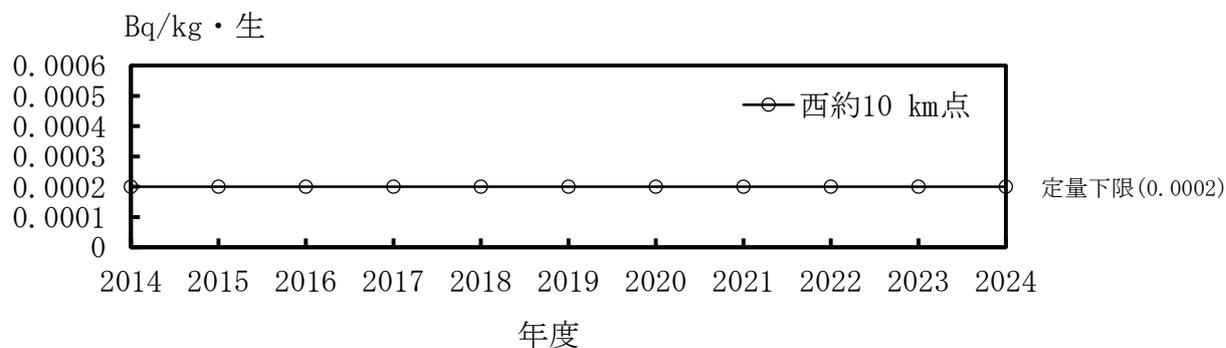


ニ. $^{239,240}\text{Pu}$

(1) 監視対象区域



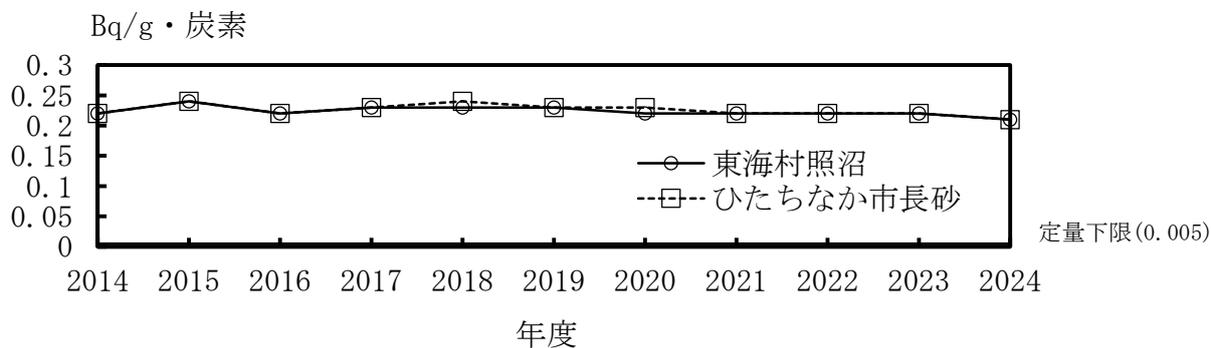
(2) 比較対照区域



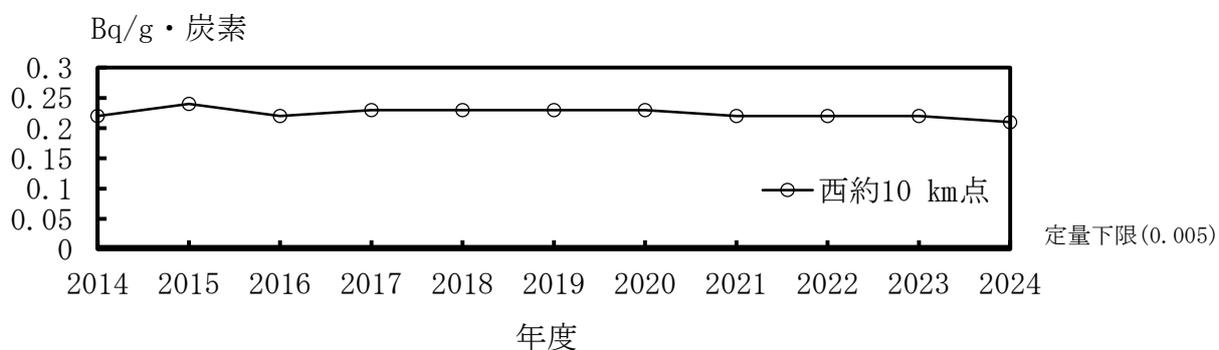
図D-7 葉菜中放射性物質濃度 (2/2)

イ. ^{14}C

(1) 監視対象区域

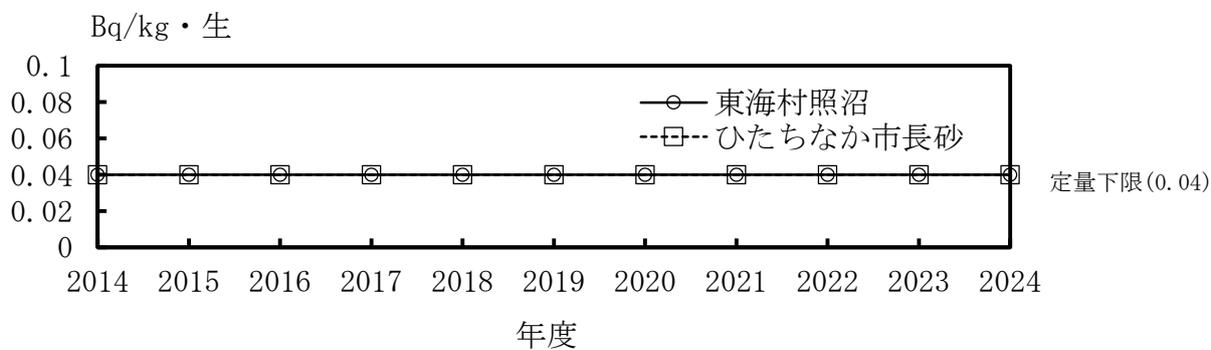


(2) 比較対照区域

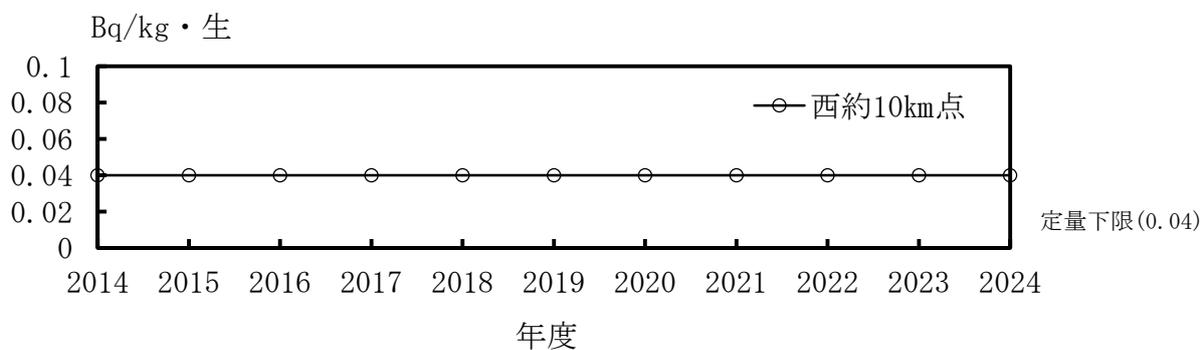


ロ. ^{90}Sr

(1) 監視対象区域



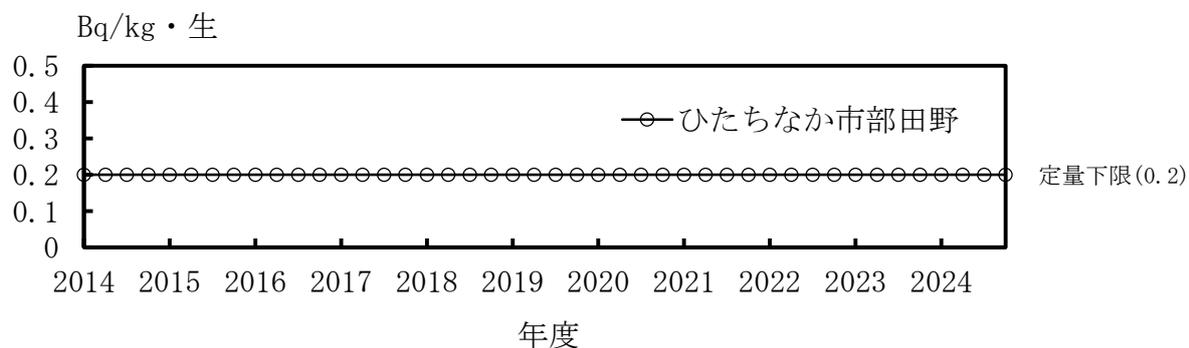
(2) 比較対照海域



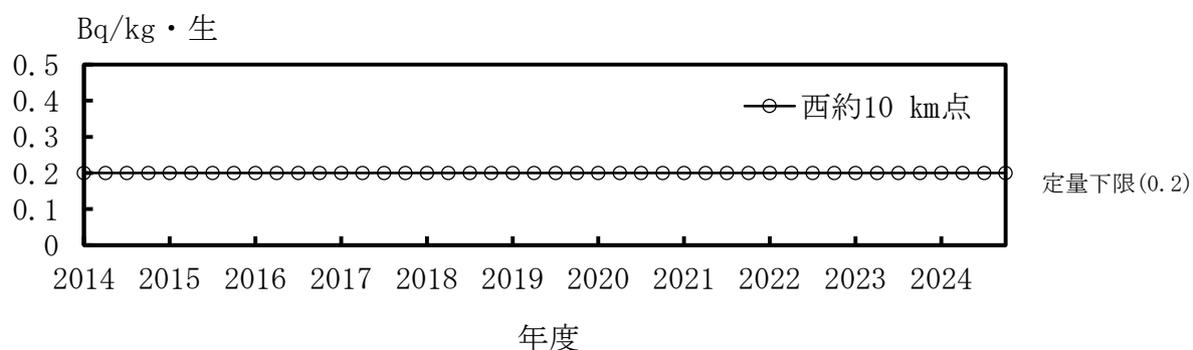
図D-8 精米中放射性物質濃度

イ. ^{131}I

(1) 監視対象区域

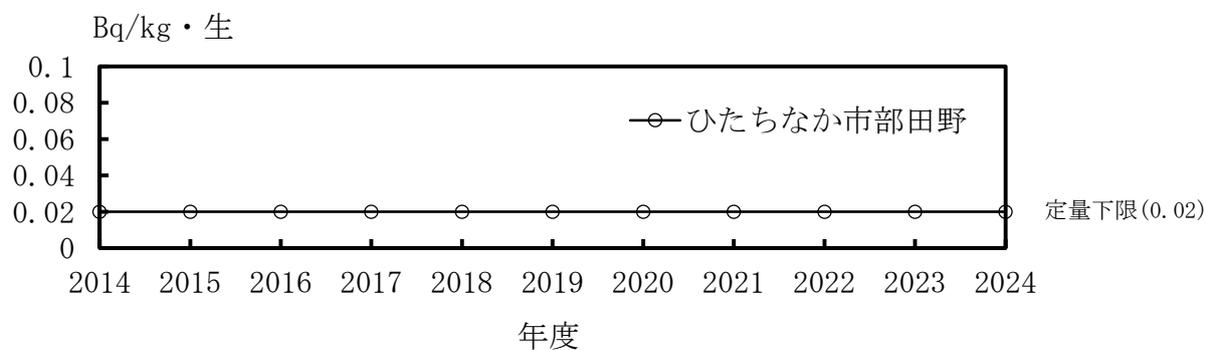


(2) 比較対照区域

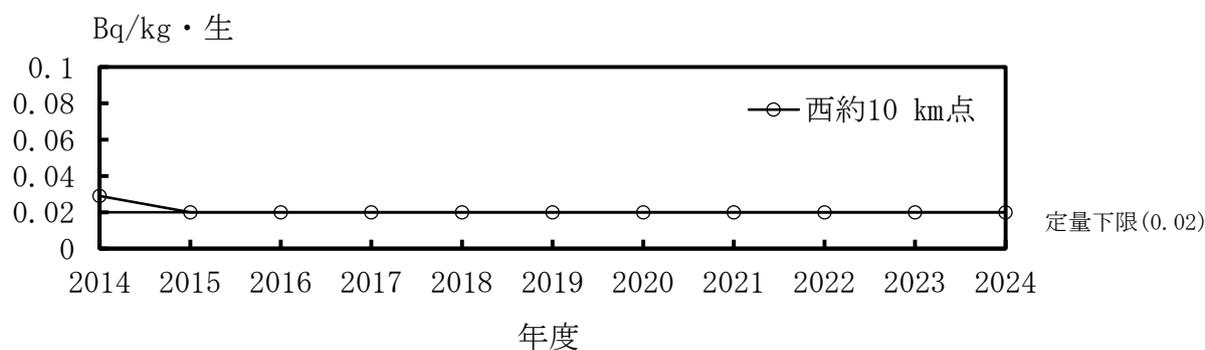


ロ. ^{90}Sr

(1) 監視対象区域



(2) 比較対照区域

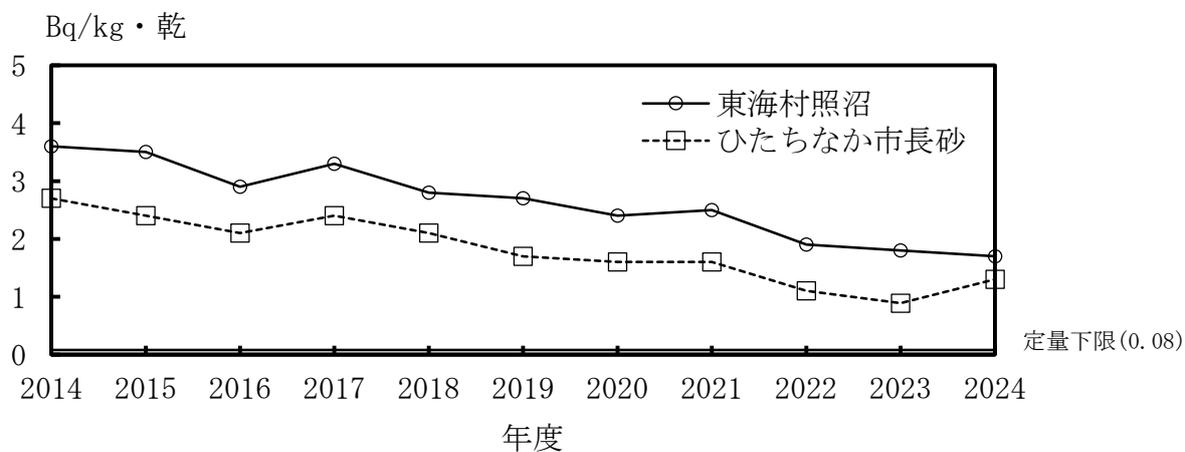


図D-9 牛乳中放射性物質濃度

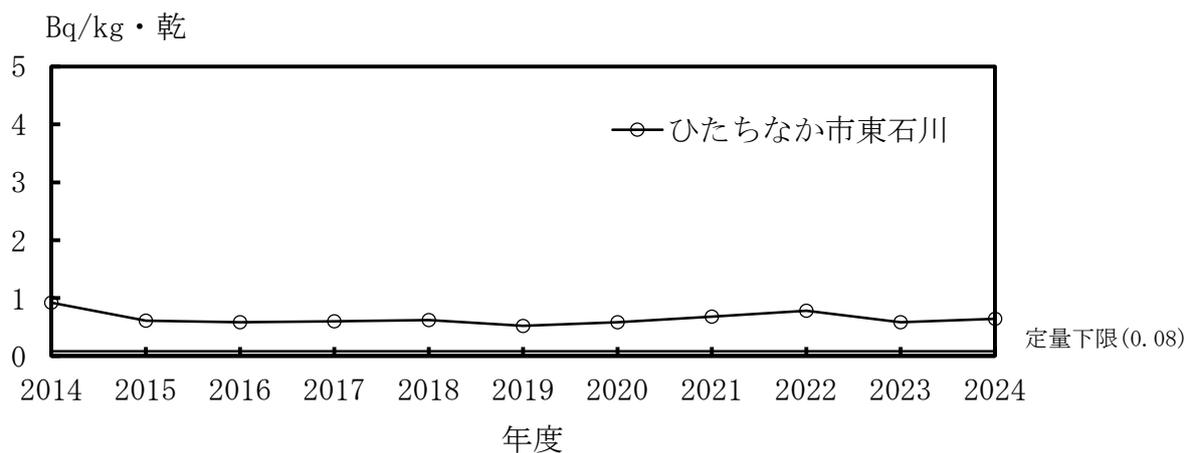
イ. ^{90}Sr

(1) 周辺監視区域外

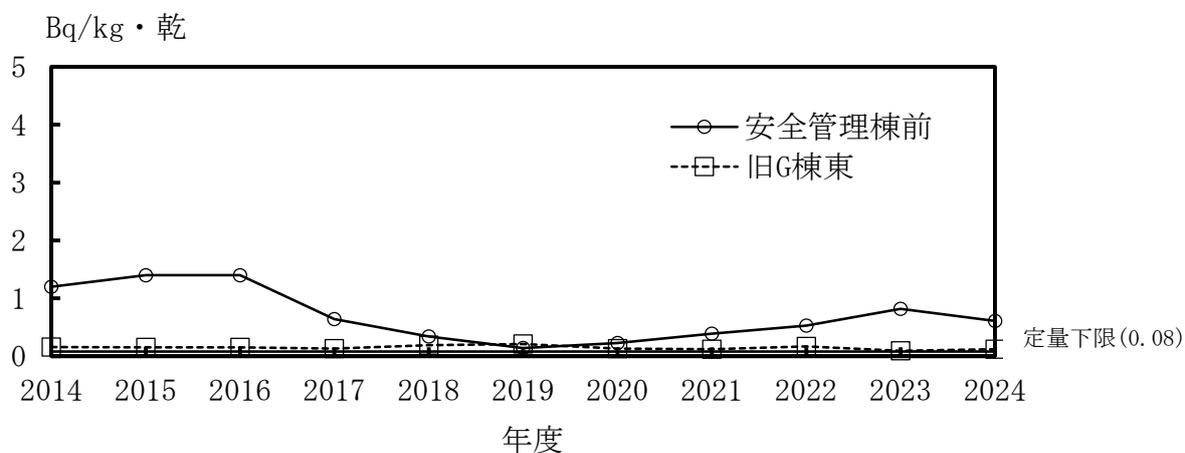
(i) 監視対象区域



(ii) 比較対照区域



(2) 周辺監視区域内

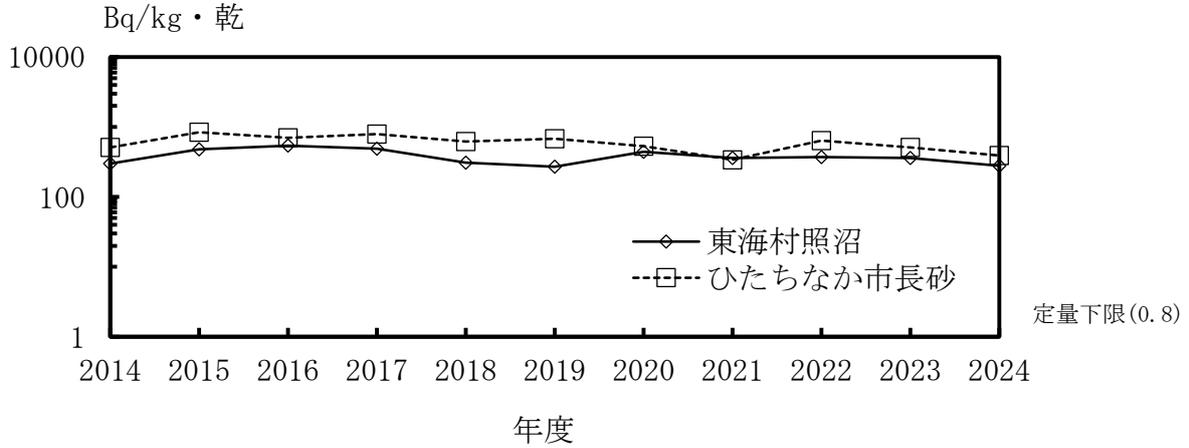


図D-10 表土中放射性物質濃度 (1/3)

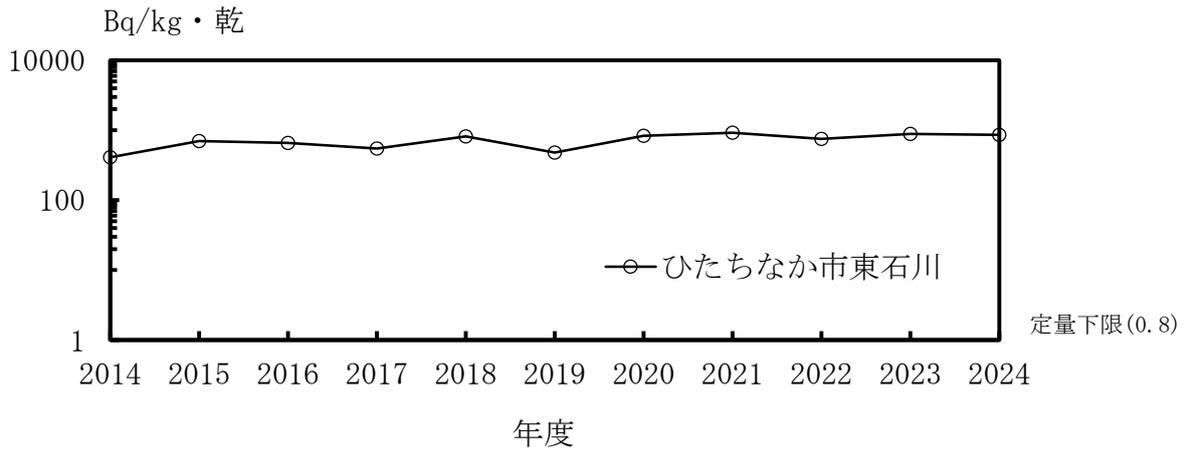
□. ^{137}Cs

(1) 周辺監視区域外

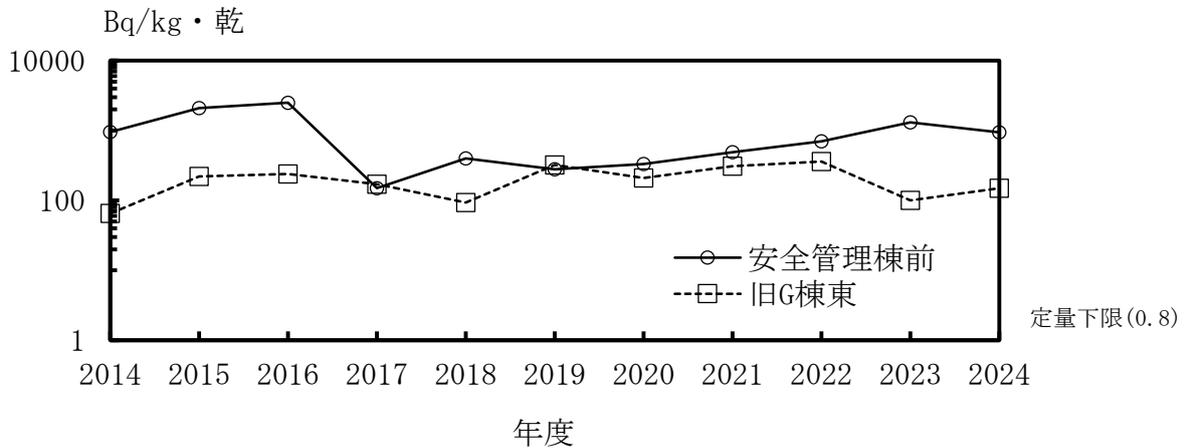
(i) 監視対象区域



(ii) 比較対照区域



(2) 周辺監視区域内

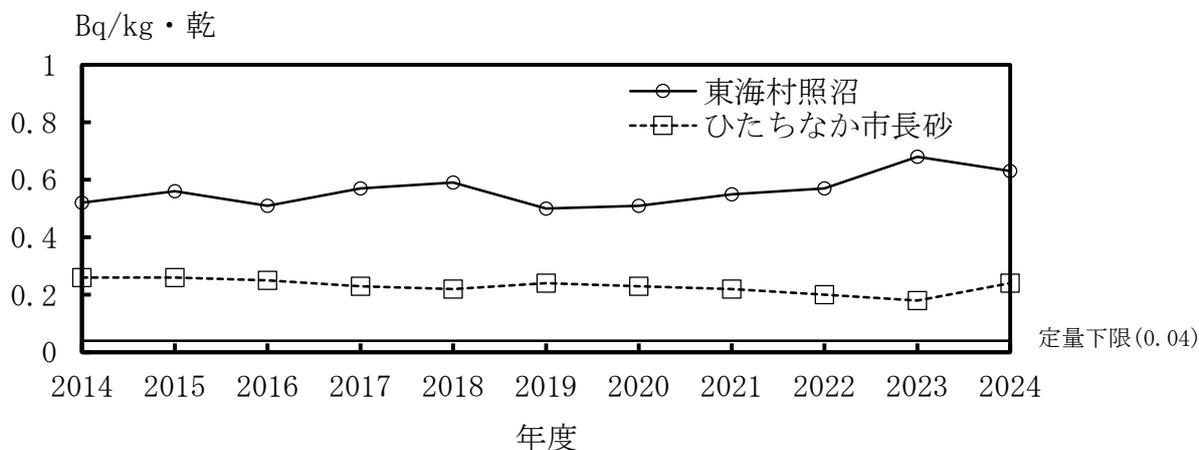


図D-10 表土中放射性物質濃度 (2/3)

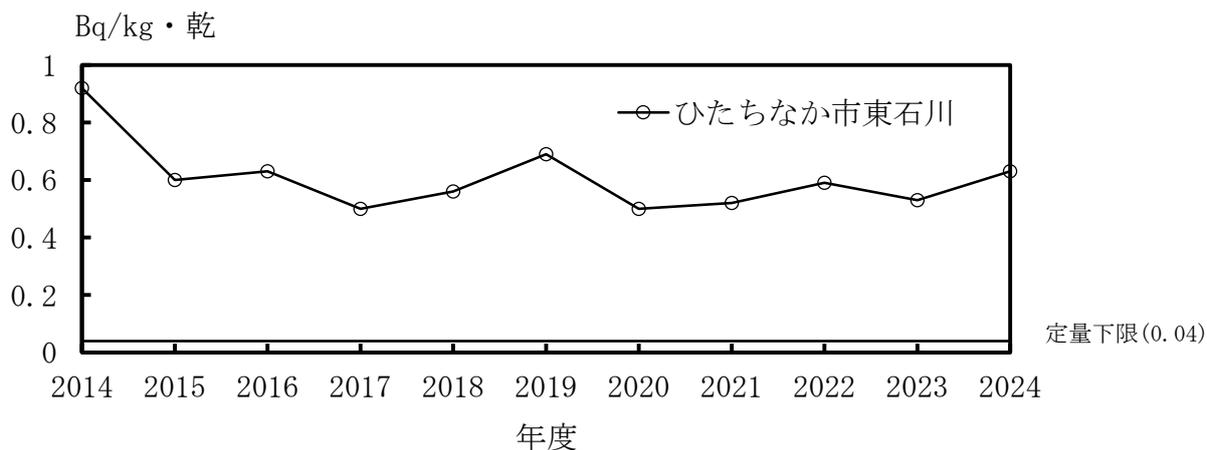
ハ. $^{239, 240}\text{Pu}$

(1) 周辺監視区域外

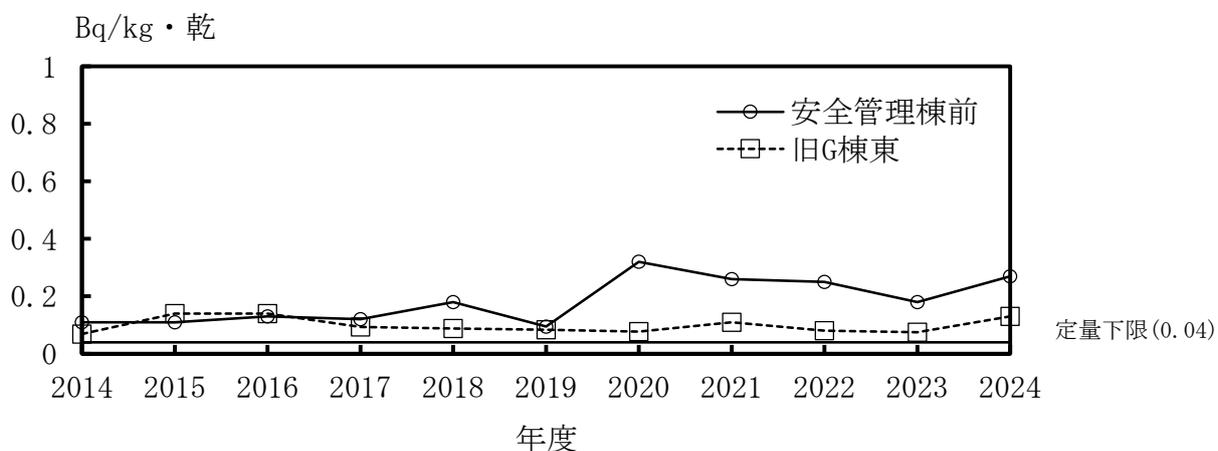
(i) 監視対象区域



(ii) 比較対照区域



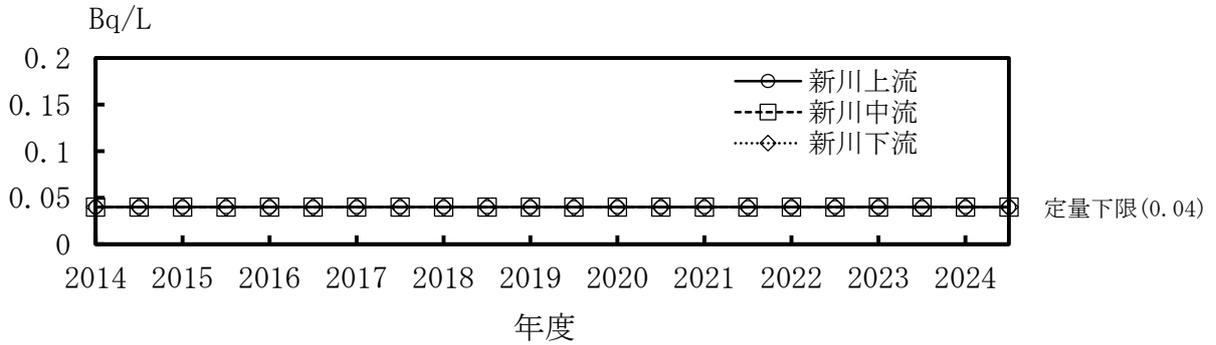
(2) 周辺監視区域内



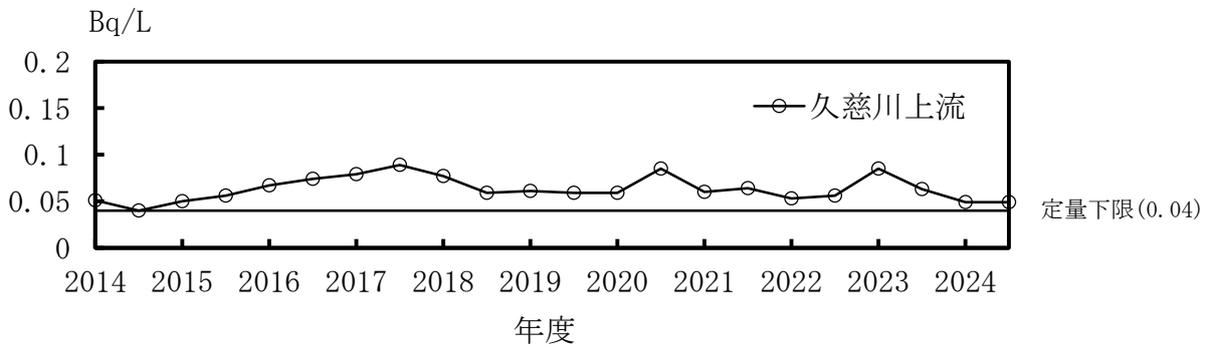
図D-10 表土中放射性物質濃度 (3/3)

イ. 全β放射能

(1) 監視対象区域

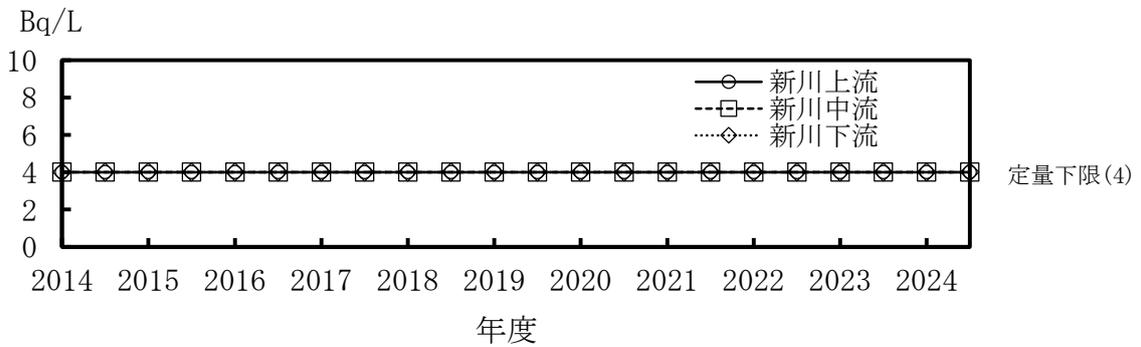


(2) 比較対照区域

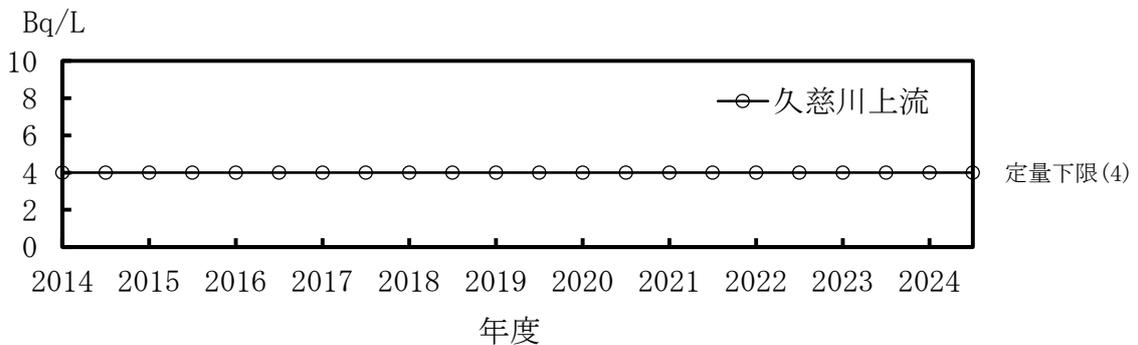


ロ. ³H

(1) 監視対象区域



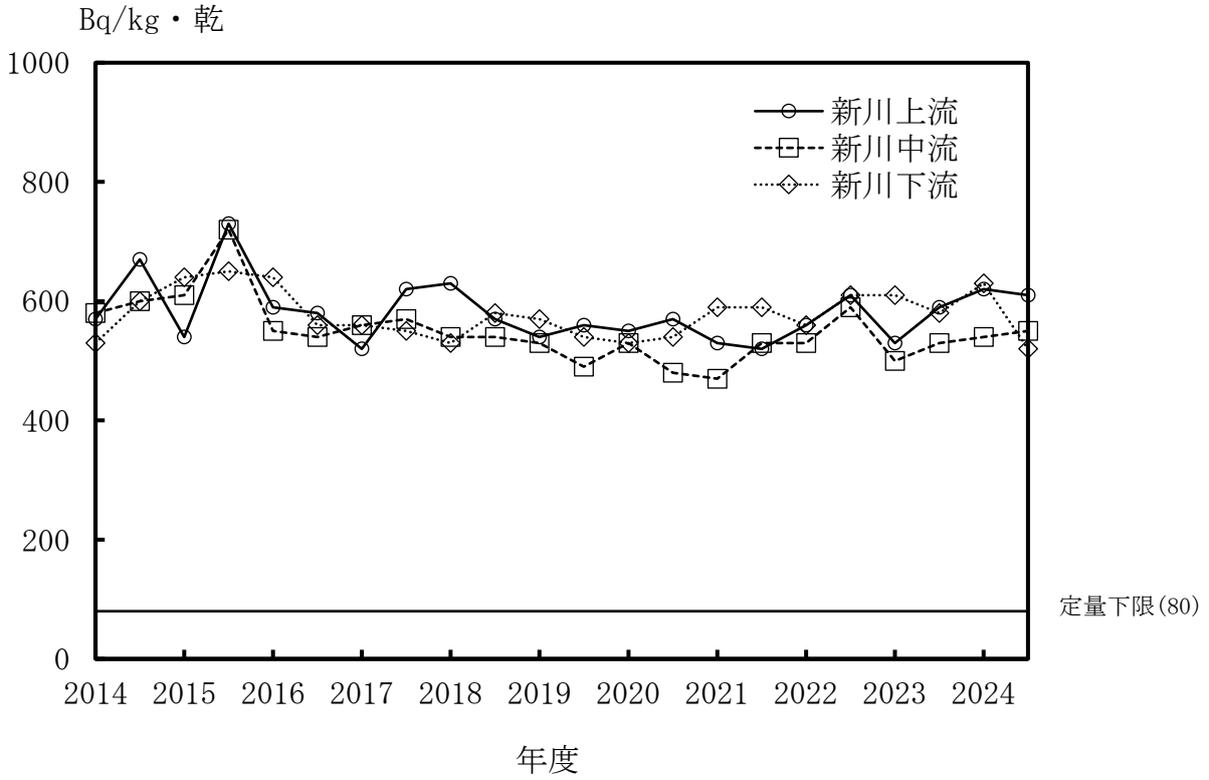
(2) 比較対照区域



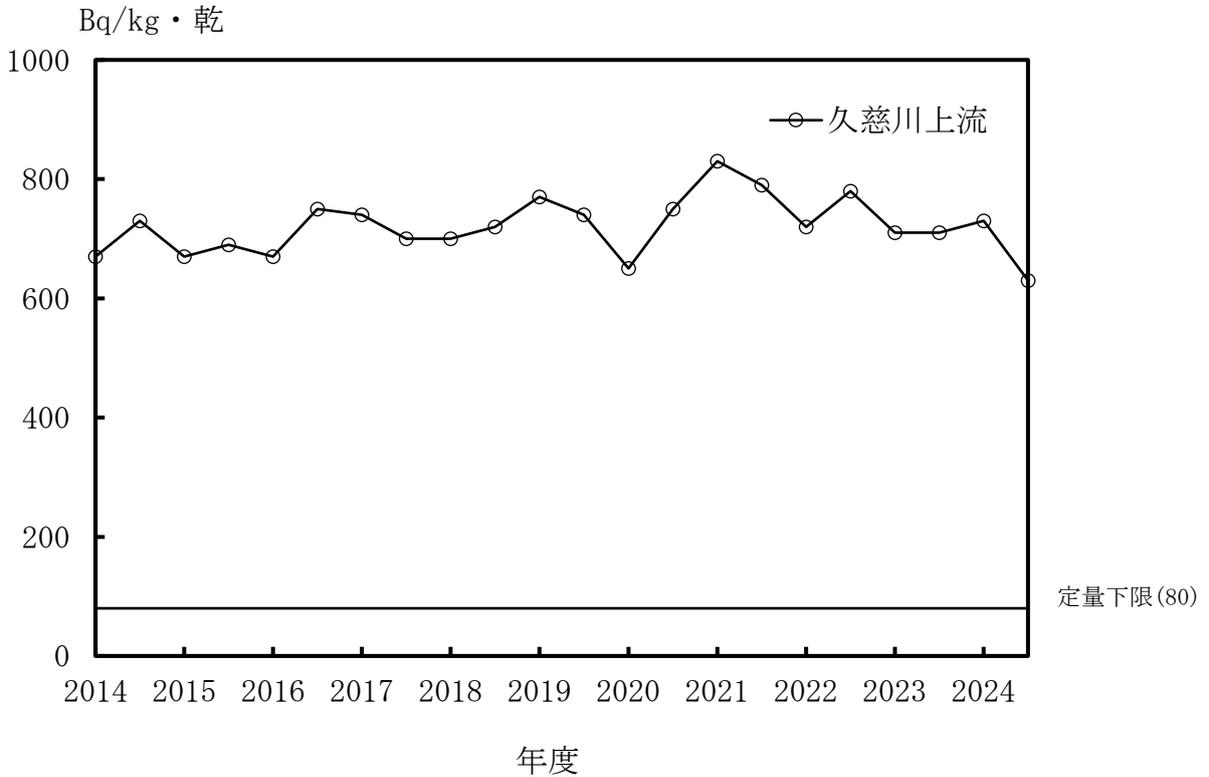
図D-11 河川水中放射性物質濃度

イ. 全β放射能

(1) 監視対象区域



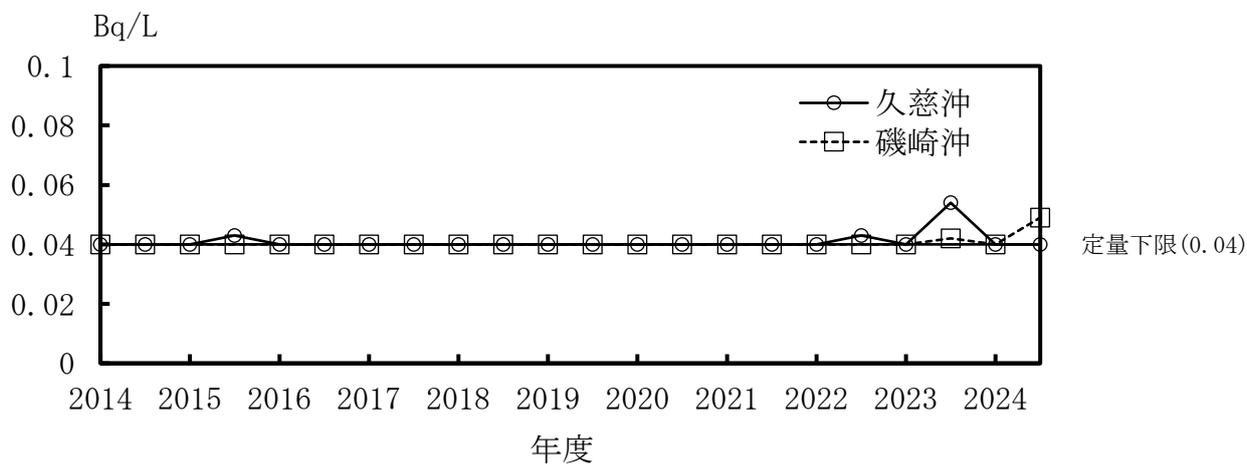
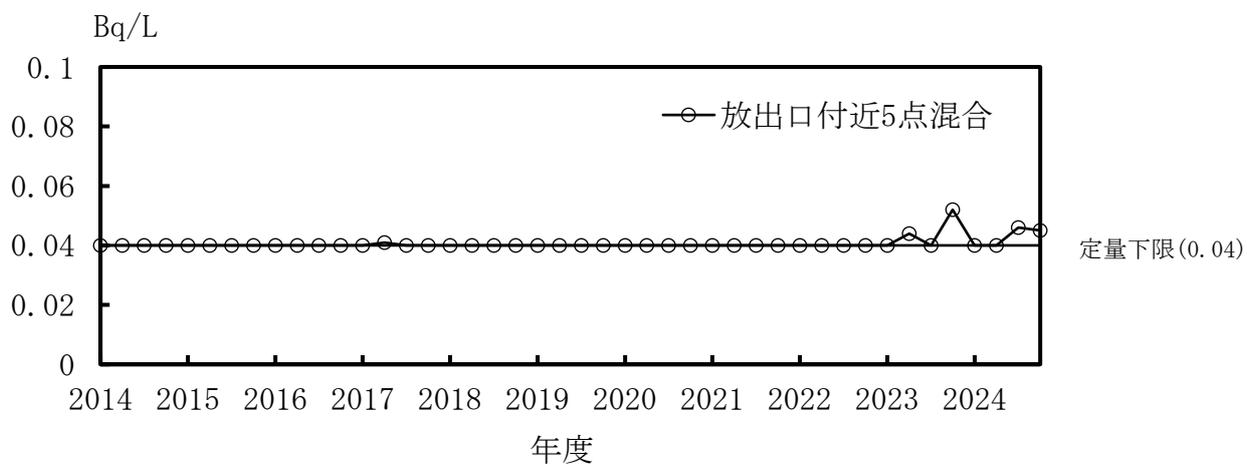
(2) 比較対照区域



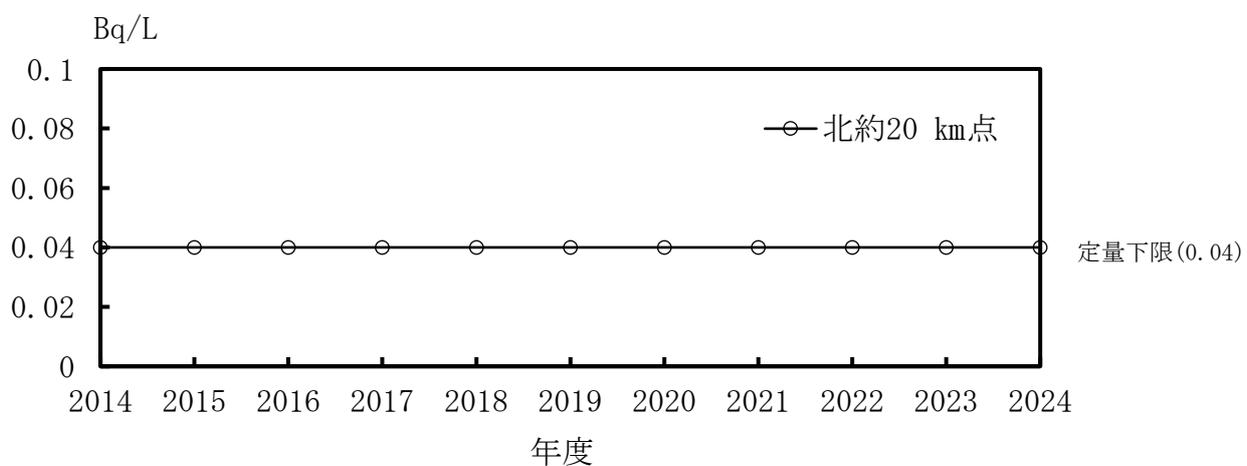
図D-12 河底土中放射性物質濃度

イ. 全β放射能

(1) 監視対象海域



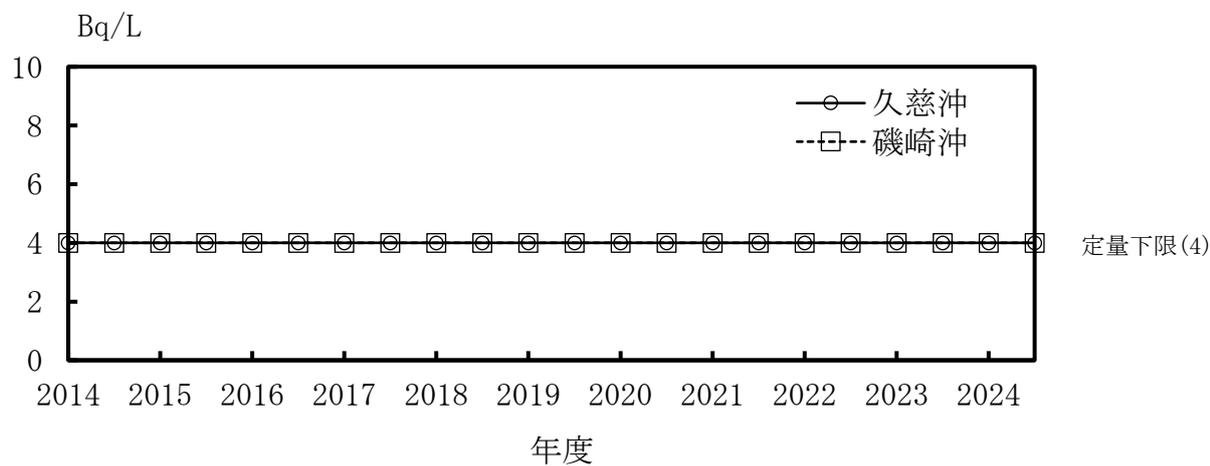
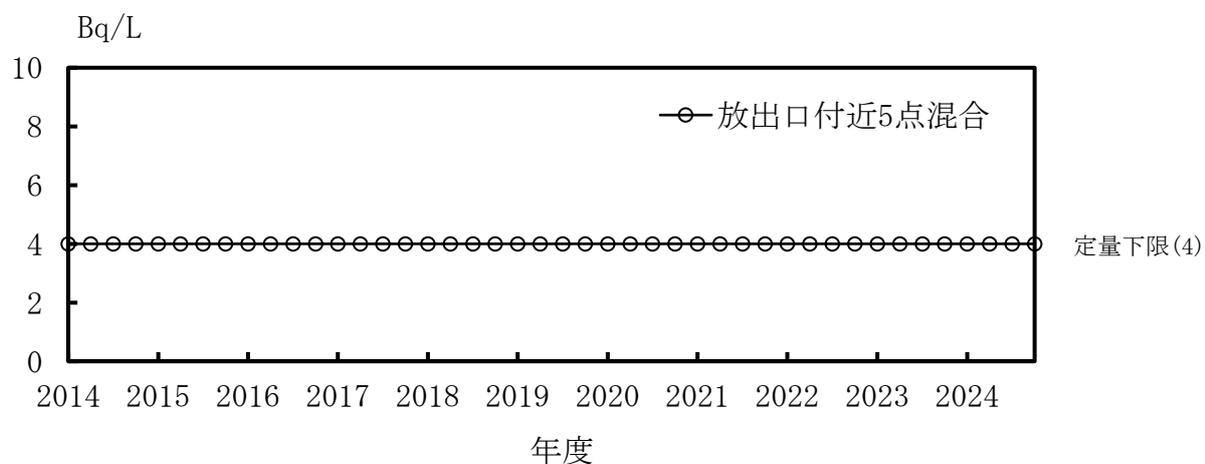
(2) 比較対照海域



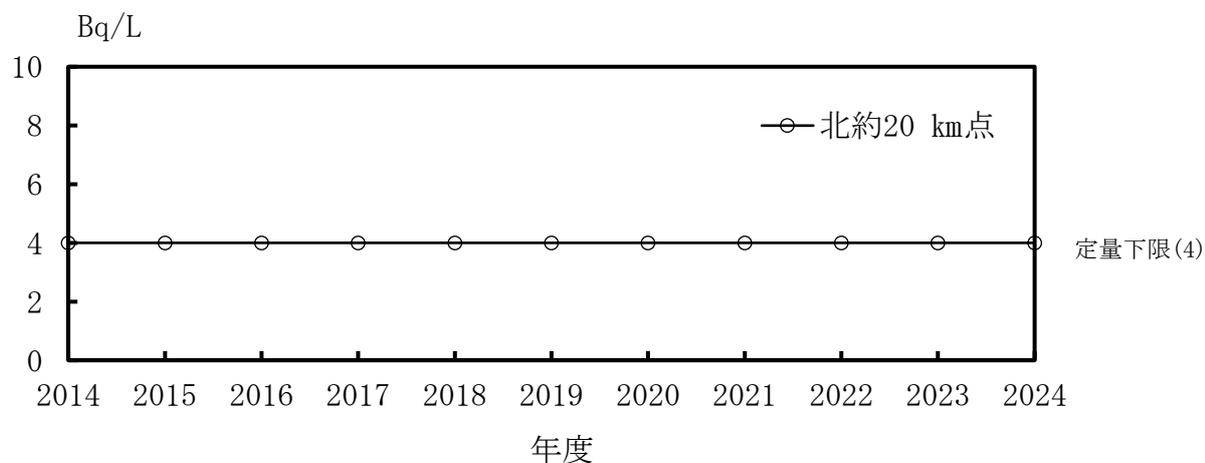
図D-13 海水中放射性物質濃度 (1/5)

□. ^3H

(1) 監視対象海域



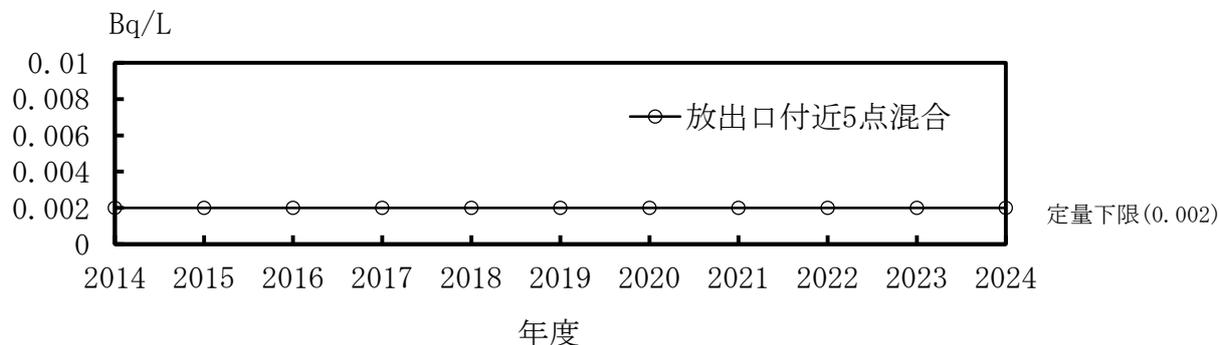
(2) 比較対照海域



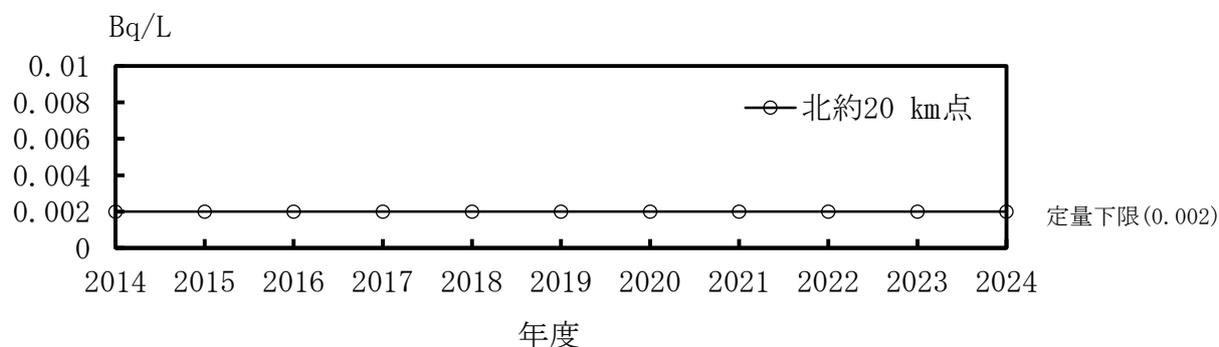
図D-13 海水中放射性物質濃度 (2/5)

ハ. ^{90}Sr

(1) 監視対象海域

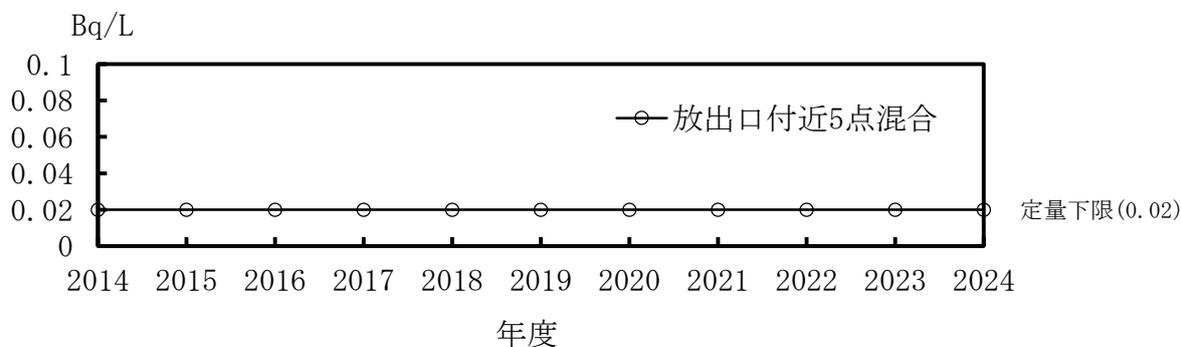


(2) 比較対照海域

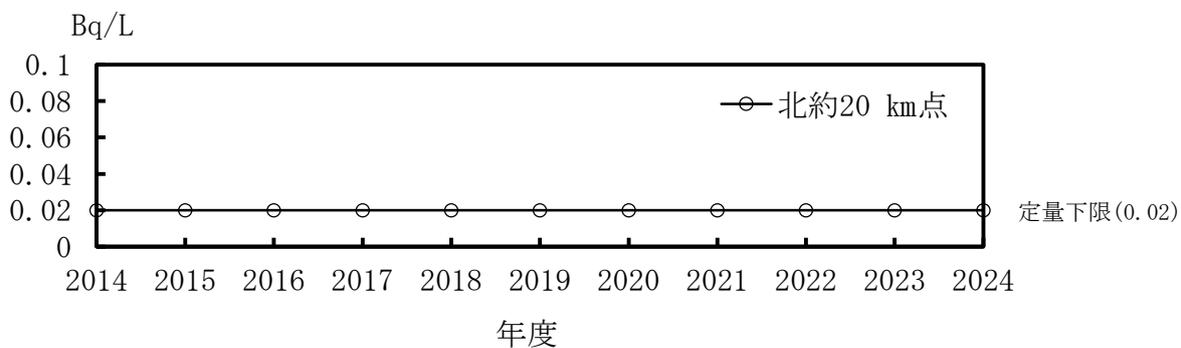


二. ^{106}Ru

(1) 監視対象海域



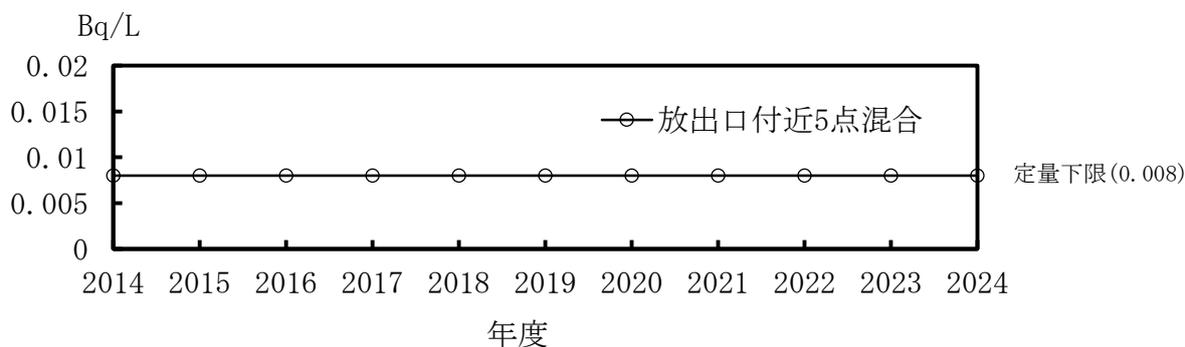
(2) 比較対照海域



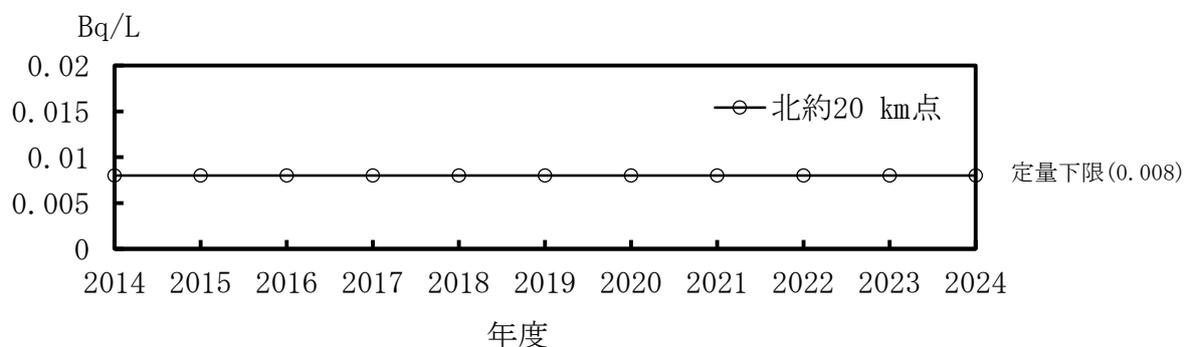
図D-13 海水中放射性物質濃度 (3/5)

ホ. ^{134}Cs

(1) 監視対象海域

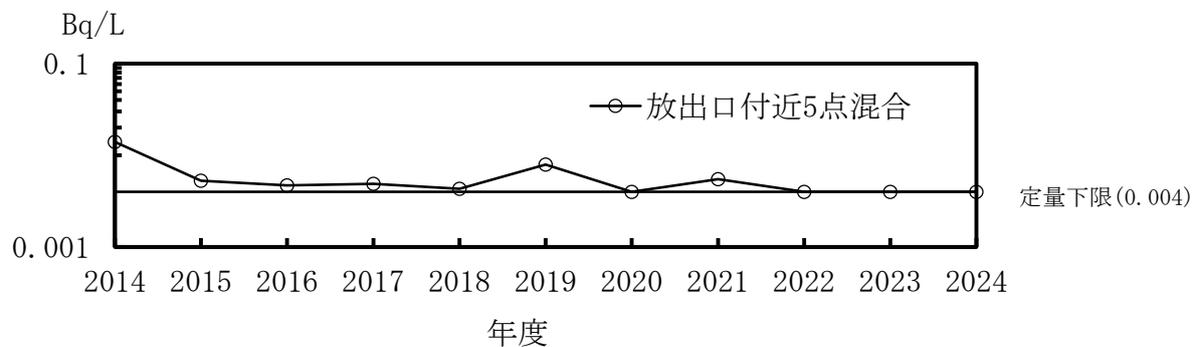


(2) 比較対照海域

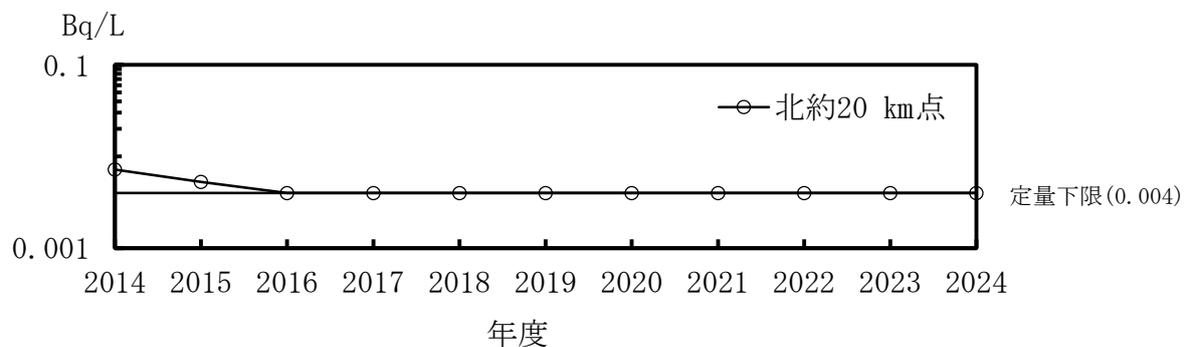


ヘ. ^{137}Cs

(1) 監視対象海域



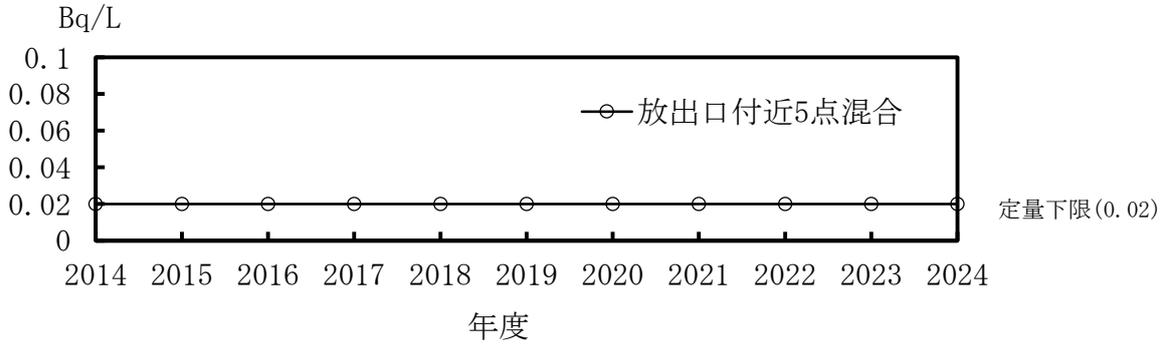
(2) 比較対照海域



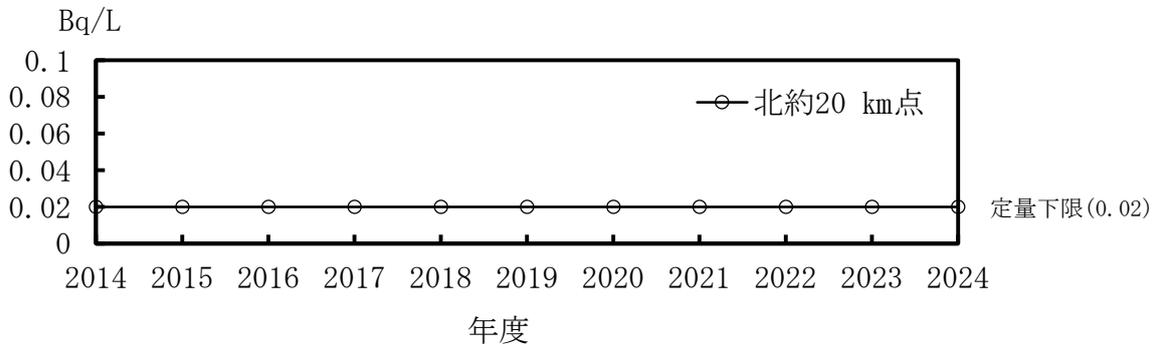
図D-13 海水中放射性物質濃度 (4/5)

ト. ^{144}Ce

(1) 監視対象海域

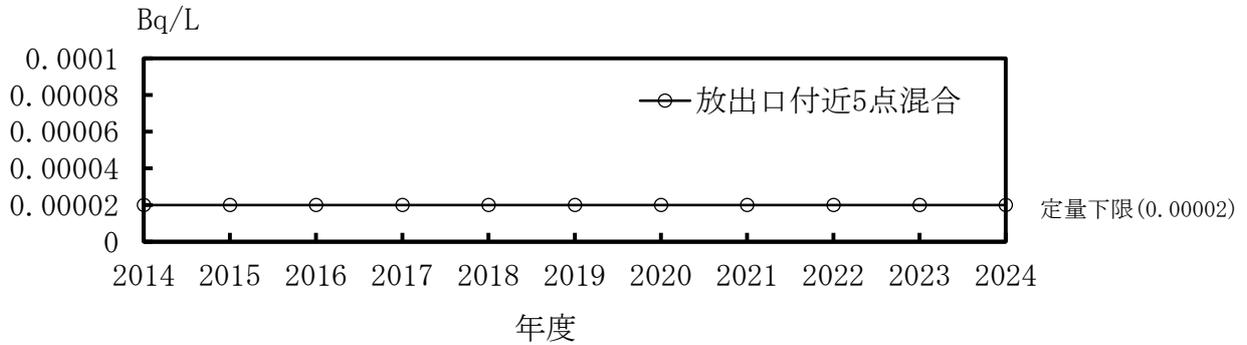


(2) 比較対照海域

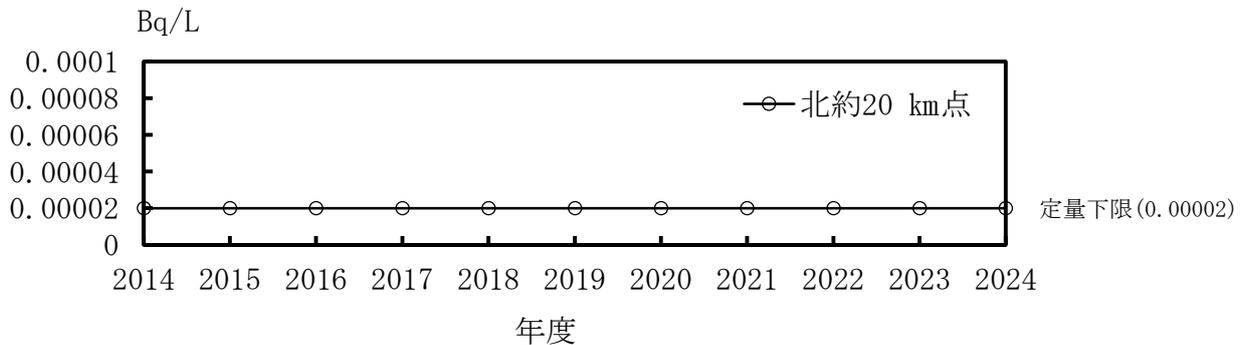


チ. $^{239,240}\text{Pu}$

(1) 監視対象海域



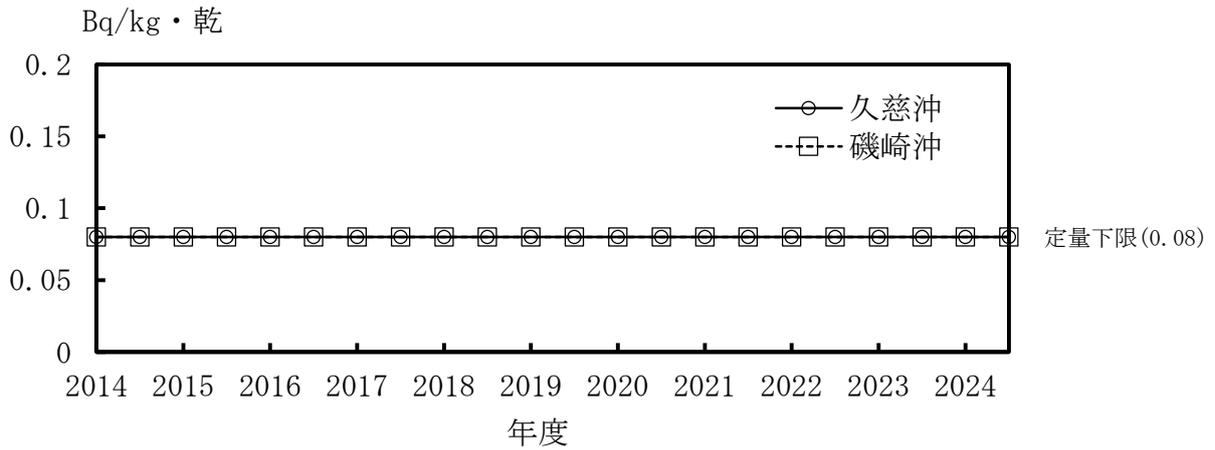
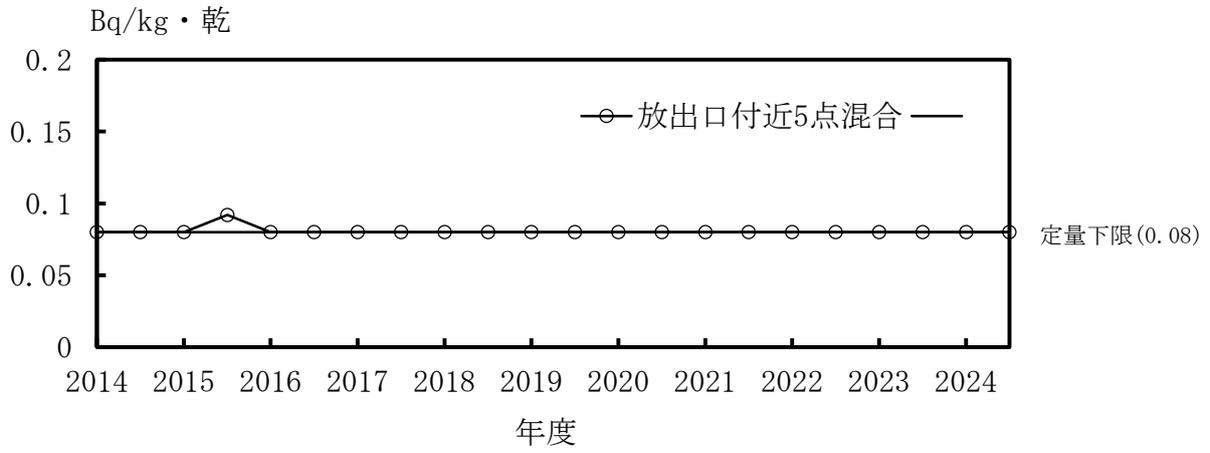
(2) 比較対照海域



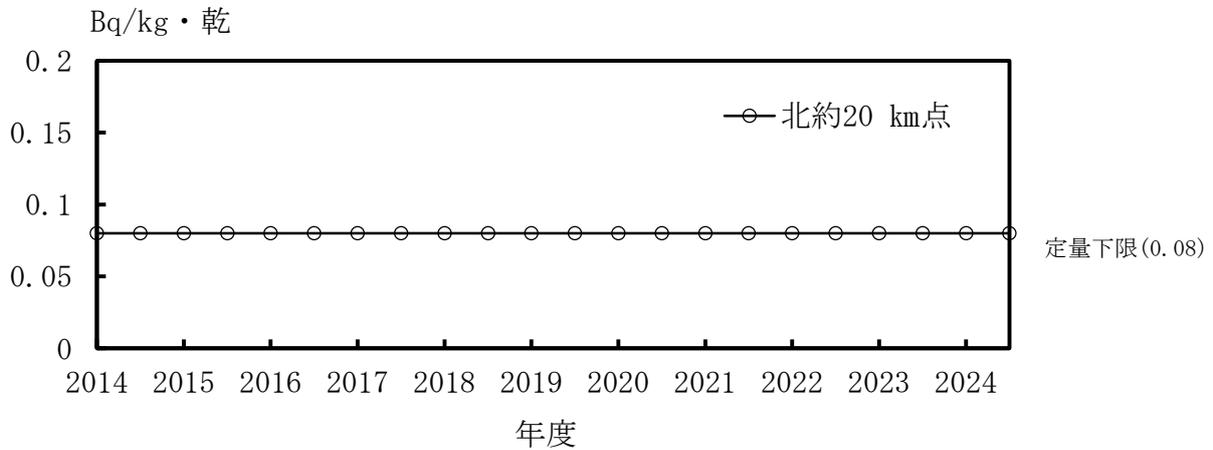
図D-13 海水中放射性物質濃度 (5/5)

イ. ^{90}Sr

(1) 監視対象海域



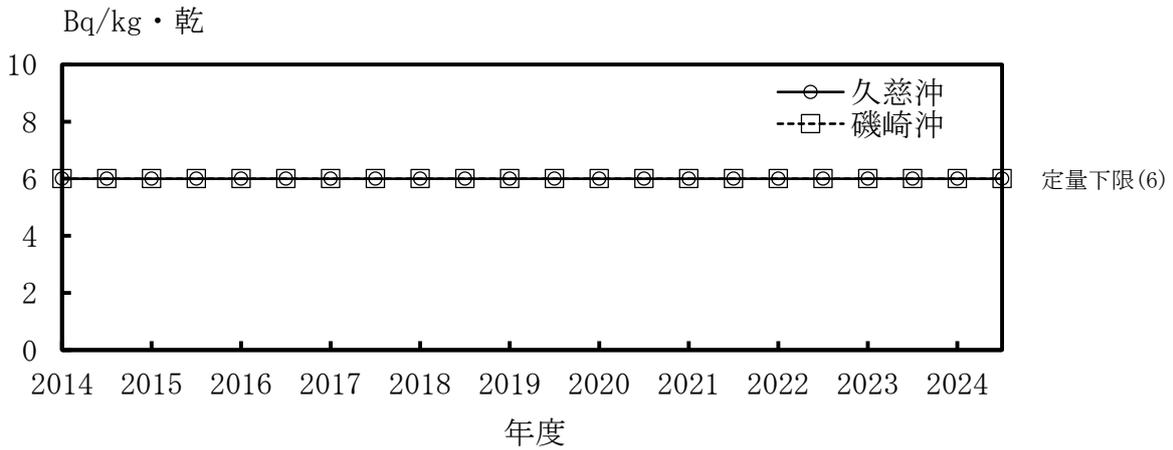
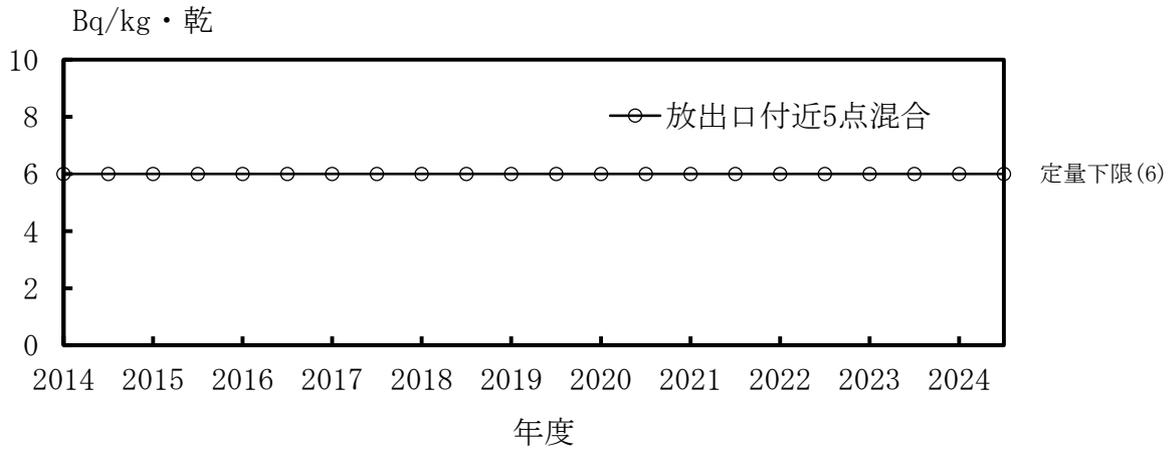
(2) 比較対照海域



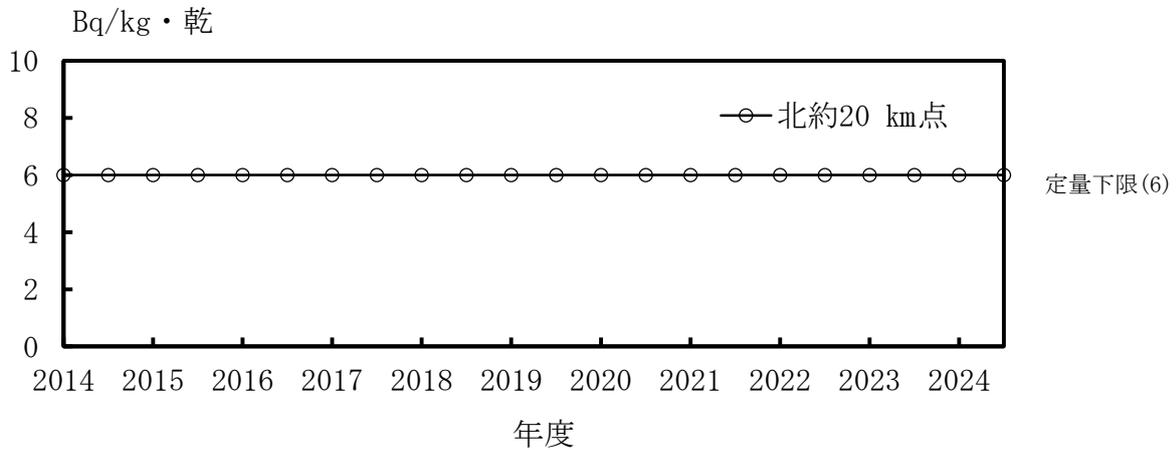
図D-14 海底土中放射性物質濃度 (1/6)

□. ^{106}Ru

(1) 監視対象海域



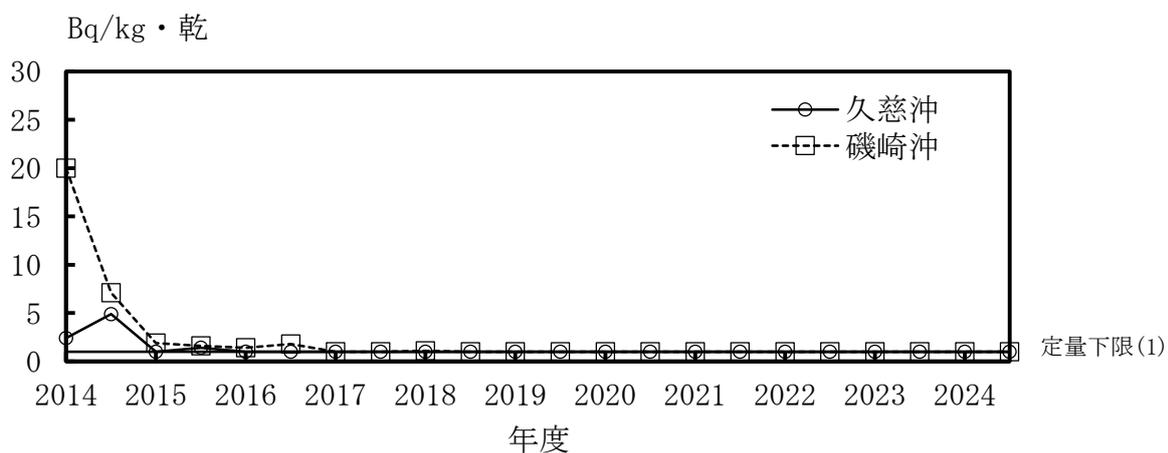
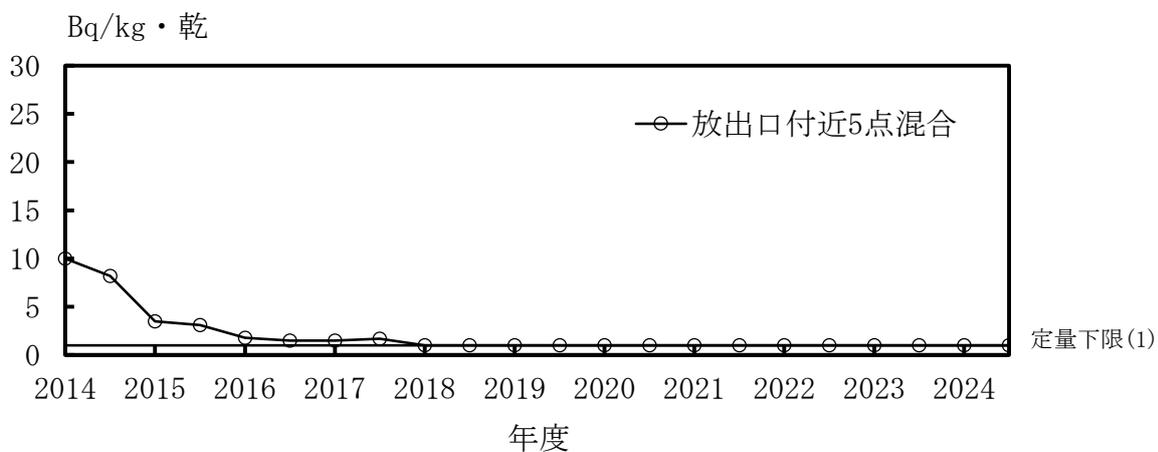
(2) 比較対照海域



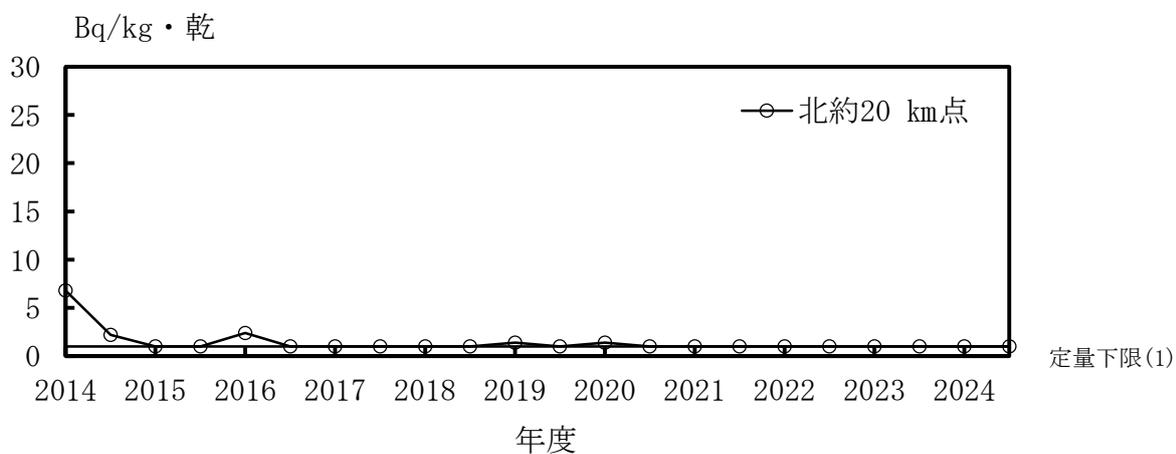
図D-14 海底土中放射性物質濃度 (2/6)

ハ. ^{134}Cs

(1) 監視対象海域



(2) 比較対照海域

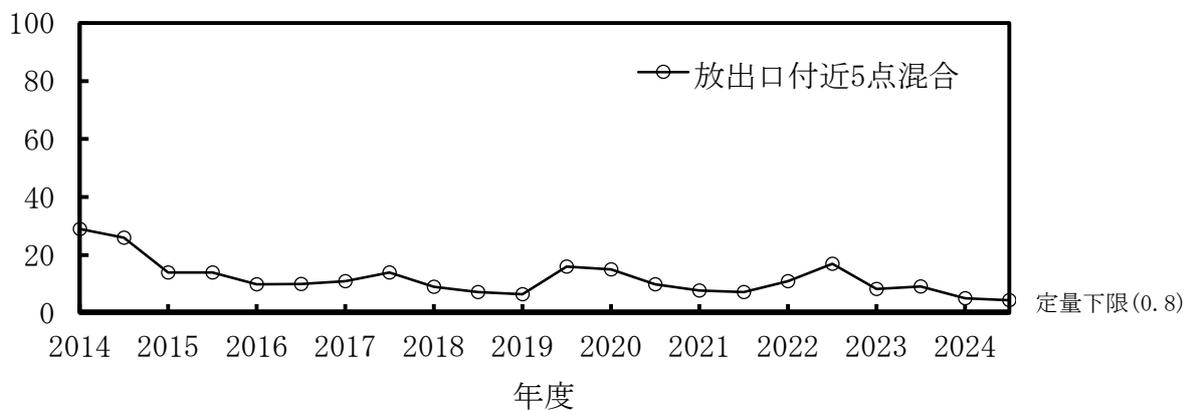


図D-14 海底土中放射性物質濃度 (3/6)

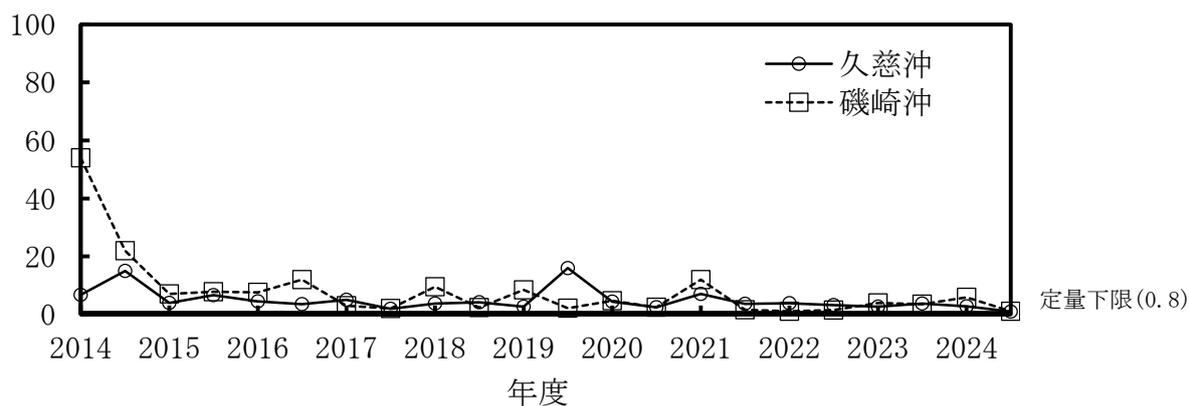
二. ^{137}Cs

(1) 監視対象海域

Bq/kg・乾

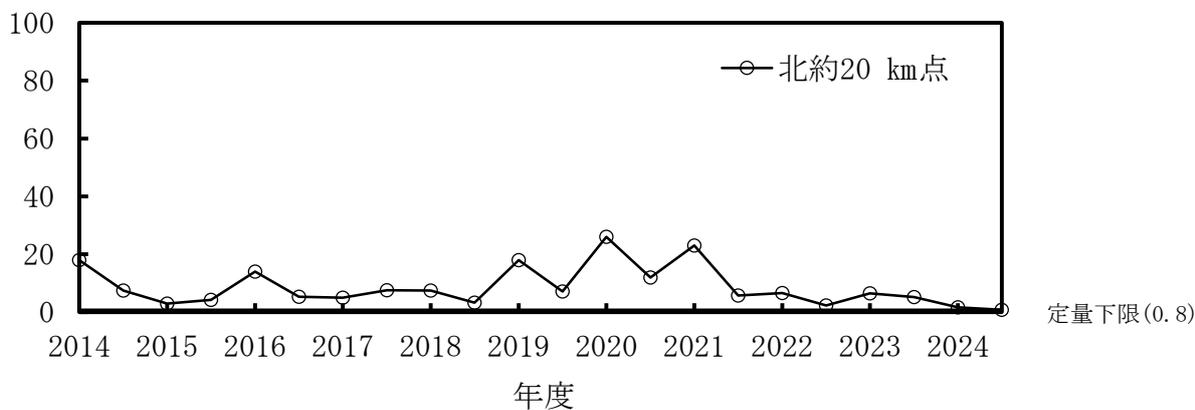


Bq/kg・乾



(2) 比較対照海域

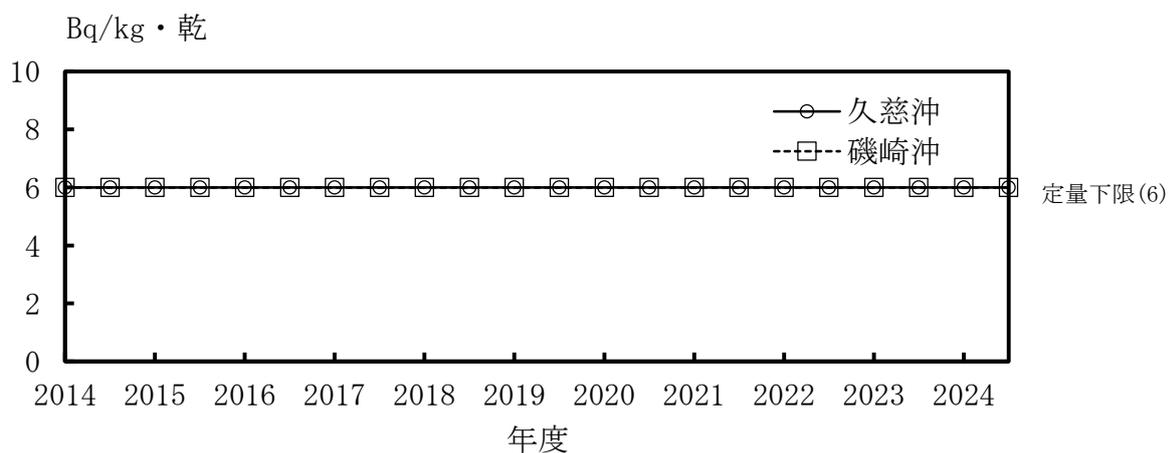
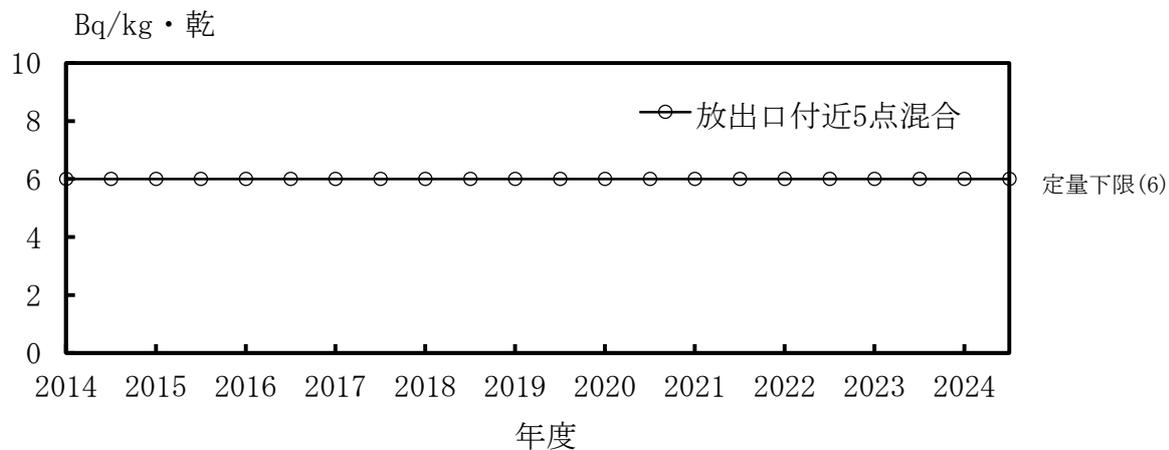
Bq/kg・乾



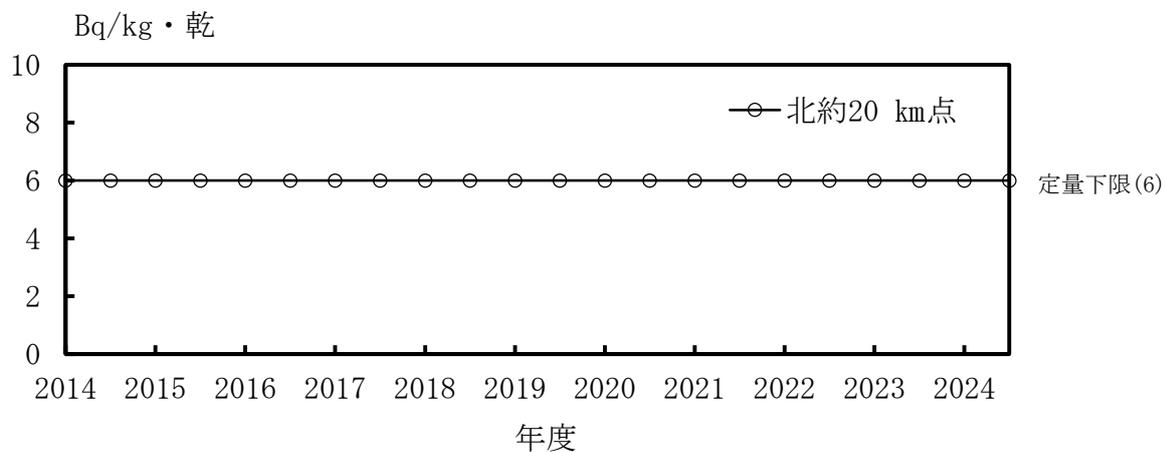
図D-14 海底土中放射性物質濃度 (4/6)

ホ. ^{144}Ce

(1) 監視対象海域



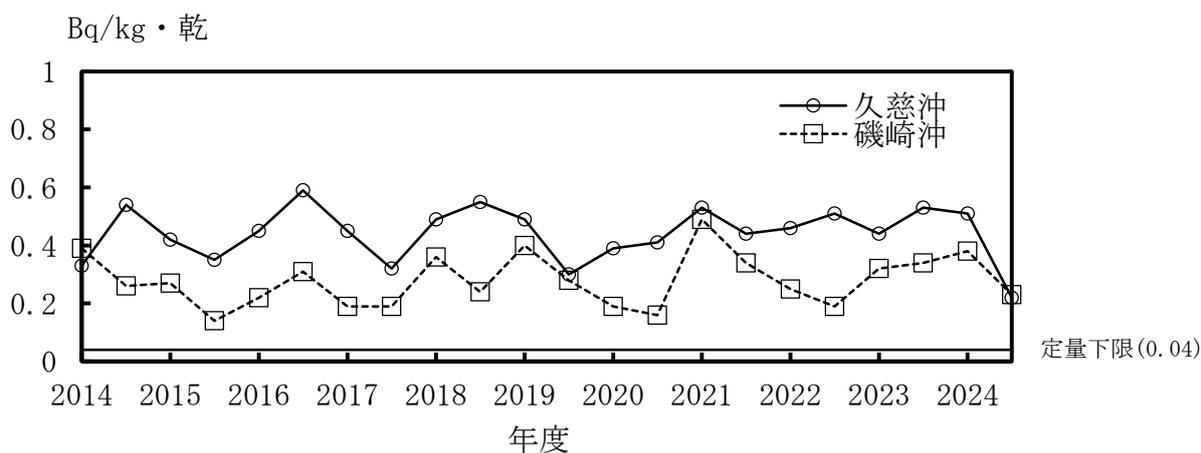
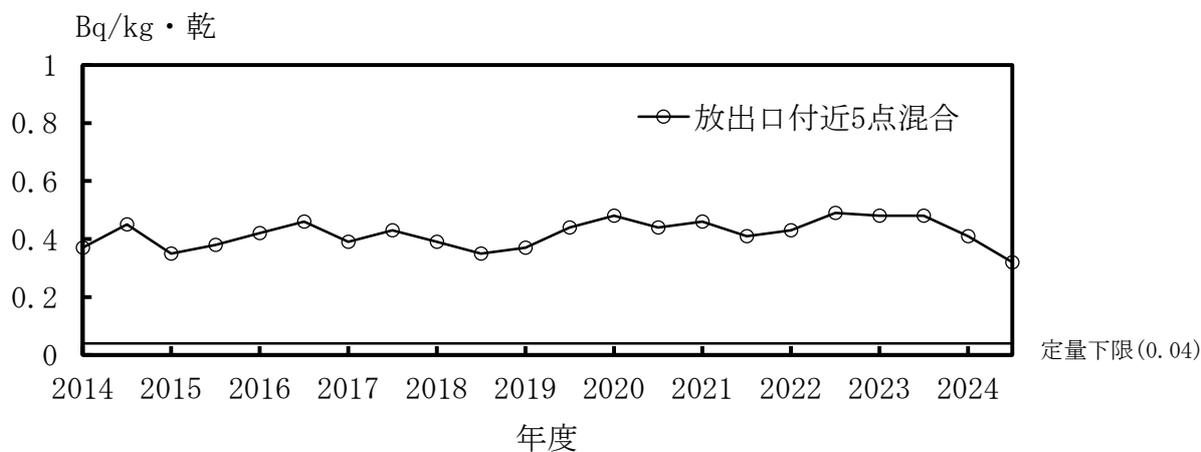
(2) 比較対照海域



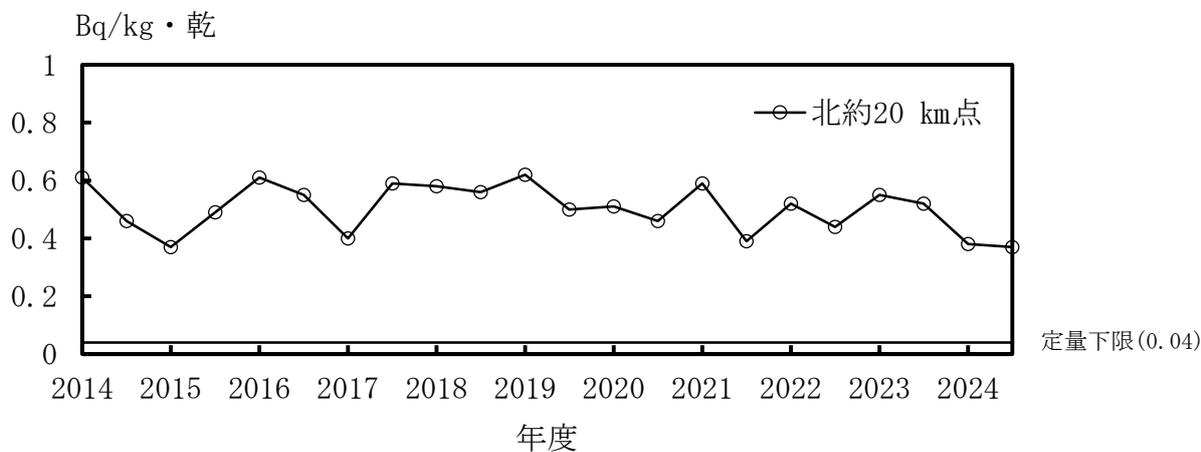
図D-14 海底土中放射性物質濃度 (5/6)

へ. $^{239, 240}\text{Pu}$

(1) 監視対象海域



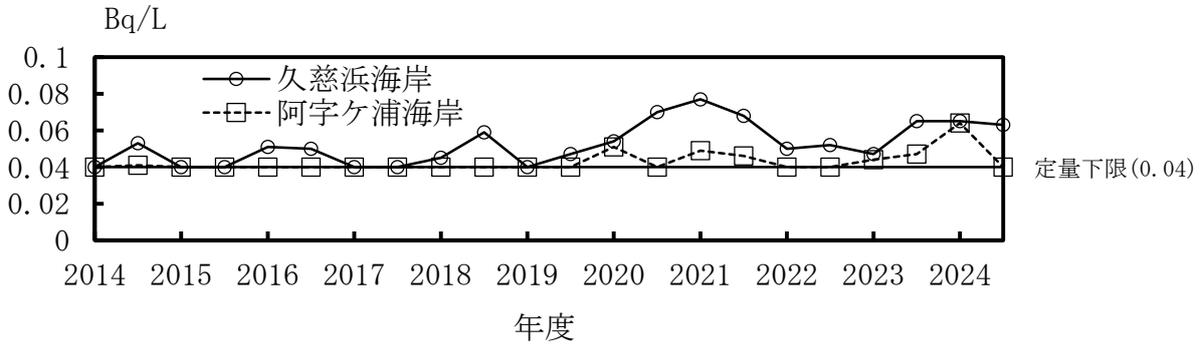
(2) 比較対照海域



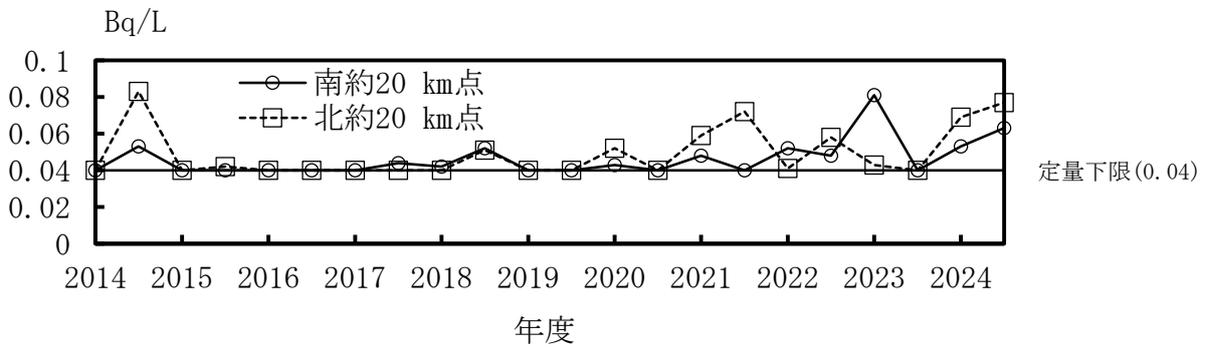
図D-14 海底土中放射性物質濃度 (6/6)

イ. 全β放射能

(1) 監視対象区域

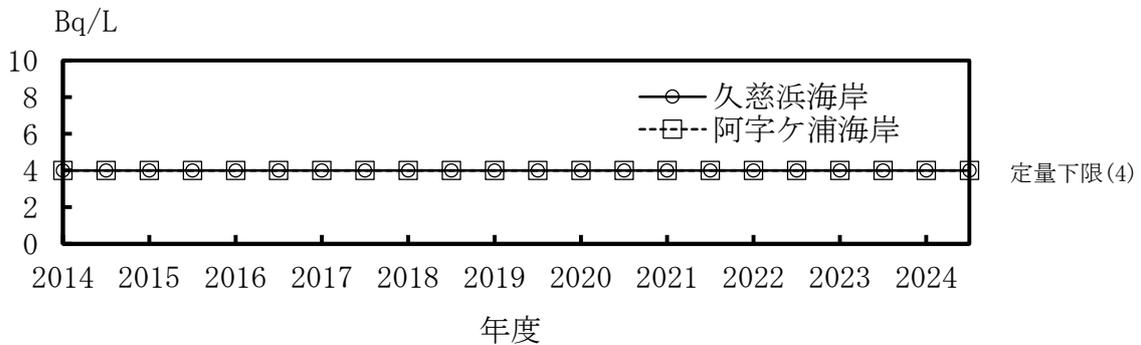


(2) 比較対照区域

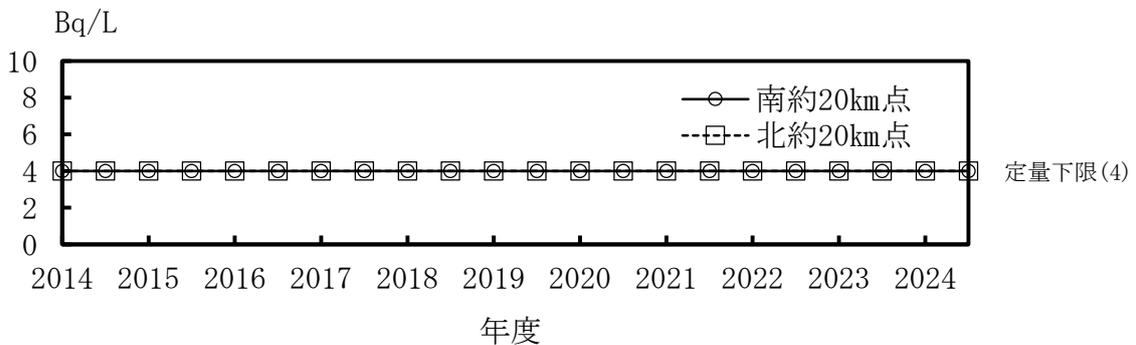


ロ. ³H

(1) 監視対象区域



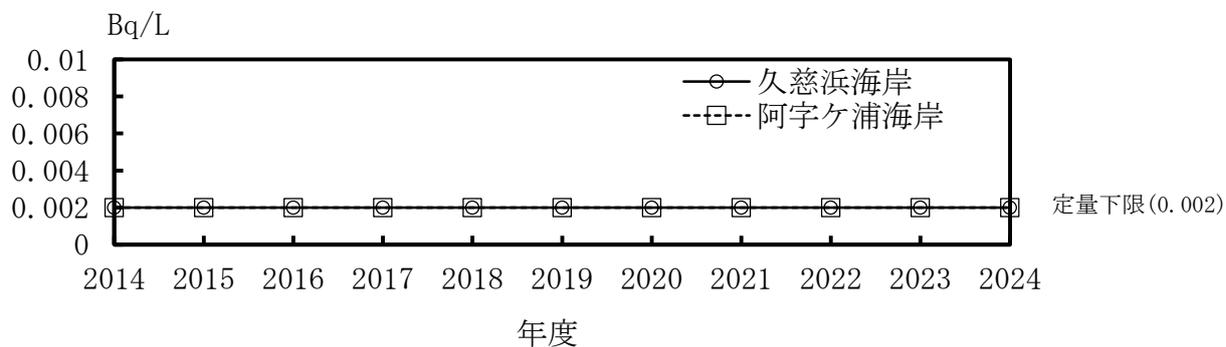
(2) 比較対照区域



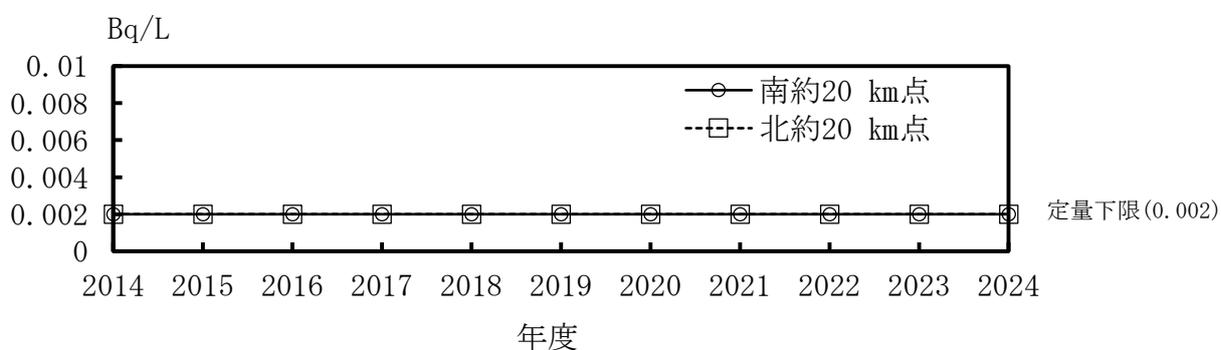
図D-15 海岸水中放射性物質濃度 (1/4)

ハ. ^{90}Sr

(1) 監視対象区域

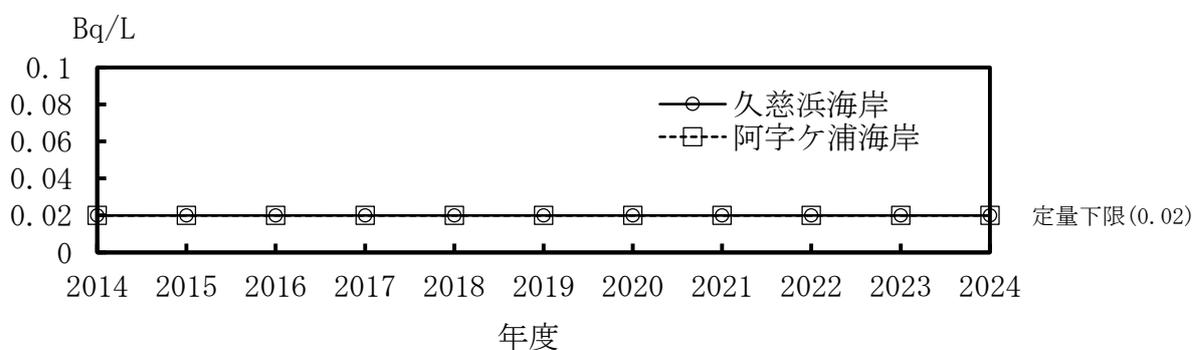


(2) 比較対照区域

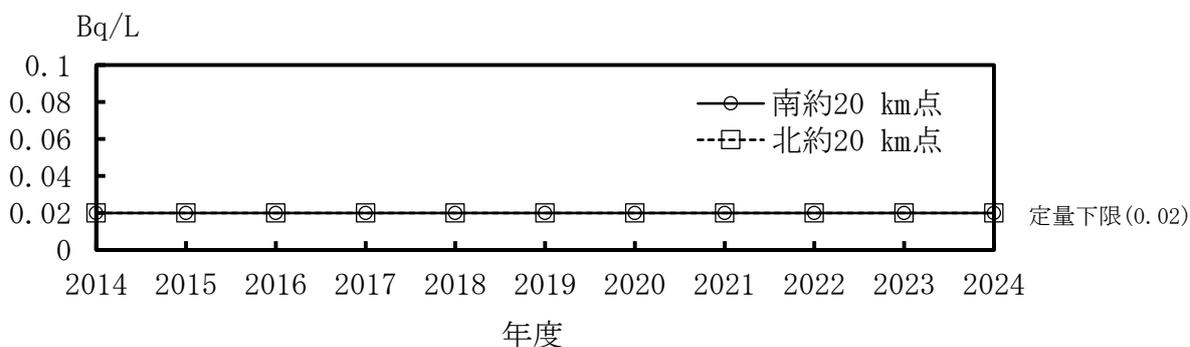


二. ^{106}Ru

(1) 監視対象区域



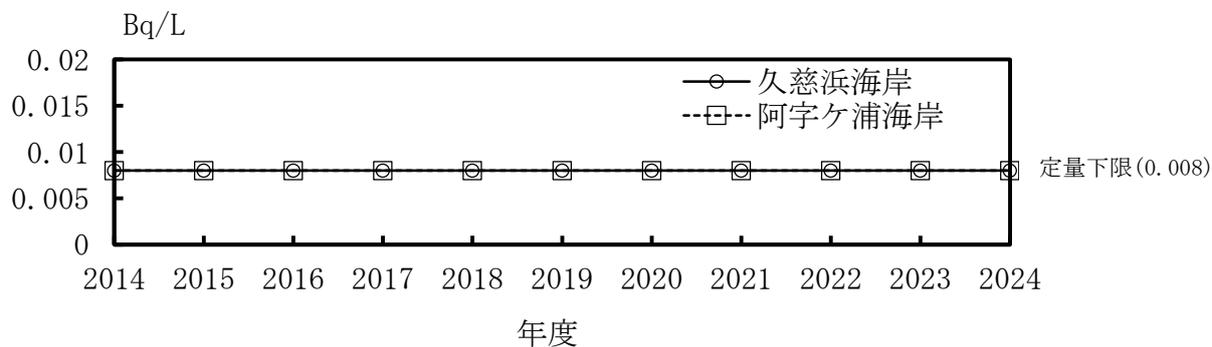
(2) 比較対照区域



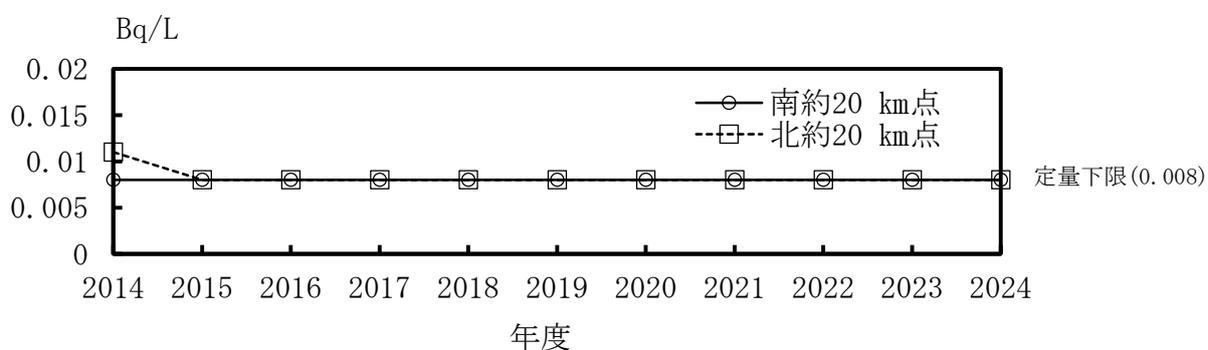
図D-15 海岸水中放射性物質濃度 (2/4)

ホ. ^{134}Cs

(1) 監視対象区域

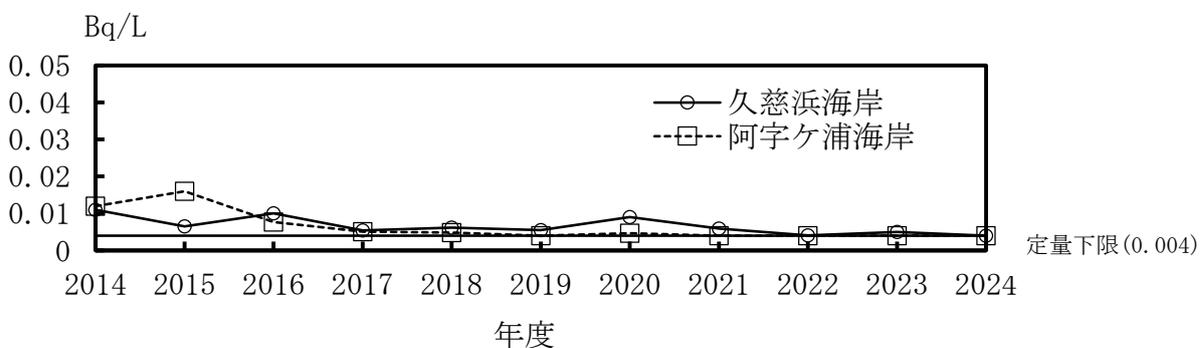


(2) 比較対照区域

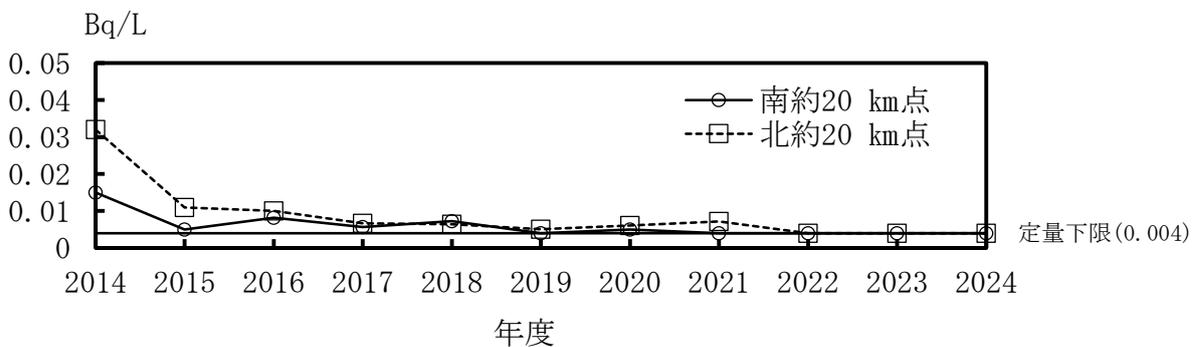


ヘ. ^{137}Cs

(1) 監視対象区域



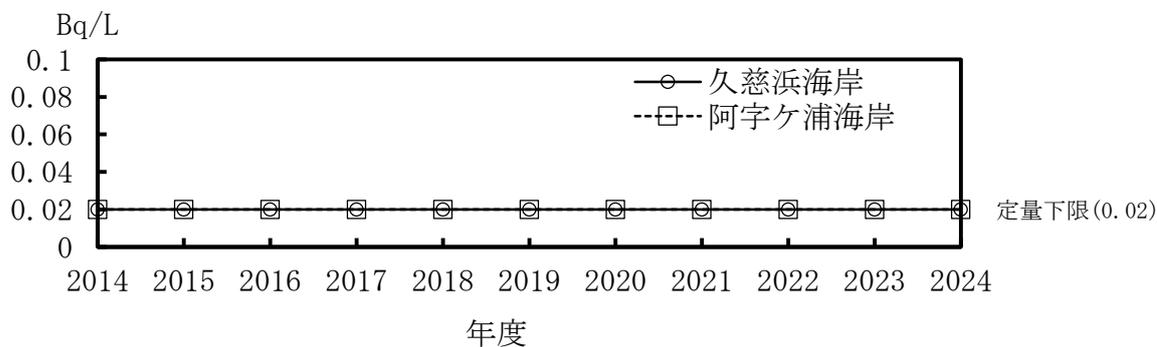
(2) 比較対照区域



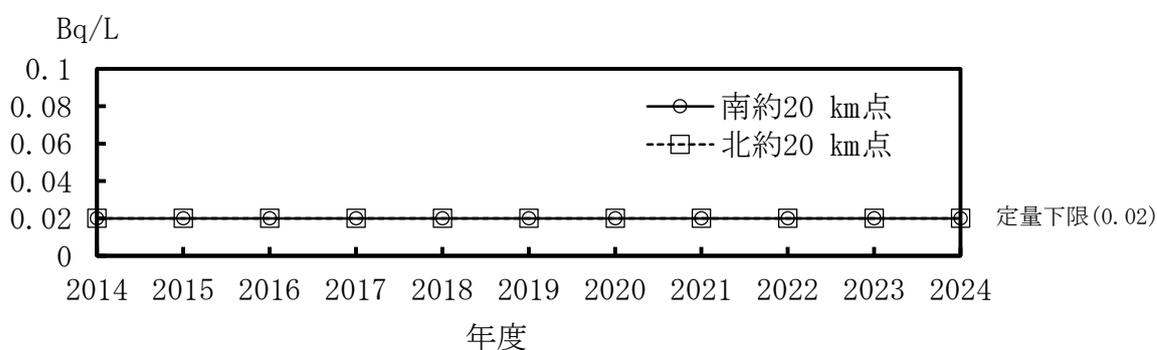
図D-15 海岸水中放射性物質濃度 (3/4)

ト. ^{144}Ce

(1) 監視対象区域

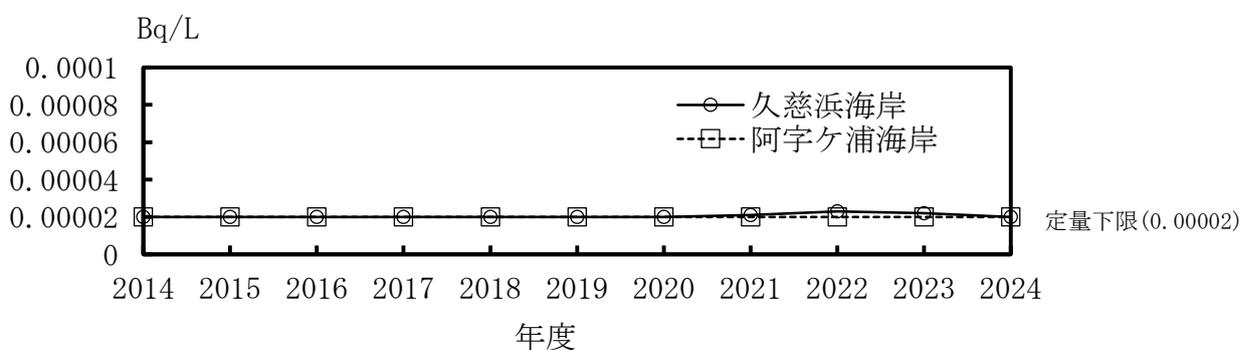


(2) 比較対照区域

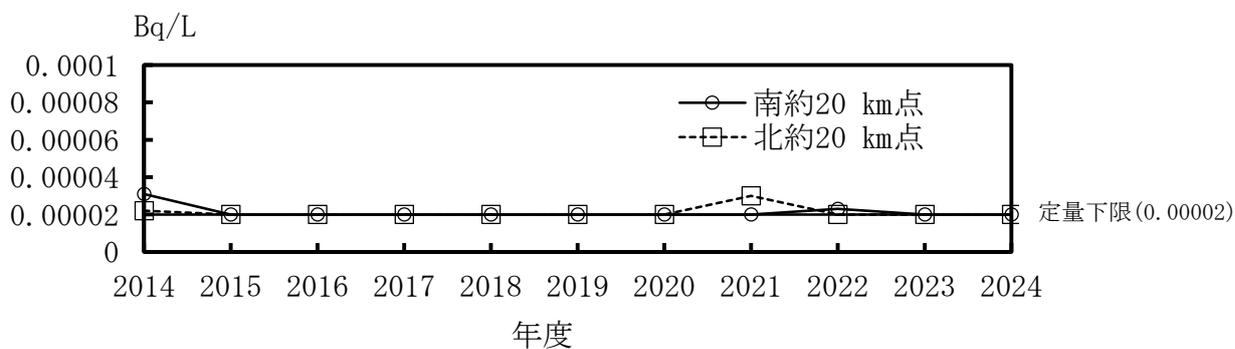


チ. $^{239,240}\text{Pu}$

(1) 監視対象区域



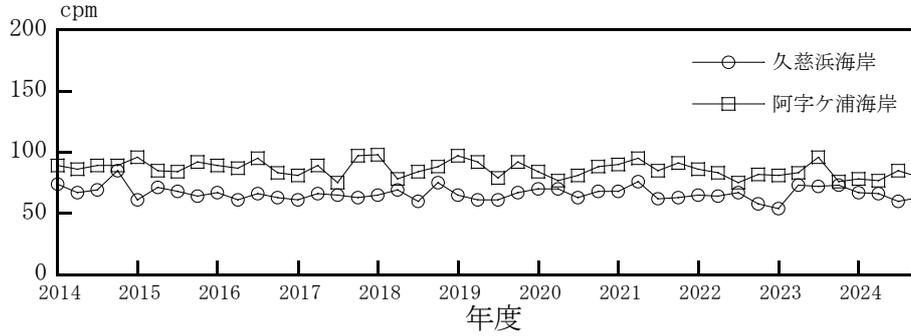
(2) 比較対照区域



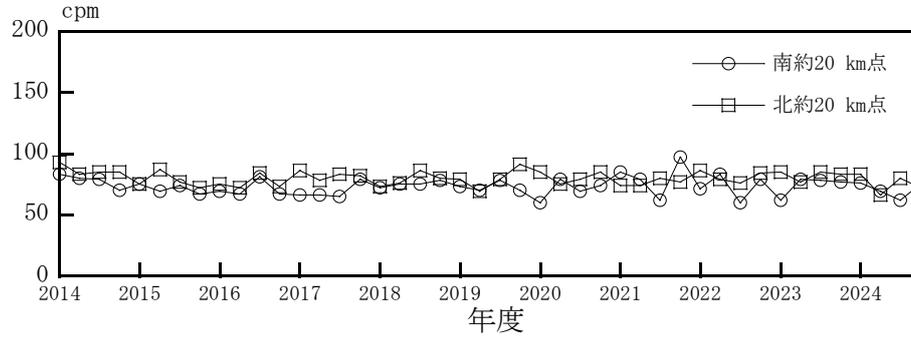
図D-15 海岸水中放射性物質濃度 (4/4)

イ. β 線表面計数率

(1) 監視対象区域

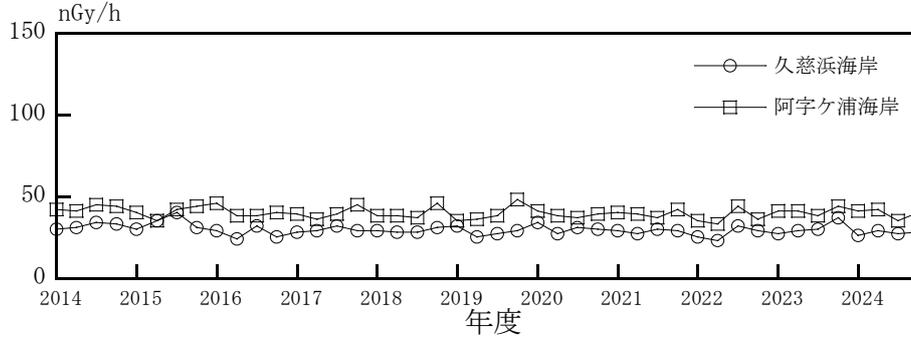


(2) 比較対照区域

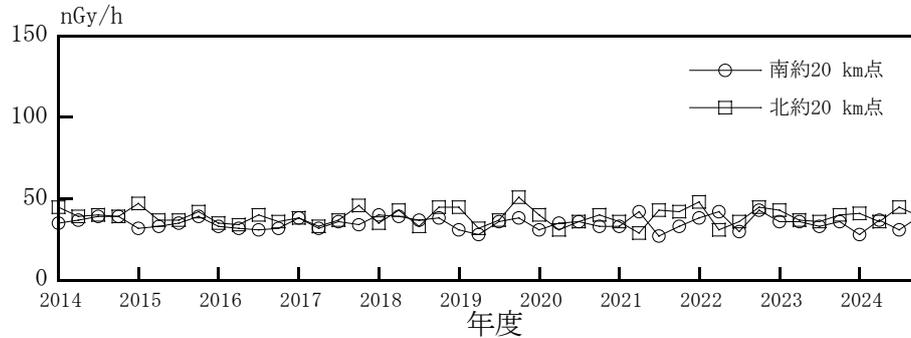


ロ. γ 線表面線量率

(1) 監視対象区域



(2) 比較対照区域

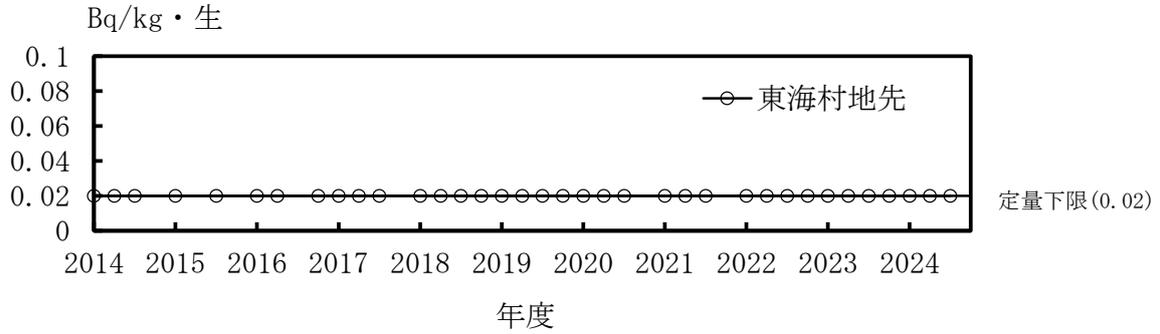


図D-16 海岸砂表面線量

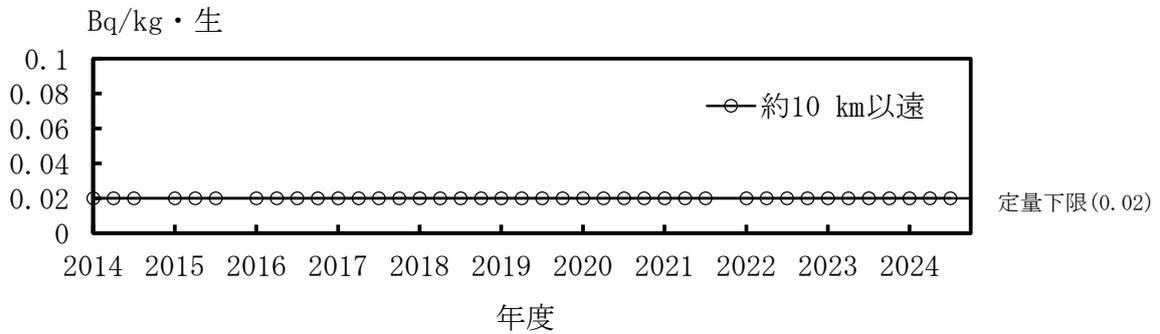
イ. ^{90}Sr

(1) シラス

(i) 監視対象海域

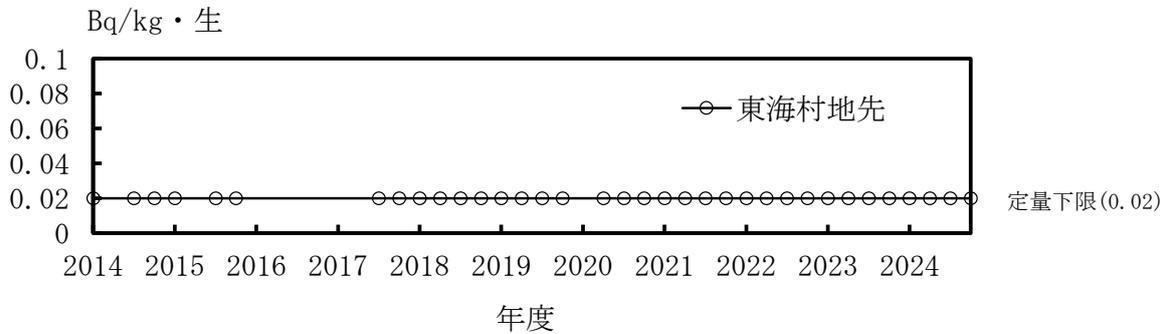


(ii) 比較対照海域

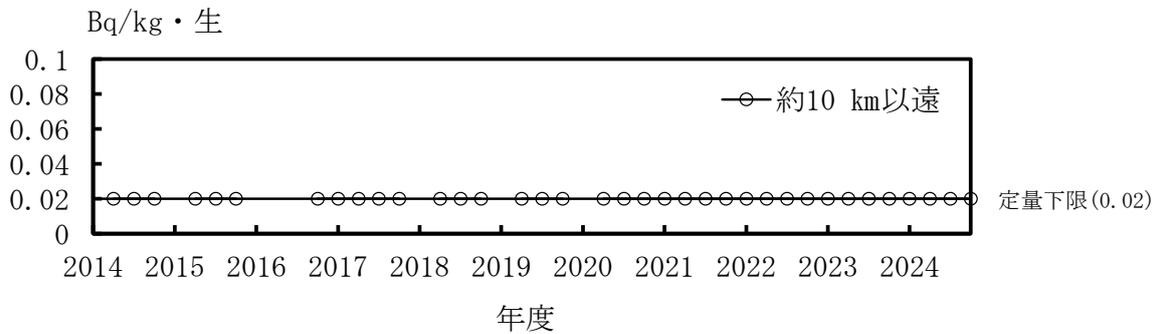


(2) カレイ又はヒラメ

(i) 監視対象海域



(ii) 比較対照海域

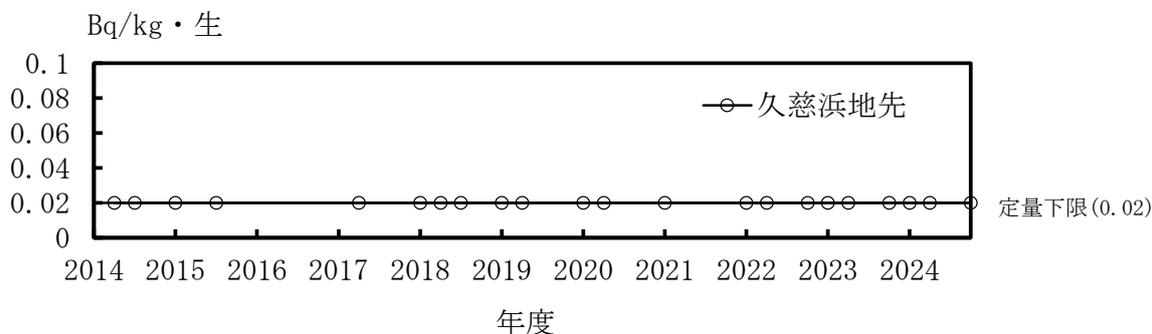


図D-17 海産生物中放射性物質濃度 (1/12)

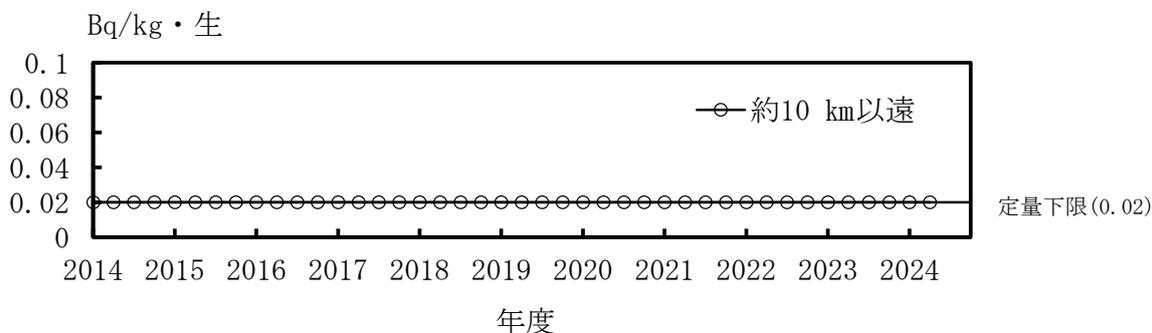
イ. ^{90}Sr

(3) 貝類

(i) 監視対象海域

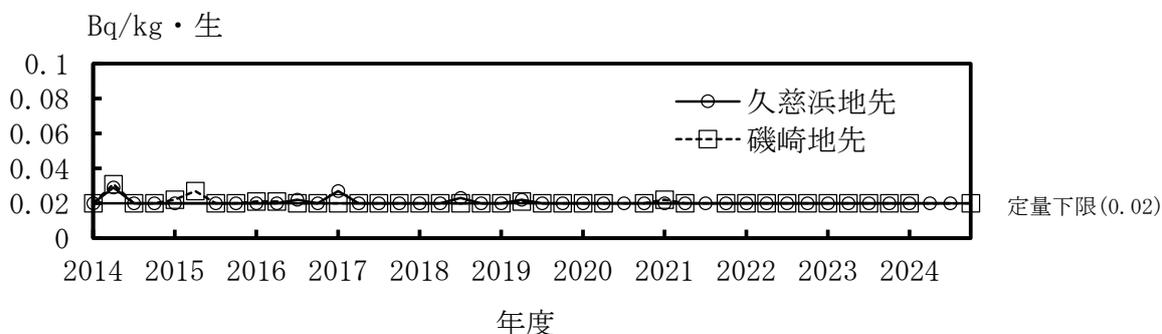


(ii) 比較対照海域

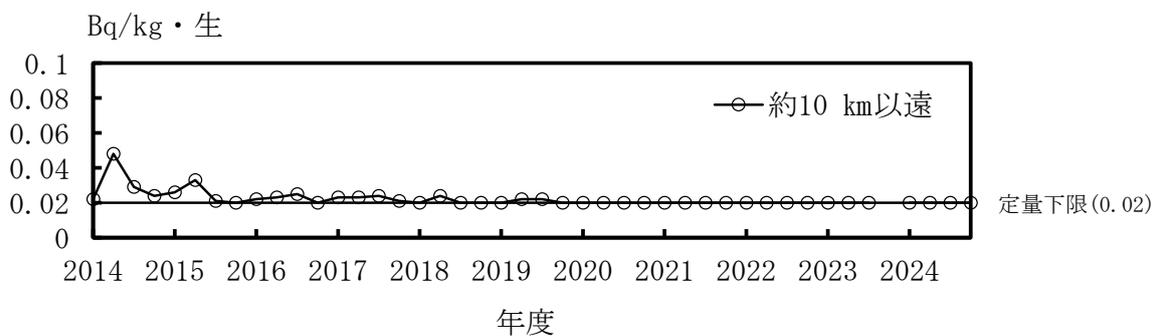


(4) 褐藻類 (ワカメ又はヒジキ等)

(i) 監視対象海域



(ii) 比較対照海域

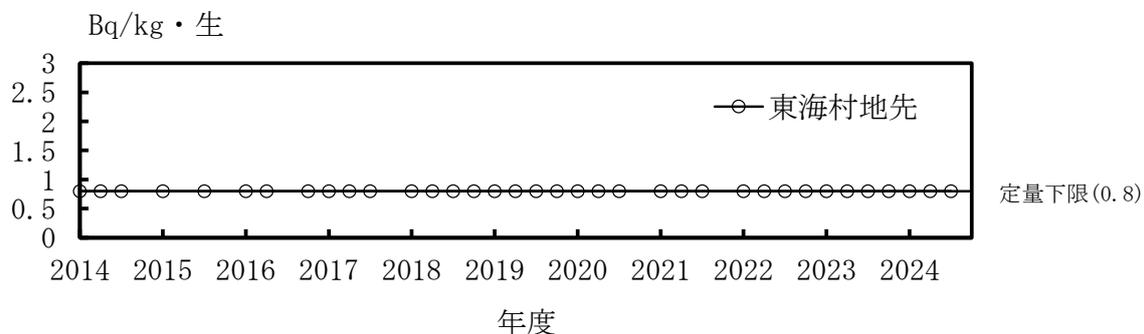


図D-17 海産生物中放射性物質濃度 (2/12)

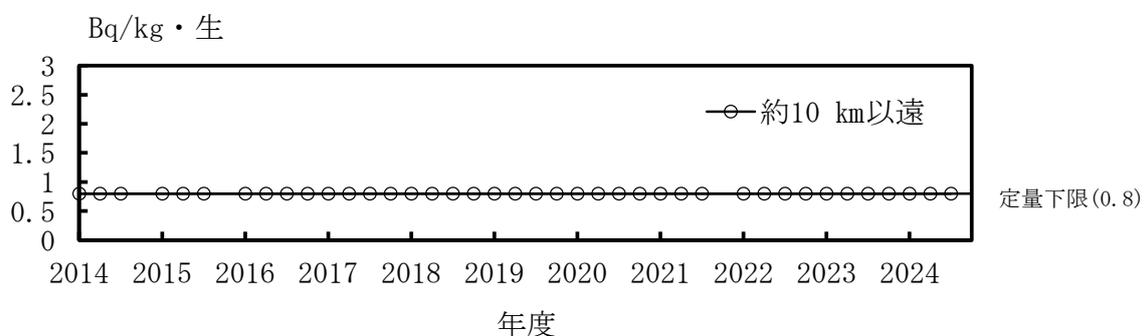
ロ. ^{106}Ru

(1) シラス

(i) 監視対象海域

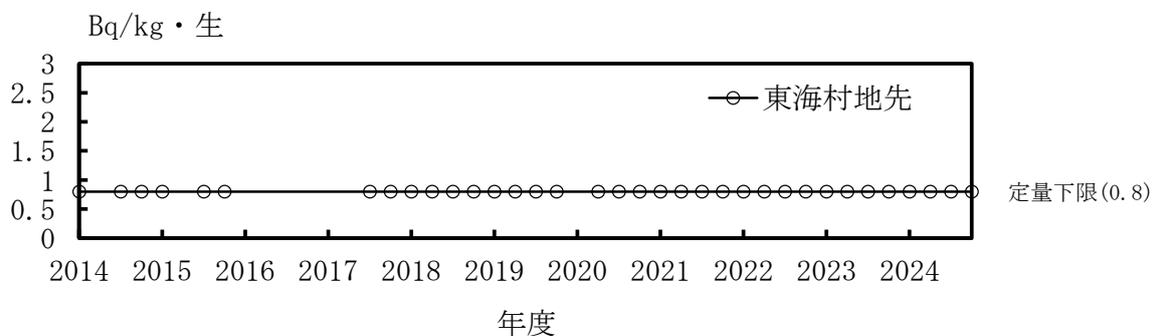


(ii) 比較対照海域

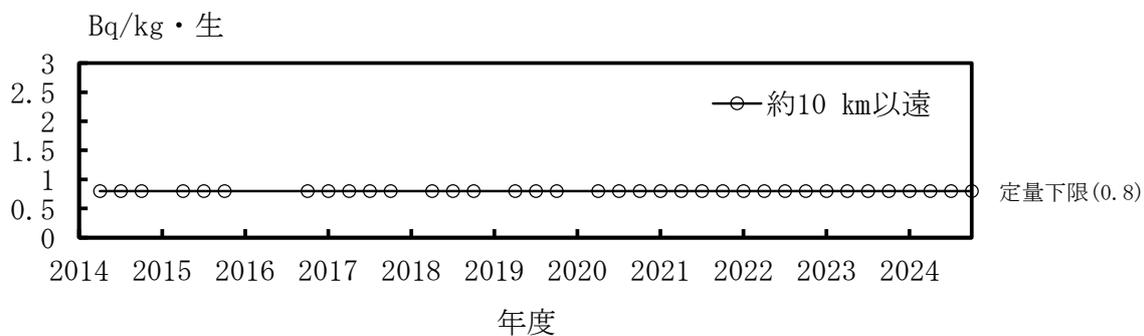


(2) カレイ又はヒラメ

(i) 監視対象海域



(ii) 比較対照海域

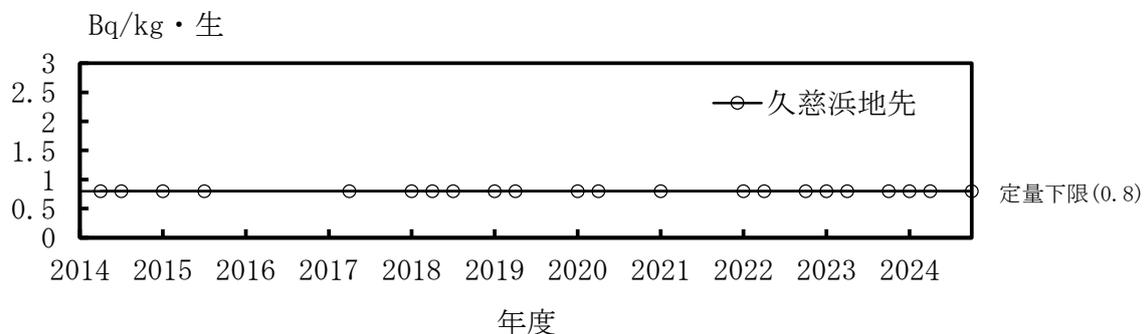


図D-17 海産生物中放射性物質濃度 (3/12)

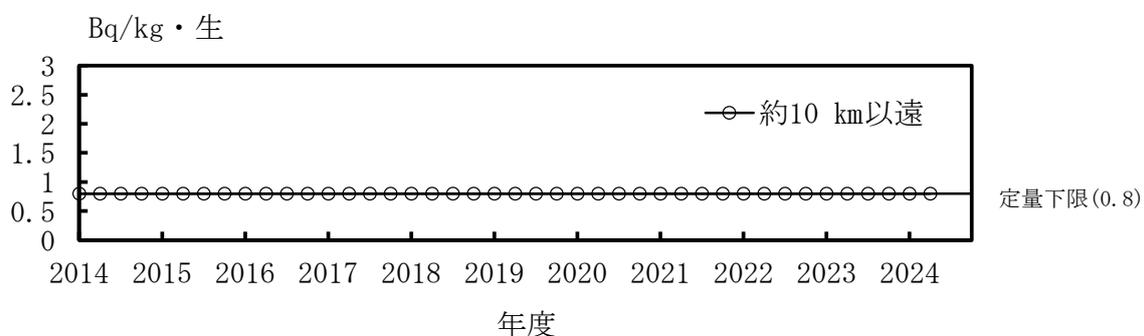
ロ. ^{106}Ru

(3) 貝類

(i) 監視対象海域

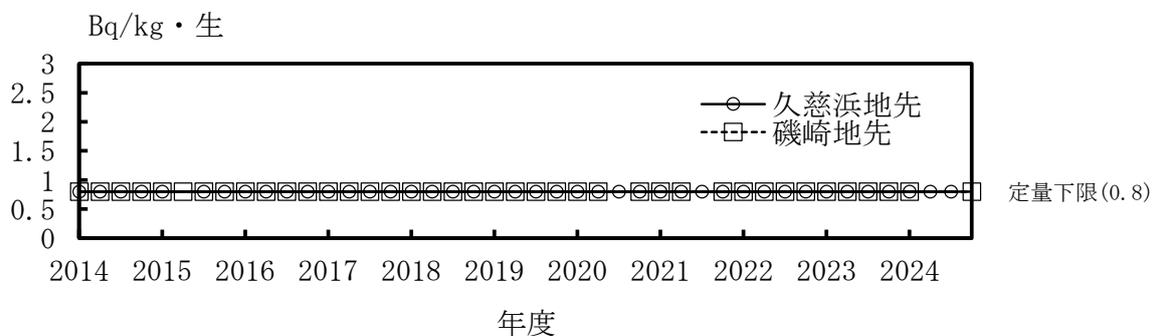


(ii) 比較対照海域

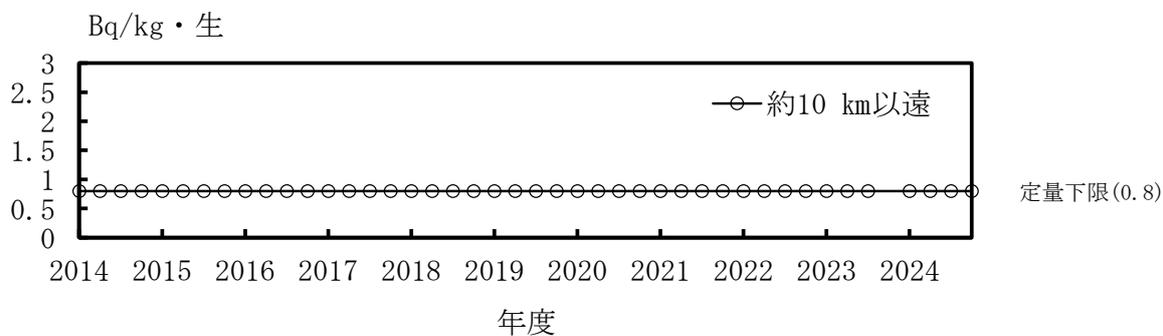


(4) 褐藻類 (ワカメ又はヒジキ等)

(i) 監視対象海域



(ii) 比較対照海域

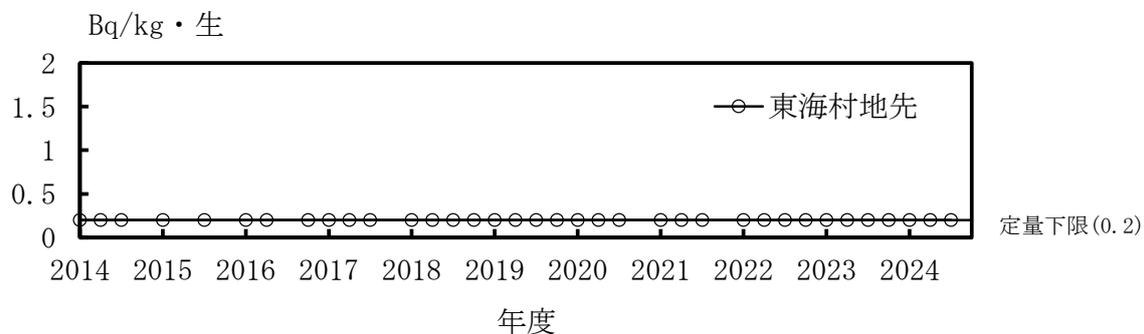


図D-17 海産生物中放射性物質濃度 (4/12)

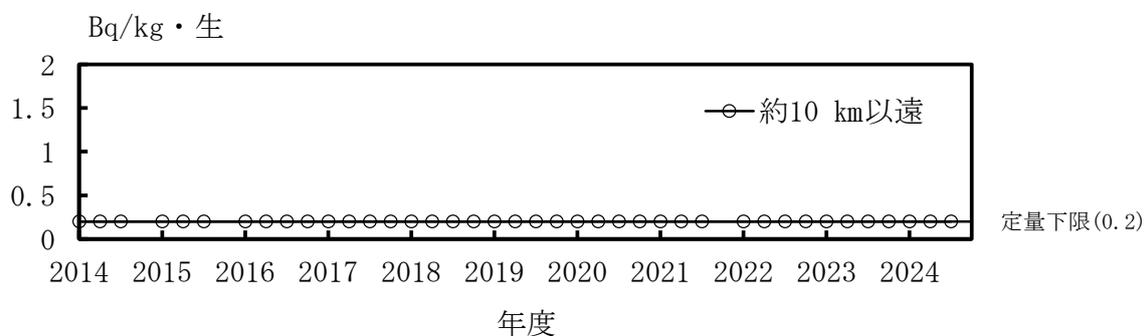
ハ. ^{134}Cs

(1) シラス

(i) 監視対象海域

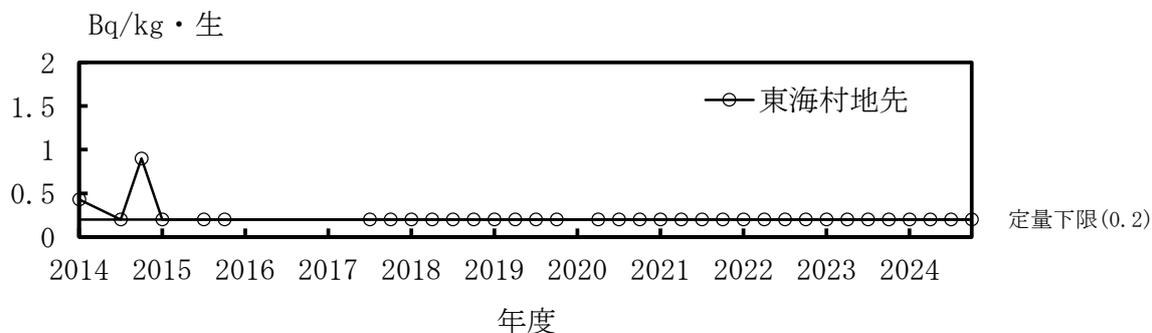


(ii) 比較対照海域

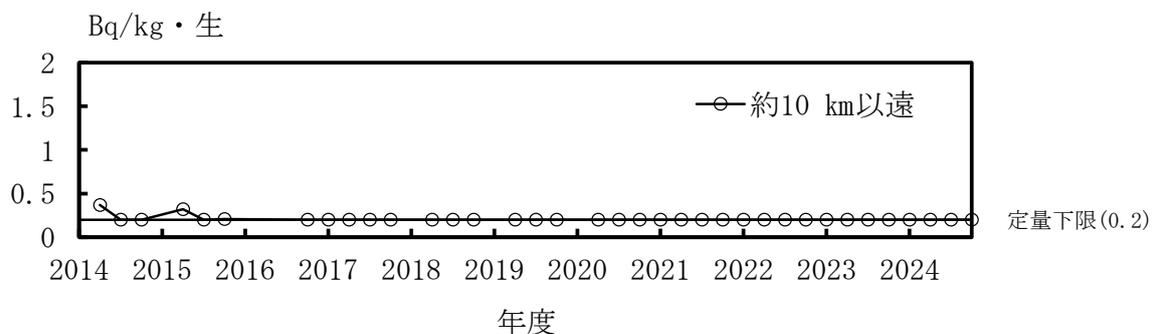


(2) カレイ又はヒラメ

(i) 監視対象海域



(ii) 比較対照海域

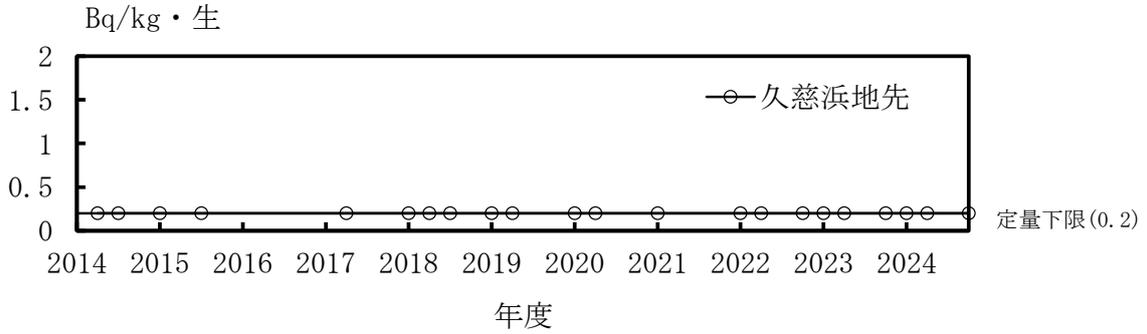


図D-17 海産生物中放射性物質濃度 (5/12)

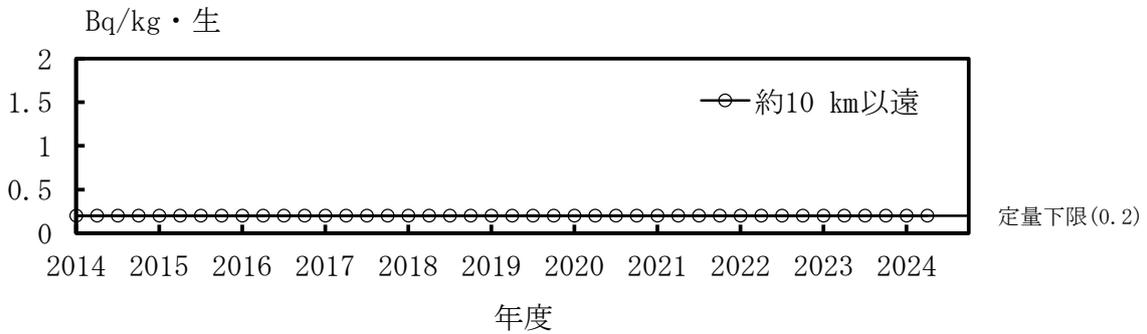
ハ. ^{134}Cs

(3) 貝類

(i) 監視対象海域

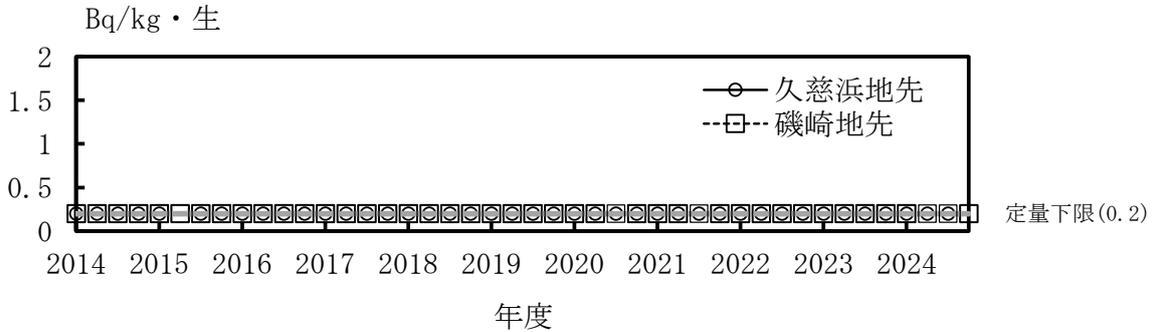


(ii) 比較対照海域

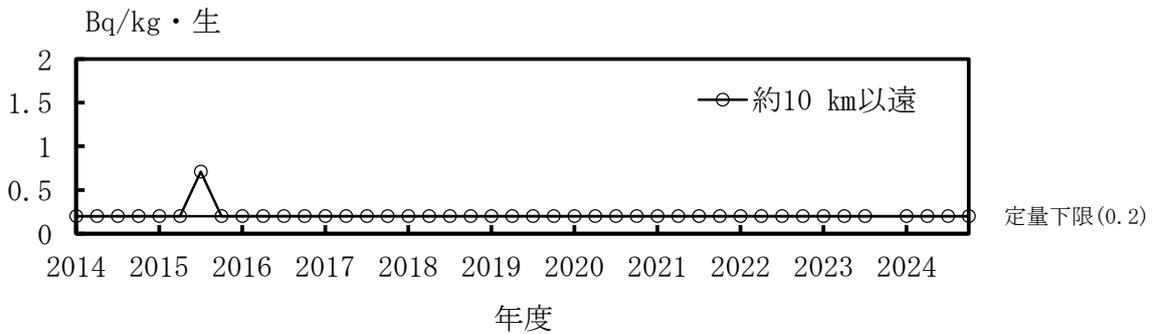


(4) 褐藻類 (ワカメ又はヒジキ等)

(i) 監視対象海域



(ii) 比較対照海域



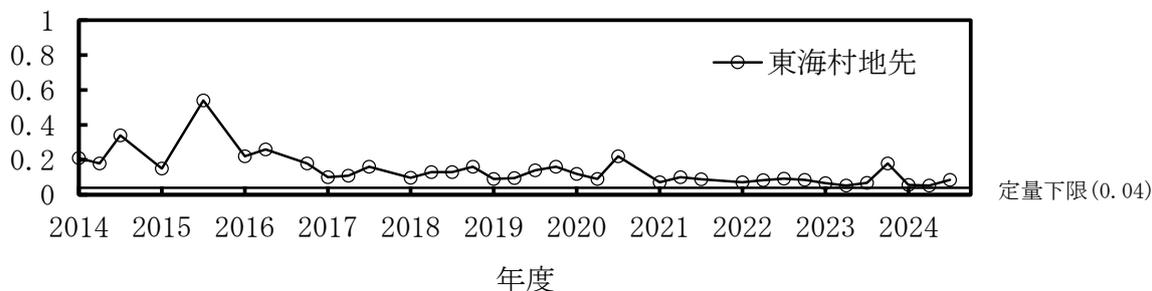
図D-17 海産生物中放射性物質濃度 (6/12)

ニ. ^{137}Cs

(1) シラス

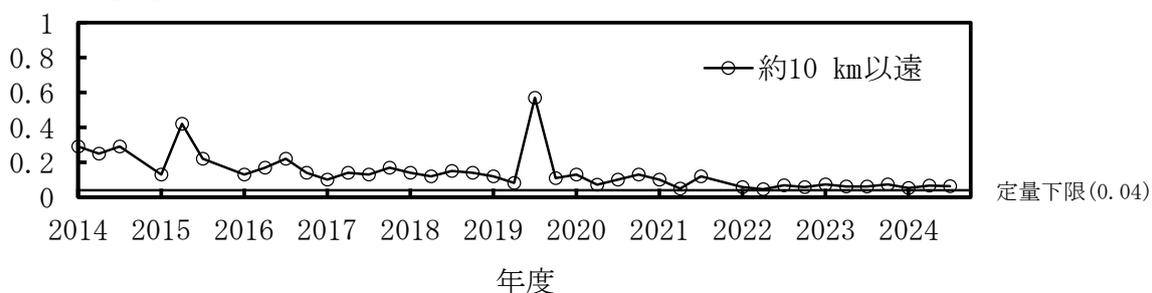
(i) 監視対象海域

Bq/kg・生



(ii) 比較対照海域

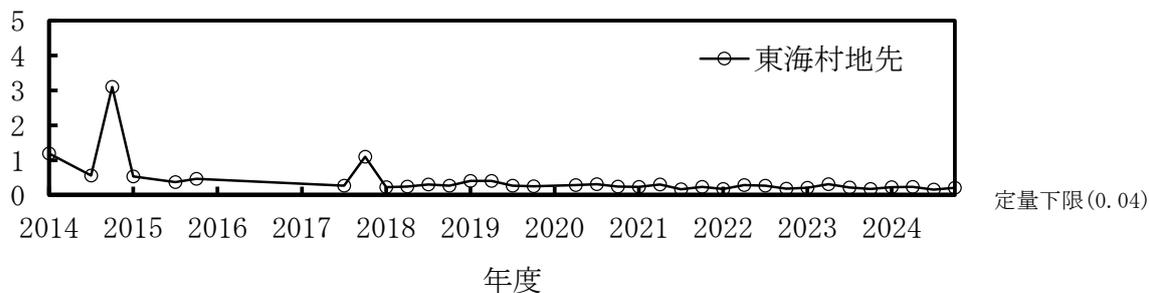
Bq/kg・生



(2) カレイ又はヒラメ

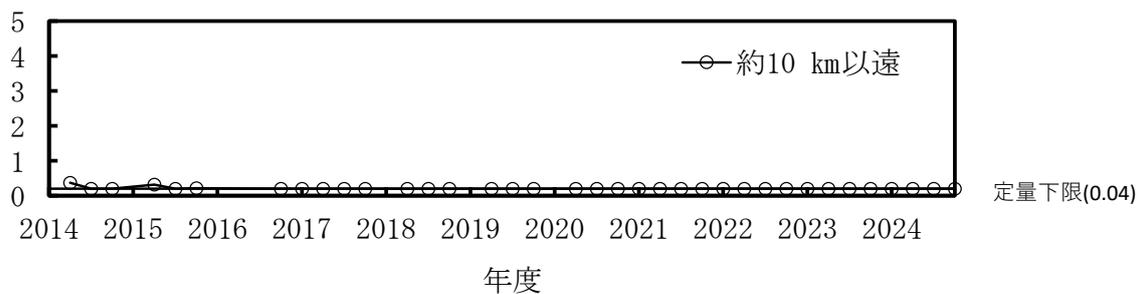
(i) 監視対象海域

Bq/kg・生



(ii) 比較対照海域

Bq/kg・生



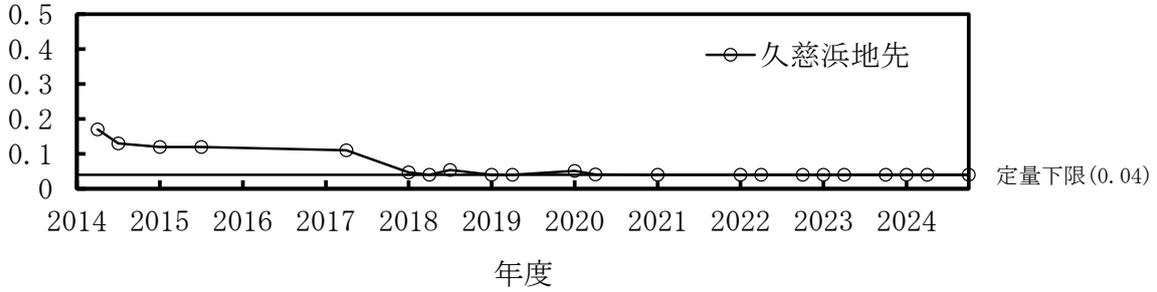
図D-17 海産生物中放射性物質濃度 (7/12)

二. ^{137}Cs

(3) 貝類

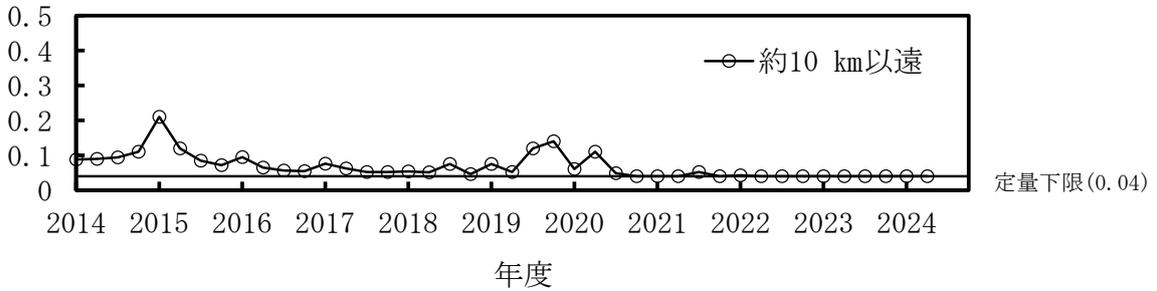
(i) 監視対象海域

Bq/kg・生



(ii) 比較対照海域

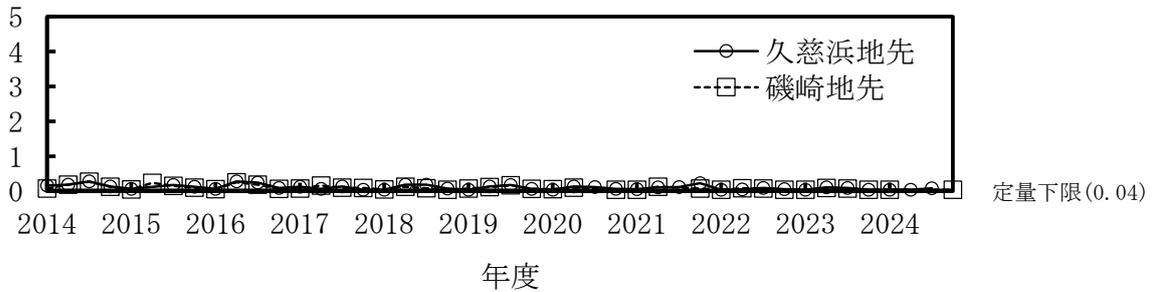
Bq/kg・生



(4) 褐藻類 (ワカメ又はヒジキ等)

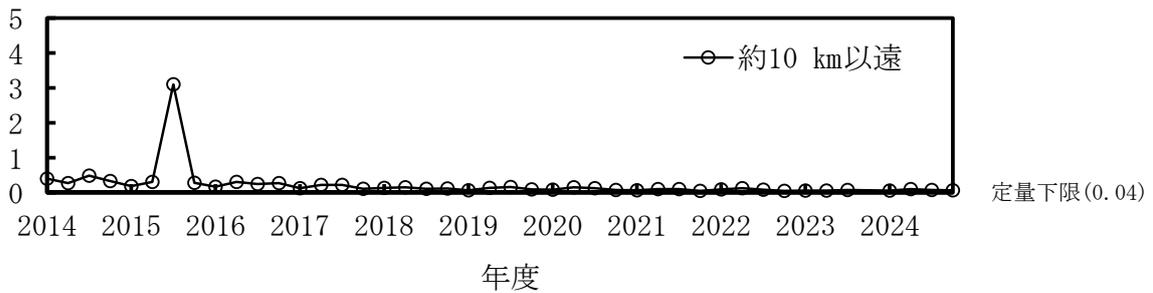
(i) 監視対象海域

Bq/kg・生



(ii) 比較対照海域

Bq/kg・生

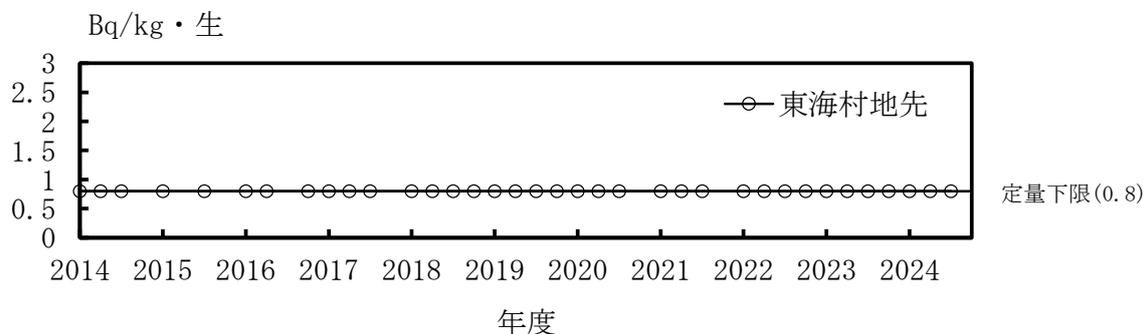


図D-17 海産生物中放射性物質濃度 (8/12)

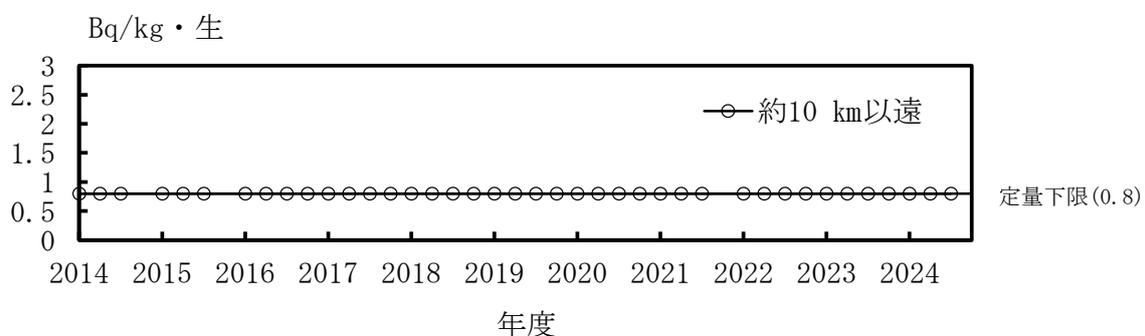
ホ. ^{144}Ce

(1) シラス

(i) 監視対象海域

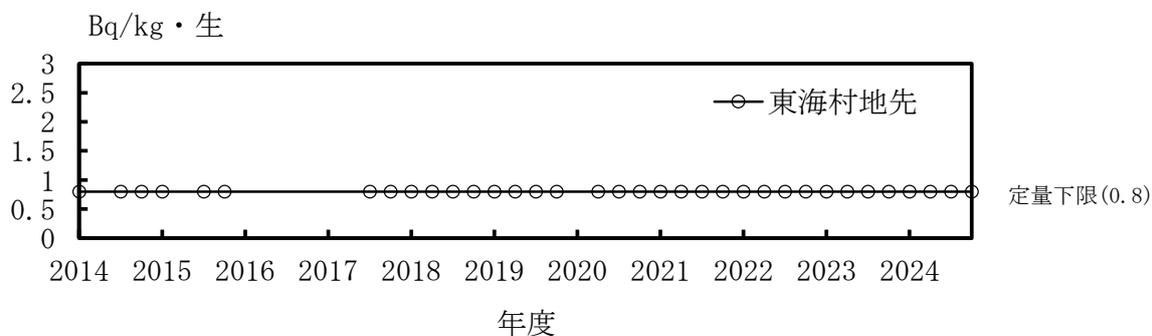


(ii) 比較対照海域

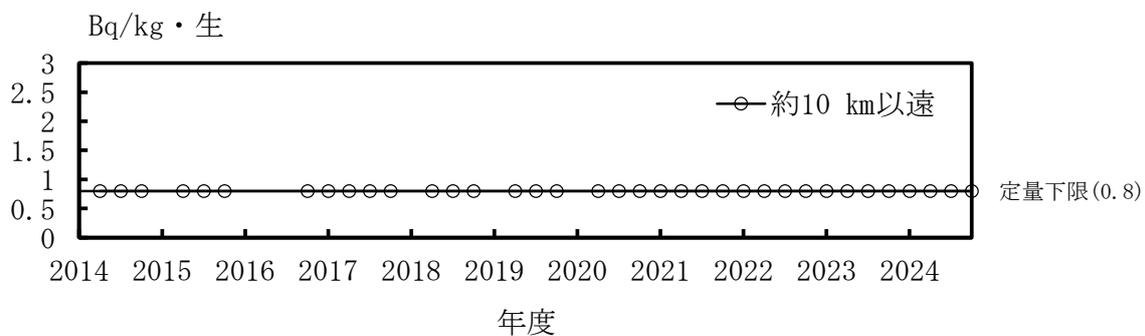


(2) カレイ又はヒラメ

(i) 監視対象海域



(ii) 比較対照海域

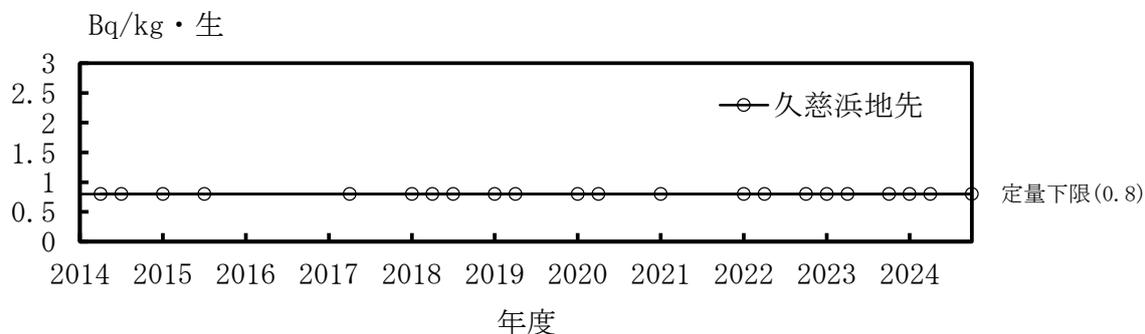


図D-17 海産生物中放射性物質濃度 (9/12)

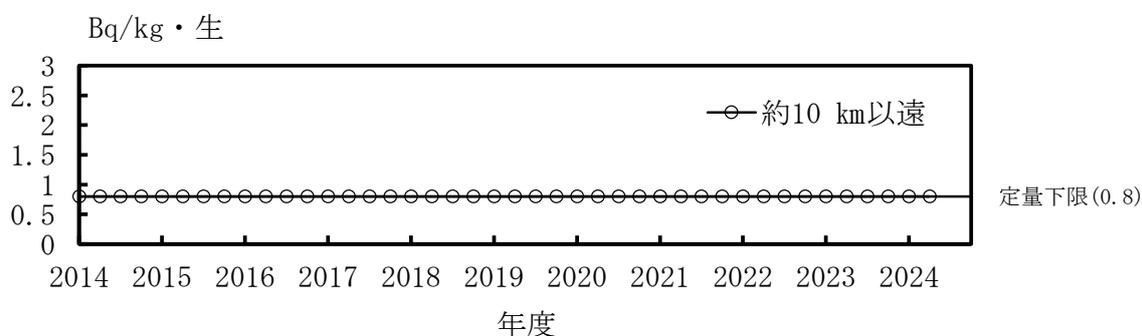
ホ. ^{144}Ce

(3) 貝類

(i) 監視対象海域

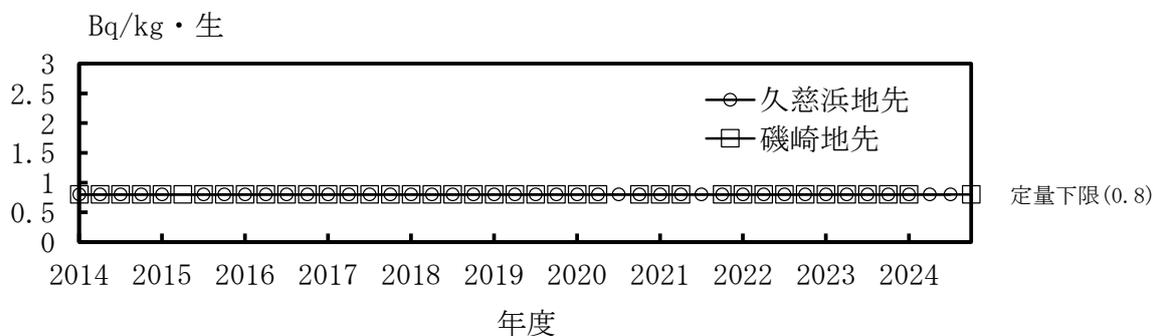


(ii) 比較対照海域

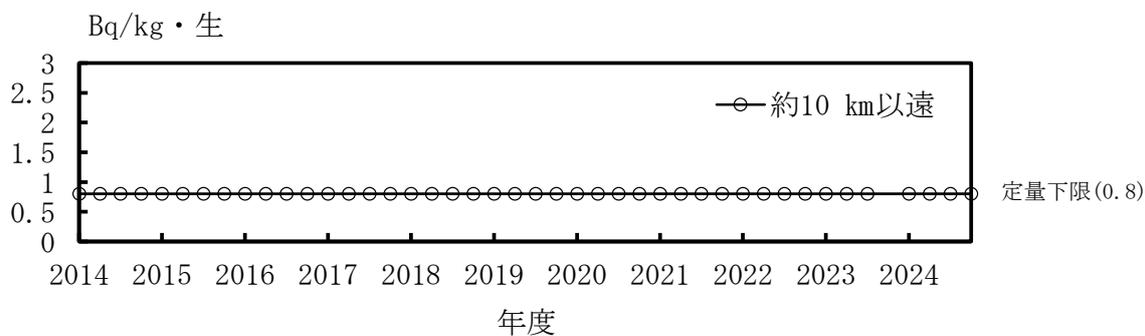


(4) 褐藻類 (ワカメ又はヒジキ等)

(i) 監視対象海域



(ii) 比較対照海域

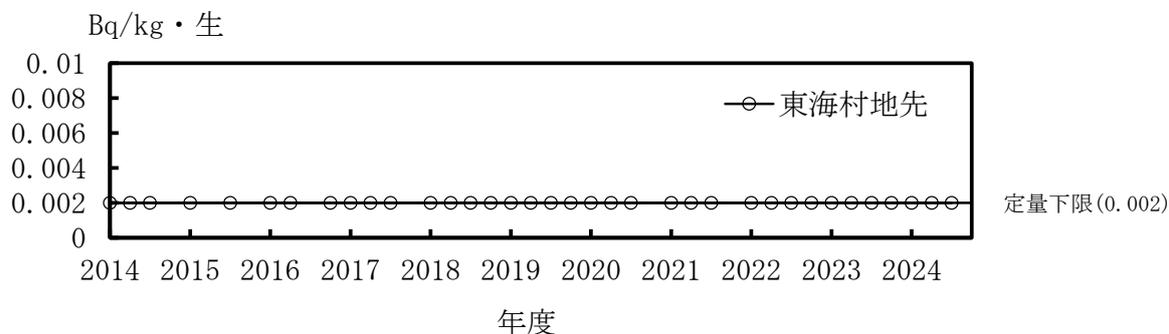


図D-17 海産生物中放射性物質濃度 (10/12)

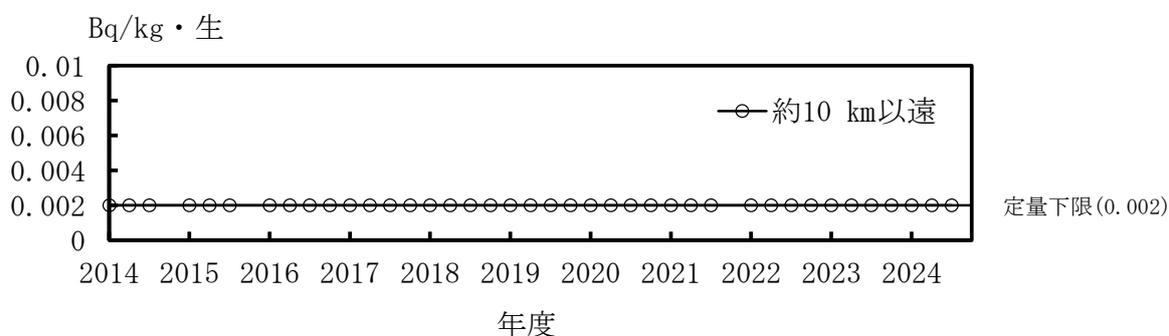
へ. $^{239, 240}\text{Pu}$

(1) シラス

(i) 監視対象海域

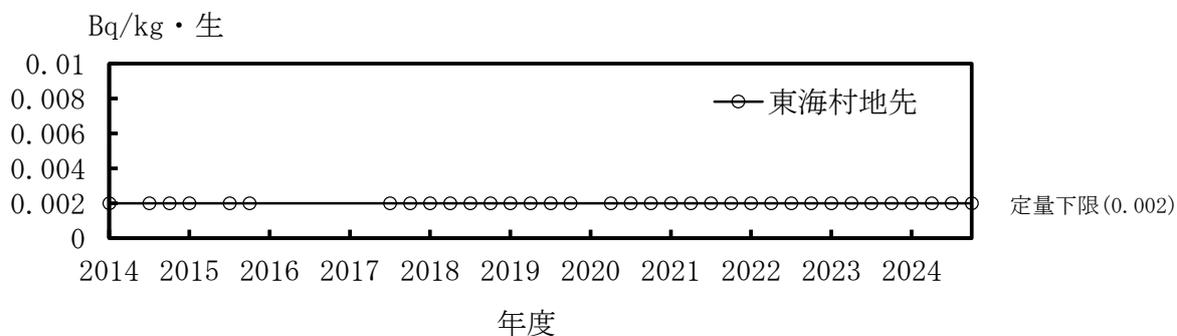


(ii) 比較対照海域

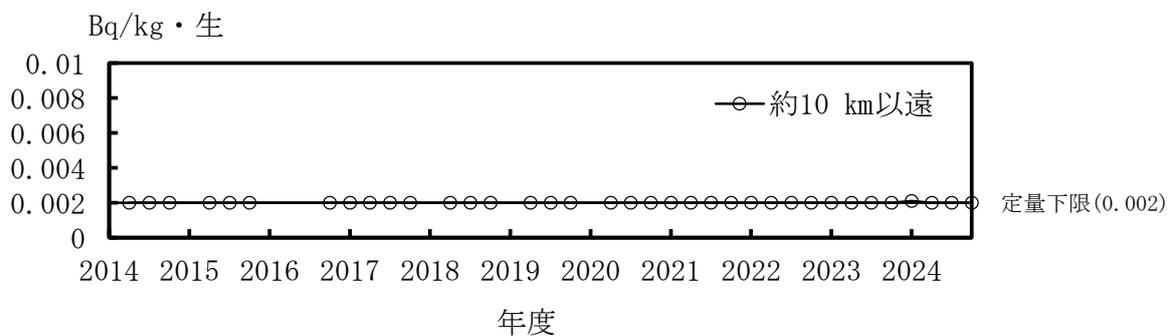


(2) カレイ又はヒラメ

(i) 監視対象海域



(ii) 比較対照海域

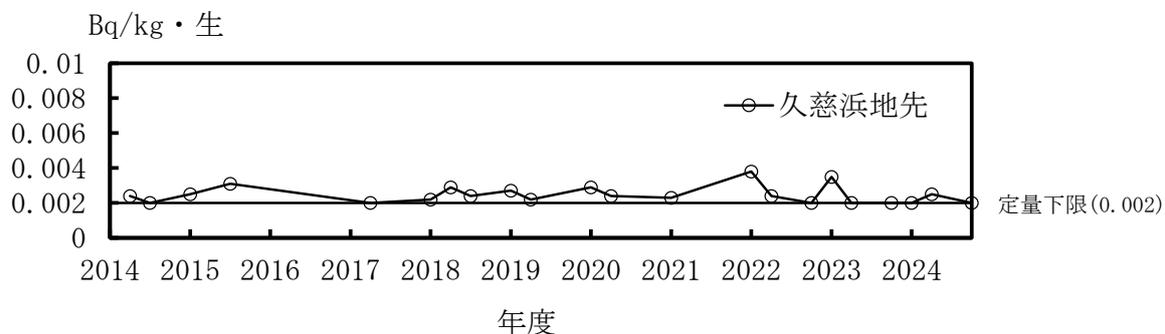


図D-17 海産生物中放射性物質濃度 (11/12)

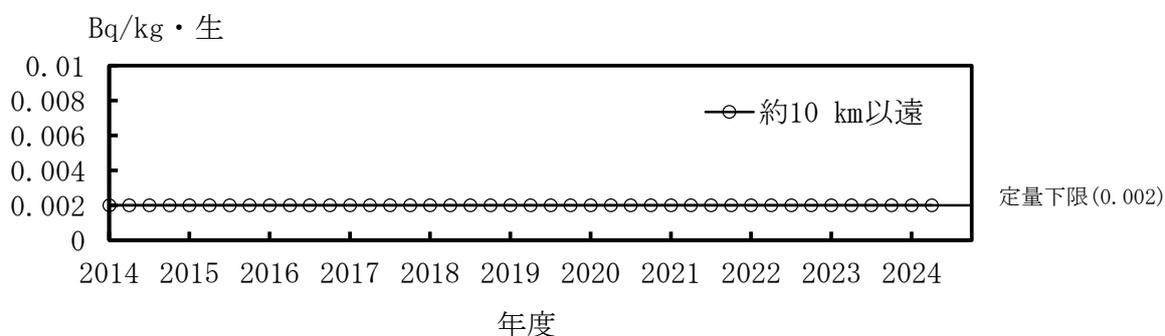
へ. $^{239,240}\text{Pu}$

(3) 貝類

(i) 監視対象海域

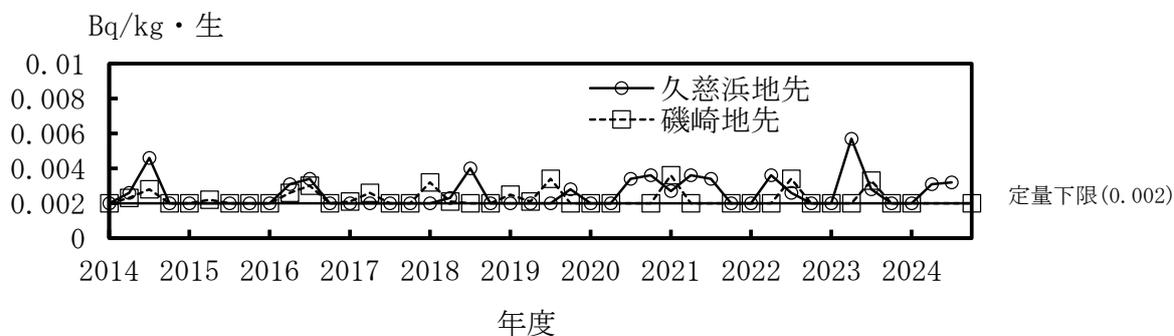


(ii) 比較対照海域

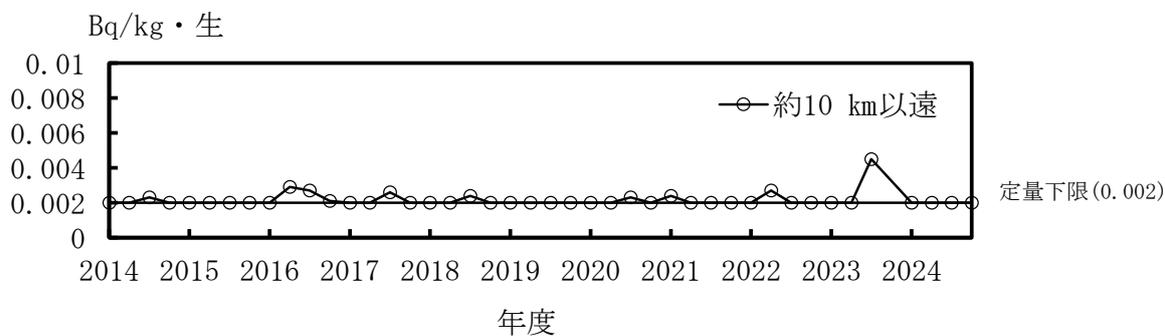


(4) 褐藻類 (ワカメ又はヒジキ等)

(i) 監視対象海域

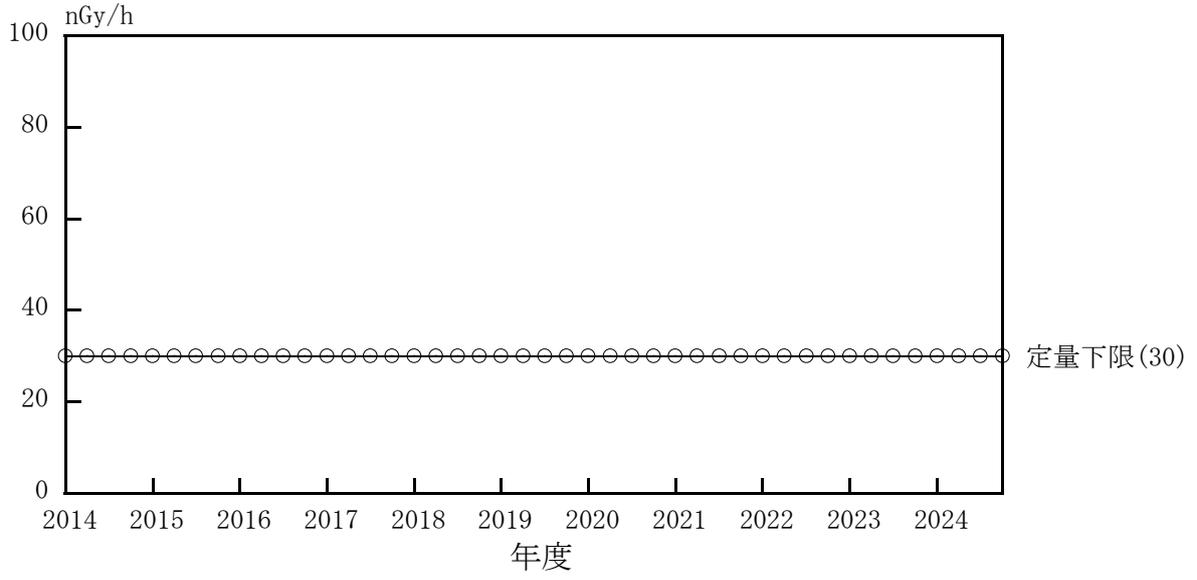


(ii) 比較対照海域

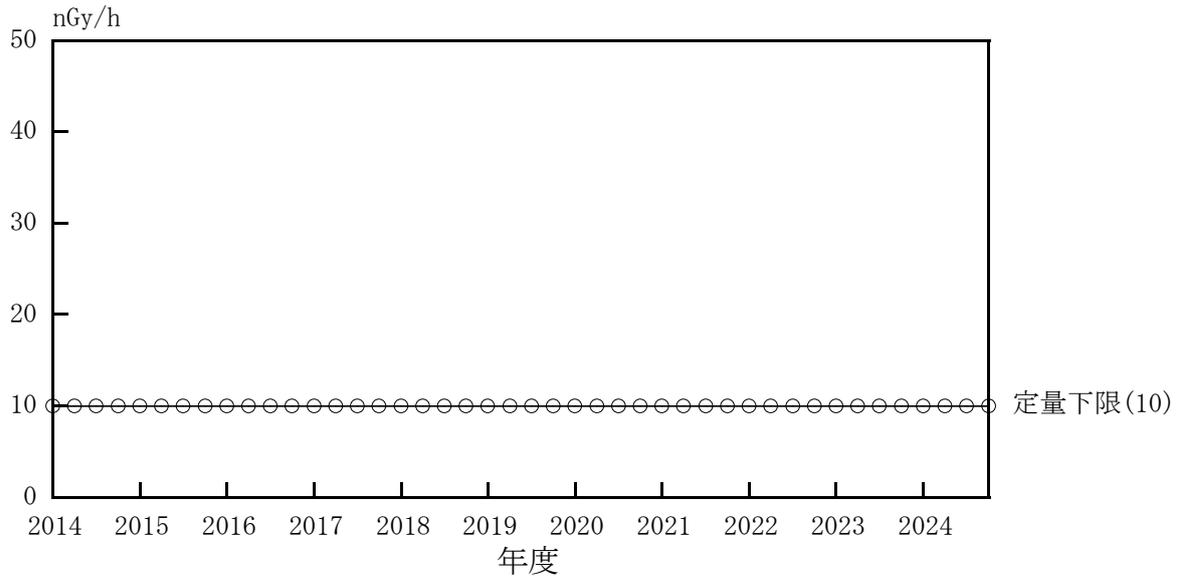


図D-17 海産生物中放射性物質濃度 (12/12)

イ. β 線吸収線量率

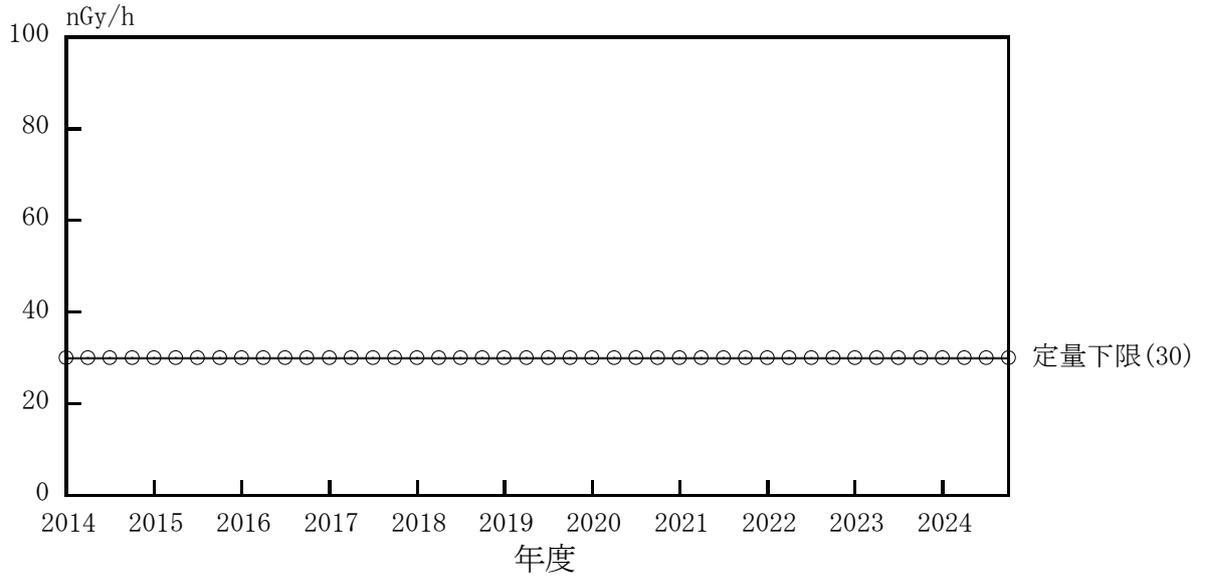


ロ. γ 線表面線量率

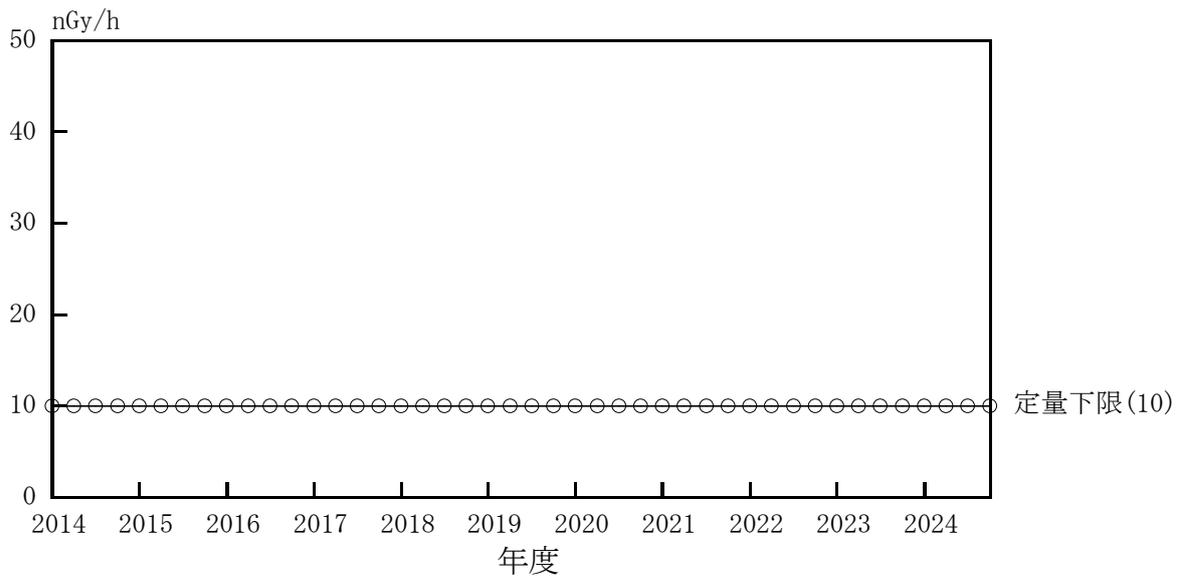


図D-18 漁網表面線量

イ. β 線吸収線量率



ロ. γ 線表面線量率



図D-19 船体表面線量

E. 気象観測結果

This is a blank page.

表 目 次

表 E-1	海拔 100 m における風向別大気安定度別風速逆数の総和	138
表 E-2	海拔 100 m における風向別大気安定度別風速逆数の平均 及び風向別風速逆数の平均	138
表 E-3	海拔 100 m における風向出現頻度	139
表 E-4	大気安定度出現頻度	139
表 E-5	海拔 100 m における風向別大気安定度出現回数	139
表 E-6	海拔 100 m 静穏時大気安定度出現回数	140
表 E-7	海拔 100 m における風速 0.5~2.0 m/s の風向出現回数	140
表 E-8	月別欠測回数（風向・風速・安定度のうち 1 項目以上が欠測した回数）	140
表 E-9	海拔 100 m における風向別平均風速	140
表 E-10	海拔 100 m における月別平均・最大風速	141
表 E-11	海拔 100 m における風速階級出現頻度	141
表 E-12	海拔 20 m における風向出現頻度	142
表 E-13	海拔 20 m における風向別平均風速	142
表 E-14	海拔 20 m における月別平均・最大風速	142
表 E-15	海拔 20 m における風速階級出現頻度	143
表 E-16	気温統計	143
表 E-17	気温出現頻度	144
表 E-18	降雨統計（0.5 mm計）	145
表 E-19	降雨率出現頻度	145

表E-1 海拔100 mにおける風向別大気安定度別風速逆数の総和 (s/m)

安定度	2024年度																	
	風向	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	全方位
A		3.00	1.68	3.74	1.69	4.50	2.40	9.92	4.04	4.28	2.19	2.30	4.59	1.40	4.00	0.66	0.57	50.96
B		11.81	17.88	37.28	19.93	18.22	27.75	39.50	44.49	20.27	16.79	24.38	26.03	38.84	51.90	38.10	23.73	456.90
C		1.74	11.99	23.59	8.32	5.42	5.89	9.86	19.05	5.74	4.69	3.35	5.26	4.26	5.69	12.03	5.89	132.78
D		76.45	144.25	138.09	67.41	36.34	31.96	45.17	50.87	61.36	60.34	48.92	45.90	47.29	77.24	113.33	95.85	1140.76
E		3.45	11.28	7.77	2.01	1.81	0.89	1.30	0.71	3.55	1.98	1.39	1.46	2.47	4.10	9.02	9.59	62.80
F		67.78	51.75	33.31	17.92	21.09	17.30	16.26	20.34	35.30	56.54	41.92	38.82	56.57	85.38	121.57	101.90	783.74
風向別風速逆数の総和		164.22	238.83	243.78	117.28	87.40	86.18	122.02	139.52	130.50	142.54	122.26	122.05	150.83	228.31	294.71	237.52	2627.94

表E-2 海拔100 mにおける風向別大気安定度別風速逆数の平均及び風向別風速逆数の平均 (s/m)

安定度	2024年度																	
	風向	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	全方位
A		0.72	0.54	0.61	0.54	1.09	0.58	0.47	0.40	0.84	0.71	0.74	0.50	0.65	0.64	0.56	0.51	0.59
B		0.50	0.41	0.36	0.39	0.64	0.44	0.33	0.27	0.35	0.39	0.42	0.47	0.48	0.46	0.41	0.44	0.40
C		0.25	0.16	0.18	0.22	0.42	0.26	0.25	0.19	0.19	0.17	0.18	0.25	0.20	0.27	0.20	0.20	0.20
D		0.32	0.18	0.21	0.37	0.49	0.42	0.45	0.26	0.25	0.28	0.30	0.37	0.37	0.36	0.27	0.26	0.27
E		0.15	0.17	0.24	0.25	0.26	0.30	0.26	0.18	0.17	0.15	0.15	0.15	0.21	0.19	0.18	0.17	0.18
F		0.31	0.33	0.47	0.54	0.67	0.64	0.64	0.47	0.32	0.38	0.37	0.39	0.37	0.35	0.27	0.28	0.34
風向別風速逆数の平均		0.32	0.21	0.25	0.37	0.55	0.44	0.39	0.27	0.28	0.31	0.34	0.38	0.38	0.37	0.27	0.27	0.30

表E-3 海拔100 mにおける風向出現頻度 (%)

風向 %	2024年度															
	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW
	5.9	12.9	11.4	3.6	1.8	2.2	3.5	5.9	5.3	5.2	4.1	3.6	4.5	7	12.3	10.1

表E-4 大気安定度出現頻度 (%)

気象条件で 求まる分類 大気拡散計算 に用いる分類	2024年度										
	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	
	1.0	5.5	7.7	1.8	5.8	1.6	46.3	3.9	6.3	20.1	
	A	B	C	D	E	F					
	1.0	13.2	7.6	47.9	3.9	26.4					

表E-5 海拔100 mにおける風向別大気安定度出現回数 (回)

風向 安定度	2024年度															
	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW
A	4.1	3.1	6.1	3.1	4.1	4.1	21.1	10.1	5.1	3.1	3.1	9.1	2.2	6.2	1.2	1.1
B	23.5	43.5	104.6	50.5	28.5	62.4	119.5	164.3	57.3	43.4	57.4	55.5	80.6	111.8	92.7	53.5
C	7.1	77.1	130.1	37.1	13.1	23.1	39.1	102.0	31.0	27.1	19.1	21.1	21.1	21.1	60.1	30.1
D	242.0	785.9	649.1	181.0	73.9	75.8	100.9	196.6	243.6	215.8	162.8	124.9	126.1	212.5	413.3	374.9
E	23.0	65.0	33.0	8.0	7.0	3.0	5.0	4.0	21.0	13.0	9.0	10.0	12.0	22.0	51.0	57.0
F	221.5	157.4	70.7	33.5	31.3	27.2	25.3	42.9	110.0	150.2	112.3	100.4	153.7	241.3	456.0	369.3

注：風速0.5 m/s未満の場合の補正を含む。

表E-6 海拔100 m静穏時大気安定度出現回数 (回)

安定度	2024年度						
	A	B	C	D	E	F	A~F
回数	2	8	1	15	0	23	49
頻度 (%)	4	16	2	31	0	47	100

表E-7 海拔100 mにおける風速0.5~2.0 m/sの風向出現回数 (回)

風向	2024年度														
	N	NNE	NE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW
回数	63	59	69	62	55	48	55	40	50	52	59	72	96	84	56

表E-8 月別欠測回数 (風向・風速・安定度のうち1項目以上が欠測した回数) (回)

	2024年度													
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度間
回数	0	3	1	1	2	2	0	3	7	10	5	6	40	
頻度 (%)	0	0.4	0.1	0.1	0.3	0.3	0.3	0	0.4	0.9	1.3	0.7	0.8	0.5

表E-9 海拔100 mにおける風向別平均風速 (m/s)

風向	2024年度											全方位				
	N	NNE	NE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW		W	WNW	NW	NNW
年度間	4.4	6.6	5.9	3.7	2.7	3.2	3.3	4.7	4.8	4.6	3.8	3.7	3.7	4.7	4.8	4.8

表E-10 海拔100 mにおける月別平均・最大風速 (m/s)

項目	2024年度													
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度間
平均風速		4.5	5.4	3.8	3.5	4.6	5.7	5.4	4.9	4.6	4.7	4.9	5.2	4.8
最大風速		13.2	13.3	13.6	10.4	17.3	14.7	15.9	13.9	11.3	11.0	15.1	15.3	17.3

表E-11 海拔100 mにおける風速階級出現頻度 (%)

m/s	2024年度													
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度間
< 0.5		0.7	0.1	1.0	1.6	1.1	0.4	0.1	0.4	0.4	0.3	0	0.5	0.6
0.5 ~ 1.0		3.5	1.5	3.8	5.5	3.1	2.4	1.6	1.4	1.5	2.5	1.8	1.2	2.5
1.1 ~ 1.9		8.6	5.4	11.3	16.6	8.0	7.2	6.6	4.9	4.7	5.7	5.7	5.4	7.5
2.0 ~ 2.9		16.1	11.5	21.8	22.6	15.2	13.8	11.6	10.7	12.1	11.4	9.9	11.9	14.1
3.0 ~ 3.9		18.5	15.8	20.4	20.2	15.8	13.4	16.0	16.0	18.3	14.9	18.6	16.1	17.0
4.0 ~ 4.9		13.3	13.6	17.7	12.5	17.3	10.2	15.7	22.7	22.1	21.7	22.8	14.8	17.0
5.0 ~ 5.9		12.6	13.0	9.3	9.4	15.9	8.5	10.5	19.0	19.3	17.6	15.7	16.5	13.9
6.0 ~ 6.9		10.1	11.1	7.6	5.9	10.4	9.3	9.9	10.3	11.5	14.4	9.0	12.6	10.2
7.0 ~ 7.9		8.5	10.5	3.9	2.7	4.6	9.3	8.9	5.6	6.0	7.4	6.7	7.5	6.8
8.0 ~ 8.9		5.1	6.2	1.7	2.0	3.1	7.5	6.5	3.3	1.6	2.3	4.6	4.7	4.1
9.0 ~ 9.9		1.4	4.9	0.7	0.8	2.3	5.7	5.9	3.9	1.4	1.4	2.4	2.8	2.8
10.0 ~ 14.9		1.5	6.5	0.8	0.1	3.0	12.3	6.6	1.7	1.1	0.5	2.5	5.6	3.5
15.0 ≧		0	0	0	0	0.4	0	0.1	0	0	0	0.1	0.3	0.1

表E-12 海拔20 mにおける風向出現頻度 (%)

風向	2024年度															
	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW
年度間	3.5	4.4	11.6	9.0	4.0	1.5	4.6	3.4	2.5	4.0	4.7	5.1	13.6	12.8	8.2	5.1

表E-13 海拔20 mにおける風向別平均風速 (m/s)

風向	2024年度											全方位					
	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	
年度間	2.3	3.2	4.1	3.1	2.3	1.9	2.7	2.6	2.6	2.0	2.5	2.1	1.8	1.7	2.2	2.7	2.5

表E-14 海拔20 mにおける月別平均・最大風速 (m/s)

項目	2024年度													
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度間
平均風速	2.5	2.8	2.1	1.9	2.5	3.1	2.7	2.3	2.2	2.2	2.4	2.8	2.5	2.5
最大風速	8.1	8.4	9.1	5.9	9.5	9.2	8.4	7.7	7.0	6.2	9.0	9.1	9.5	9.5

表E-15 海拔20 mにおける風速階級出現頻度 (%)

m/s	2024年度													
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度間
< 0.5		3.3	1.9	4.0	4.8	2.8	2.8	1.2	1.0	0.1	1.2	0.6	0.4	2.0
0.5 ~ 1.0		13.8	7.0	16.8	16.8	12.7	9.9	7.4	6.4	3.8	4.5	5.5	5.0	9.2
1.1 ~ 1.9		27.4	26.9	33.1	36.6	25.1	22.7	33.5	39.2	40.6	42.8	42.3	30.9	33.3
2.0 ~ 2.9		21.5	25.2	23.2	26.5	26.1	16.7	19.6	33.9	39.1	35.7	25.3	25.3	26.5
3.0 ~ 3.9		15.8	17.1	12.4	10.8	18.9	14.9	15.1	9.6	10.7	8.7	13.6	17.8	13.8
4.0 ~ 4.9		12.5	11.3	8.3	3.8	8.8	14.8	12.6	6.6	3.9	5.3	6.0	12.2	8.9
5.0 ~ 5.9		3.3	7.0	1.3	0.7	2.6	9.7	5.2	2.4	0.9	1.4	4.2	4.7	3.6
6.0 ~ 6.9		1.8	2.6	0.3	0	1.3	5.7	3.6	0.7	0.7	0.4	1.3	2.3	1.7
7.0 ~ 7.9		0.3	0.7	0.4	0	0.5	1.5	1.3	0.3	0.1	0	0.9	0.9	0.6
8.0 ~ 8.9		0.3	0.3	0	0	0.7	1.0	0.4	0	0	0	0	0.1	0.2
9.0 ~ 9.9		0	0	0.1	0	0.5	0.3	0	0	0	0	0.1	0.3	0.1
10.0 ~ 14.9		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15.0 ≧		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表E-16 気温統計

項目	2024年度													
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度間
欠測時間 (h)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
月別平均気温 (°C)		15.1	18.2	21.3	26.2	27.5	24.7	19.2	11.9	4.7	3.8	3.5	8.8	15.5
月別時間最高気温 (°C)		24.0	29.9	31.1	36.1	35.7	34.9	30.8	22.4	16.6	13.7	15.6	24.1	36.1
月別時間最低気温 (°C)		2.1	6.2	12.6	20.2	22.0	18.0	8.1	0.1	-4.9	-5.5	-6.6	-2.8	-6.6
月別日最高気温 (°C)		19.4	22.1	25.4	28.9	29.7	28.5	25.6	17.8	10.1	8.6	9.8	17.7	29.7
月別日最低気温 (°C)		8.8	11.6	17.3	22.0	24.9	20.6	13.7	5.9	1.2	1.1	0.6	2.2	0.6

表E-17 気温出現頻度 (%)

2024年度

月 気温T(°C)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度間
40 ≧ T													
39 ≧ T < 40													
38 ≧ T < 39													
37 ≧ T < 38													
36 ≧ T < 37				0.1									0.0
35 ≧ T < 36				0.1	0.3								0.0
34 ≧ T < 35				0.4	0.7	0.3							0.1
33 ≧ T < 34				2.2	0.5	0.7							0.3
32 ≧ T < 33				3.0	1.6	1.4							0.5
31 ≧ T < 32			0.1	3.0	4.3	1.9							0.8
30 ≧ T < 31			0.6	5.1	8.5	3.8	0.4						1.5
29 ≧ T < 30		0.3	0.4	7.1	7.8	3.8	0.3						1.7
28 ≧ T < 29		0.7	1.1	7.1	12.9	3.8	0.8						2.2
27 ≧ T < 28		0.4	2.2	9.5	19.0	4.7	0.5						3.1
26 ≧ T < 27		1.3	5.3	8.7	19.1	9.3	1.3						3.8
25 ≧ T < 26		1.2	5.1	12.9	14.2	11.7	2.3						4.0
24 ≧ T < 25	0.1	1.5	7.1	12.9	8.3	11.0	4.7					0.1	3.8
23 ≧ T < 24	0.4	5.1	9.6	13.7	1.9	15.7	6.5					0.4	4.5
22 ≧ T < 23	2.2	7.5	12.1	8.9	0.9	15.3	7.3	0.4				0.8	4.6
21 ≧ T < 22	4.4	8.7	11.1	3.6		6.3	11.7	1.3				0.4	4.0
20 ≧ T < 21	3.6	8.5	10.4	1.6		5.6	14.1	1.1				1.1	3.8
19 ≧ T < 20	6.1	9.5	9.3			3.8	7.4	3.2				1.5	3.4
18 ≧ T < 19	7.2	12.0	9.2			1.3	5.4	4.4				2.0	3.5
17 ≧ T < 18	9.7	8.9	7.6				7.1	7.1				2.8	3.6
16 ≧ T < 17	10.7	7.4	4.7				7.0	4.9	1.1			2.3	3.2
15 ≧ T < 16	10.3	7.8	2.4				6.6	9.9	1.7		0.4	1.7	3.4
14 ≧ T < 15	8.9	3.6	0.8				6.3	9.3	1.1		1.0	5.2	3.0
13 ≧ T < 14	7.5	3.4	0.7				5.6	6.3	1.6	0.4	2.1	4.6	2.7
12 ≧ T < 13	8.1	3.6	0.1				1.7	5.4	2.3	1.5	2.1	5.4	2.5
11 ≧ T < 12	5.4	2.6					1.3	5.6	2.3	3.8	2.5	5.2	2.4
10 ≧ T < 11	4.0	2.7					0.3	6.1	4.7	4.8	2.4	4.7	2.5
9 ≧ T < 10	3.9	2.3					0.5	6.4	6.3	5.5	3.9	8.9	3.1
8 ≧ T < 9	2.5	0.4					0.8	5.8	6.3	5.1	5.5	6.5	2.7
7 ≧ T < 8	1.4	0.3						2.9	5.5	7.7	7.0	6.0	2.5
6 ≧ T < 7	1.3	0.4						4.0	5.8	6.1	8.5	7.1	2.7
5 ≧ T < 6	0.6							3.6	6.3	7.8	7.3	8.3	2.8
4 ≧ T < 5	1.0							3.8	7.8	7.3	8.8	6.5	2.9
3 ≧ T < 4	0.3							4.3	6.9	7.0	7.1	4.2	2.5
2 ≧ T < 3	0.4							1.9	9.1	6.2	4.2	5.0	2.2
1 ≧ T < 2								1.9	7.5	5.5	3.3	2.4	1.7
0 ≧ T < 1								0.4	5.9	5.1	5.2	1.9	1.5
-1 ≧ T < 0									3.1	7.7	4.8	2.2	1.5
-2 ≧ T < -1									5.4	7.8	3.3	1.9	1.5
-3 ≧ T < -2									5.6	6.2	6.5	0.9	1.6
-4 ≧ T < -3									2.8	2.8	5.8		0.9
-5 ≧ T < -4									0.8	1.3	5.1		0.6
-6 ≧ T < -5										0.4	2.4		0.2
-7 ≧ T < -6											0.9		0.1
-8 ≧ T < -7													
-9 ≧ T < -8													
-10 ≧ T < -9													
T < -10													

表E-18 降雨統計 (0.5 mm計)

項目	2024年度													
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度間
欠測時間 (h)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4
月間降雨量 (mm)	56.0	116.5	138.0	99.5	129.0	104.0	121.5	93.5	0.0	15.0	0.0	136.5	1009.5	
月間最大時間降雨量(mm/h)	8.5	7.5	13.0	13.5	18.5	24.5	8.0	13.0	0.0	7.0	0.0	7.5	24.5	
月間最大日降雨量 (mm/d)	26.0	39.5	39.5	27.5	47.0	35.5	27.0	50.5	0.0	13.5	0.0	40.5	50.5	
月間降雨時間 (h)	40.0	77.0	69.0	43.0	43.0	22.0	72.0	40.0	0.0	6.0	0.0	62.0	474.0	
降雨時平均降雨率 (mm/h)	1.4	1.5	2.0	2.3	3.0	4.7	1.7	2.3	0.0	2.5	0.0	2.2	2.1	
平均降雨率 (mm/h)	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	

表E-19 降雨率出現頻度 (%)

降雨率 (mm/h)	2024年度												
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0.5 ~ 0.9	37.5	50.6	36.2	39.5	27.9	36.4	34.7	30.0	0	16.7	0	29.0	36.3
1.0 ~ 1.9	40.0	23.4	26.1	25.6	20.9	31.8	27.8	32.5	0	50.0	0	24.2	27.4
2.0 ~ 2.9	17.5	9.1	14.5	11.6	18.6	4.5	20.8	7.5	0	0	0	17.7	14.1
3.0 ~ 3.9	0	5.2	4.3	11.6	9.3	4.5	8.3	5.0	0	0	0	11.3	6.8
4.0 ~ 4.9	0	3.9	10.1	0	7.0	4.5	2.8	15.0	0	16.7	0	4.8	5.5
5.0 ~ 5.9	0	5.2	2.9	0	2.3	0	2.8	5.0	0	0	0	1.6	2.5
6.0 ~ 6.9	2.5	0	1.4	2.3	4.7	0	1.4	0	0	0	0	9.7	2.5
7.0 ~ 7.9	0	2.6	1.4	0	0	0	0	0	0	16.7	0	1.6	1.1
8.0 ~ 8.9	2.5	0	0	2.3	2.3	0	1.4	0	0	0	0	0	0.8
9.0 ~ 9.9	0	0	1.4	0	0	0	0	2.5	0	0	0	0	0.4
10.0 ~ 12.4	0	0	0	4.7	2.3	0	0	0	0	0	0	0	0.6
12.5 ~ 14.9	0	0	1.4	2.3	2.3	0	0	2.5	0	0	0	0	0.8
15.0 ~ 19.9	0	0	0	0	2.3	4.5	0	0	0	0	0	0	0.4
20.0 ~	0	0	0	0	0	13.6	0	0	0	0	0	0	0.6

This is a blank page.

目 次

図 E-1	海拔 100 m 風向出現頻度.....	148
図 E-2	海拔 100 m 風向別平均風速.....	148
図 E-3	海拔 20 m 風向出現頻度.....	149
図 E-4	海拔 20 m 風向別平均風速.....	149
図 E-5	月別平均風速及び最大風速.....	150
図 E-6	風速階級出現頻度.....	150
図 E-7	月別平均・最高・最低気温.....	151
図 E-8	気温出現頻度.....	151
図 E-9	月間降雨量及び降雨時間.....	152
図 E-10	降雨率出現頻度.....	152

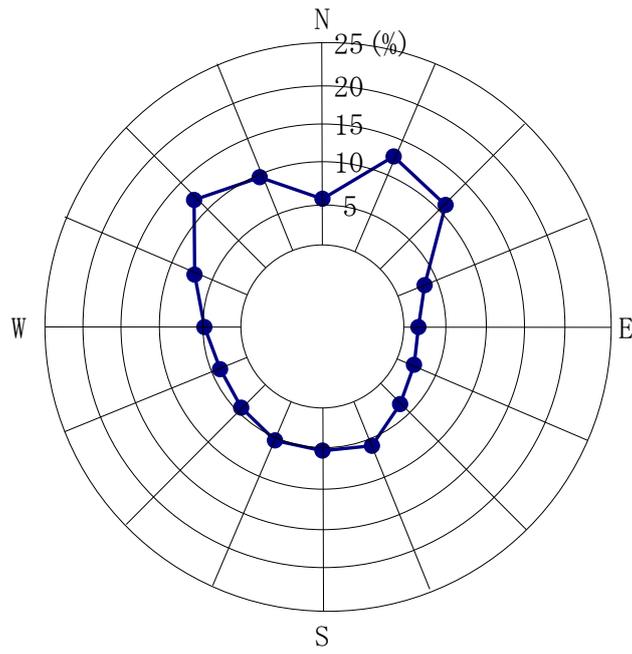


図 E-1 海拔 100 m 風向出現頻度

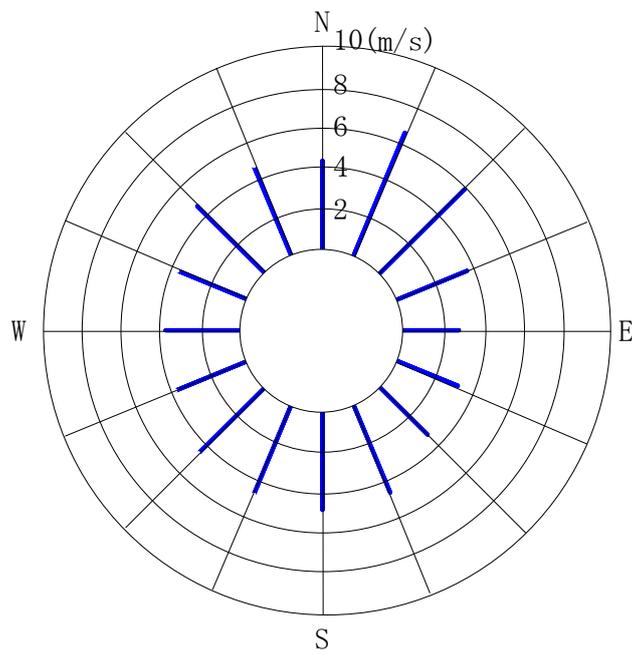


図 E-2 海拔 100 m 風向別平均風速

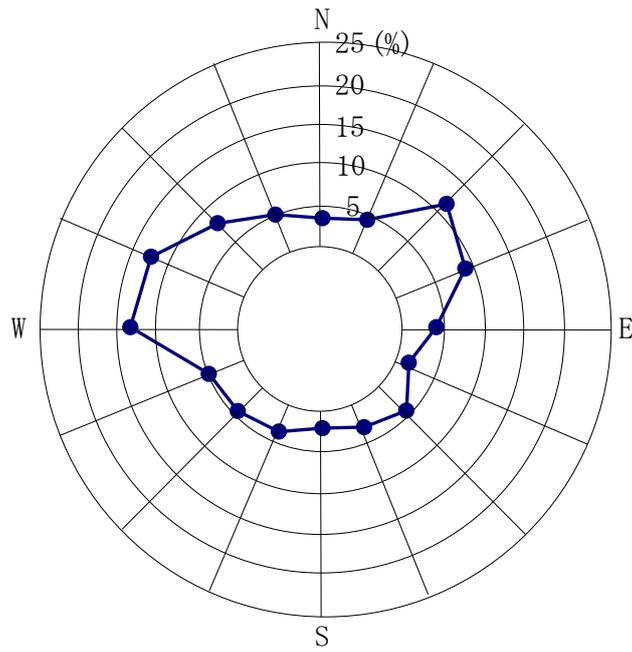


図 E-3 海拔 20 m 風向出現頻度

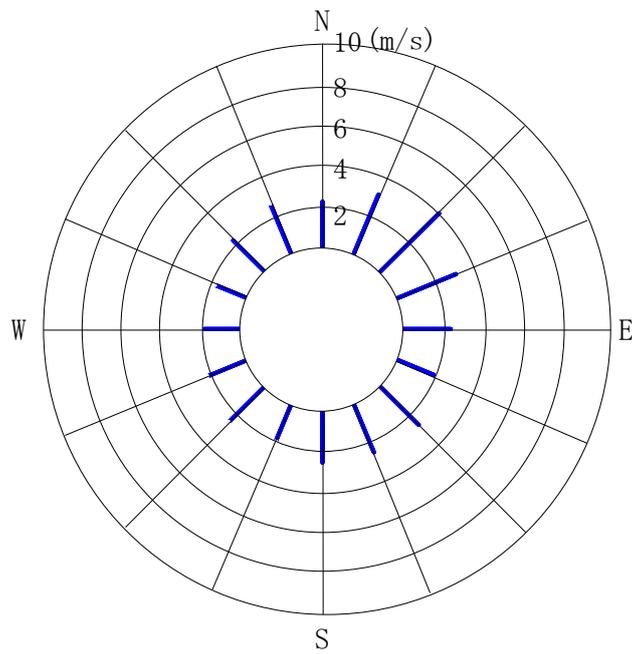


図 E-4 海拔 20 m 風向別平均風速

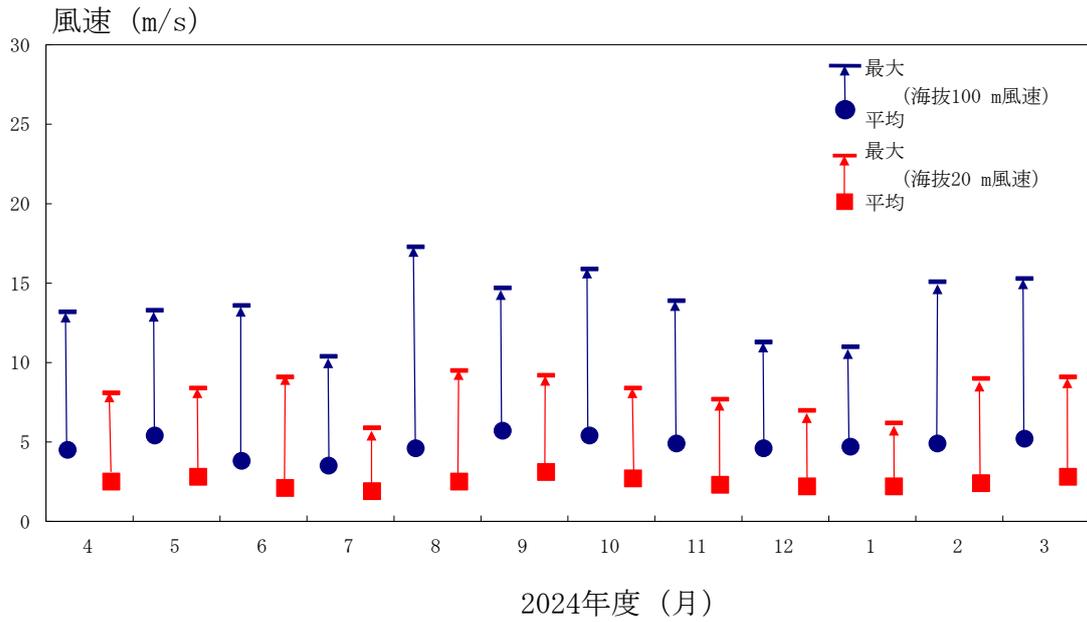


図 E-5 月別平均風速及び最大風速

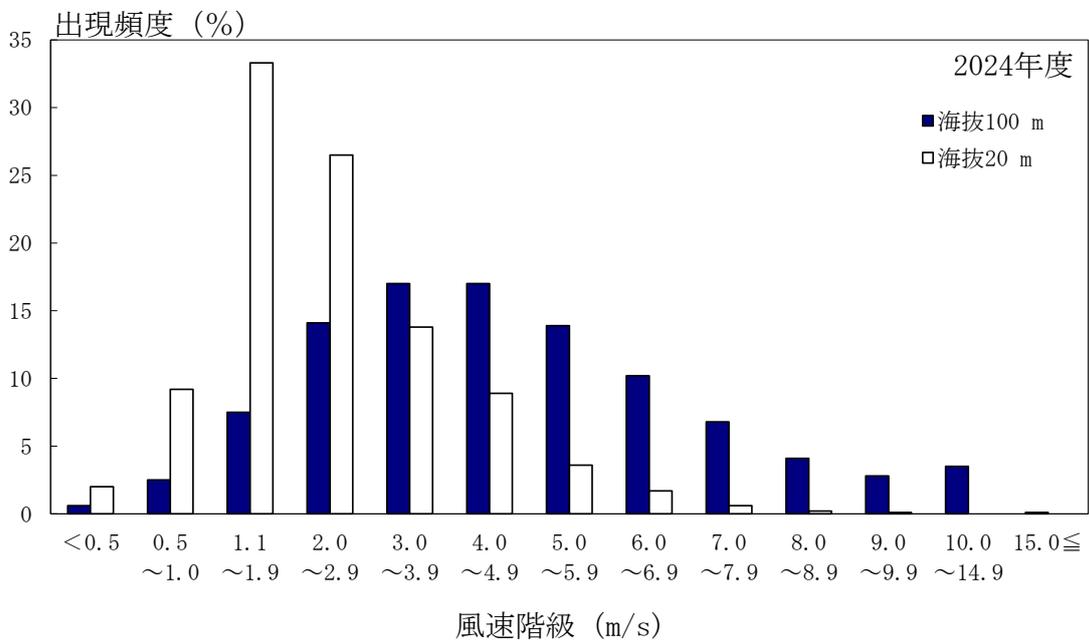


図 E-6 風速階級出現頻度

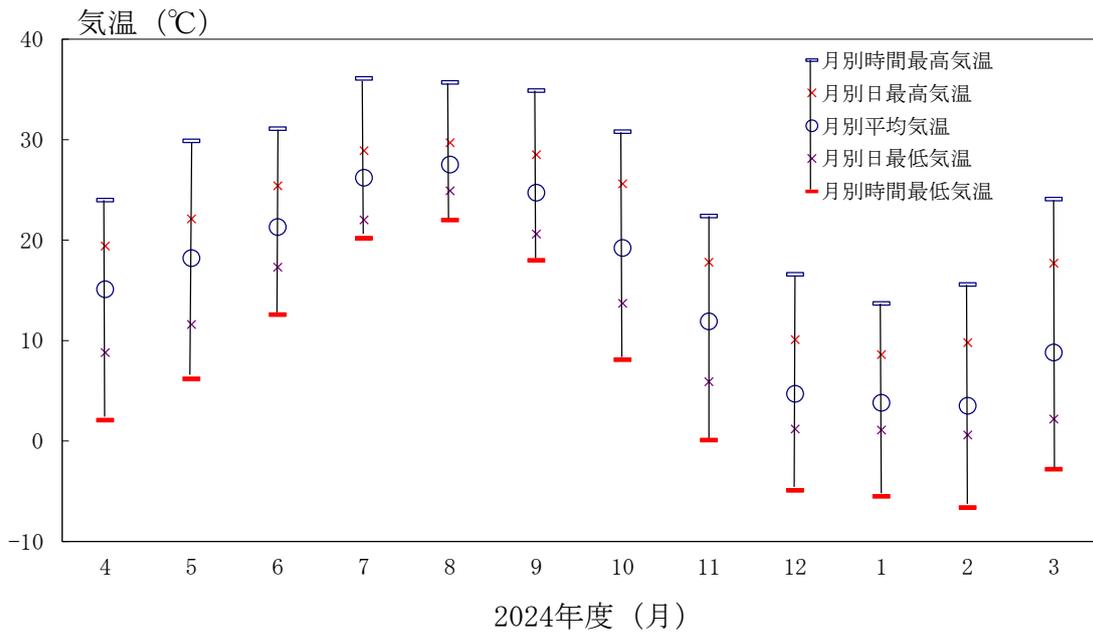


図 E-7 月別平均・最高・最低気温

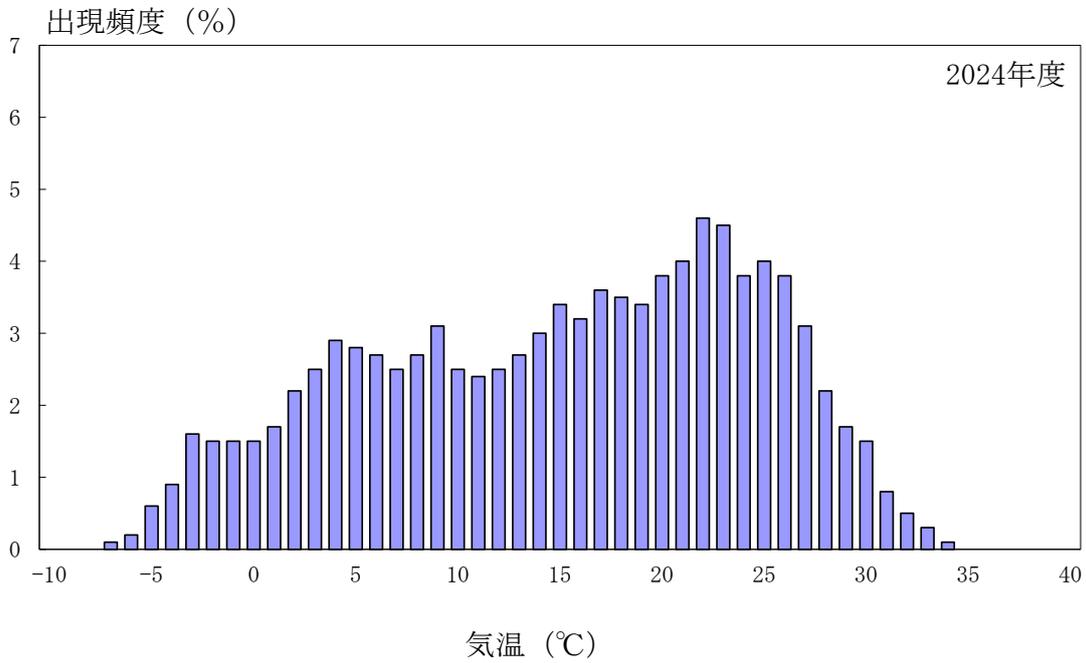


図 E-8 気温出現頻度

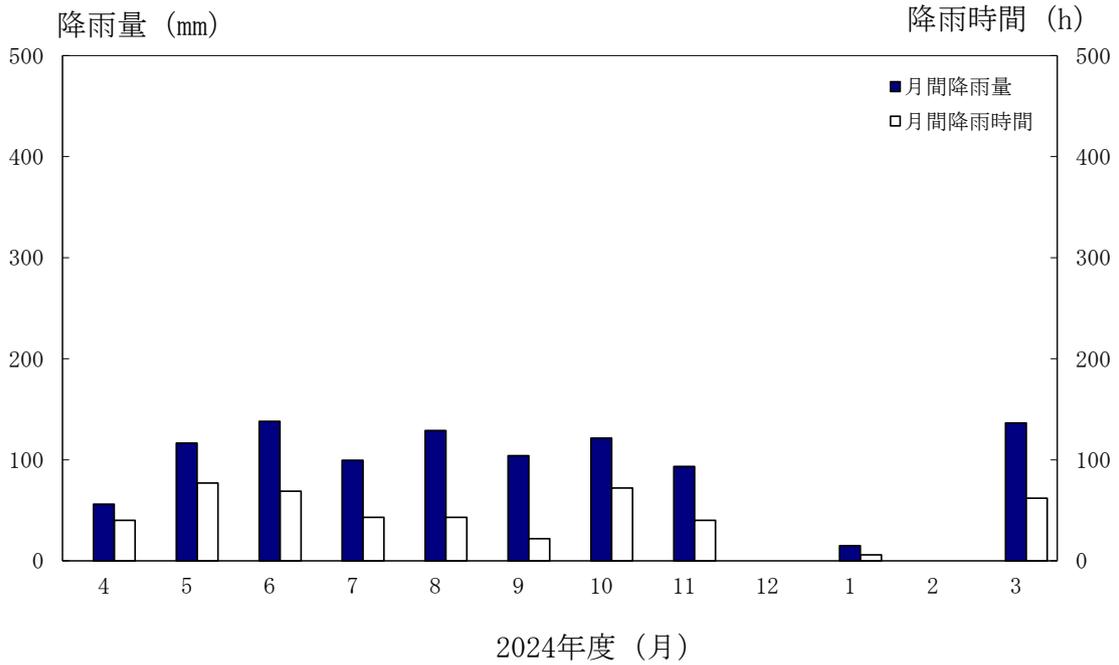


図 E-9 月間降雨量及び降雨時間

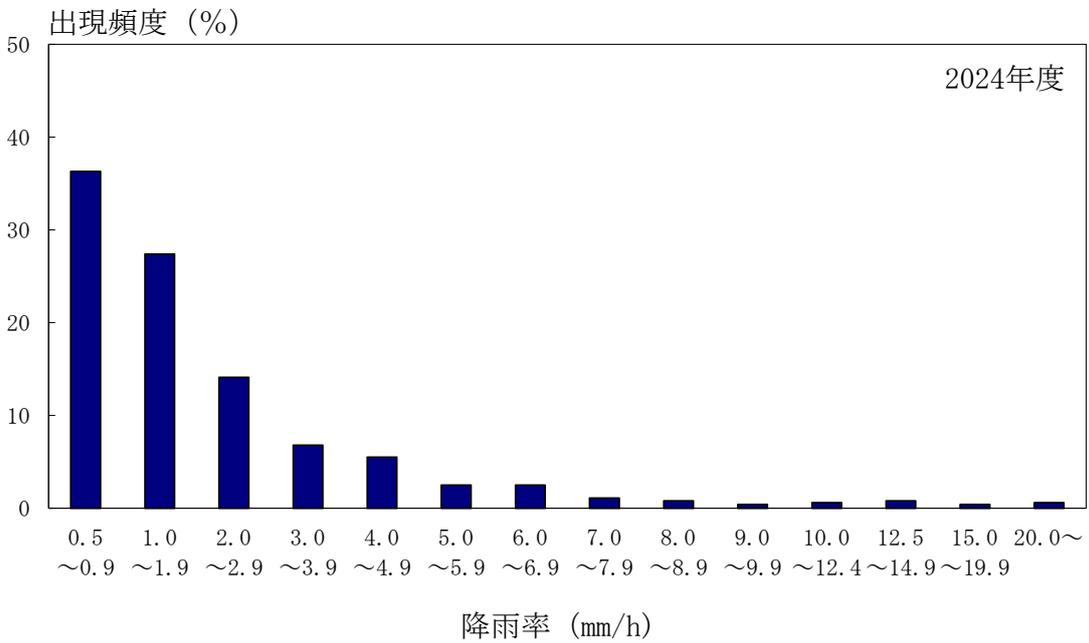


図 E-10 降雨率出現頻度

F. 放射性廃棄物の放出状況

This is a blank page.

表 目 次

表 F-1	線量の評価に用いた放射性気体廃棄物の放出量.....	156
表 F-2	線量の評価に用いた放射性液体廃棄物の放出量.....	157

表 F-1 線量の評価に用いた放射性気体廃棄物の放出量

核種	年間放出量 (Bq) 注1,注2	内 訳	
		実測分 (Bq)	不検出分 (Bq) 注3
^3H	2.0×10^{11}	0.0	2.0×10^{11}
^{14}C	2.2×10^{11}	0.0	2.2×10^{11}
^{85}Kr	1.3×10^{13}	0.0	1.3×10^{13}
^{129}I	2.0×10^8	0.0	2.0×10^8
^{131}I	2.0×10^8	0.0	2.0×10^8

注1：実効線量の評価に用いた年間放出量（2024年4月から2025年3月までの1年間における主排気筒、第一付属排気筒及び第二付属排気筒からの放出量）を示す。

注2：年間放出量は、安全側に考え、実測分に不検出分を足し合わせ、小数点以下第2位を四捨五入した2桁の実数として算出した。

注3：不検出分は、測定値が検出限界未満となった場合に検出限界の濃度で放出されたものとして算出した。

表 F-2 線量の評価に用いた放射性液体廃棄物の放出量

核種	年間放出量 (Bq) 注1、注2	内 訳	
		実測分 (Bq)	不検出分 (Bq) 注3
^3H	5.1×10^{10}	4.1×10^{10}	1.0×10^{10}
^{89}Sr	1.7×10^7	0.0	1.7×10^7
^{90}Sr	8.3×10^6	0.0	8.3×10^6
^{95}Zr	1.9×10^7	0.0	1.9×10^7
^{95}Nb	1.3×10^7	0.0	1.3×10^7
^{103}Ru	8.3×10^6	0.0	8.3×10^6
$^{106}\text{Ru}-^{106}\text{Rh}$	2.4×10^8	0.0	2.4×10^8
^{129}I	1.0×10^7	0.0	1.0×10^7
^{131}I	1.3×10^7	0.0	1.3×10^7
^{134}Cs	8.3×10^6	0.0	8.3×10^6
^{137}Cs	1.3×10^7	0.0	1.3×10^7
^{141}Ce	1.7×10^7	0.0	1.7×10^7
$^{144}\text{Ce}-^{144}\text{Pr}$	1.7×10^8	0.0	1.7×10^8
$\text{Pu}(\alpha)$	3.4×10^5	1.2×10^5	2.2×10^5

注1：実効線量の評価に用いた年間放出量（2024年4月から2025年3月までの1年間における海中放出管からの放出量）を示す。

注2：年間放出量は、安全側に考え、実測分に不検出分を足し合わせ、小数点以下第2位を四捨五入した2桁の実数として算出した。

注3：不検出分は、測定値が検出限界値未満となった場合に検出限界濃度で放出されたものとして算出した。

This is a blank page.

G. 平常の変動幅の範囲を外れた値の評価について

This is a blank page.

目 次

1. 概要	162
2. 陸上監視結果	162
2-1 空間放射線（線量率）	162
2-2 空气中放射性物質濃度（浮遊じん中 ^{137}Cs 濃度）	163
2-3 葉菜中放射性物質濃度（ ^{90}Sr 濃度）	164
2-4 空気水分中放射性物質濃度（ ^3H 濃度）	165
2-5 精米中放射性物質濃度（ ^{14}C 濃度）	166
3. 海洋監視結果	167
3-1 海産生物（ヒラメ）中放射性物質濃度（ $^{239,240}\text{Pu}$ 濃度）	167

1. 概要

2024年度の再処理施設周辺の環境放射線モニタリング結果において、平常の変動幅の範囲を外れた項目について、その要因を調査した。なお、平常の変動幅の上限値を超過した全ての項目において、その要因は再処理施設に起因するものではないと判断した。また、平常の変動幅の下限値を下回った項目において、その要因は環境変動によるものと判断した。以下の表 G-1 に平常の変動幅の上限値を超過した項目とその要因、表 G-2 に平常の変動幅の下限値を下回った項目とその要因を示す。

表 G-1 平常の変動幅の上限値を超過した項目とその要因

平常の変動幅の上限値を超過した項目	要因
空間放射線（線量率）	天然放射性核種及び東電福島第一原発事故由来核種の環境変動による
空气中放射性物質濃度（ ¹³⁷ Cs 濃度）	東電福島第一原発事故由来の ¹³⁷ Csの環境変動による
葉菜中放射性物質濃度（ ⁹⁰ Sr 濃度）	大気圏内核実験由来の ⁹⁰ Srの環境変動による
空気水分中放射性物質濃度（ ³ H 濃度）	J-PARC 物質・生命科学実験施設における ³ Hの管理放出の影響による
海産生物（ヒラメ）中放射性物質濃度（ ^{239,240} Pu 濃度）	大気圏内核実験由来の ^{239,240} Puの環境変動による

表 G-2 平常の変動幅の下限値を下回った項目とその要因

平常の変動幅の下限値を下回った項目	要因
精米中放射性物質濃度（ ¹⁴ C 濃度）	大気圏内核実験由来の ¹⁴ Cの環境変動による

2. 陸上監視結果

2-1 空間放射線（線量率）

第4四半期に周辺監視区域外2か所（東海村舟石川及びひたちなか市高野）の測定値が平常の変動幅の上限値を超過した（表 G-3）。その要因は、以下の理由から天然放射性核種及び東電福島第一原発事故由来核種の環境変動によるものと判断した。

- ① 当研究所施設の測定値（排気中の放射性物質濃度）に異常はない。
- ② 空間放射線（線量率）の測定を行う線量率計は定期的に点検、校正が行われ、正常であることが確認されていることから、測定機器の異常ではない。
- ③ 空間放射線（線量率）の測定地点の周辺環境に、目視で確認できる大きな変化はない。
- ④ 過去（東電福島第一原発事故前10年間）の測定値は、東海村舟石川では34～37 nGy/h、ひたちなか市高野で31～33 nGy/h はである。現在の表土からは、東電福島第一原発事故由来の

^{137}Cs が一般的に検出されることから、今回の測定値は天然放射性核種からの放射線に加えて、東電福島第一原発事故由来核種からの放射線を含むと判断した。

表 G-3 空間放射線（線量率）測定値

測定点	測定期間	測定値 (nGy/h)	平常の変動幅 (nGy/h)
周辺監視区域外 (東海村舟石川)	2025年1月1日～ 2025年1月31日	40	～41
	2025年2月1日～ 2025年2月28日	40	
	2025年3月1日～ 2025年3月31日	42	
周辺監視区域外 (ひたちなか市高野)	2025年1月1日～ 2025年1月31日	38	～39
	2025年2月1日～ 2025年2月28日	38	
	2025年3月1日～ 2025年3月31日	40	

2-2 空气中放射性物質濃度（浮遊じん中 ^{137}Cs 濃度）

第1四半期に周辺監視区域内（安全管理棟）の測定値が平常の変動幅の上限値を超過した（表 G-4）。その要因は、以下の理由から東電福島第一原発事故由来 ^{137}Cs の環境変動によると判断した。

- ① 当研究所施設の測定値（排気中の放射性物質濃度）に異常はない。
- ② 検出器を変えた再測定（表 G-5）で同等の測定値が得られたことから、測定機器の異常はない。
- ③ 作業実施場所及び使用機材について、採取、測定に至るまでの一連のプロセスの中で汚染はない。
- ④ 東電福島第一原発事故前過去10年間において、定量下限値（0.007 mBq/m³）を超えて検出されていない。当該試料において、東電福島第一原発事故以降に検出されるようになり、減少傾向にあるものの、まだ下がり切ったとはいえない状況である。

表 G-4 空气中放射性物質濃度 (¹³⁷Cs 濃度)

測定点	採取期間	測定値 (mBq/m ³)	平常の変動幅 (mBq/m ³)
周辺監視区域内 (安全管理棟)	2024年3月22日～ 2024年6月24日	0.024	～0.007

表 G-5 空気浮遊じん中の ¹³⁴Cs、¹³⁷Cs 測定値及び放射能比

採取点	採取期間	¹³⁴ Cs 測定値 (mBq/m ³)	¹³⁷ Cs 測定値 (mBq/m ³)	¹³⁴ Cs/ ¹³⁷ Cs
東海村舟石川 (ST2)	2024年3月22日～ 2024年6月24日	DL (<0.0022)	DL (<0.0027)	-
ひたちなか市長砂 (ST3)		DL (<0.0023)	DL (<0.0023)	-
ひたちなか市高野 (ST4)		DL (<0.0026)	DL (<0.0015)	-
水戸市石川*		DL (<0.0023)	DL (<0.0026)	-
Pu 燃警備所前 (プル燃)		DL (<0.0029)	0.0022	-
再処理警備所前 (再処理)		DL (<0.0021)	DL (<0.0026)	-
安全管理棟 (ST1)		DL (<0.0020)	0.024	-
		DL (<0.0016) **	0.025**	-
平常の変動幅		ND (0.007)	ND (0.007)	

* 比較対照

** 再測定値

DL (less than Detection Limit) : Cooper の方法により算出

2-3 葉菜中放射性物質濃度 (⁹⁰Sr 濃度)

東海村照沼の葉菜 (白菜) 中の ⁹⁰Sr 測定値が平常の変動幅の上限値を超過した (表 G-6)。その要因は、以下の理由から、大気圏内核実験由来の ⁹⁰Sr の環境変動によると判断した。

- ① 当研究所施設の測定値 (排気、排水中の放射性物質濃度) に異常はない。また、新たな核実験やほかの原子力施設からの事故情報もない。
- ② 同試料の再分析で同等の測定値が得られたことから、分析プロセスに異常はない。
- ③ 同試料の再測定、再ミルキング試料の測定及び再分析試料の測定で同等の測定値が得られたことから、測定機器の異常はない。
- ④ 当該四半期において、作業室内で環境レベルを超える濃度の試料を取り扱った実績はなく、同時期に採取された他の環境市長中の ⁹⁰Sr が平常の変動幅を超えた実績もない。よって、作業実施場所及び使用機材について、試料の採取から測定に至るまでの一連のプロセスの中で

相互汚染はない。

- ⑤ 昭和 61 年から現在までの葉菜中の ^{90}Sr 放射能濃度の長期的な経年変化より、東海村照沼の葉菜中の ^{90}Sr 放射能濃度の最大値は平成 7 年の $0.34 \text{ Bq/kg}\cdot\text{生}$ である。 ^{90}Sr は大気圏内核実験により環境中に放出されており、物理学的半減期は 28.79 年である。最大値となった平成 7 年 (1995 年) からまでは 1 半減期が経過しており、拡散等による減衰を考慮しなければ ^{90}Sr 放射能濃度は $0.17 \text{ Bq/kg}\cdot\text{生}$ 程度であると考えられる。そのため、大気圏内核実験によるフォールアウトの影響は減少傾向にあるものの、完全に無くなったとはいえない。

表 G-6 葉菜中 ^{90}Sr 測定値

採取点	種類	採取月	^{90}Sr 測定値 ($\text{Bq/kg}\cdot\text{生}$)	平常の変動幅 ($\text{Bq/kg}\cdot\text{生}$)
周辺監視区域外 (東海村照沼)	白菜	12 月	0.098	ND (<0.04)~0.071

ND：定量下限値未満を示す。括弧内に定量下限値を記載する。

2-4 空気水分中放射性物質濃度 (^3H 濃度)

周辺監視区域外 1 か所 (ひたちなか市長砂) の測定値が平常の変動幅の上限値を超過した (表 G-7)。その要因は、以下の理由から、J-PARC 物質・生命科学実験施設 (以下「J-PARC」という。) における ^3H の管理放出の影響によると判断した。

- ① 当研究所施設の測定値 (排気中の放射性物質濃度) に異常はない。
- ② 検出器を変えた再測定で同等の測定値が得られたことから、測定機器の異常はない。
- ③ 採取・分析器具は、環境試料中 ^3H 専用として使用しており、作業室においては環境レベルを超える濃度の ^3H 試料を取り扱ったことはない。また、液体シンチレーション測定器においては、測定前に B.G. レベルを確認し、機器汚染のないことを確認している。よって、試料の採取から測定に至るまでの一連のプロセスの中で相互汚染はない。
- ④ 令和 6 年 11 月 5 日~11 月 14 日の期間に J-PARC から ^3H の管理放出 ($2.7\times 10^{11} \text{ Bq}$) があつた。この期間の気象観測結果から、J-PARC から監視対象地点方向への風が主であったため、当該地点の空気水分中 ^3H 放射能濃度が平常の変動幅の上限値を超えて検出されたものと考えられる (表 G-8)。参考までに、J-PARC からの ^3H の放出量、当研究所内観測気象データ (高層風・地上風) を用いて、「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」に基づく大気拡散計算を行った。この結果、監視対象地点において空気水分を採取して捕集した ^3H (実測値 0.98 Bq) は、大気拡散計算から推定した ^3H (推定値 $0.73\sim 1.5 \text{ Bq}$) と矛盾のない値であった (表 G-9)。

表 G-7 各月の空気水分中 ^3H 放射能濃度の測定結果 (Bq/L)

採取点 (周辺監視区域外 2 点)	10 月	11 月	12 月
監視対象地点	ND	5.2	ND
比較対照地点	ND	ND	ND
平常の変動幅の上限値	ND		

表 G-8 11 月の各週の空気水分中 ^3H 放射能濃度の測定値 (Bq/L)

採取点 (周辺監視区域外 2 点)	10/29~ 11/5	11/5~ 11/12	11/12~ 11/19	11/19~ 11/26	11/26~ 12/3
監視対象地点	ND	10±0.3	ND	ND	ND
比較対照地点	ND	ND	ND	ND	ND

表 G-9 監視対象地点における ^3H 捕集量 (実測値・推定値)

採取期間	実測値			推定値
	^3H 濃度 (Bq/L)	捕集水分量 (L)	^3H 捕集量 (Bq)	^3H 捕集量 (Bq)
11/5~ 11/12	10±0.3	0.098	0.98±0.02	0.73~1.5

2-5 精米中放射性物質濃度 (^{14}C 濃度)

東海村照沼、ひたちなか市長砂及び西約 10 km 地点の精米中の ^{14}C 測定値が、平常の変動幅の下限値を下回った (表 G-10)。その要因は、以下の理由から、大気圏内核実験由来の ^{14}C の環境変動によるものであると判断した。

- ① 同試料の再分析で同等の測定値が得られたことから、分析プロセスに異常はない。
- ② 同試料の再測定、再分析試料の測定及び再分析試料の再測定で同等の測定値が得られたことから、測定機器の異常はない。
- ③ 昭和 61 年から現在までの精米中の ^{14}C 放射能濃度の長期的な経年変化より精米中の ^{14}C 放射能濃度は減少傾向にある。

表 G-10 精米中の ¹⁴C 測定値

採取点 ^{注1}	採取日	¹⁴ C 測定値 (Bq/g・炭素)
東海村照沼	10/7	0.21 ± 0.0021
		0.21 ± 0.0021 ^{※1}
		0.20 ± 0.0021 ^{※2}
		0.20 ± 0.0021 ^{※3}
ひたちなか市長砂	10/2	0.21 ± 0.0021
		0.21 ± 0.0021 ^{※1}
		0.21 ± 0.0021 ^{※2}
		0.20 ± 0.0021 ^{※3}
西約 10 km 点	10/10	0.21 ± 0.0021
		0.21 ± 0.0021 ^{※1}
		0.21 ± 0.0021 ^{※2}
		0.22 ± 0.0021 ^{※3}
平常の変動幅		0.22 ~ 0.24

注 1) * : 比較対照を示す。

※1 再測定 ※2 再分析試料の測定 ※3 再分析試料の再測定

: 報告値

3. 海洋監視結果

3-1 海産生物（ヒラメ）中放射性物質濃度（^{239,240}Pu 濃度）

約 10 km 以遠のヒラメ中の ^{239,240}Pu の測定値が平常の変動幅の上限値を超過した（表 G-11）。その要因は、以下の理由から、大気圏内核実験由来の ^{239,240}Pu の環境変動によるものと判断した。

- ① 当研究所施設の測定値（排気、排水中の放射性物質濃度）に異常はない。また、新たな核実験やほかの原子力施設からの事故情報もない。
- ② 検出器を変えた同試料の再測定で同等の測定値が得られたことから、測定機器の異常はない。
- ③ 同試料の再分析で同等の測定値が得られたことから、分析プロセスに異常はない。
- ④ 分析作業実施場所及び使用機材について、前処理、測定に至るまでの一連のプロセスの中で汚染はない。
- ⑤ ^{239,240}Pu は過去 10 年間に於いて、定量下限値（0.002 Bq/kg・生）を超えて検出されていないものの、たびたび有意に検出されている。また、²³⁸Pu が検出されていないことから、過去の大気圏内核実験によるフォールアウトの影響であると判断した。

表 G-11 海産生物（ヒラメ類）中 $^{239,240}\text{Pu}$ 測定値

採取点	種類	採取月	$^{239,240}\text{Pu}$ 測定値 (Bq/kg・生)	(参考) ^{238}Pu 測定値 (Bq/kg・生)	平常の変動幅 (Bq/kg・生)
約 10 km 以遠	ヒラメ	6 月	0.0021	DL (<0.00068)	ND (<0.002)

DL (less than Detection Limit) : Cooper の方法により算出。

ND : 定量下限値未満を示す。括弧内に定量下限値を記載する。

